ISSN 0912-8182

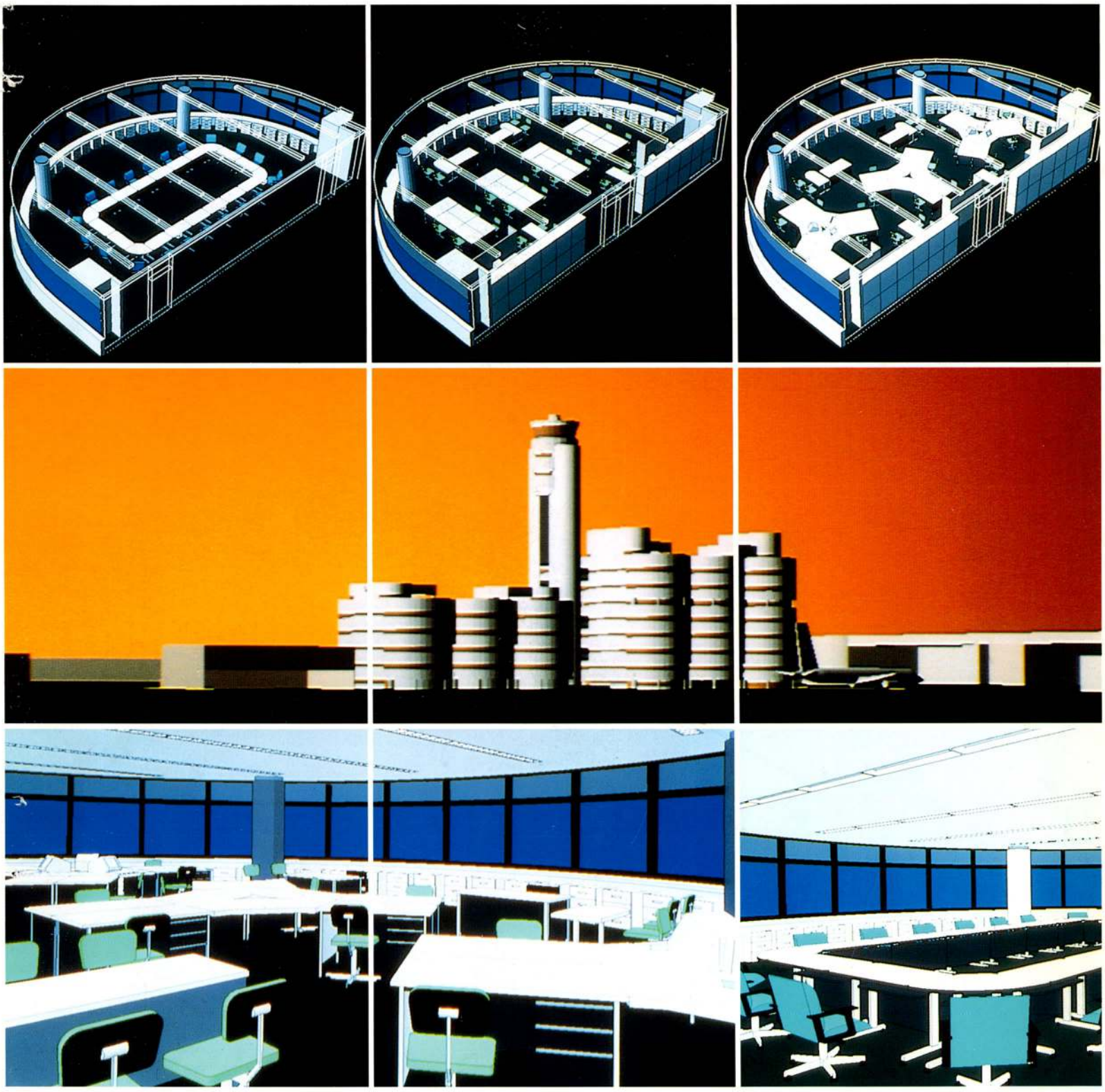
Vol. 70 通巻807号　平成元年6月25日発行・毎月1回25日発行・昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

1989 6

特集■博覧会とまちづくり



日本建築協会



1級建築施工管理技士になるための

平成元年度 1 級建築施工管理技術検定試験

（実　地　試　験）

受験準備講習会

昼間講座

受講料10,300円［受講料10,000円 消費税 300円］＋購入指定図書代

（講義は9：30～16：30まで行います。）

開催地 / 講習日（1日）

札幌①	10/28(土)	東京②	11/2(木)	名古屋②	11/1(水)	福　岡	10/26(木)
札幌②	10/29(日)	東京③	11/3(金)	大阪①	10/29(日)	熊　本	10/27(金)
仙台①	10/28(土)	横　浜	10/21(土)	大阪②	11/2(木)	那　覇	10/20(金)
仙台②	10/29(日)	新　潟	10/27(金)	広　島	10/28(土)		
東京①	10/28(土)	名古屋①	10/29(日)	松　山	10/20(金)		

夜間講座

受講料10,300円［受講料10,000円 消費税 300円］＋購入指定図書代

（講義は各日18：00～20：50まで行います。）

開催地 / 講習日（延2日間）

東　京　10/26(木)・11/1(水)

〔購入指定図書〕

1級建築施工管理技術検定
実地試験受験用テキスト〔改訂第3版〕　2,800円 送料500円

※上記図書は、一般販売もいたします。（昭和63年発行図書と内容は変っておりません。）

主催　建設省・国土庁所管（財）地域開発研究所

建築施工管理技術研究会

〒162　東京都新宿区市ヶ谷砂土原町3－4（生泉市ヶ谷ビル）
TEL　03-268-8751　FAX　03-267-2552

❖詳しくは、案内書を上記主催団体まで電話またはハガキにてご請求下さい❖

試験について

1. 試験実施機関　財団法人建設業振興基金 試験研修本部
〒105 東京都港区虎ノ門1－25－5　第34森ビル内
TEL 03-502-6131

2. 受験申込受付期間　平成元年7月28日(金)～8月11日(金)
1級（学科試験）免除者および2平成元年度1級（学科試験）合格者とも、この期間に各自て必ず受験申込をして下さい。
（詳しくは、受験申込用紙に同封の「手引き」をご覧下さい。）

3. 試験日　平成元年11月12日(日)

4. 試験地　札幌・仙台・東京・新潟・名古屋
大阪・広島・高松・福岡・那覇

5. 受験申込用紙販売機関
財北海道開発協会・社東北建設協会・社営繕協会
社関東建設弘済会・社北陸建設弘済会・社中部建設協会
社近畿建設協会・社中国建設弘済会・社四国建設弘済会
社九州建設弘済会・社沖縄建設弘済会
※上記団体以外に、各都道府県建設業協会の中で販売している協会もあります　詳しくは、地元建設業協にお問い合せ下さい

6. その他
■受験申込用紙は、6月下旬より販売される予定です。
但し、1級（学科試験）免除者のうち、昭和63年度1級第一部（学科試験）合格者は、（財）建設業振興基金より送付される書類で受験申込を行って下さい。
また平成元年度1級（学科試験）合格者は、合格通知書に同封してある郵便振替払込用紙で8月11日金までに受験料を払込んで下さい。

平成元年度

◀日本建築協会役員会務分掌（敬称略）

名誉会長　東畑謙三（東畑建築事務所）
〃　塚本猛次（日建設計）
会長　佐野正一（安井建築設計事務所）
副会長　足立孝（摂南大学）　総務・会計・編集担当
副会長　薬袋公明（日建設計）　総務・会計・編集担当
副会長　市川宏（東畑建築事務所）　会勢・事業・研修担当
副会長　鴻池藤一（鴻池組）　会勢・事業・研修担当

理事（○印常任理事）

（総務） 6名
浅海正雄（浅海電気）
井尻勝（三起水道工業）
大林芳郎（大林組）
中西孝（マンテン）
松村雄吾（松村組）
○村上秀夫（大阪城ホール）

（会計） 5名
奥村俊夫（奥村組）
銭高善雄（銭高組）
平尾勝（ダイダン）
堀亀久治（三機工業）
○前野慶太郎（あめりか屋）

（編集） 10名
○金井弘次（日本建築総合試験所）
金多潔（京都大学）
○小島雄（鹿島建設）
城憲一（住宅・都市整備公団）
○須賀好富（近畿大学）
竹中錬一（竹中工務店）
○長谷部朔郎（日建ハウジング）
○松村慶三（浦辺設計）
若山繁（近畿電気工事）
○渡辺忠（東洋シャッター）

（会勢） 12名
淺沼茂夫（淺沼組）
○大岡昇（大林組）
○岡本行善（昭和設計）
川岸繁夫（川岸窯業）
○小林四郎（住友電設）
鴻池一季（鴻池組）
○城口庸平（大阪城口研究所）
○辰巳興一（フジタ工業）
中島一（愛知工業大学）
成瀬宗（清水建設）
西川秀信（戸田建設）
○八十島健二（竹中工務店）

（事業） 7名
板井亨介（熊谷組）
今村祐三郎（大阪建設業協会）
鈴木雅夫（大阪市都市整備局）
○西村良平（シアターデザイン）
藤木鐵三（藤木工務店）
○三品哲夫（大阪市建築技術協会）
両角保（浦安工業）

（研修） 5名
○片倉健雄（近畿大学）
立野一郎（ユニオン）
平島治（大成建設）
○平田定男（平田建築構造研究所）
和田克朗（大阪府建築部）

専務理事　松田至弘　・　**常務理事**　吉田悦二

（監事）
牧田顕治（新井組）・尾亀清四郎（三晃空調）

平成元年度

◀日本建築協会評議員（敬称略）

議長　高橋保夫（錢高組）
副議長　多井幸男（多井建築研究所）

本部所属評議員

（技術部門）
石川康介（近畿大学）
奥村進（東畑建築事務所）
楠昭夫（大阪建物）
黒岡和夫（皆栄建設工業）
桑田繁男（大阪市都整局住宅部）
西尾久雄（清水建設）
藤原稔恭（藤原工務店）
溝神宏至朗（安井建築設計事務所）
片田俊彦（大阪府企業局）
山形政昭（大阪芸術大学）

（総合部門）
石井朝美（間組）
大塚日出夫（淺沼組）
楠正世（戸田建設）
三木敏男（奥村組）
山田博（藤木工務店）
阿部暢（東洋土建）
佐野友彦（金山工務店）
伊藤俊夫（松村組）
内村俊一（大日本土木）
上加世田進（鉄建建設）
宮貴久雄（安藤建設）
白石静二（鴻池組）
瀬尾貞甚（西松建設）
高尾清次（三井建設）
田中宏（田中建設）
水間義雄（水間組）

（電気部門）
今村謄（中央電気工業）
栗原信英（栗原工業）
山本永造（ヤマト電気）
荒巻恭士（近畿電気工事）
岩崎貞雄（八千代電設工業）

（管工部門）
笹野敦（高砂熱学工業）
田崎至成（日比谷総合設備）
臼井弘（須賀工業）
川瀬甲子雄（扶桑管工業）
福谷守弘（朝日工業社）

（建材部門）
小山年光（タジマ）
原田孝太郎（原田セメント化工）
加藤忠三郎（平田タイル）
永原義夫（王建工業）

支部所属評議員

林金之（愛知工業大学）
盛田輝勇（中京テレビホームC）
森口雅文（伊藤建築設計事務所）
宮崎辰敬（宮崎辰五郎建築事務所）
稲葉登（大之木建設）
清田剛一（清田工務店）
井手正己（清和建築設計事務所）
神野武司（山田工務店）
福永敏男（福永建設）
井上弘美（アオケン）
雑賀幹夫（雑賀設計）
永長博（永長建設）

平成元年度

◀日本建築協会特別委員会委員（敬称略）

■企画委員会

協会の今後の運営を検討、審議する

片倉健雄（近畿大学建築学科）
松村慶三（浦辺設計）
三木敏男（奥村組）
三品哲夫（大阪市建築技術協会）
村上秀夫（大阪城ホール）
山形政昭（大阪芸術大学）
和田克朗（大阪府建築部）

◀日本建築協会支部長（敬称略）

東海　中島一（愛知工業大学）
京都　井手正己（清和建築設計事務所）
和歌山　北山俊（日新建設工業）
中国　平本俊秋（日興）

平成元年度

◀日本建築協会常設委員会委員

平成元年4月26日開催の定例理事会において、下記のとおり各常設委員会委員を委嘱いたしました。（敬称略　◎印委員長　⊗委員長代行　○印副委員長　◎印副委員長代行　△印幹事　▲幹事代行　＊印顧問　職場名は略称を用いました。）

■編集委員会

会誌「建築と社会」の企画・編集

編集理事

金井弘次（日本建築総合試験所）
金多潔（京都大学）
小島雄（鹿島建設）
城憲一（住宅・都市整備公団）
須賀好富（近畿大学）
竹中錬一（竹中工務店）
長谷部朔郎（日建ハウジングシステム）
松村慶三（浦辺設計）
若山繁（近畿電気工事）
渡辺亮（東洋シャッター）

■編集委員長

◎長谷部朔郎（日建ハウジングシステム）
⊗上田信也（日建設計）

■編集顧問

＊東孝光（大阪大学）

■特集小委員会

計画系分科会

（計画系）

角島健二（竹中工務店）
河端秀直（日建設計）
小浦久子（総合調査設計）
鈴木克彦（京都工芸繊維大学）
△田中直人（神戸市開発局）
平岡博（大阪市計画局）
山尾弘子（生活環境文化研究所）
吉村英祐（大阪大学）

（建築計画系）

上杉秀隆（浦辺設計）
江副敏史（日建設計）
△加藤晃規（大阪大学）
北村潤（東畑建築事務所）
鳴田聖二（鴻池組）
庄野利博（安井建築設計事務所）
西川純一（昭和設計）
前川治彦（前川治彦建築研究所）
牧野由美子（大成建設）
三宅淳（大林組）
▲森田晴美（鹿島建設）
矢野裕芳（清水建設）
山中恵子（山中恵子建築設計室）
山本匡（竹中工務店）

（インテリア・住宅系）

石倉健彦（住宅・都市整備公団）
一ノ瀬満雄（高島屋）
大塚慶子（大林組）
△加藤力（京都工芸繊維大学）
神谷剛（竹中工務店）
▲北浦かほる（大阪市立大学）
北山喜与（スペース・プランニング）
駒田哲男（日建設計）
細田泰彦（乃村工藝社）
増地秀夫（積水ハウス）

構造分科会

和泉一義（東畑建築事務所）
清孝好（日建設計）
馬場研介（大阪大学）
△福山国夫（竹中工務店）
山崎雅生（大林組）
和田勉（和田建築技術研究所）

設備分科会

安倍浩一（総合設備コンサルタント）
石野幸義（新菱冷熱工業）
遠藤進（近畿電気工事）
梶井宏修（近畿大学）
河津隆之（河津隆之事務所）
△佐藤秀彦（大阪市都市整備局）
別所清（松下電器産業）
村上幸三郎（東芝ライテック）

施工材料分科会

河戸隆（積水ハウス）
△志水史典（大林組）
田添寿昭（大阪府営繕室）
丹羽稔（竹中工務店）
松村勝実（清水建設）
山田敏捷（鹿島建設）

法令分科会

△大前博司（大阪市計画局）
広瀬丈洋（兵庫県都市住宅部）
松井昭（大阪府建築部）
未定（京都府土木建築部）
南出和延（神戸市住宅局）

■作品作風小委員会

荒川朱美（京都芸術短期大学）
遠藤公介（竹中工務店）
岡本隆（日建設計）
北澤修一（安井建築設計事務所）
玉崎良和（大阪府建築部）
○塘伸夫（東畑建築事務所）
富田昌義（大林組）
福地一彦（清水建設）
松田善弘（昭和設計）
宮下幹雄（大建設計）
△水川尚彦（住友信託銀行）
宮崎ひろ志（兵庫県都市住宅部）

■会員企画小委員会

赤井富弘（近畿地建）
伊藤郁郎（日建設計）
稲木裕子（リクルートコスモス）
△今井邦夫（長谷工コーポレーション）
北村恭一（大建設計）
小林孝一（近畿日本鉄道）
佐伯由紀子（安井建築設計事務所）
柴田厚（日本設計事務所）
○高田光雄（京都大学）
高橋麗子（デザイン・オフィスレイ）
塚口明洋（塚口明洋建築研究室）
冨永明子（リクルートコスモス）
増渕昌利（神戸市住宅供給公社）
溝口正人（清水建設）

■広告企画小委員会

△池渕俊男（タジマ）
佐野寛志（松村組）
○下村甫（竹中工務店）
橋本龍二郎（清水建設）
原田常介（クリヤマ）
藤田孝吉（鹿島建設）
山下修司（安井建築設計事務所）
○渡辺亮（東洋シャッター）

■事業委員会

見学・講演・説明・展示・映画・懇親会若い会員の集いなどの企画および実施

◎西村良平（シアターデザイン）
○島田民彦（竹中工務店）
○鶴田昭一（大林組）

見学会小委員会

○伊東史郎（大林組）
△南次郎（淺沼組）
△南方文也（鹿島建設）
伊藤博（松村組）
印藤義博（大阪市都市整備局）
久保田秀男（日建設計）
中川滋（竹中工務店）
福本功（鴻池組）
福家敬（大阪府建築部）
前野清（藤木工務店）
松本博俊（東畑建築事務所）
宮越正明（清水建設）
森田芳次（安井建築設計事務所）
藪本文彦（大成建設）

広報小委員会

○原見昌志（安井建築設計事務所）

（研修分科会）

△掃部彌（大阪市建設局）
△寺井信夫（竹中工務店）
木場公典（大阪府建築部）
棚橋和夫（錢高組）
谷本敏和（近畿電気工事）
中西稔（JR西日本建設工事部）
宮内宏（神戸材料）

（教室分科会）

△奥村進（東畑建築事務所）
△川村眞次（住宅・都市整備公団）
伊藤武夫（大林組）
酒井重治（野村建設工業）
坂本哲郎（関西電力）
下村健治（修成建設専門学校）
田村美喜男（旭硝子）

若い会員の集い小委員会

○宮野道雄（大阪市立大学）
△大森智子（四天王寺国際仏教大学）
△龍野豪利（大阪市都市整備局）
△松隈章（竹中工務店）
△松本明（浅井謙建築研究所）
内仲毅（PPI）
小澤朋子（PPI）
小田修一（大林組）
大川和彦（大阪府建築部）
黒田和夫（阪急電鉄）
桜井則雄（大林組）
島隆男（安藤忠雄建築研究所）
杉本真一（大阪芸術大学）
瀬藤良雄（JR西日本建設工事部）
田中康（大塚造園設計事務所）
田畑重明（坂倉建築研究所）
竹内利明（淺沼組）
手島広行（住宅・都市整備公団）
長友理津子（長友工務店）
藤記真（日建設計）
増田昌彦（大阪府建築部）
桝田洋子（桃李舎）
宮崎良彦（大阪市建設局）
山口圭一（浦辺設計）
山田和弘（東建コンサルタンツ）
山本勝彦（安井建築設計事務所）
山本淳（清水建設）
横田隆司（大阪大学）
米井寛（東畑建築事務所）

■教育委員会

建築教育についての調査、研究、講座ならびに工高生デザインコンクールなどの企画および実施

◎片倉健雄（近畿大学）

講習会小委員会

○金田宏（大林組）
△尾崎充宏（竹中工務店）
△藤井俊彦（大成建設）
上田昇（鹿島建設）
岡忠生（錢高組）
高橋憲昭（松村組）
中川徹（清水建設）

工高生教育小委員会

○中野吉晟（西野田工業高校）
△植松清志（西野田工業高校・定時制）
△和田康由（大阪市立工芸高校）
今村清二（東畑建築事務所）
岡本弘之（安井建築設計事務所）
小山将史（堺市立工業高校）
武田雄二（今宮工業高校・定時制）
出雄隆（都島工業高校）
三宅育男（布施工業高校）
水嶋勇郎（日建設計）

■建材委員会

建材のコンサルタント・新建材の紹介

阿部修（松村組）
有光利治（鹿島建設）
猪野達雄（竹中工務店）
岩口勝（大建設計）
岡山信（奥村組）
◎金井弘次（日本建築総合試験所）
小西努（大成建設）
○近藤達夫（大日本土木）
末木俊昭（日建設計）
竹田三夫（鴻池組）
近澤一弘（日本建築総合試験所）
中條正治（大阪府建築部）
戸田悠二（藤木工務店）
轟泰輔（熊谷組）
中川徹（清水建設）
田中均（大阪セメント）
西川純一（昭和設計）
広瀬清豪（大林組）
文屋淳（住宅・都市整備公団）
伯耆紳（安井建築設計事務所）
＊堀内三郎（元・京都大学）
牧田顯治（新井組）
松原義美（戸田建設）
松本章（東畑建築事務所）
三輪哲也（錢高組）
○元木貞次（東洋精エンジニアリング）
保田幸昭（近畿地方建設局）
山田幸一（関西大学）
米川清水（NTT関西建築総合センター）
渡辺博（新日本製鐵）

■出版委員会

建築に関する図書の企画・編集・刊行「建築技術選書」特装版および〈プロのノウハウ〉の企画・刊行

◎須賀好富（近畿大学）
○山田修（修建築事務所）
石田忠良（松村組）
市嶋久嗣（大林組）
川道麟太郎（関西大学）
川村佳則（川村建築構造）
鮫島浩（大阪府建築部）
谷川康信（大阪工業技術専門学校）
牧野茂（竹中工務店）
安田孝（摂南大学）

■住宅委員会、法規委員会

上記委員会は、平成元年度は休会。

●ビデオ映写会●

世界のウォーターフロント開発

（全10巻、制作：パル、ビジョンプロデュース、発売：総合ビジョン・ウォーターフロント映像センター）

高度成長を経た今日の都市の課題は、高度に複合的な機能を内包しながらも、アメニティーのある都市空間を創造することにあるといえましょう。特に最近は、海、川、湖の環境保全が注目され、美しく人間に潤いを与えるようなウォーターフロント開発が求められています。そこで世界のウォーターフロント開発の事例を数点、ビデオを通して見てみたいと思います。

前回、「アメリカのウォーターフロント開発」と題してニューヨーク、サンフランシスコ、サンアントニオを見ましたが、今回は残り７地区（各約30分）の映写会です。

1. **ボストン**（U.S.A）　歴史と文化を重んじた豊かな都市空間を水際に創り出している。
2. **ボルティモア**（U.S.A）　インナーハーバー再開発の典型例として柔軟な展開がみられる。
3. **コロンバス**（U.S.A）　リバーフロント開発、親水公園、歴史保存の街並み等。
4. **バンクーバー**（カナダ）　水際の立地を活かした開発都市の代表例。ＥＸＰＯ'86の取材を含む。
5. **トロント**（カナダ）　湖面に突き出たエキジビションプレイス、複合レジャー施設等。
6. **ボンベイ**（インド）　慣習を尊重しながら、官民一体で都市をつくっている。
7. **上海**（中国）　全長115kmに及ぶ上海港のダイナミックな開発。



ボストン



ボルティモア

日　　時　**7月15日**(土)　13：30～17：00

スケジュール（予定）

1.ボストン13時30分／2.ボルティモア14時／3.コロンバス14時30分

4.バンクーバー15時／5.トロント15時30分／6.ボンベイ16時／7.上海16時30分

場　　所　㈳日本建築協会会議室（大阪駅前第３ビル21階）

参 加 費　一般1,000円、会員500円（含、缶ジュース、消費税）

定　　員　30名

申込方法　ハガキ、ＦＡＸ、電話で７月14日㈮までに日本建築協会事業課（〒530 大阪市北区梅田１－１大阪駅前第３ビル21階、ＦＡＸ 06－348－0634、☎ 06－348－0633）へお申込みください。催し名（ビデオ映写会「世界のウォーターフロント開発」）、氏名、一般・会員の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。

＊追って参加証をお送りします。なお申込者多数の場合は抽選にて決定します。

◀関西国際空港建設工事見学会

4年後の1993年春開港を目ざして建設中の関西国際空港を見学します。空港島、前島（りんくうタウン）、連絡橋、それぞれ埋立工事、橋脚工事が着々と進んでいる様子を、海上より小型旅客船に乗って、また海上基地から見学します。

日　　時　7月25日（火）集合14：30—解散17：00
集合場所　関西国際空港建設事務所（大阪府岸和田市大北町9-25）
　＊南海「岸和田駅」より西（海側）へ徒歩約15分
定　　員　35名
会　　費　会員500円、一般1,000円（含、消費税）
　＊当日、受付にていただきます。

空港計画概要（第1期）
●位置
大阪湾南東部の泉州沖
約5kmの海上
●規模
面積511ha
滑走路1本3,500m×60m
●連絡橋
道路・鉄道併用橋3,750m
●開港目標
1993年春

下記写真3点は
1989年5月15日に撮影
空港建設工事現況を示す

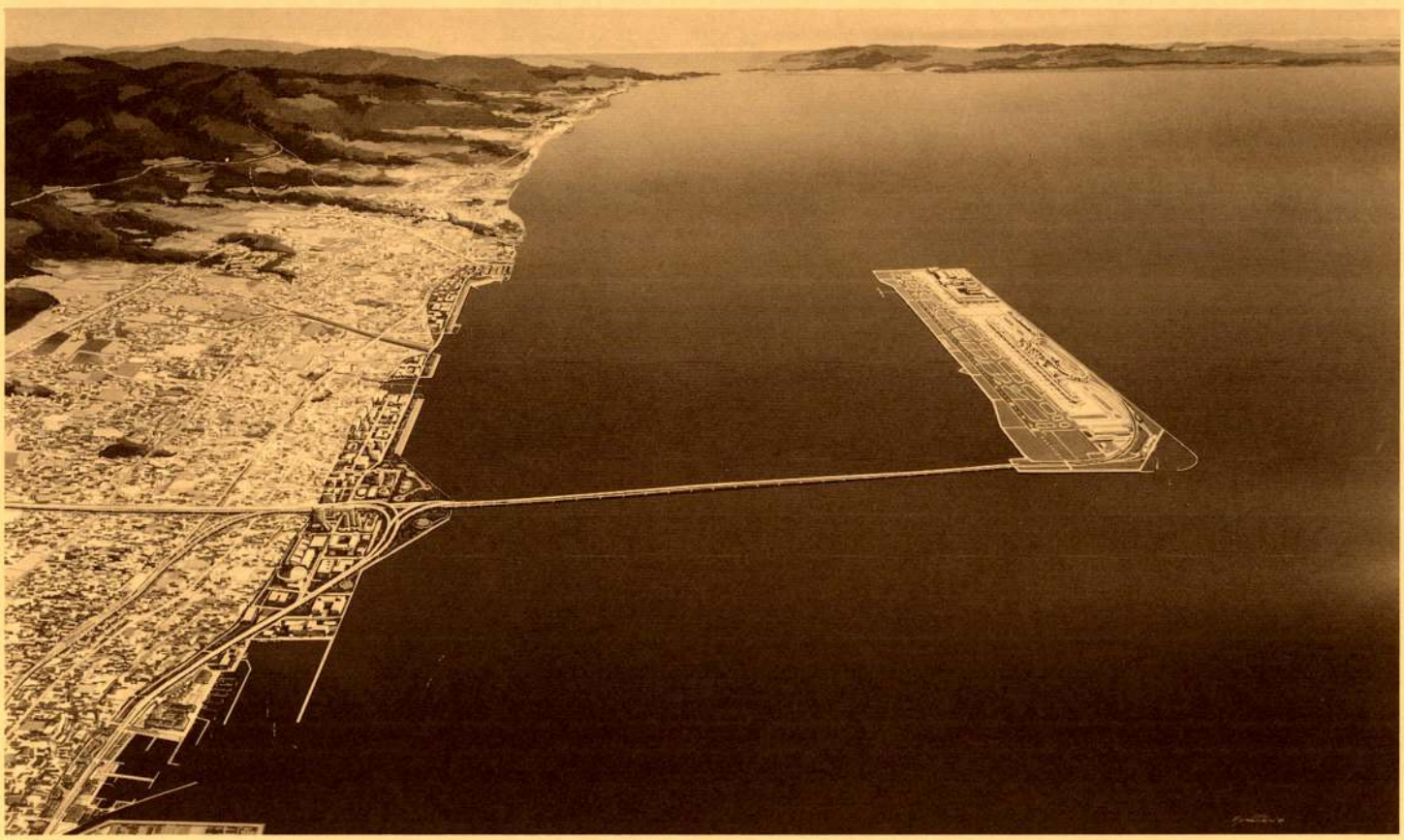
海上基地











構想図

申込方法　ハガキ、FAX、電話で7月17日（月）までに日本建築協会事業課（〒530 大阪市北区梅田1－1大阪駅前第3ビル21階、FAX06-348-0634、☎06-348-0633）へお申込みください。催し名（関西国際空港建設工事見学会）、氏名、会員・一般の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。
＊追って参加証をお送りします。なお申込者多数の場合は抽選にて決定します。

◀神戸市新庁舎見学会

神戸市新庁舎が、現庁舎南隣にまもなく完成します。関西初の超高層庁舎として、これから神戸市のシンボルとなる建物です。竣工間際のお忙しい時期にもかかわらず見学させていただけることになりました。ぜひこの機会にご見学ください。

日　　時　7月29日(土)　集合13:30－解散16:00
集合場所　新庁舎西向かい大神ビル５階ＪＶ会議室
定　　員　50名
参 加 費　会員 500円、一般 1,000円（含、消費税）
＊当日、受付にていただきます。

●建築概要

所 在 地　神戸市中央区加納町6-5-1
設　　計　神戸市住宅局営繕部・日建設計
施　　工　竹中・大成・熊谷・西松ＪＶ
敷地面積　9,500㎡
建築面積　1,860㎡（別に電気機械棟 690㎡）
延床面積　52,360㎡（別に電気機械棟 2,040㎡）
階　　数　Ｂ３、30Ｆ、Ｐ２
高　　さ　軒高 125m、最高部高 132m
構　　造　ＲＣ（Ｂ３～２）、ＳＲＣ（Ｂ１～２Ｆ）、Ｓ（３Ｆ～）
外　　装　花崗石打込みプレキャストコンクリート板
高性能熱線吸収反射ガラス
工　　期　1987年１月～1989年８月



1989年５月撮影

神戸市新庁舎は、土地の高度利用をはかり、庁舎の狭あい化を解消するため、旧議会棟を解体しそのあと地に30階建の高層建物として、昭和62年１月に工事に着手し、市制100周年にあたる平成元年８月の完成をめざし、最後の追い込みに入っています。

施設の内容は、１・２階は玄関・市民ロビー、３～23階を一般行政ゾーン、24階に一般市民に開放された食堂・喫茶室、25～30階は議会ゾーンからなっています。

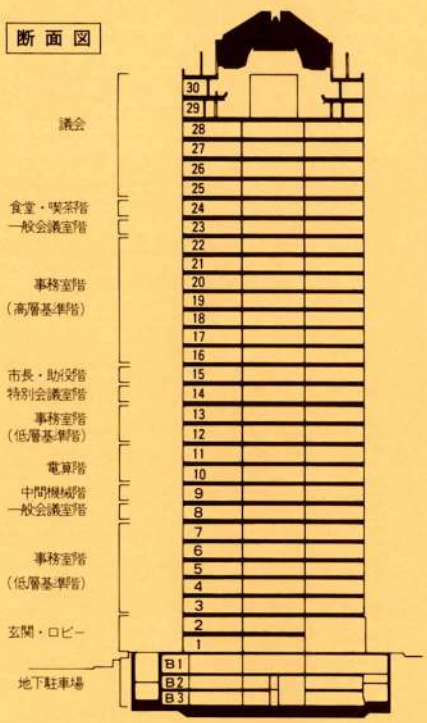
建物の外観は、白色の花崗石の格子とブルーのガラスの組み合わせにより軽快かつ繊細な構成とし、背後の山並みに映えるさわやかな市を代表する価値ある建築物とし、都市の新しいシンボルとなるデザインとしています。夜間は頂部およびコーナー壁面の電飾による演出が行えるよう計画しています。

配置にあたっては、敷地周辺を整備することにより、南側にある東遊園地への連続性を強め、歩道をより豊かな歩行者空間としています。また、敷地西側の中庭は緑化をはかることにより、花時計から連続した遊歩道として整備し、この中庭は公開空地として一般市民に開放することにしています。

また、新庁舎とは別棟で電気機械室棟を設置することにより、新庁舎と既存の２つの庁舎の電源および熱源設備を電気機械室棟の地下１・２階にそれぞれ集中設置し、エネルギーの有効利用をはかり、併せて中央監視盤を設け設備管理の一元化を行っています。

（神戸市）

断面図



申込方法　ハガキかＦＡＸか電話で、７月21日㈮までに日本建築協会事業課(〒530 大阪市北区梅田１－１　大阪駅前第３ビル 21階、ＦＡＸ06－348－0634、☎06－348－0633)へお申込みください。催し名(神戸市新庁舎見学会)、氏名、会員・一般の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。

＊追って参加証をお送りします。なお申込者多数の場合は抽選にて決定します。

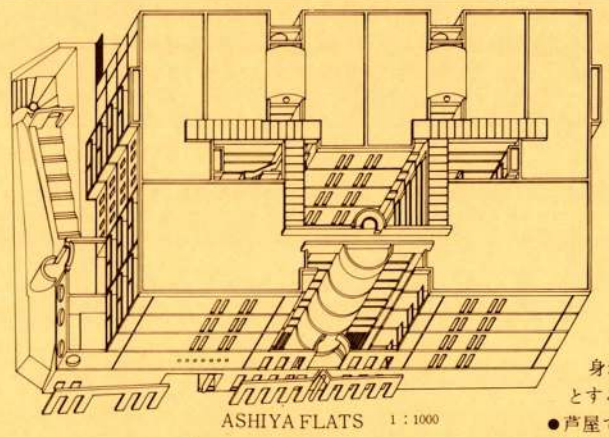
話題建築を聞く　第７回

芦屋の個性――ASHIYA FLATSほか――小林恒氏に聞く

日　時　**7**月**22**日(土)　14:00～16:00
場　所　㈳日本建築協会会議室（大阪駅前第３ビル21階）

近年、芦屋かいわいにちょっと気になる建築が建ちだした。JR芦屋駅の大阪寄り線路南側に接して洒落た打放しのマンション「ASHIYA FLATS」、阪神芦屋の南側芦屋川沿いの打放しの小ホール「CAFE」など小林恒氏の作品もその一つで、車窓からの景観が変わりだしている。街を巡れば市街地再開発も行われ、神戸の灘、芦屋、西宮といった阪神間を代表する街が新しい時代の流れに添って変貌しており、今、街のアイデンティティーを考慮した開発の必要性が問われている。

そこで今回は、芦屋に住み、芦屋にアトリエを構えて「芦屋らしさ」を仕掛けている建築家、小林恒氏に登場していただき、芦屋での仕事や芦屋の個性についてお話ししていただきます。また参加者も加わってのディスカッションも行いますので、多数の参加をお待ちしています。



ASHIYA FLATS　1：1000

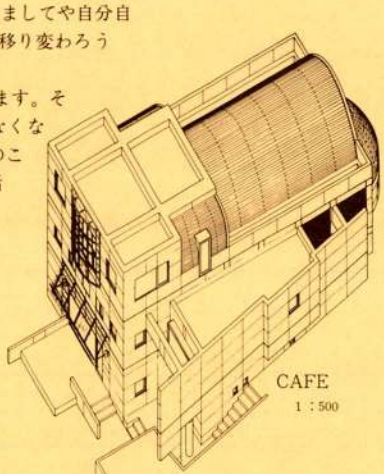
●私は阪神間の芦屋に住み、そして仕事場もこの地にあります。「なぜ、芦屋で」という声も聞きますが、私は芦屋に来てよかったと思っています。埋立地のASTEMや阪神高速道路。ＪＲの駅前再開発ビル等がまだなかった頃、今から20年ほど前に私は芦屋に住みはじめました。独立して仕事を始めて14年、長年仕事の場として親しんだ大阪を離れ、４年前からはアトリエも芦屋に移しました。

●芦屋は有名な街です。そしてイメージが先行しています。「余裕の街」とか「ゆとりの街」と言われ、若い人達にもファッショナブルだと人気があるようです。しかし、現状はどうなのでしょう。この排他的な街も、一方では無関心な面が多くあり、近頃では急激に、しかも抵抗もなく平均的な地方都市へと変貌しつつあります。地方都市は個性的で特殊でなければ面白くありません。ましてや自分自身が住む街では言うには及びません。芦屋は今まさに移り変わろうとする最も重要な時期を迎えています。

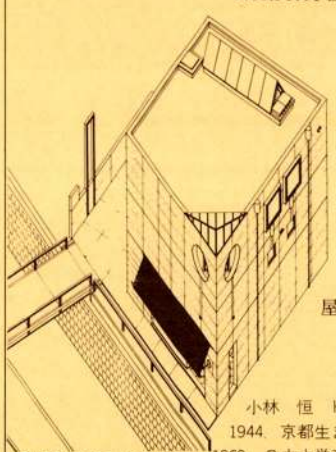
●芦屋での仕事も、長年やっていると結構数がたまってきます。そして場としての敷地から地域としての視点で見なければならなくなります。仕事を通じての人間関係の中で、地域社会や地方都市のこと、失われた〈らしさ〉のこと、行政には期待出来ないこと等を話しはじめます。また建築することで、生活や文化のこと、都市性や国際性のこと等を考えはじめてしまいます。海を失った芦屋は折しも第２期の埋立てが開始されました。芦屋はどうなってゆくのでしょうか。

●行政にヴィジョンがなく、民間ディベロッパーに地方都市を考える心がなければ、今や零細企画と仕掛人が、少し刺激的ではあっても「こんなん出来ましたけど」と言わざるを得ないようです。私は芦屋には可能性があると思っています。そして私は芦屋が好きです。

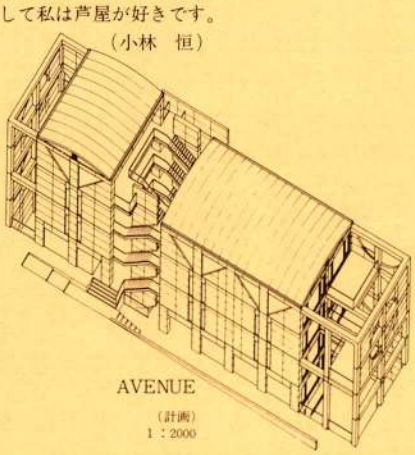
（小林　恒）



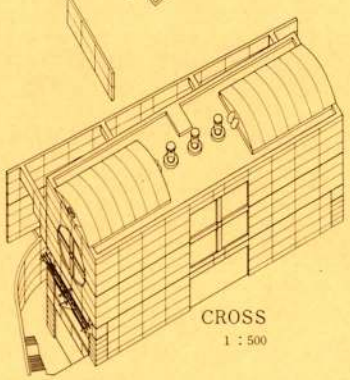
CAFE　1：500



SHOE GALLARY OTA　1：500



AVENUE　(計画)　1：2000



CROSS　1：500



小林　恒　Hisashi Kobayashi
1944　京都生まれ
1969　日本大学卒
1969　安井建築設計事務所入社
1973　AZInstitute環境計画研究所設立
1975　小林恒建築研究所開設
同研究所代表
〈芦屋の主な作品〉
進和北楠アーバンライフ（1978）
POCKET（1982）、ALCOVE（1982）
ASHIYA FLATS（1984）、穐原邸（1984）
アンリ・シャルパンティエ芦屋本店（1985）
SHOE GALLARY OTA（1987）、CAFE（1987）
ASHIYA ATRIUM（1988）、CROSS（1989）

参 加 費　一般2,500円、会員1,500円（学生：一般1,500円、会員1,000円）
定　　員　30名
申込方法　ハガキ、ＦＡＸ、電話で７月14日(金)までに日本建築協会事業課（〒530 大阪市北区梅田１－１大阪駅前第３ビル21階、ＦＡＸ06-348-0634、☎06-348-0633）へお申込みください。
催し名（話題建築を聞く――芦屋の個性・ＡＳＨＩＹＡＦＬＡＴＳほか――小林恒氏に聞く）、氏名、一般・会員の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。
※追って参加証をお送りします。なお申込者多数の場合は抽選にて決定します。

大阪府新庁舎建築コンクール作品展、東京でも開催

21世紀に向けての大阪の新しいシンボル・大阪府新庁舎およびその周辺整備の基本計画提案競技が行われ、応募９作品案の中から黒川紀章建築都市設計事務所案が最優秀作品に選ばれた。すでに５月下旬に、大阪では応募９作品案が公開展示されているが、このたび東京においても公開することとなった。入場は無料。

記

と　き　1989年 7 月24～26日　10：00～17：00

ところ　建築会館ホール(東京都港区芝5－26－20　電話03－769－2977)

展　示　全応募作品の図面、模型等（黒川紀章建築都市設計事務所案／日建設計案／佐藤総合計画案／久米建築事務所案／坂倉建築研究所案／菊竹清訓建築設計事務所案／安井建築設計事務所案／村野、森建築事務所案／東畑建築事務所案）

主　催　(社)日本建築協会、(社)日本建築士会連合会、(社)日本建築士事務所協会連合会、(社)新日本建築家協会

後　援　大阪府

大阪・松坂屋でも作品展があった（1989年５月）



第9回大阪まちなみ賞(大阪都市景観建築賞)の推薦募集

■大阪まちなみ賞（大阪都市景観建築賞）

個性と風格のあるまちの景観づくり、環境づくりに資する建物やまちなみの推薦を公募している。

対象　大阪府域内の昭和59年８月～63年７月末に完成した建物、および昭和63年７月末までに完成したまちなみ

方法　推薦用ハガキ（官製も可）に、推薦物件・所在地・完成時期・推薦理由・推薦者名・連絡住所・電話を記入の上、郵送のこと。

期間　平成元年７月１日～７月31日(当日消印可)

発表　平成元年11月下旬

審査　足立孝氏ほか16名

主催　大阪府、大阪市、(社)大阪府建築士会

■フォトコンテスト

テーマ　過去に大阪まちなみ賞を受賞した建物・まちなみ、周辺環境の白黒・カラー写真

締　切　平成元年10月11日

詳細は、大阪都市景観建築賞運営委員会（電話06－947－1961）へ。

第14回吉田五十八賞―東京サレジオ学園が受賞―

推薦総数82件の中から、今回は建築の部および建築関連美術の部を一体化して、東京サレジオ学園内ドンボスコ記念聖堂、小聖堂、各聖堂内の一連の美術作品が受賞、あわせて特別賞も受賞した。

受賞者は建築設計の阪田誠造（坂倉建築研究所所長）、藤木隆男（坂倉建築研究所）、美術制作の坂本和正（方圓館館長）、横尾龍彦（画家・在ドイツ）、イワタルリ（岩田工芸硝子）、林良子（祭服デザイナー）、同作品の計画・制作協力の村上康助（東京サレジオ学園長）、関口幹子（東京サレジオ学園法人本部）の各氏。

従来の三廊式を退けて円に12角形の平面をもつ記念聖堂は、祭壇両側から自然光や緑の風を取り込む開放的な考え方などを、また池に張り出した小聖堂は、池の水紋の反映を取り入れるなどで神と自然と人間との関わりの意識を忘れてはいないことを、いずれも、その精神性の高い建築空間の創造を評価されたものである。



東京サレジオ学園聖堂および小聖堂



祭服とストラ、侍者服　写真 浅川 敏



東京サレジオ学園聖堂

喜多章写真展～息づく建築～

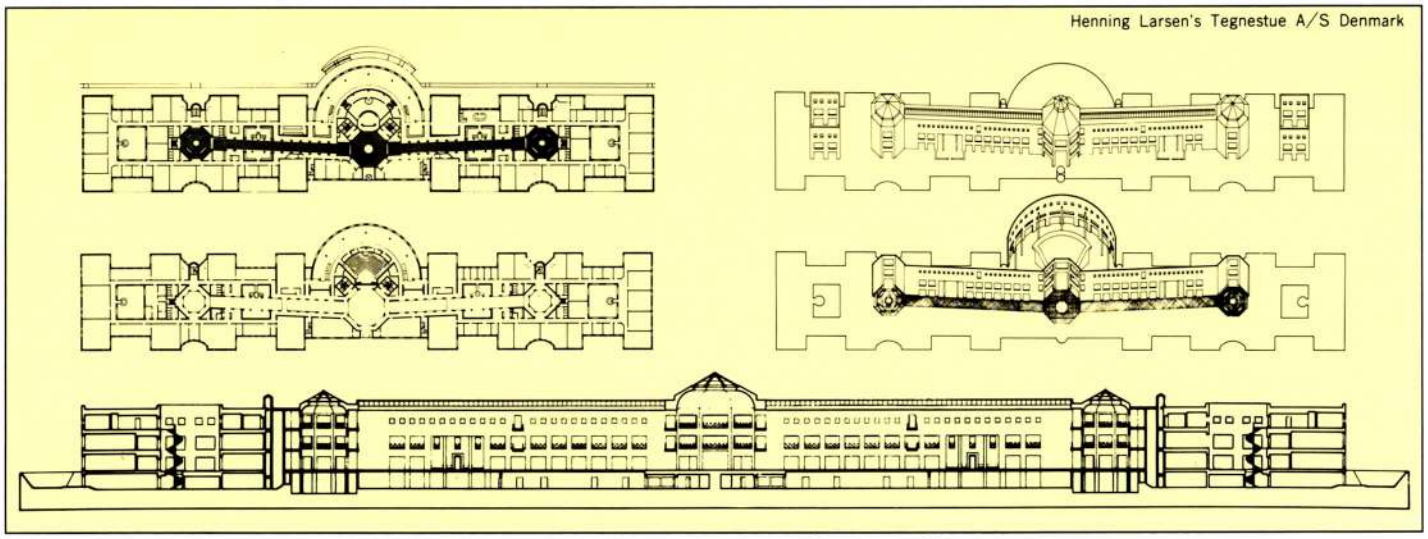
場所　大阪府立現代美術センター（大阪市北区中之島 3-2-18　住友中之島ビル　TEL06-445-6665）

期間　７月17日(月)～７月22日(土)
ＡＭ10：00～ＰＭ６：00

入場　無料

内容　大阪市立中央公会堂・旧甲子園ホテル・大阪倶楽部・綿業会館・日本基督教団大阪教会の息遣いみたいなものをモノクロームプリントで約70～80点展示





GDSは設計者の右腕となり A/E/Cを強力に支援します。

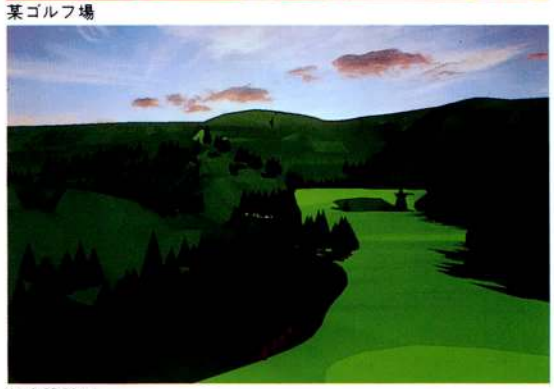
A/E/C分野に対応する総合機能を備えたGDS

ＧＤＳは、建築・土木・エンジニアリング関連分野の企画から実施までの全領域を強力に支援する総合ＣＡＤシステムです。
高速レスポンス、インタラクティブな操作環境、２次元から３次元まで一貫した合理的なデータベースを持ち、製図作業にもプレゼンテーションにも威力を発揮します。
専門ニーズにこたえる多彩なアプリケーション、システムの拡張を実現するインターフェースなど、充実した陣容のソフトウェアと最新のハードウェアを組み合わせた高機能の総合システムです。

新機能を追加し、グレードアップし続けるGDS

ＧＤＳは、たゆまぬ技術革新により最新機能を取り入れ、グレードアップし続けています。
現4.10バージョンでは、処理速度の大幅アップ、複数光源による影の投影や反射・光沢などの表現、フルカラーモードによる1670万色同時表示を実現しました。
さらに、新しいプレゼンテーションツールであるビデオアニメーションシステムや、スキャナーで呼び込んだ写真を端末機上でＧＤＳと合成させる技術など、先端的な手法を提案しています。
今後は、ローコスト・ハイパフォーマンスの目標に挑戦しながら、建築設計における日影解析や日本語対応などもきめ細かく考慮して、ユーザー寄りのシステムへと開発していきます。


某ゴルフ場


住宅設計例

先進のソフトウェアを結集した"GDSファミリー"

GDS ——汎用設計製図支援システム
SOLID —3次元ソリッドモデラーシステム
PAM —3次元アセンブリーモデラーシステム
SVS —3次元カラービジュアライズシステム
APS ——建築企画支援システム
RCDS —鉄筋コンクリート詳細設計システム
BSDS ——設備設計システム
SITES —3次元地表面モデリングシステム
AMS ——マッピングシステム
EPI ——外部プログラムインターフェース
SPS ——スペースプランニングシステム
IGES ——IGESインターフェース
MOSS ——土木設計支援システム
求積図作成システム
施工図作成システム
ビデオアニメーションシステム

坂本龍馬記念会館(仮称)提供／株式会社 現代建築研究所





建築と技術と人を結ぶ
ARC yamagiwa

エイ・アール・シー・ヤマギワ株式会社

東京本社　〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-7-16 Tel.03-405-7811
大阪営業所　〒542 大阪市中央区南船場4-4-3 御堂筋アーバンライフビル Tel.06-245-7811
名古屋営業所　〒460 名古屋市中区錦1-20-25 広小路YMDビル Tel.052-232-0880
台湾支店　台湾台北市民権東路600號 603室 Tel.(886-2)718-5786

1917創刊
1989
70集
建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

6 通巻807

「建築と社会」6月号表紙

■作品タイトル　東京国際空港庁舎・管制塔等管理施設
■制作　安井建築設計事務所
■使用ハード　DEC Micro VAX-3500/SONY TEKTORONIX 4237　■使用ソフト SVS
■作品説明　家具の配置計画は、事務室空間の利用効率や使い勝手を考える上で重要な問題である。本作品は、さまざまな形態で利用される形状を持つ執務スペースの家具レイアウトを検討するための、内観シミュレーションの一例である。

■特集予告
7月号／都市環境創造と設備 I
8月号／建築とアート
9月号／構造の省力化
10月号／都市環境創造と設備 II
11月号／第36回青年技術者
12月号／最近の博覧会パビリオン

会長　佐野正一
副会長　足立　孝・市川　宏
鴻池藤一・薬袋公明
編集委員会（平成元年度）
■編集理事
金井　弘次
金多　潔
小島　雄
城　憲一
須賀　好富
竹中　錬一
長谷部朔郎
松村　慶三
若山　繁
渡辺　忠
■編集委員長
長谷部朔郎
＊上田　信也
■編集顧問
東　孝光
■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
角島　健二
河端　秀直
小浦　久子
鈴木　克彦
○田中　直人
平岡　博
山尾　弘子
吉村　英祐
☆建築計画系
上杉　秀隆
江副　敏史
○加藤　晃規
北村　潤
鳴田　聖二
庄野　利博
西川　純一
前川　治彦
牧野由美子
三宅　淳
＊森田　晴美
矢野　裕芳
山中　恵子
山本　匡
☆インテリア・住宅
石倉　健彦
一ノ瀬満雄
大塚　慶子
○加藤　力
神谷　剛
＊北浦かほる
北山　喜与
駒田　哲男
細田　泰彦
増地　秀夫
★構造分科会
和泉　一義
清　孝好
馬場　研介
○福山　国夫
山崎　雅生
和田　勉
★設備分科会
安倍　浩一
石野　幸義
遠藤　進
梶井　宏修
河津　隆之
○佐藤　秀彦
別所　清
村上幸三郎
★施工材料分科会
河戸　隆
○志水　史典
田添　寿昭
丹羽　稔
松村　勝実
山田　敏捷
★法令分科会
＊大前　博司
広瀬　丈洋
松井　昭
南出　和延
■作品作風小委員会
荒川　朱美
遠藤　公介
岡本　隆
北澤　修一
玉崎　良和
○塘　伸夫
富田　昌義
福地　一彦
松田　善弘
宮下　幹雄
＊水川　尚彦
宮崎ひろ志
■会員企画小委員会
赤井　富弘
伊藤　郁郎
稲木　裕子
＊今井　邦夫
北村　泰一
小林　孝一
佐伯由紀子
柴田　厚
○高田　光雄
高橋　麗子
塚口　明洋
冨永　明子
増渕　昌利
溝口　正人
■広告企画小委員会
＊池渕　俊男
佐野　寛志
○下村　甫
橋本龍二郎
原田　常介
藤田　孝吉
山下　修司
○渡辺　忠
○印 副委員長と幹事　＊印 同代行

印刷　平成元年6月20日
発行　平成元年6月25日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06—348—0635
振替口座 大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
電　06—606—1111(代)
青葉印刷株式会社
電　06—351—5428(代)
定価　980円（本体価格951円・送料共 消費税29円）

会告
INFORMATION
作品作風
Gallery
Wシリーズ
スケッチブック
being
書評
レポート
新建材紹介コーナー
法令コーナー
GBRCニュース
建築の眼
特集
序文
各論 1
随想
ルポ
各論 2
資料
構造の頁170
設備の頁172
施工材料の頁167
月報
INFORMATION
バックナンバー

特集●博覧会とまちづくり

SPECIAL FEATURE ON THE EXPOSITION AND TOWN PLANNING

平成元年度日本建築協会役員会務分掌．平成元年度日本建築協会評議員、特別委員会、常設委員会委員、日本建築協会支部長．ビデオ映写会・世界のウォーターフロント開発．開西新空港建設工事見学会．神戸市新庁舎見学会．話題建築を聞く・芦屋の個性—ASHIYA FLATSほか—小林恒氏に聞く．大阪府新庁舎建築コンクール作品展、東京でも開催． 1
第14回吉田五十八賞—東京サレジオ学園が受賞—．第9回大阪まちなみ賞（大阪都市景観建築賞）の推薦募集．喜多章写真展～息づく建築～ 7
ソラリアプラザビル——設計監理：日建設計　施工：大成建設・鹿島建設共同企業体 10
大阪音楽大学・ザ・カレッジ・オペラハウス——設計監理：日建設計　施工：鹿島建設 18
富士火災海上保険本社ビル——設計監理：安井建築設計事務所　久米建築事務所JV 22
共同監理：富士地所　施工：清水建設　間組　大末建設JV
広島市立美鈴が丘高等学校——設計監理：広島市都市整備公社　河内義就設計事務所(一期) 26
広島市営緒第二課　河内義就設計事務所(二期)
施工：三井建設　幸建設　下岸建設　新枝建設JV(一期)　三井建設(二期)
天理教神邊分教会——設計監理：匠建築事務所　施工：飛鳥建設広島支店 28
大阪薬業保健センター——設計監理：安井建築設計事務所　施工：大林組・藤木工務店JV 30
澤田邸（設計：人長信昭）／荒川朱美 32
Watching「都市の風景」 34
最近竣工した新建築9点（NO.2232～2240） 36
織田コレクション（織田憲嗣）／木村博昭 37
名著覆刻—ある都市漫歩者の一視点（「覆刻版 近代大阪」北尾鐐之助）／橋本敏子 38
出版委員会企画「プロのノウハウ」講座シリーズ（第1回）「構造計画と経済設計」／山田修 39
透水性天然石舗装材「アーバンロック」／竹田三夫 41
都市景観形成モデル都市の指定／山内純子 42
平成元年度計画 43
産直住宅／住田昌二．六つの風土とともに—その6—淡路／松田泰典． 44
ゴルフ熱症候群／中嶋龍彦．職員会組織について／入江恂一

博覧会とまちづくり

わが国の博覧会とまちづくり——足立　孝 46
有名博覧会—現在・過去・未来—まちづくり 49
日本万国博覧会／吉田元雄．沖縄国際海洋博覧会／川武実．神戸博ポートピア'81／田中直人．国際科学技術博覧会・つくば'85／羽生洋治
博覧会、人、まち 54
万国博のこと／吉田光邦．博覧会と美術／今井祝雄．地方博の演出精神／福井尚．地方博におもう／沖始．地域に見合った規模で…／寺下勁．地方博の赤信号「なぜ」／諸岡博熊．地方博よ、改造論をふっきれ／福島靖夫．地方の博覧会考／古林敏郎．地方博覧会が残すもの／難波哲明．国際都市形成のシミュラークル／滝本みつる．ムーブメントとしての博覧会／由井求．コンパニオンの体験から／高橋京子．博覧会未経験者の声／熊谷信．ポートピア'81の180日／馬祖祺．奈良公園に遊ぶ／岡田恵美．「世の中に博覧会ほどうるさきものはなし…」／芝吹千昭．私にとっての原点ポートピア'81／SUVANEE INGKHAVAT．つくば'85「住友館」の経験／大下禎三郎．博覧会と都市鳥瞰図／石原正．異文化交流／吉永睦夫．末端にいた者の弁／かんべむさし．万国博博物館の夢／森隆一．博覧会を機会に／水谷穎介．博覧会—風土に根ざした祭り—／山中孔．博覧会の遺産／西村壮一．過去と未来をつなぐ空間／黒田清．EXPO2001／宮崎興二．年間7000の博覧会の意味／泉眞也．空間づくり、人づくり／米山俊直
都市のシーン—博覧会とまちづくりを追って 75
福岡の場合、横浜の場合、名古屋の場合／田中直人委員
博覧会をめぐる都市事情論—100周年記念事業の動き———田中直人 78
サザンピア21／アジア太平洋博覧会—福岡'89／静岡駿府博覧会／'89姫路シロトピア博／ダッハらんど'89大阪／横浜博覧会／世界つつじまつり'89くるめ／第21回全国菓子大博覧会／'89海と島の博覧会・ひろしま／'89新潟食と緑の博覧会／世界デザイン博覧会／おみやげ・ザ・ワールド山形100フェスティバル／'89鳥取・世界おもちゃ博覧会／第7回全国都市緑化せんだいフェア／甲府博覧会
年表とマップ
社会の動きと博覧会'67～あの頃、あんなことがあった…／資料作成・吉村英祐委員 55

鉄筋のガス圧接の超音波探傷／沖本弘 88
瞬間調光ガラス／近藤正之 89
電磁波シールドガラス／田中啓介 90
日本建築協会月間の動き（平成元年4月分） 91
「関西の40歳の設計者会議」（仮称）発足パーティー開催．篠原一男講演会「モダン・ネクストへの手続」．日本建築学会賞受賞者記念講演会「作品を語る」．モーリ・ギャラリー 92
「建築と社会」総目次（昭和6年2月号～6年10月号） 98

ソラリアプラザビル

設計監理　日建設計
施　　工　大成建設・鹿島建設共同企業体

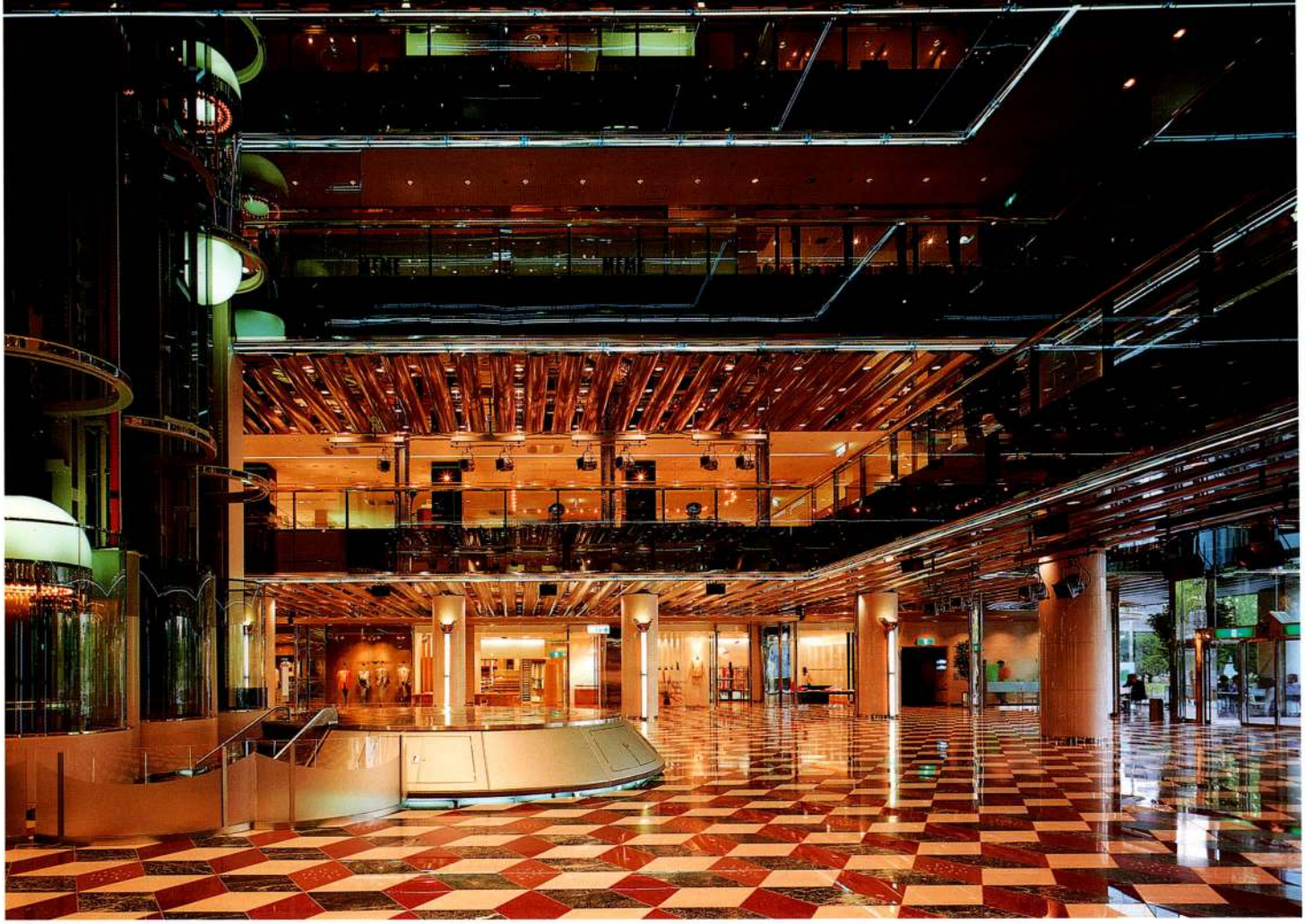




北西面全景



夕景南面



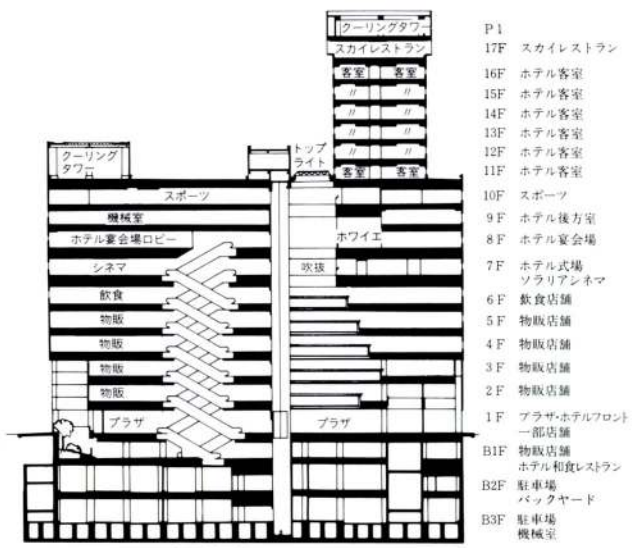
1階プラザ



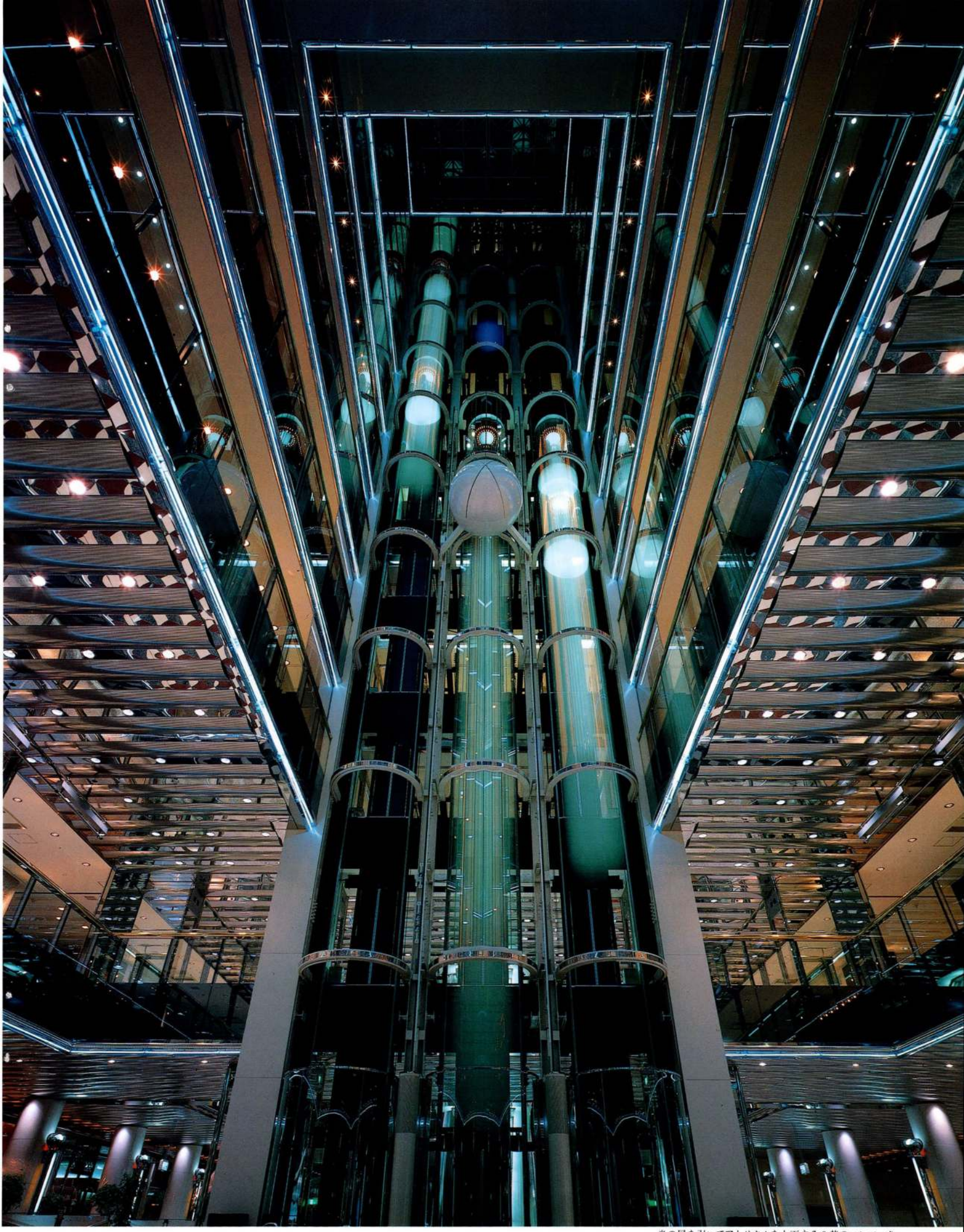
北側エントランスプラザ

所 在 地　福岡市中央区天神2-2-43
敷地面積　13,122.21㎡
建築面積　 4,687.49㎡
延床面積　64,202.59㎡
構造規模　SRC・RC、B3F、S、17F、PI
工　　期　昭和62年7月～平成元年3月
最 寄 駅　西鉄福岡駅

撮　　影　河野博之



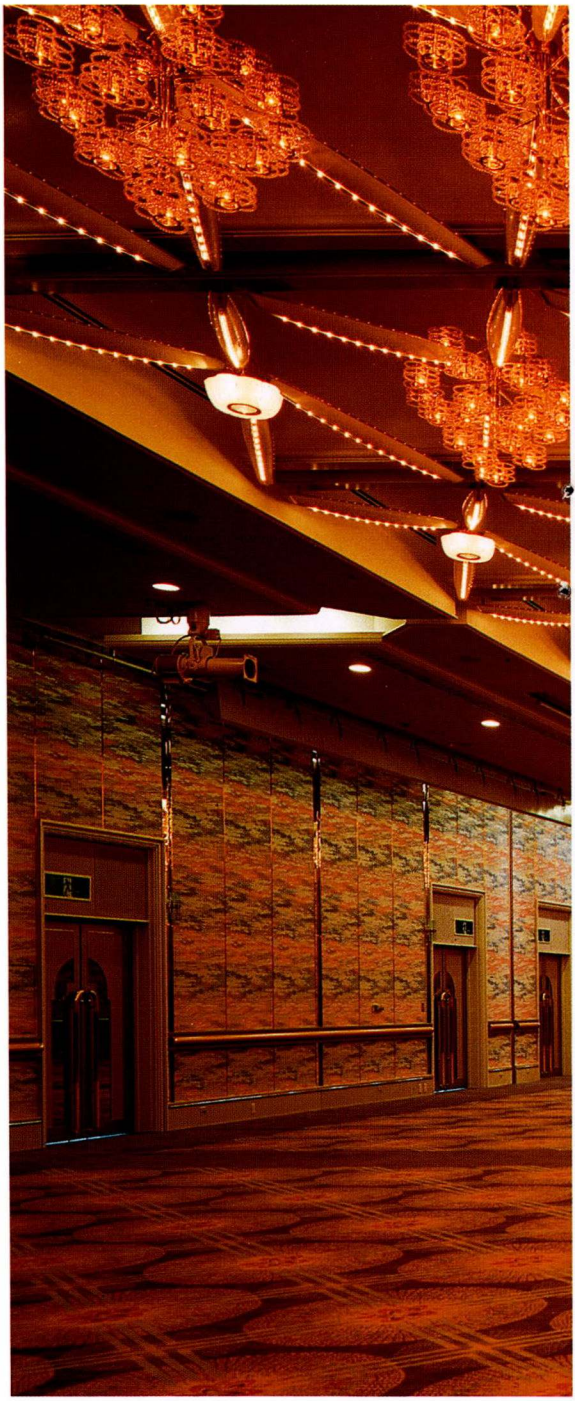
南北断面図　1：1200



光の尾を引いてアトリウムを上下する３基のエレベーター



8階宴会場ホワイエ





8階小宴会場

ソラリアプラザビルは西日本鉄道株式会社が推進している福岡駅周辺再開発プロジェクトの第一期事業である。

敷地は福岡一の商業集積地である天神地区にあり、将来、第二期工事の西鉄福岡駅ターミナルビルに接続される。

建物は延べ面積6.4万㎡で180室のホテル、結婚式場、映画館3館、スポーツクラブ、レストラン街、イベントプラザ、そして146店の専門店をもつ超多機能複合建築である。

この種の複合商業建築は、それぞれの目的施設に到達するのにわかりにくいアプローチになりがちであるが、ここでは建物の中央に垂直動線軸を設け、一つの「秩序」をあたえた。1階広場の中央にエレベーター、エスカレーターを設け、ここからすべての施設へわかりやすく到達することができる。このたての動線軸は地階から駐車場、イベントプラザ、商業店舗、レストラン街、映画街、ホテル大宴会場、スポーツクラブ、プール等を「一軸」で繋いだ明快な「垂直道路」でもある。

このたて軸に沿ってアトリウムを並設し、天空に至る吹抜空間に3台の露出型透明エレベーターを設けた。このカプセルエレベーターが光の尾を引いて上下する風景は、吹抜空間全体が一つのファンタジックな雰囲気をかもし出し、施設の楽しさを演出する一助となっている。

1,800㎡ある1階のイベント広場は、中央にステージがあり、音楽・フォーラム等のイベントが催される。周辺に文化情報のインフォメーション装置や、憩いのコーナー、そしてカラクリ人形装置もあるアミューズメントな空間である。広場の南と北に4m×3.8mの電動の大ガラス扉があって、大型の展示物等が容易に搬入できる。中間期には四隅の出入口とともに開放すれば、広場は外部空間になる。これらの開口は特に広場の防災安全上大きな効果をもつ。また、この広場の天井には特殊吸音ステンレス板を用いて、天井と大理石の固い床との反響（エコー）を防ぎ、音の響きを大切にして豊かな音が楽しめるようにしている。

ソラリア西鉄ホテルは180室の客室と900㎡の大宴会場、7室の大小宴会場、総合結婚式場を容する。

ホテル玄関は西側道路に顔をもつ。1階フロントロビーとレストラン、コーヒーラウンジはイベント広場に面し、広場の賑いの相乗効果を図った。

8階の宴会場ホワイエは天空光の入るアトリウムを囲むソフトな空間になっている。客室の最上部17階にはレストラン・バーを配し、南・北の広大な眺望が臨める。

ソラリアシネマ1は377席の段床型、ボディソニック音響効果をもつ洋画封切館で、シネマ2は、136席の洋画再演館、シネマ3は100席の洋画封切



8階大宴会場

館である。上下層隣接空間への音響対策には特に留意した。映画館の2つは背中合せに配置し、1つの映写室で2館の映写が行える。また、3館の改札口を1ヵ所に集約し、1人の改札嬢で対応する？徹底した省力が考えられている。待合せの空間であるシネマのホワイエは、吹抜に面した明るい広い空間にして、始まるであろうドラマへの期待と興奮にふさわしい場とし、雰囲気づくりとその楽しさの演出には特に留意した。

ソラリアスポーツは1フロア 4,500㎡の大スポーツクラブである。25m 5コースのプール、メンバー用プール、スキー、ゴルフ練習場、ダンススタジオ2、トレーニングスタジオ1、サウナ、そして吹抜きに面したサロン風ラウンジ等で、エレベーターを降りたその入口ホールからクラブの全施設が一望できる案内のよい明るい開放的なクラブである。

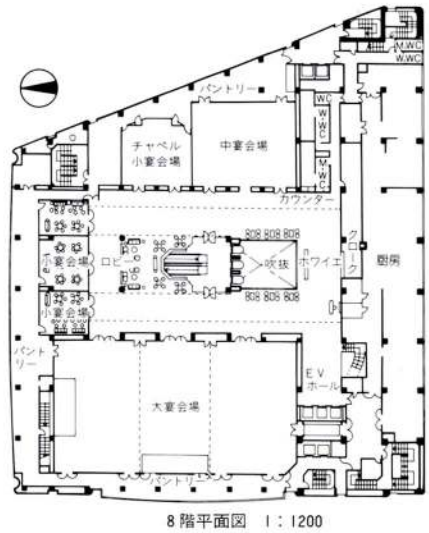
ソラリアプラザ（商業ゾーン）は 146店舗で構成されたB1Fから7Fまで約20,000㎡の商業施設である。アトリウムを中心に展開した快適な商業ゾーンである。特に一つの階の平面に最大限の商業面積がとれるようにするため、同一階には複合する異種の施設を設けないよう考慮した。上層にスポーツ、映画、ホテル宴会場を配置したのは、その顧客の商業ゾーンへのシャワー効果を図ったものである。

*

超複雑な複合商業建築は、よりわかりやすく、より明快でなければならない。そして華やいだ楽しい空間でなければならない。

この建物がその機能を十分に発揮して、地域の多くの方々に親しまれエンジョイされ、天神に一層の活気と賑いを与えることを念ずるものである。

（黄　進興／日建設計）



8階平面図　1：1200



7階ソラリアシネマロビー、左手は改札口

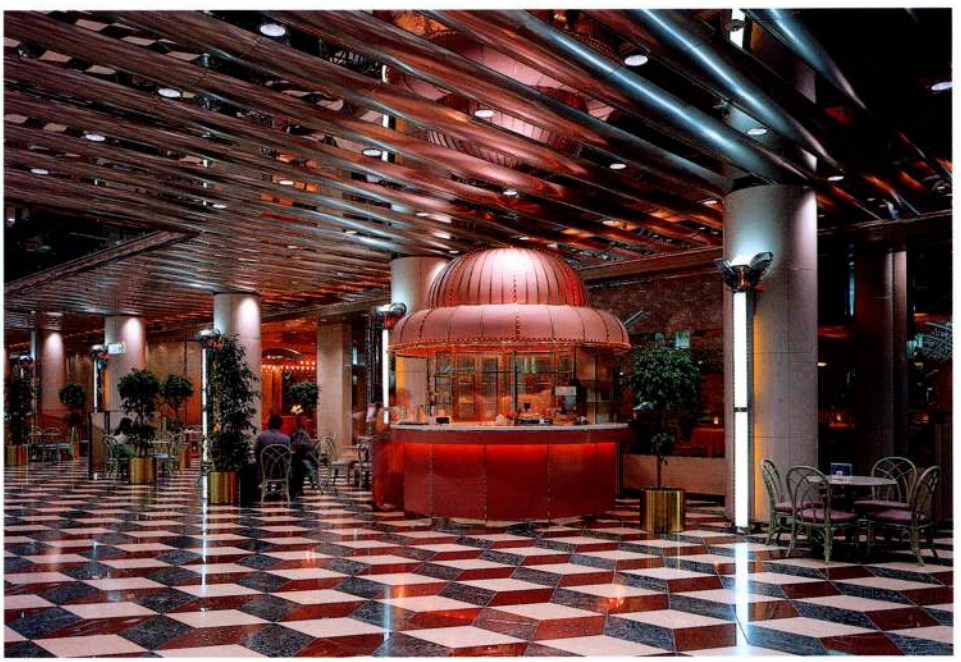

ソラリアスポーツ10階ロビー

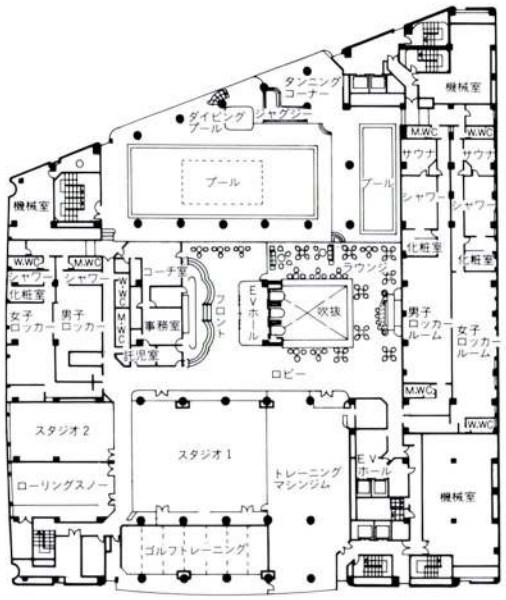

商業店舗


ソラリアシネマ1


エレベーターホール


ホテル棟南面

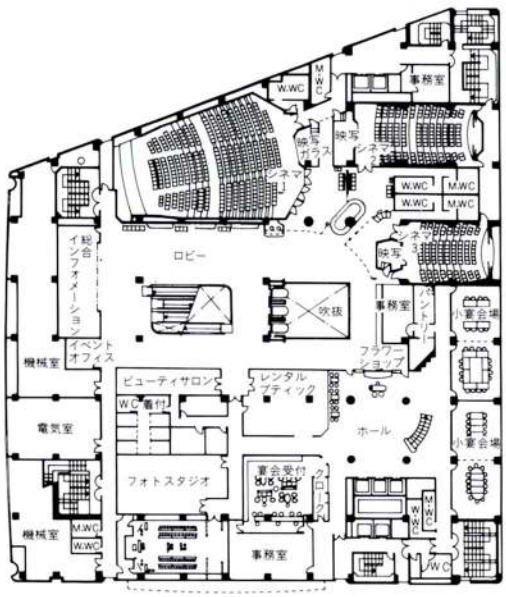

1階カフェテラス



10階平面図　1：1000



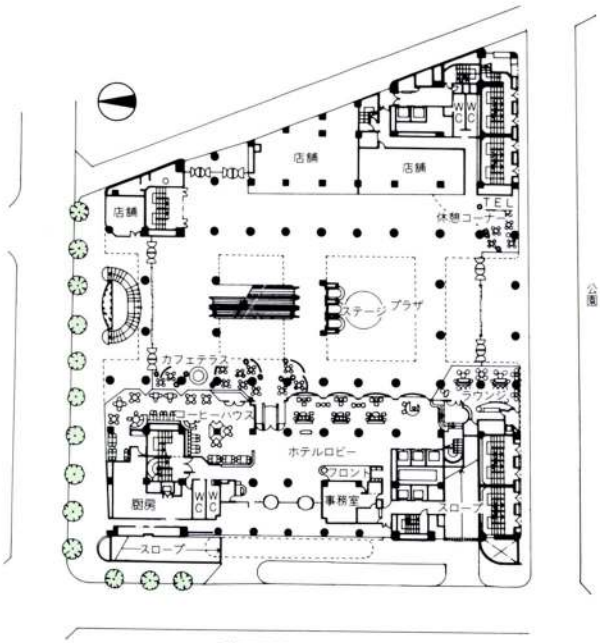
ソラリアスポーツ 10階プール



7階平面図　1：1000



ホテルのバー 17階



1階平面図　1：1200



1階イベントプラザ

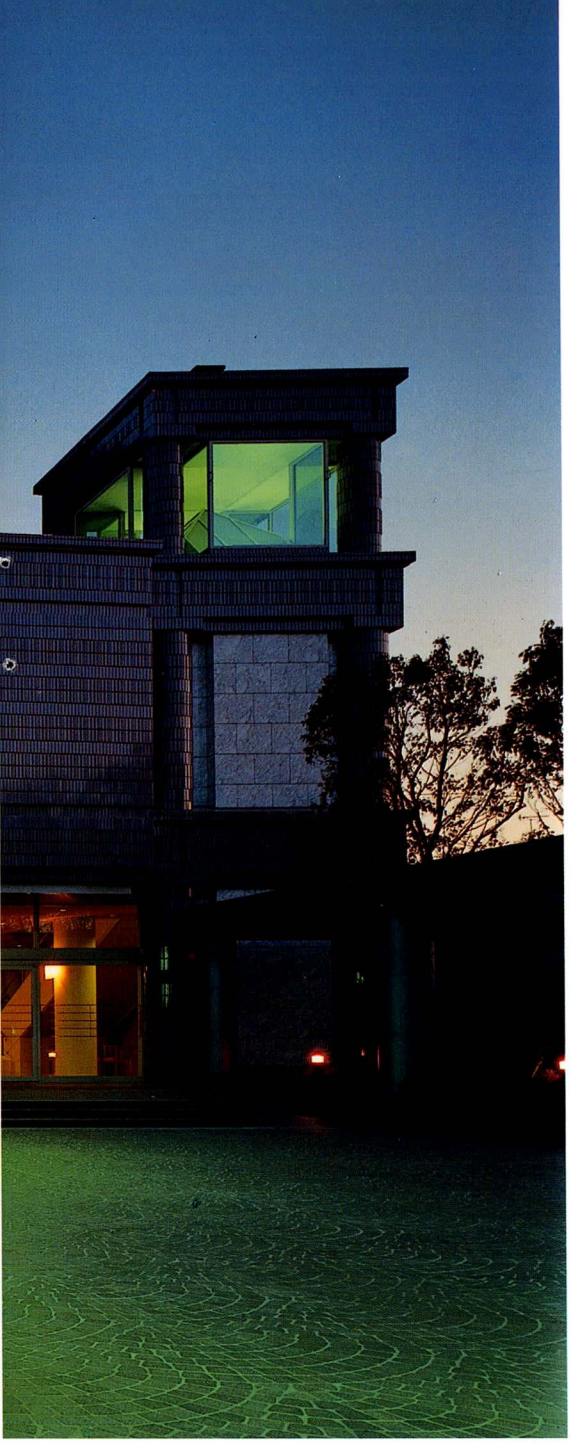
大阪音楽大学・ザ・カレッジ・オペラハウス

設計監理　日建設計
音響技術委託　ヤマハ音響研究所
施　　工　鹿島建設

電　　気　浅海電気
空調衛生　三晃空調
舞台機構　三精輸送機
舞台照明　大阪共立
舞台音響　大阪音響通信研究所



南西面よりみるディテール



正面外観(北側夜景)



北西面よりみる外観



北東面よりみるプラザ

規模や面積を競い、目的性の希薄なホール建設の時代を終え、音楽や演劇の専用ホールへと変化している。すでに数多くの専用ホールが完成したこの傾向はホールに対する観客側のニーズが時代と共に変化している状況を反映している。

一方演ずる側のニーズがホールの新しい指向を強く求めている状況も生まれている。

演ずる側のニーズの一つとして、みずからの劇場でみずからのオーケストラを持つオペラ公演が可能な劇場が夢であり、こうした夢を早期に実現したのが、大阪音楽大学で、「ザ・カレッジ・オペラハウス」と呼ぶ中規模オペラ専用ホールをオープンさせた。

日本で初めてのオペラハウスとして4月20日、ヴェルディ作ファルスタッフ公演のカーテンが上がった。深く沈んだオーケストラピットと舞台上の歌手が一体となり、オーケストラと声楽が一体となったオペラが実現した。

音楽評論家から〝ホール空間の音響効果と演出の融合によるすばらしい公演であった〟との好評を得たことは、音楽大学として全国にさきがけ「次の時代へのオペラ運動」として建設を決心された大学関係の方々へのお祝いの言葉となった。

大阪のベッドタウンの豊中市・庄内は、住宅が密集しすぐ上を航空機が進入する。この爆音の直下にオペラハウスは位置しながら、大学の既存キャンパスに都市計画道路を挟んで近接している。

創立70周年の記念事業として計画され、土地取得、住民同意、建設、リハーサル……と6年の歳月をかけてのこけら落としとなった。

設計にあたり、大学の永い歴史を継承し、次の時代の音楽教育のシンボルとして、卒業生の思い出となる“象徴性のある施設”をめざした。

外観は出来るだけ小さな壁面に分割し、周辺の環境との調和を計るとともに、将来の街づくりのリーダー的役割を果たすように配慮し、オペラハウスらしい雰囲気を持つ白い大理石と特殊な磁器タイルの外装とした。

ホールはヨーロッパの伝統的な中規模オペラハウスに見る馬蹄型の平面を採用し、客席と舞台とが一体となる劇場空間をめざしている。さらに客席は2階席が分離することなくサイドで階段状につながった断面計画とした。

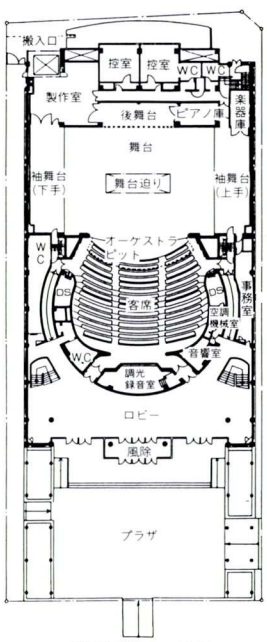
なら材による木質の内装には暖かみがあり、柔らかく包まれた雰囲気を持っていることを、舞台でも客席でも感じられる中規模ならではのオペラハウス空間を強く意図したものである。

(大野一男／日建設計)

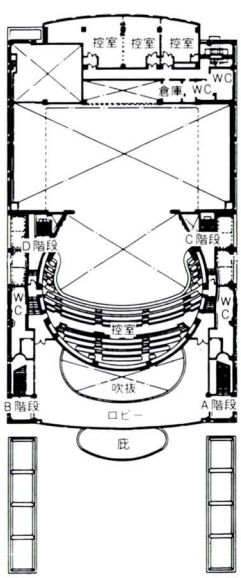


1階エントランスロビー

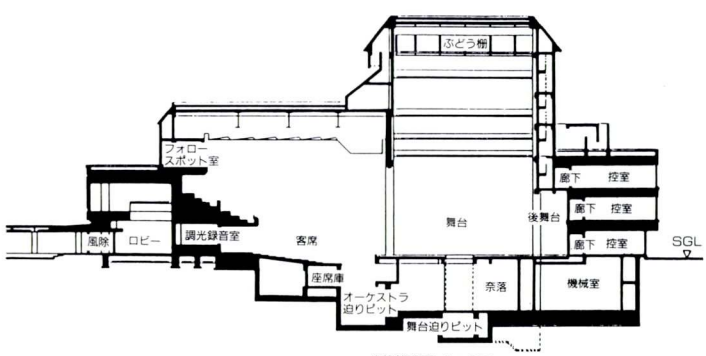




1階平面図 1：1200



2階平面図 1：1200



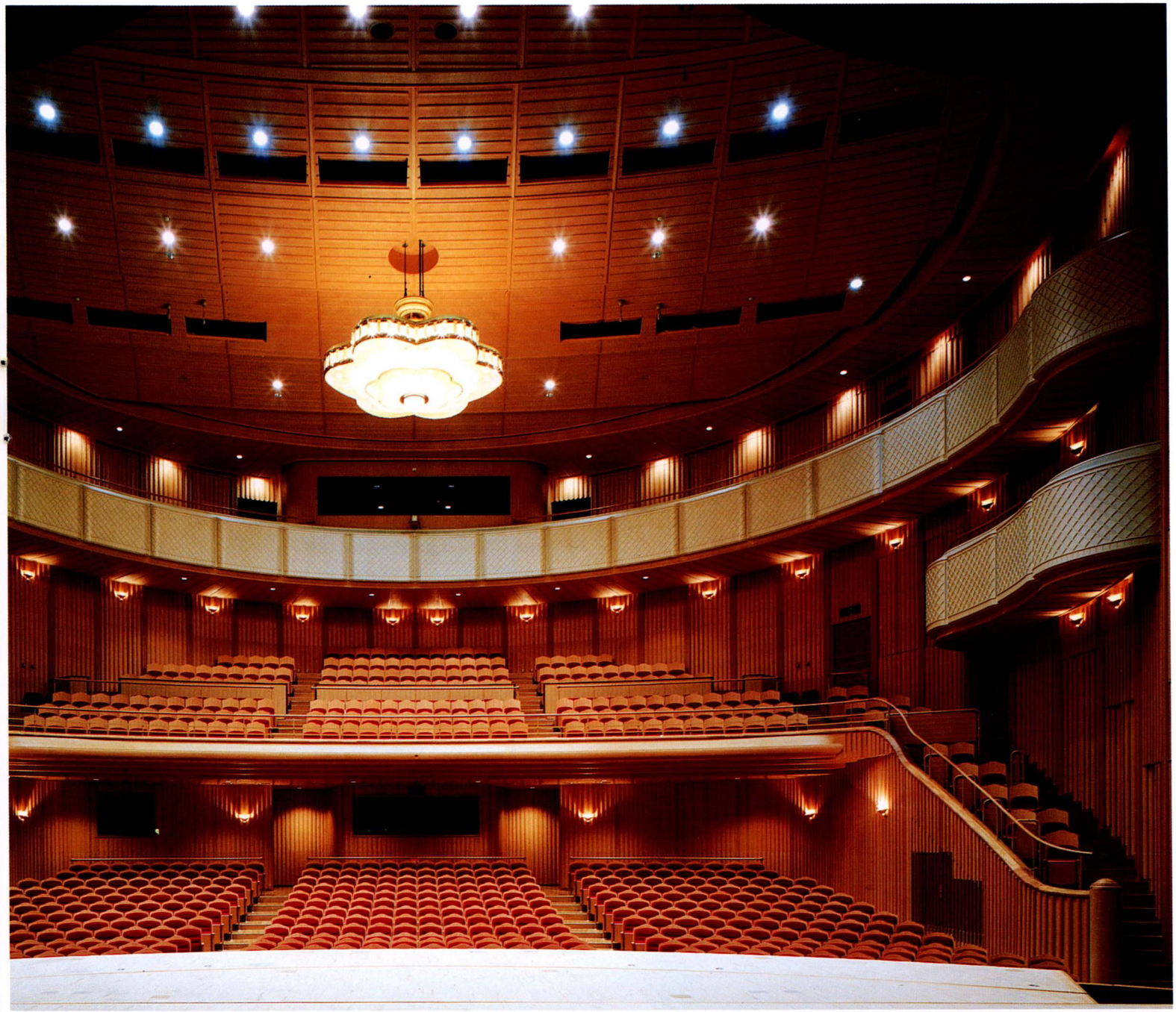
北断面図 1：800



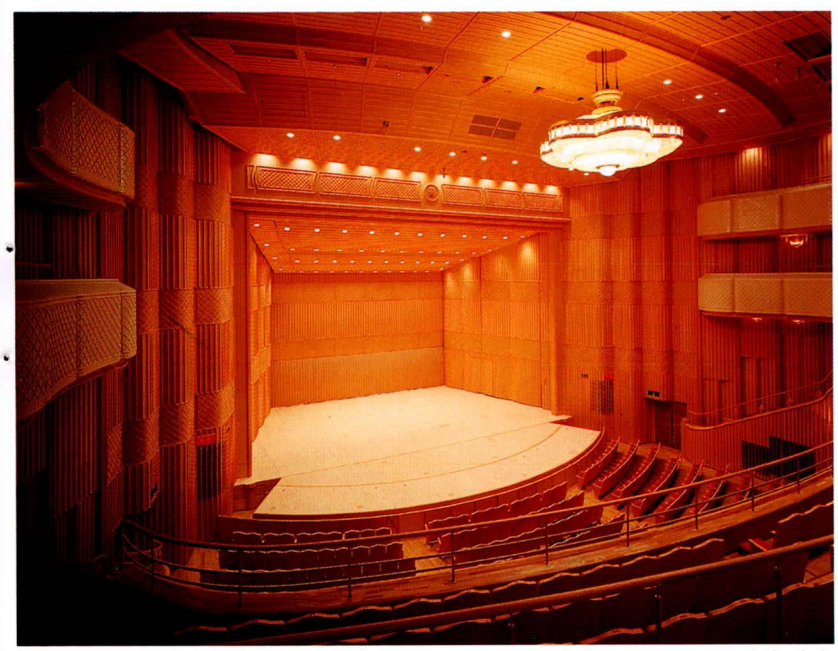
1階客席床吹出口

所 在 地　豊中市庄内西町1－5－38
敷地面積　3,768.12㎡
建築面積　2,255.93㎡
延床面積　5,161.23㎡
構造規模　RC、一部S、B1、4F
工　　期　昭和62年11月～平成元年3月
最 寄 駅　阪急宝塚線庄内駅下車

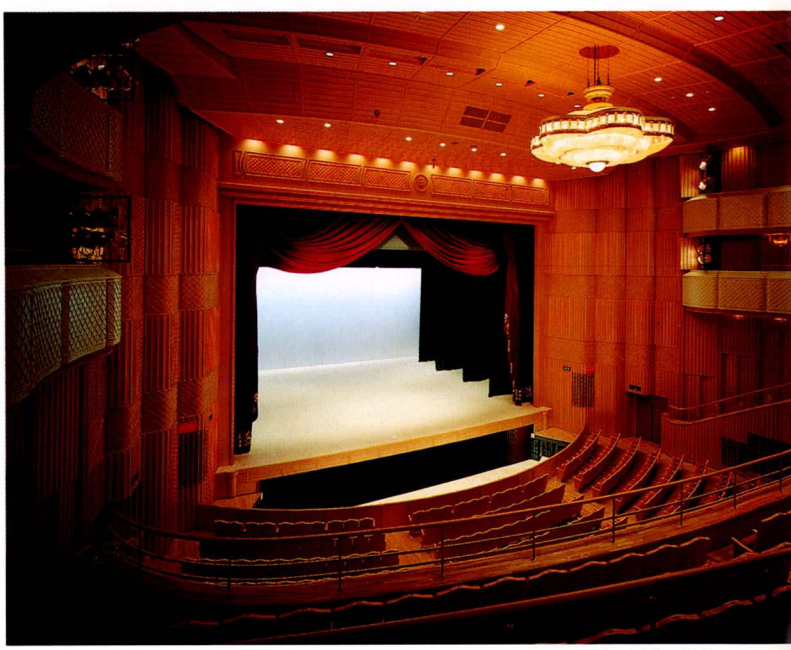
撮　　影　黒田青巌、稲住泰弘



オペラホール客席(オペラ644席・コンサート748席)



コンサート時の舞台



オペラ時の舞台

富士火災海上保険本社ビル

設計監理　安井建築設計事務所 久米建築事務所JV
共同監理　富士地所
施　　工　清水建設 間組 大末建設JV

所 在 地　大阪市中央区南船場1-18-11
敷地面積　1,714.83㎡
建築面積　824.87㎡
延床面積　16,467.03㎡
構造規模　SRC、S造、B3、16F．PI
工　　期　昭和61年12月～平成元年2月
最 寄 駅　地下鉄堺筋線長堀橋駅

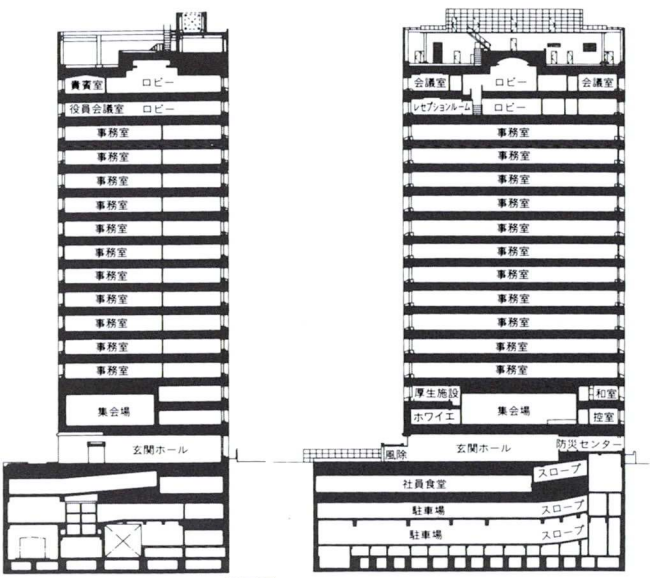
撮　　影　SS大阪



脇玄関



玄関ホール



断面図　1：1200

富士火災本社ビルは、昭和初期に建てられた旧本社ビルの跡地に建設された建物である。旧本社ビルは時計台があり、時報を奏で地域の住民から親しまれた建物である。敷地は堺筋と長堀通りの角地で、都市景観上重要な場所に位置している。

このような立地条件から、総合設計制度を採用してできるだけ高層化を計り、地域のランドマークとなるよう計画するとともに、本社ビルとしてのシンボル性を高めるよう考慮した。外観デザインは、損保会社としての風格と信頼感を基本にすえ、彫の深い単窓とし外装材料にインド産のマホガニーを採用した。角地であることから、外観は四隅を切った八角形とし、周辺への圧迫感をなくすよう配慮するとともに、外部空間は地域に良好な環境を提供すべく植栽、ベンチ、彫刻などをほどこした快適な公開空地として計画した。

建物の構成は、事務室を中心として最上階2層が役員室、地下1階がライトコートを持った社員食堂、そして2階が最大300人収容可能な大会議室となっている。大会議室は2層吹抜とし、会議室以外の催しにも対応できるよう6分割された可動舞台、プロセミアムを構成するための可動側壁、緞張、各種吊物等の設備を備えた多目的に使用可能なホールとして計画した。またその上部（吹抜以外の3階部分）は社員の厚生施設とし、旧本社ビルのデザインモチーフを採用し、メモリアルホールとして位置づけた。基準階事務室は、奥行19m、間口34m（約500㎡）の無柱の空間とし、防災避難の安全性を高めるため、東西2ヶ所に三角形の避難バルコニーを設けている。

なお当建物は、日本初のHPR基準（米国、高度防災設備基準）に準拠したオフィスビルである。　（間野洋三／安井建築設計事務所）



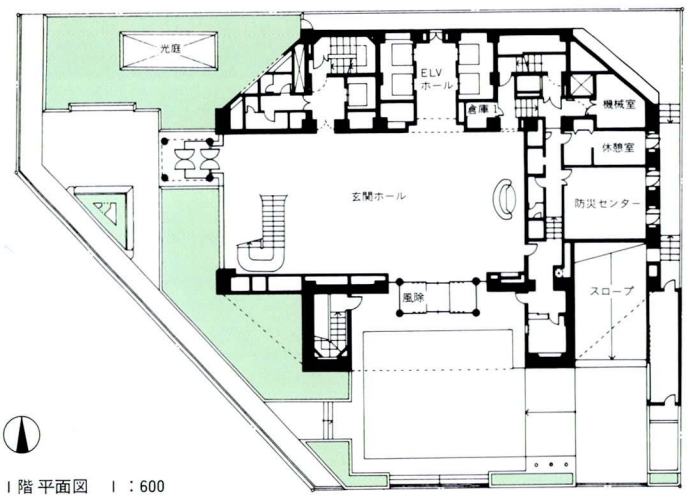
南面外観



大会議室(２Ｆ)



ホワイエ(２Ｆ)



Ｉ階 平面図　Ｉ：600



事務室(４～14Ｆ)



社員食堂(Ｂ1)



メモリアルホール(3F)



エレベーターホール(1F)



貴賓室(16F)



ロビー(16F)



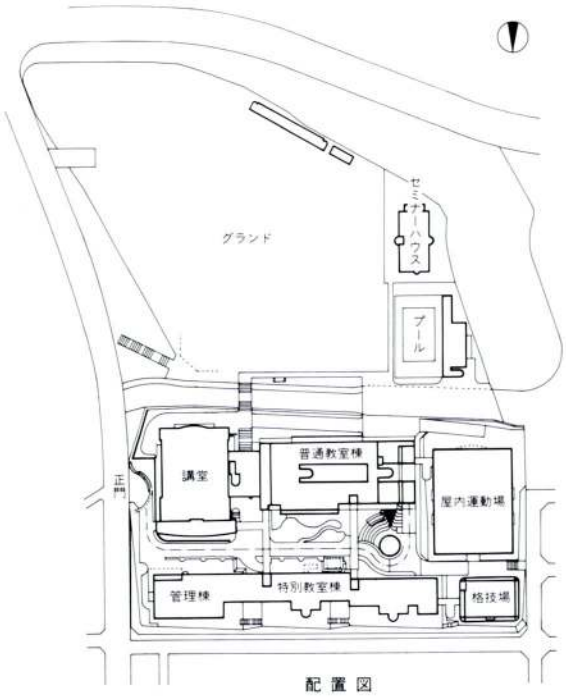
レセプションルーム(15F)

広島市立美鈴が丘高等学校

設計監理　広島市都市整備公社　河内義就設計事務所(一期)
　　広島市営繕第二課　河内義就設計事務所(二期)
施　　工　三井建設 幸建設 下岸建設 新枝建設 JV(一期)
　　三井建設(二期)

敷地は、なだらかな山と、緑に囲まれ、眼下に町並を望む閑静な住宅地に位置している。
建物は、敷地の形状(レベル差)を生かして、校内道路にゆるやかな勾配をつけ(９％)、中庭的な性格を持たせて生徒達に「生活(学習)―創造―出会い」の「場」として、位置づけられるように、「リニアー」なまとまりとして設計した。
外観は、周辺住宅への日照、眺望等の影響を考え、高さをできるだけ低くし、長く伸びる校舎棟は、単調にならないように、腰壁の表現に変化を持たせた。また、大空間となる講堂、屋内運動場は、壁面のボリューム感を押さえ、四周に角度を持たせた金属屋根の処理によって、柔らかく見えるように設計した。


中庭より渡り廊下を眺む



配置図


生徒玄関前キャノピー部


北側より空撮


全景（夜景）

所 在 地　広島市佐伯区美鈴が丘緑二丁目2
敷地面積　50,750.05㎡
建築面積　7,762.64(一期)＋1,002.78(二期)＝8,765.42㎡
延床面積　15,782.49(一期)＋2,045.06(二期)＝17,827.55㎡
構造規模　ＲＣ(一部Ｓ)、Ｂ1、4Ｆ
工　　期　昭和62年6月～平成元年3月
最 寄 駅　JR山陽本線五日市駅

撮　　影　国際写真



南東面より講堂及び普通教室棟を眺む



南西面より普通教室棟を眺む



講堂正面

天理教神邊分教会

設計監理　匠建築事務所
施　　工　飛島建設広島支店



正面外観



西面外観

所 在 地　広島県深安郡神辺町大字川南671-1
敷地面積　14,196.29㎡
建築面積　3,855.07㎡
延床面積　4,840.15㎡
構造規模　ＲＣ(一部Ｓ)
工　　期　昭和61年９月～昭和63年11月
最 寄 駅　JR福塩線神辺駅

撮　　影　国際写真・岡田写真館(航空写真)



玄関ホール



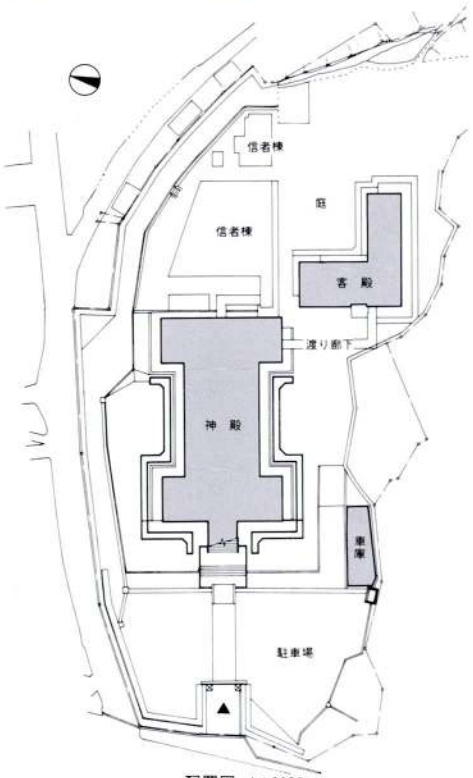
参拝場



客室



全景（空撮）



配置図　1：2000

本建築は、「陽気ぐらし」を標榜する天理教の宗教活動を行う主要建物である神殿棟と迎賓を目的とする客殿棟、更に信者棟で構成されている。

神殿の設計思考は、まず内部は天理教の教義“人間の陽気ぐらしをするのを見て神も共に楽しみたい”との人間創造の目的と神の働きを祭典形式に表象した陽気てをどりが出来るように祭壇を一段高く総桧造りで仕上げた。祭典は“みかぐらうた”を奉唱し、祭壇で座りづとめとてをどりをつとめる。笛、太鼓、拍子木、琴、三味線等の鳴り物が祭壇を囲み地方（じかた）の唱えるおうたに合わせて参拝者も“みかぐらうた”を唱え神人和楽の世界が現出するのである。この祭典形式を重視し神への奉仕を中心とした設計が前後に翼を伸張した空間設計となり、参拝の信者のための、神事室、取次室が前面の伸張部分、神饌室、神具室、会議室が後方の伸張部分を占める事となった。

神殿棟の外観設計は、岩山を切り開いた高台という自然環境を考慮しながら宗教的雰囲気が醸成される配慮をなし、正面参道を石畳とし太鼓橋、向拝（ごはい）と続く神殿へのアプローチは二階神殿玄関へ石段で結び重厚さと華麗さを強調するとともに老若男女を問わず無理なく参拝できるようとの配慮から一階部分を半地下とした。

屋根は本瓦葺きとし破風（はふ）、蓑甲（みのこ）、懸魚（げぎょ）、蟇股（かえるまた）、更に軒先回りの納まり、また垂曲線に気を配り優雅、端正な中に荘厳さを求めた。

客殿棟は、主として客室としての使用目的で格調高い日本建築を具現すべく地松材を使用し落ち着いた数寄屋様式でまとめ、どの部屋からも庭園が眺められるL型平面プランとした。内部は玄関ホール天井に秋田杉網代張りを用いた。奥行き三間の主たる迎賓室は古式豊かな床の間を造りだし、おおらかにかつ繊細なディテールで表現した。

信者棟は、参拝者、信者方の憩いの場として利用されるべく開放された親しみやすい空間にポイントを置いて設計した。

更に全体計画として外観、機能の異なるそれぞれ独立した建物を有機的に結び付けるとともに、全体の調和を図り、これらの建物を渡り廊下でつなぎ、外溝、石垣、庭園、坪庭等を配して空間の一体化を図った。なお設計に七年間、施工に三年四ヶ月を要した。　（原田一平／匠建築事務所）



ディテール見上げ



陶板レリーフ「光歓」

所 在 地　大阪市中央区内平野町3−2−5
敷地面積　756.21㎡
建築面積　626.79㎡
延床面積　5,887.85㎡
構造規模　SRC、B2F、9F
工　　期　昭和62年7月〜平成元年2月
最 寄 駅　地下鉄堺筋線北浜駅

撮　　影　SS大阪

大阪薬業健康保険組合は被保険者73,000人、被扶養者を含めると全国で170,000人という大規模な総合健康保険組合である。このたび創立30周年記念事業及び高齢化社会に対応する健康施設づくり、早期発見、早期治療のための検診の充実を図る目的で総合的な保健センターを建設することとなった。

敷地は、組合員の60〜70%が集中し、漢法医療の祖神「神農さん」で知られる少彦名神社を中心とする古くからの薬種業の街、大阪道修町界隈に位置し、北側は平野町筋、西側は東横堀川に面している。

施設の構成としては、アプローチがしやすく拡がりのある低層部に各種検査室をもつ集団検診部門と内科、歯科の予防治療室を配置し、中層部に健康相談ならびに教室等の諸室を備えた健康カウンセリング・啓発部門を、また、高層部には管理機能にあたるオフィス、セミナー、会議室がある。地階の健康トレーニング教室は、直接外部よりアプローチできるよう計画しており、昼夜を通して総合的な健康開発センターとしての機能を確保している。

敷地の高度利用を図るため、マッシブな階段室を東西の両ウィングに配置し、その中間にハーフミラー・ガラスとアルミパネル（スパンドレル）の構成による明るい居住空間層を設けることにより、建物外観に特徴のある形態を与えるとともに保健センターとして健康的で明るくシンボリックなイメージを意図している。

（熊田将男／安井建築設計事務所）



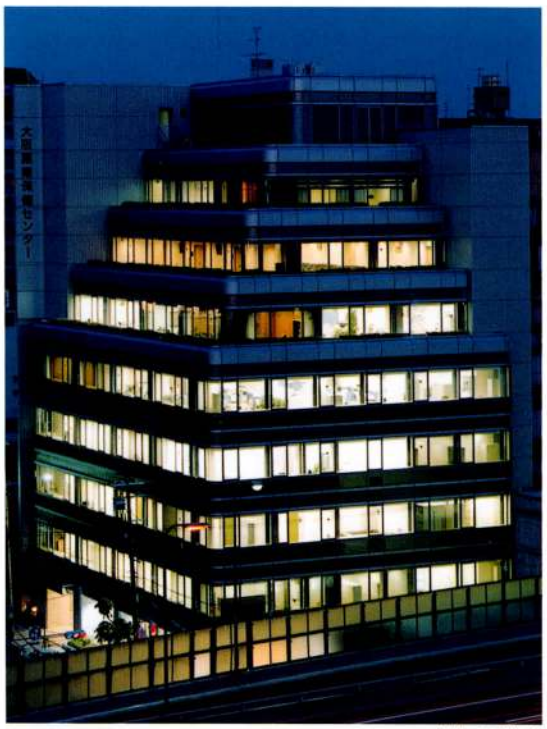
1階平面図　1：500

大阪薬業保健センター

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　大林組・藤木工務店共同企業体



外観北東面



夕景（西北面）



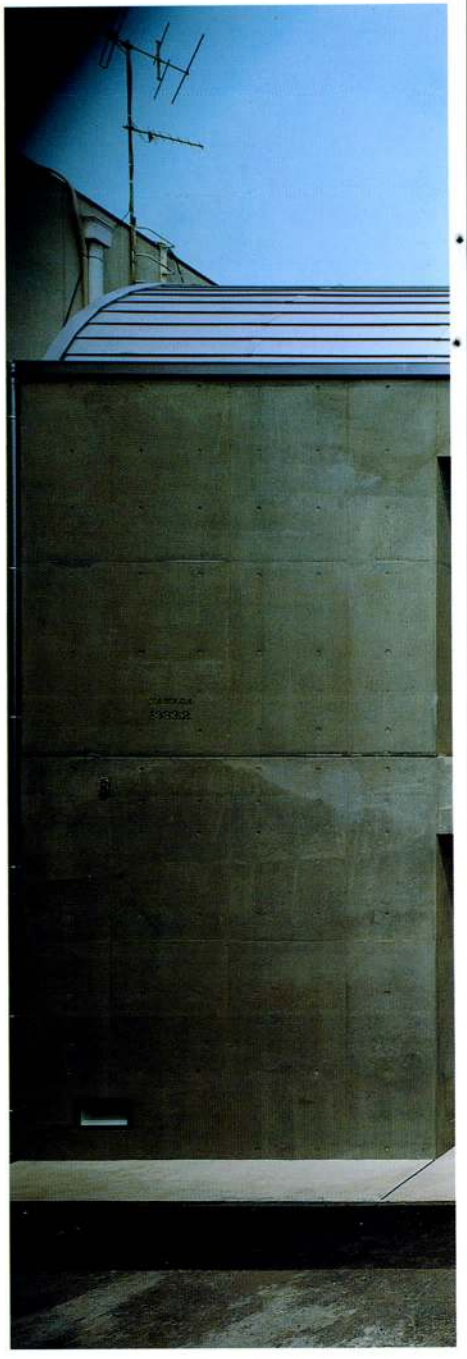
1階ロビー

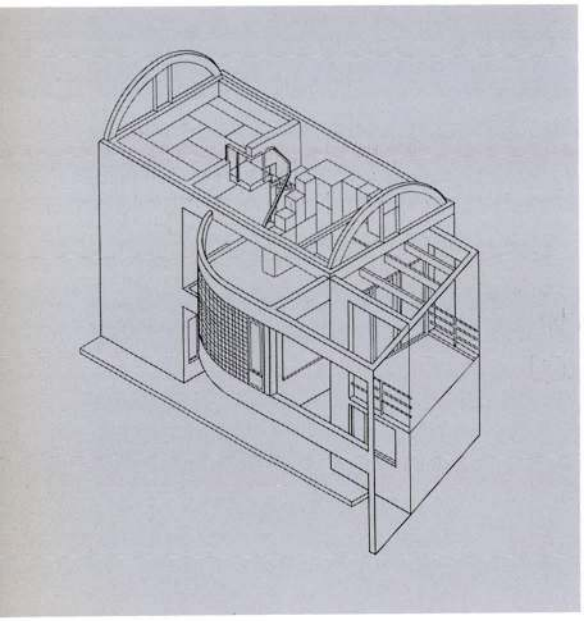


1階エレベーターホール









澤　田　邸



澤田邸

設　　計　人長建築設計室　　人長信昭
　　構造／葵建築工房　竹口和男
建物用途　専用住宅
構造規模　RC造 地上3階建
敷地面積　268.12m²
建築面積　 54.42m²
延床面積　110.67m²

撮　　影　川元　斉

人長信昭（ひとおさ・のぶあき）

1944　京都に生れる
1969　京都大学工学部建築学科卒業
1972　生活環境研究所
1976　京都大学建築意匠研究室にて
　　精神病院建築の研究
1980　人長建築設計室設立

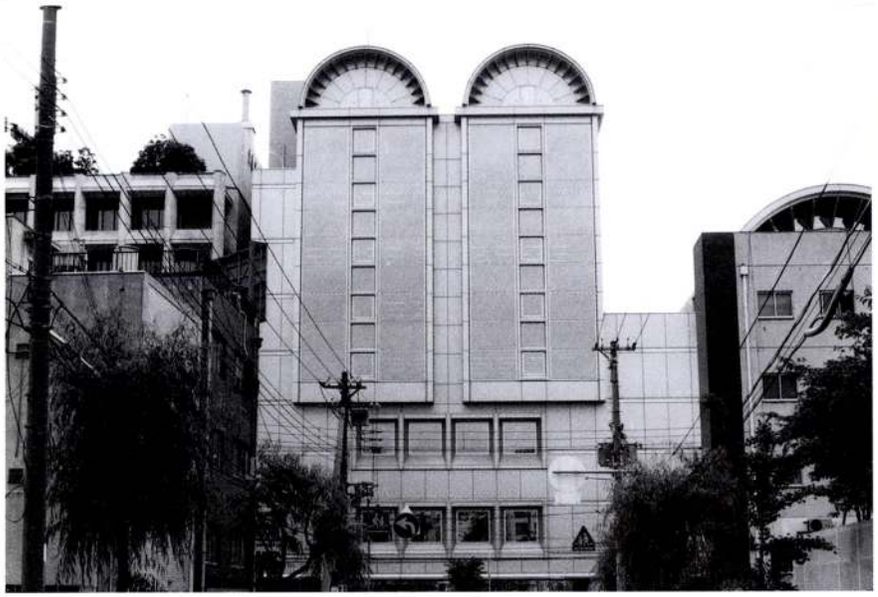
企画編集　作品作風小委員会　荒川朱美

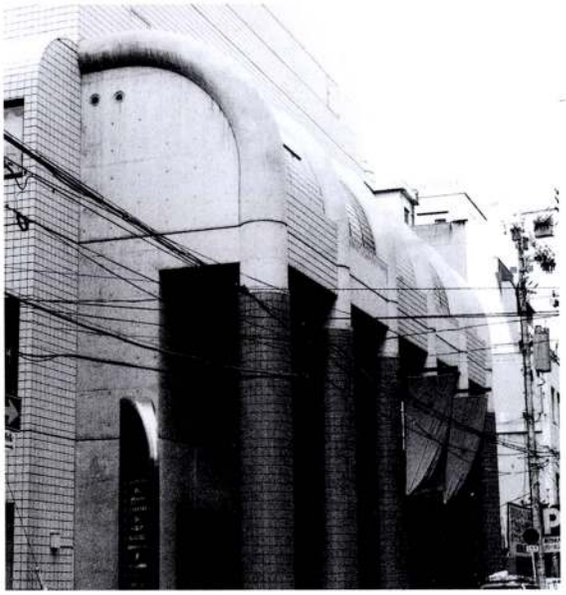


京都市中京――小さな町工場が雑然と建ち並ぶ一角に建つ、若いDINKS(double income no kids)のための住宅である。
御主人は繊維製品製造卸の会社に勤めるかたわら、家に帰れば1階の書斎で時代劇のシナリオを書く作家であり、夫人は2階のサロンで子供達にピアノを教える先生でもある。2階の居間・食堂・サロンと3階の和室は、逆スラブとボールトの天井を利用したワンルームとして、月に一度、親しい友人を招いて催されるミニコンサートのホールとなる。
敷地内には既存の立体式パーキングがあったが、2階を2m以上持出すことにより、大通りからのアプローチを確保している。ガラスブロックの曲面は、パーキングに入る自動車の軌跡を意識してデザインされた。
ろおじ、坪庭、半透明の光…、肩を張らずに生活を楽しむ術を知る世代の新・町屋といえそうである。

(荒川朱美)

Watching —都市の風景—







とって もいい!

美しい家並、建物。
じゃまをしているのは誰ですか?





企　画　会員企画小委員会
Director　T. REIKO
Photgrapher　K. IMAI
同　M. MIZOGUTI

■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



2232 橋本邸

設　計：マニエラ建築設計事務所
施　工：英田建築
a．兵庫県尼崎市下坂部１－132
b．607.44㎡
c．222.28㎡
d．291.12㎡
e．W2F、W1F
f．昭和62年４月～昭和62年10月
g．阪急神戸線塚口駅



2233 仙台屋名古屋店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：竹中工務店
a．名古屋市名東区猪高町大字高針字原
b．1,326.55㎡
c．　794.51㎡
d．2,275.87㎡
e．SRC、３F
f．昭和62年11月～昭和63年６月
g．名古屋市営バス高針原駅



2234 紅の家２

設　計：上谷重男＋U建築企画室
施　工：久寿工務店
a．城陽市寺田庭井１－９
b．310.47㎡
c．121.91㎡
d．204.26㎡
e．W、２F
f．昭和62年12月～昭和63年８月
g．JR奈良線城陽駅



2235 淀川リバーサイド第4分譲住宅(第1期)

設　計：大阪市住宅供給公社　東畑建築事務所
施　工：住友建設大阪支店
a．大阪市北区長柄東１－１－１
b．4,564.85㎡
c．1,233.95㎡
d．9,849.72㎡
e．RC、14F（一部７F）、P1
f．昭和62年１月～昭和63年10月
g．地下鉄谷町線天神橋６丁目駅



2236 トヨタビスタ奈良香芝営業所

設　計：ARI建築事務所
施　工：村本建設
a．奈良県北葛城郡香芝町下田東5－704－1
b．1,230.87㎡
c．　594.48㎡
d．　665.73㎡
e．RC、２F
f．昭和63年５月～昭和63年10月
g．近鉄下田駅



2237 桑名信用金庫大山田支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：清水建設
a．三重県桑名市筒尾４丁目
b．836.24㎡
c．390.12㎡
d．432.14㎡
e．S、一部RC、B1F、1F
f．昭和63年５月～昭和63年11月
g．近鉄桑名駅



2238 昭和62年度静岡高等学校

設　計：金丸建築設計事務所
施　工：前田建設工業静岡営業所
a．静岡県静岡市長谷町66
b．39,339㎡
c．　2,910㎡
d．　8,700㎡
e．SRC、５F
f．昭和62年７月～昭和63年12月
g．JR静岡駅



2239 トヨタカローラ南海河内長野営業所

設　計：大林組
施　工：大林組
a．大阪府河内長野市松ヶ丘東町1373
b．991.07㎡
c．301.28㎡
d．322.56㎡
e．S、２F
f．昭和63年９月～平成１年２月
g．南海高野線滝谷駅



2240 トヨタカローラ奈良高田営業所

設　計：ARI建築事務所
施　工：鍛治田工務店
a．奈良県北葛城郡新庄町大字東室93－３
b．1,617.0㎡
c．　953.9㎡
d．　851.0㎡
e．S、２F
f．昭和63年５月～平成１年３月
g．近鉄大和高田駅

being 13

織田コレクション





織田憲嗣(おだ・のりつぐ)

1946年、高知に生まれる。大阪芸術大学卒業。高島屋宣伝部をへて、現在にいたる。日経広告賞流通部門賞、電通広告賞流通部門賞、サントリー奨励賞、消費者が選ぶ広告賞最優秀賞などを受賞。作品は、1973年＝ソサィエティ・オブ・イラストレーション展（ニューヨーク）、1980年＝ジャパンスタイル展（ロンドン・ビクトリア&アルバート美術館）などに出品。1989年、民家の研究に基づく著作“日本の家”の絵本を出版。大阪府在住。

欧州、とりわけ英国には、昔から偉大なるコレクターが多い。美術館や博物館の膨大で貴重なコレクションは、彼らや優秀な美術館キューレターたちの功績によって成立している。その質と量は、自国のみならず、人類の文化史上に重要な貢献をはたしている。我々によく知られている身近な例では、幕末の日本を訪れた外国人達、オランダ医師シーボルトの浮世絵コレクション、英国のドレッサーのコレクションや、モースの民芸コレクションなどがある。その内容は、我国の美術館コレクションレベルでもなかなか手の届かない貴重なもので、彼らの国際感覚や感性には脱帽させられるものがある。美術コレクションの質は、常にコレクターによって定まるのである。

近ごろ、我国の美術館も高価な美術品を購入し、コレクションを増大させている。しかし、もっと国際的に美術コレクションを育てていくためには、コレクターの感性、美術館キューレターの質を高めることが最も重要である。残念ながら美術館や、大学の研究機関を見回しても、欧州レベルのコレクターはまだまだ少ないと言われているのが、我国の現状である。このような中にあって、織田憲嗣氏は、希にみる国際感覚を持ち合わせたコレクターの貴重な一人であると思う。氏の本業は多忙なイラストレーターであるが、その一方で精力的に収集されている椅子のコレクションはまさに氏のライフ・ワークである。高価な収集品が質を高めるのは無論であるが、それに加えて地味な、長年にわたる時間の経過がもたらすコレクションの質には、何物にも得難いものがある。それは個人の趣味の領域を越えた、並大抵では出来ないことである。

織田氏は、この20年間、北欧を中心として、19世紀の技術革新以後の工業デザイン化された椅子を収集し続けておられる。それらは、既に廃番になっているものや、現在も市販されているものを含め、500脚をこえるコレクションに達している。さらにそれらに関する文献、資料、写真、図面、カタログ等のデータベースを正確に整理されている、緻密な研究者である。それでも氏のコレクションは、まだまだ、現在進行中である。将来、このコレクションのための美術館をつくることを計画しておられる。現在も7月から始まる名古屋のデザイン博にあわせた、デンマークの椅子180脚展を企画されている。

（木村博昭／グラスゴー大学・芸術学博士）

名著覆刻——ある都市漫歩者の一視点

橋本敏子

1920～30年代。モダニズムがはなやかに咲き競っていた頃、大阪という都市の青春時代は、どんな顔をしていたのだろうか。

1930年前後の「現代」大阪の都市漫歩の記録、とまえがきに書かれているように、この本は、当時の〝現代〟性にこだわりつつ、漫歩者としての視点で、大阪という都市を眺め、近寄り、クローズアップしたものだ。

「都市文明の潮流は、分秒も止ってはいない。おもふに本書の記述なども、1.2年ならずして、恐らく価値なき過去のものとなってしまふであろう。しかし、私はそれでよいとおもってゐる。」と著者は同じくまえがきで述べているが、約半世紀以上も経た現在、都市大阪の青春時代の記録は、価値がないどころか魅力いっぱいの都市文学であり、都市論となっている。

その魅力のひとつは、とりあげられた一つ一つの風景が、土地の歴史には必要最低限しかふれず、あくまでこれが「現代」だ、と著者が思った、その個性的視点と、中途半端に学問的解釈をしていないことからくる即物性によっている。そしてモダニズムが都市の姿として、建物や都市風俗に現われている様を描く一方で、都市化に伴って登場してきた都市下層生活者の生活風景にもふれる著者の〝現代〟感覚が、今読んでも新しい。

とりあげられているのは、27の風景である。大雑把に分けると、変貌しつつある都市機能にふれたもの、それぞれの土地の生活風景や人々のくらしぶり、そして、大阪の様々なビジネスを語ったものに分けられる。

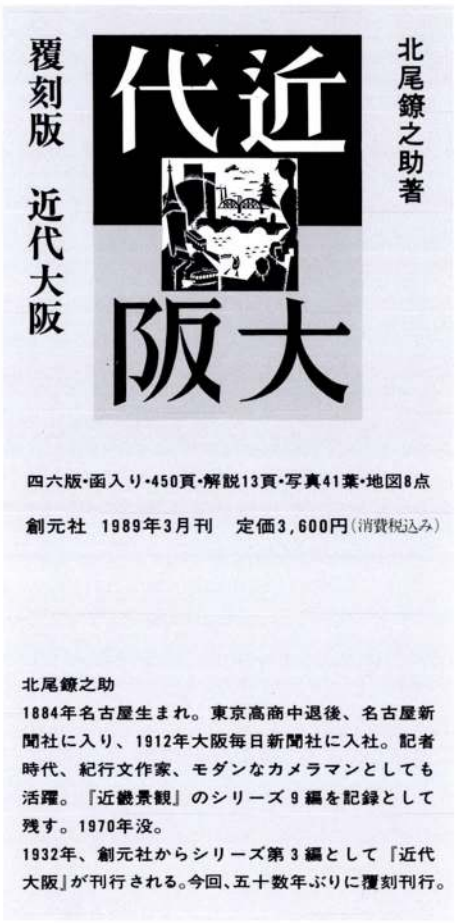
例えば都市機能の話。今、都市の24時間化がもっともらしく語られているが、既に当時、大阪駅周辺には24時間営業の店があったこと、そしてそれを近代的都市の一面として次のように述べている。

「駅前の宿屋は年中戸を閉めたことがない。その他下り線の便所に沿って、有料便所の待合所がある。ここも徹夜営業。いろいろな意味で、大阪駅前の近代色を描き出すところの、永久に眠らない家である。」

また、道路交通と河川交通の関係について「河川雑記」の項で次のように述べる。

「橋の架け替えといふことは、河のためでなくして、陸上交通のためにすることである。隨って、陸の上からみれば、道路の高低がなくなり、幅員がずっと広くなり、欄干が立派になる。しかし、一面水の上からみると、橋が低くなり、橋脚が大きくなり、川の上が暗くなる。

大阪は水都だといふが、都市としての交通が発達すればするほど、ある意味に於て、河川は衰退するといふことになる。」



と、既に都市河川のゆくえを示している。現在に比べると、当時はまだ多くの川が生ききており、産業や生活と川が様々なかたちでからみあっていることを述べたうえで、「大阪はこの河のために、橋をつくり、橋のために財源の過半を失っている。しかも、橋を立派にし、道路をよくすることに就て、今日では、昔から水運のために堀った河を甚しく衰退させてしまった。…中略…今後は、水路として価値のなくなったこの河川を、近代都市としていかに利用しようというのかが問題である。私たちは、桜橋だの、蜆橋だのの名によって、河のなくなった昔を想像させられることはたまらない。」

生活風景のとらえ方もおもしろい。ここに登場するのは、小金持の生活ではなく、したたかな生活者たちである。昭和40年代までターミナルでよくみかけた市バスや市電の回数券バラ売り人。新地の暴力カフェの客引き、ニセ乞食。それに、当時すでにガソリン・スタンドに、客寄せ用のキャピキャピ・ギャルを活用していたことやサービス競争で倒産する店が出ていたことなど、〝今〟と少しも変らない風景もある。

一方、今では想像もつかない場所が賑っていたことに驚かされる。此花区の浦江聖天堂もそのひとつ。大阪に4～5ヵ所ある聖天堂のうち、生駒とこの浦江が最も繁盛していてその門前の聖天市場のすさまじいばかりの賑いの様子が描かれている。この場所も、当時から40年ほど前の明治30年頃には、杜若の名所だったという。

一方、これも驚いたことだが、現在何の変哲もないオフィス街の一つの通りにしかすぎない「平野町」界隈が、〝心ブラ〟ならぬ〝平ブラ〟と呼ばれる賑やかなゾーンを形成していたことだ。それは、歩車分離の道路、梧桐の街路樹に美しい街灯、目もさめるようなウィンドウ、そして新しい照明入りの看板といった都市空間の改造と、夜店や飲食店、ぜいたくな喫茶店といったものの集積によるという。

内容の紹介はこのあたりでやめるが、全体を通して、強く感じるのは、現在の大阪が抱えている都市問題の多くが既に発生していたこと、そして、その問題への根本的な対処が、50年以上たった今も、なされていないものが多くあることである。それと同時に、明らかにちがうのは、当時は問題を抱えながらも、大阪という都市が、実に多様な生活の場、生活者たちを都市の内部に根づかせていたことだ。それらの生活者たちのエネルギーが、都市を元気にし、魅力ある場にしていたことが随所にうかがえる。

都市の近代化とはいったい何だったのか考えさせられる本である。このような隠れた名著の覆刻をうれしく思う。

（書評委員・生活環境文化研究所代表）

出版委員会企画「プロのノウハウ」講座シリーズ（第１回）

「構造計画と経済設計」

研修会参加記

山田　修

日　時　平成元年５月16日（火）
開場17：30　開会18：00→閉会20：00

会　場　日本建築協会・会議室
（大阪駅前第３ビル・21F）

講　師　須賀好富氏（近畿大学教授・工学博士）

参加者　34名

このほど、日本建築協会で、出版委員会の企画による「プロのノウハウ」講座シリーズ第１回の「構造計画と経済設計」研修会が行われました。本会出版委員会委員長の須賀先生の講演であり、司会・進行をかねて、わたしも勉強会に参加しました。今回は一般の参加者として体験記を記します。

１．終始熱気がこもる

大会議室に、ありったけの机といすを総動員する関係で、定員は30名となりました。当日までに定員をこえた上に当日受付が重なり、事務局を慌てさせました。しかし、欠席者が数名出て、最終的には補助いす、補助机をなんとか用意し、34名まで受け入れ、会場は満席となりました。

やはり、構造分野の専門家がほとんどで、若い方が多くみえられました。当日出席の方は上の人から「勉強してこい」といわれ、急にこられた人たちが多く、多忙な人たちだけに「前もって予定が立てられない」と悲鳴をあげておられました。これは欠席された方にも通用します。定刻前には受講者は80％の入りで、10分後には全員が揃いました。

休憩なしで100分の講義、続いて20分間の質疑応答の研修会でしたが、居眠りされる人は一人もおられません。プロの集団だけに〝仕事に燃えている気構え〟が、室内を熱気で包みこんでいました。

まず須賀先生が自著『構造コストと経済設計：学芸出版社刊』の本の特長にふれられ、60分間でＢ５版174頁の本の第１章構造コストと構造計画から第16章土留工法とコストにわたり、全般に要領よく解説されました。ベテラン講師の、見事な手さばきです。

次の20分間は、須賀先生の実施設計になる各種構造例や建築学会で発表された論文のコピーが配布され、新しい情報の説明と提供を受けました。残りの20分間は、受講者による質疑応答です。

その一例を記しましょう。

質問：「今は労務費が高騰しています。柱・梁を各階で変えてコンクリート・鉄筋量を節約するよりも、あえて各階のメンバーを統一し、型枠の労務費を省力化する方がコスト安につながると思うのですが、いかがでしょう。」

答え：「確かに、柱・梁断面を小さくしても型枠費は小さくならず、返って手間を食います。理屈ではそうなるのですが、実はあまり変化がないんですよ。本の83頁を見て下さい（大梁の最適断面の項）。そこに〝単価比と最適断面の表〟があります。問題は数量です。しかし、今日のように型枠工の単価が高騰すれば、少しぐらいのコンクリート・鉄筋量の節約は、プラスにならないかも知れません。」

質問者の指摘も鋭いですが、先生の回答も明快です。プロフェッサーだけではなく、現場の設計・監理に精通したエンジニアーの一面を見せつけられたエピローグでした。

２．Ｓ造のコストをめぐって

「柱グリッドの辺長比により鋼材量は上がります（17頁の各図を説明）。小梁はロングスパンに架けるとコストアップにつながります。……」

「柱配置は、やはり正方形が一番経済的です。lx・lyとも４～５ｍが最小重量値となります。計画上では当スパンは小さすぎます。コストは基礎まで含めなければなりません。基礎のコストは、柱間隔の小さいほど大きくなる傾向にあります。」

次に「ブレースの水平分担率と鋼材量」の説明がありました。構造計画上は「ブレースを設けると鋼材量が減少し有利になる」とのことですが、全体的には鋼材量は落ちません。しかし、ブレースの水平分担率が大きくなるほど鋼材量は減少していきます。11Ｆ建・７Ｆ建・３Ｆ建のケースをとり出し、スパン・階数と鋼材量の関係、基礎を含めた全体コストのつかみ方を学びました。

Ｓ造は、①小梁をラーメン梁に架ける、②３～５階建とする、③２スパンにする、と鋼材量が節約できます。新耐震設計法（新法）は震度法（旧法）に比べて1.1～1.2倍の鋼材量を必要とする事が分かりました。

３．ＲＣ造・ＳＲＣ造から ＰＣ・ＰＲＣ構造まで

「床構造は、スラブと小梁のコストがスパンと荷重により影響を受けます……。梁は、〝コンクリート断面は小さく鉄筋を多く入れて鉄筋側で断面を決める〟という構造姿勢になっていないんです」とＲＣ造の疑問点が出されました。柱・大梁の最適断面は、各種図・表を使って説明があり、最後は新法と旧法のコスト比較が検討されました。

「ＲＣ造のコストスタディは仮定断面の大小につきます。そこで決められた最適断面が、そのまま安全性にもつながっていくんです。」

「ＳＲＣ造は、仮定断面の設定がむずかしい。いまは鉄筋を多く入れて鉄骨をへらす工夫がされています。大きい鉄骨は使うな、ということです。」

続いてＳＲＣ構造よりＰＣ・ＰＲＣ構造へとすべり込んでいきました。スピードと熱気が一段と上がっていきます。アンボンド構造にも入り、在来のＲＣ構造との比較がされました。ＲＣ構造を基本にして、ＰＣ構造・ＰＲＣ構造との比較は、実例を使われたので、よく理解できました。工期の問題も比較検討され、「構造設計は総合的な判断力が必要だ」と痛感しました。

４．新しい情報例の提供

ＰＲＣ構造の設計と施工例が４例とＰＲＣ構造の設計が、詳細な計算式・構造図入りで説明されました。若い構造設計者には、サンプルとして使える実例だと思います。さらに資料として、ＰＣ構造のコストスタディ、ＳＲＣ構造の軀体数量に関する研究、ＰＲＣ構造の軀体数量に関する研究の研究論文が配布されました。

①いい資料が余分に貰えた。②内容が充実していた。③するどい質問があった等で、充分に満足できる勉強会だった、とわたしは判断しました。参加された皆さんは、どうお感じになったでしょうか。　（やまだ　おさむ／本会出版委員会副委員長）

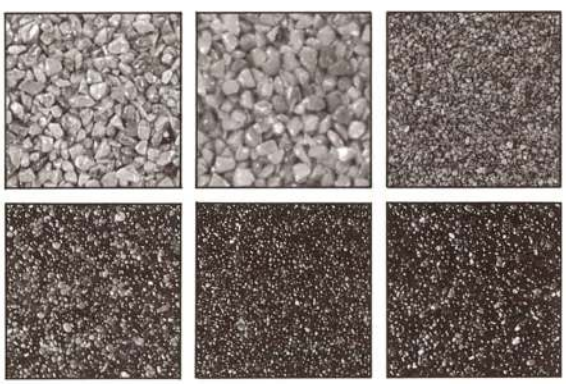


研修会風景

都市設計に潤いのアイテム アーバンロック

テクノロジーが加速的に進歩するにつれて都市機能はより複合的な顔をみせはじめた。
都市が進化すればする程、都市生活者は自然との調和を熱望する。
ますます都会化する街に渓流のせせらぎが聞こえてくるような自然石を演出したら
どんなに素晴しいことだろう。
大いなる自然の山や河から採掘された自然石のひとつひとつは透水性・耐久性も抜群の最新床材
アーバンロックとして生まれかわる。
いまや、アーバンロックは都市生活者の快適空間をより豊かに演出する
大切な自然のアイテムとして欠かすことのできないものになった。





30数種類の豊富なカラーが揃っております。



アーバンロックは天然石をモチーフとした自然感あふれる美装感覚の最新床材で、人工着色のカラー舗装にありがちな色あせがありません。耐久性、通気性、透水性、凍結融解に優れ、心地よい歩行感はもちろんのこと機能性やデザイン性が求められる色々な場所で、アーバンロックは幅広く活用されています。

●公園●駐車場●前庭・中庭●階段●アプローチ●ポーチ●バルコニー●エントランス●ショールーム●歩道橋●遊歩道●側道●プールサイド

ヤブ原産業株式会社
東京都文京区湯島3-39-5 TEL. 03(836)4111 FAX. 03(835)3760 〒113

札幌支店 TEL. 011(742)1201
仙台支店 TEL. 0222(45)9731
新潟支店 TEL. 0258(92)2728
大阪支店 TEL. 0726(25)8560
福岡出張所 TEL. 092(721)5120

透水性天然石舗装材

アーバンロック

ヤブ原産業株式会社
本　　社　東京都文京区湯島３－39－５　☎03(836)4111
大阪支店　大阪府茨木市高田町25－11　☎0726(25)8560
札幌支店　札幌市東区北42条東2丁目 日の丸ビル　☎011(742)1201
仙台支店　宮城県仙台市泉崎２－21　☎022(245)9731
新潟支店　新潟県三島郡越路町飯塚2789－１　☎0258(92)2728
福岡出張所　福岡市中央区荒戸１－１－16　☎092(721)5120

１．はじめに

テクノロジーが加速的に進歩するにつれて、都市機能はより複合的な顔を見せはじめた。

都市が進化すればするほど、都市生活は自然との調和を熱望する。

その一つの調和として、大自然から採掘された自然石のひとつひとつを融合し、ひとつの天然石舗装材として仕上げたものがアーバンロックである。

２．アーバンロックとは!!

アーバンロック用バインダーとして開発された特殊なエポキシ樹脂に、厳選された天然石を混合して構成される湿式床材である。

３．適用場所

アプローチ、プールサイド、ベランダ、側道、駐車場、階段等。

４．特徴!!

イ）心地良い歩行感が得られる。

ロ）構造的に空隙数が多いため、透水性、通気性に優れている。

ハ）自然石の美しさをいつまでも保ち続ける。

ニ）自由なデザインが可能。

（竹田三夫／建材委員）

アーバンロック



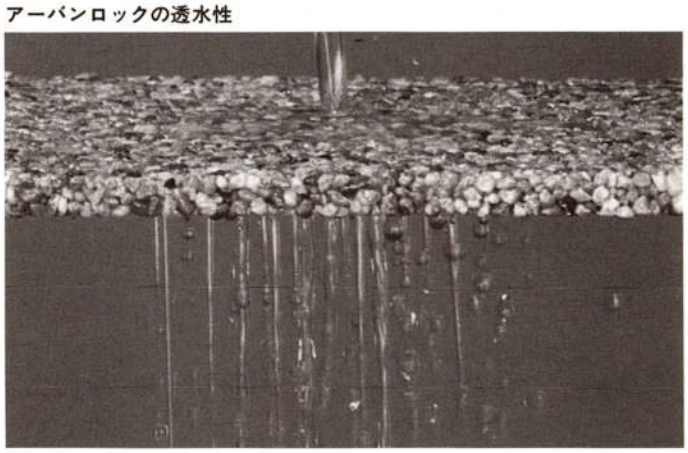
施工例（公園）



施工例（プールサイド）



アーバンロックの透水性



アーバンロックの強度物性

〔方法〕ＪＩＳ　Ｒ－5201、ＪＩＳ　Ａ－1108に準じ成型体を20℃、14日間養生後測定。

供試体数：ｎ＝３、成型体配合：樹脂／天然石（Ｌ）＝１／20

試験科目＼タイプ	夏　用	冬　用	試験方法
可使時間	40分（30℃）	30分（20℃）	500ｇスケール
曲げ強度（kg／㎠）	72.1	63.2	Ｒ－5201
圧縮強度（kg／㎠）	119.5	110.3	Ａ－1108

アーバンロック施工実績

現場名	施工場所	施工期間	施工面積	施工内容
野上公園	宝塚	62.3	80㎡	公園
木津寿公	京都	62.11	210㎡	アプローチ
北ウィング	大阪	62.7	170㎡	駐車場
琵琶レククオオツカ	滋賀	62.7	150㎡	プールサイド
ミズホビル	大阪	63.3	200㎡	壁
竹林院	奈良	63.3	60㎡	アプローチ
北本マンション	大阪	63.4	20㎡	アプローチ
南堀江マンション	大阪	63.4	200㎡	駐車場
武庫川学院	西宮	62.10	70㎡	アプローチ
京都リクルート	京都	63.4	40㎡	壁
グランドムール池田旭ヶ丘	大阪	H1.2	15㎡	噴水
北第９小学校	大阪	1.3	390㎡	アプローチ
大阪府臨海	大阪	1.3	148㎡	アプローチ

法令コーナー

編集委員会法令分科会

238

都市景観形成モデル都市の指定

昭和62年９月に、景観形成の総合的推進を図るため、建設省では都市局、河川局、道路局および住宅局の４局で新たな〝都市景観形成モデル都市制度〟が創設された。

この制度は景観形成の基本計画に基づき、各種事業の複合的実施や各種規制・誘導方策等を講ずる市町村を「都市景観形成モデル都市実施要綱」に基づいて都市景観形成モデル都市として、関係局長が指定するもので、昭和63年５月に第１回都市景観形成モデル都市として姫路市（兵庫県）ほか19市、平成元年５月にさらに14都市が指定された。

指定を受けた市町村は、都市景観ガイドプラン（モデル都市に係る景観形成の基本計画）を作成し、さらに早急に景観形成を図るべき重点地区を選定し、詳細な地区景観ガイドプランの策定を行い、これに従って重点地区の計画的・重点的な景観整備・誘導を図ることとされている。

兵庫県における景観形成への取り組み

■「都市景観の形成等に関する条例」の制定

近年、都市の新しい魅力として都市景観が注目されてきたが、県では「緑の回廊計画」の提起や「生活文化を創る１％システム」の導入など、都市景観の形成に取り組んできた。

その中で都市景観行政の本格実施にむけて、都市計画法をはじめとした地域地区等の諸制度の補完および建築物の建築確認の際の都市景観上の指導助言制度の確立等の必要性から条例を制定した。

■条例の概要

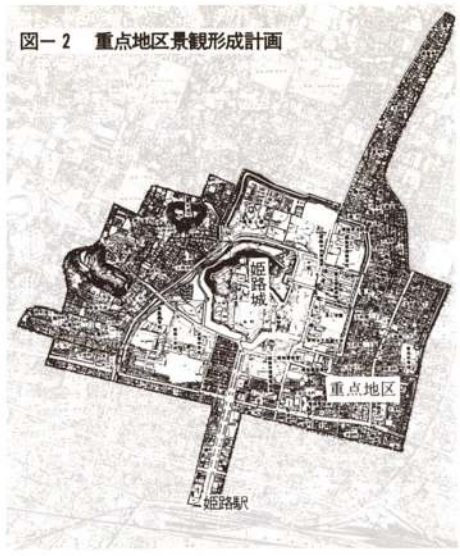
条例は、①都市景観形成地区の指定、②大規模建築物等の届出、に大別されており、〝その都市を代表し、またはその都市の特徴を表している区域〟〝伝統的な建造物が周辺の環境と一体をなしている区域〟〝新都市の建設、都市の再開発等により新たに地域が整備される区域〟等を都市景観形成地区として指定している。

現在、姫路市大手前通り地区、出石町城下町地区、社町メモリアルガーデン周辺地区（東播内陸部）の３地区を指定済みである。指定地区内においては、当該地区にふさわしい都市景観形成基準を作成し、建築物・工作物の新築・改築等に際して、基準に沿って指導・助言を行っている。

また、大規模建築物等については、地域の景観との調和を図るため、大規模建築物等指導基準を定め、届出により指導助言を行っている（昭和63年度届出件数498件）。

■都市景観形成モデル都市指定制度の活用

第１回都市景観形成モデル都市として指定された姫路市に次いで、昭和63年度は出石町を申請し、平成元年５月30日付で指定を受けた。申請に当たっては、良好な都市景観形成を主導する公共事業および各種規制誘導方策等の実施を円滑に進めるため、庁内関係各課で構成する都市景観形成推進連絡会議を設置し、緊密な連絡調整を図っている。



図－２　重点地区景観形成計画

姫路市における都市景観形成モデル都市の取り組み

姫路市都市景観条例（昭和62年制定）に基づき策定した「姫路市都市景観形成基本計画」を「都市景観ガイドプラン」と位置づけ、「重点地区の抽出」について記述を加え補完した。**（図－１）**

(1)　都市景観形成の基本方針

- 姫路城をシンボルにした都市空間の創造
- 人間性豊かな魅力ある都市空間の創造
- （工場や事務所、商店など）活力ある都市空間の創造

を基本目標とし「愛着、親しみ、誇りを感じる美しいまち」の実現を図る。

(2)　都市景観形成計画のための構造化と類型化

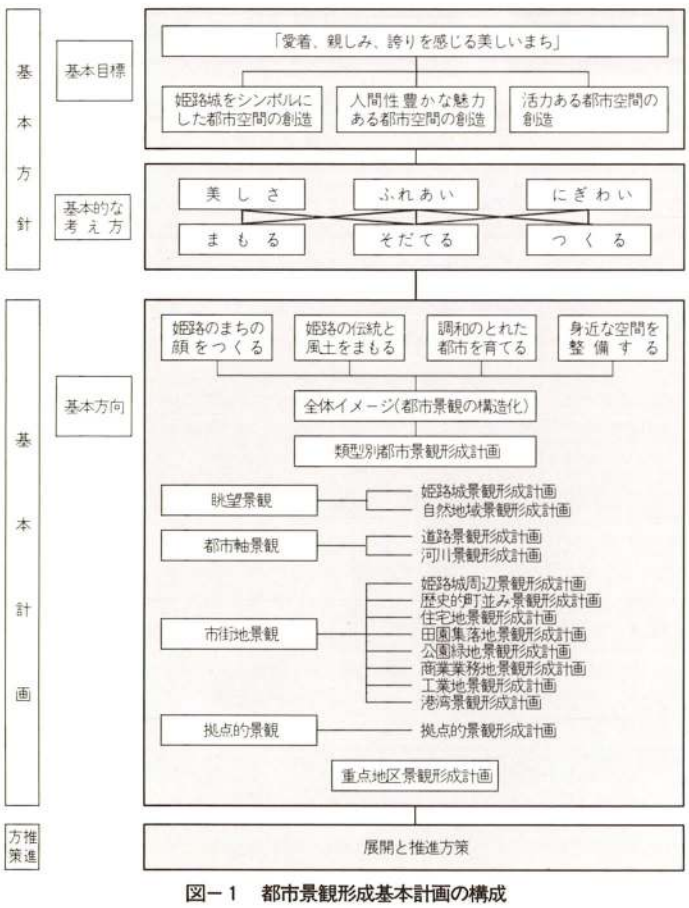
- 多様な景観を、市域全体で構造化することにより都市空間を分かりやすくするため、①地域別の景観特性を方向づけるための景観ゾーン、②都市景観の骨格を明確にするための景観軸、③まちの顔、景観形成拠点とするための景観核を設定し、景観の全体イメージを組み立てた。
- 都市景観を広がりと地域の特性により13の類型化を行い、各類型別に特性と課題、基本方針、対象および施策の方向を明らかにするため類型別都市景観形成計画を定めた。**（表－１）**

(3)　重点地区景観形成計画**（図－２）**

姫路城を中心とする面積約250ヘクタールの地区を重点地区として抽出し、地域特性を生かした個性ある景観形成に努めるとともに、全体として姫路城と調和した風格ある景観形成を図っていく。

たとえば、姫路城の眺望景観を保全するとともに、姫路城を核とした水と緑のうるおいのある優れた景観の保全・育成を図る。歴史的町並みについては、地域住民の主体的な取り組みを促し、城下町として、伝統と個性のある景観形成に努める。また商業業務地は、市の顔として風格と個性ある都心機能の充実により、にぎわいと親しみのある景観形成を図っていく。

（兵庫県都市住宅部計画課主査　山内純子）



図－１　都市景観形成基本計画の構成

表－１　類型別都市景観

(1)	眺望景観
①	姫路城景観
②	自然地域景観
(2)	都市軸景観
③	道路景観
④	河川景観
(3)	市街地景観
⑤	姫路城周辺景観
⑥	歴史的町並み景観
⑦	住宅地景観
⑧	田園集落地景観
⑨	公園緑地景観
⑩	商業業務地景観
⑪	工業地景観
⑫	港湾景観
(4)	拠点的景観
⑬	拠点的景観

平成元年度事業計画

財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台５－８－１　〒565
電　　話…(06)872－0391　FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：９：00～17：00
　　土曜：９：00～12：00

当試験所は、従来から各種試験施設・機器の整備拡充と技術水準の向上に努めており、昨年度は簡易振動台の導入、土質試験関係機器の整備のほか、行政施策に基づく骨材の巡回採取による試験の実施等新たな業務への拡大を図りました。

本年度におきましては、さらに建物群の風洞実験に対応し得る風洞計測筒の拡張、カーテンウォールの層間変位試験装置の整備等、試験業務の拡大を図るほか、新機種の整備、老朽機器の買替えを行い、試験精度の一層の向上と効率化を図ります。また、自主調査研究及び図書室機能の整備拡充を積極的に推進し、職員の技術水準の向上に努めます。

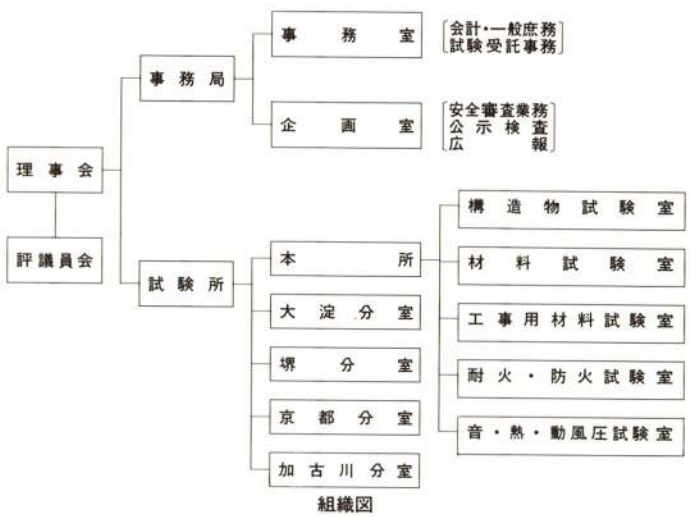
本年度における事業収入としては、これらの状況の推移とその動向を勘案して総額13億8,100万円(前年度対比約10.9%増）を計上しました。

1．施設整備

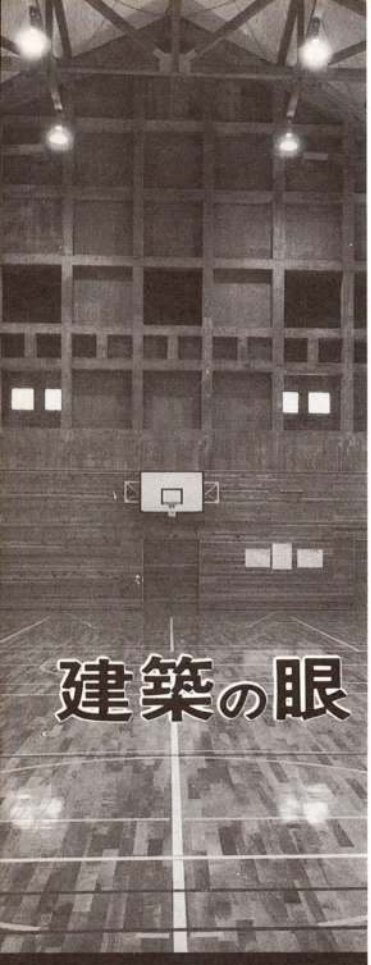
1）耐火・防火試験関係
　床梁試験炉の自動点火方式への改造
2）構造物試験関係
　風洞計測筒の拡張、自動計測圧密試験装置の整備のほか、自動制御静的加力システムの導入
3）音・熱・動風圧試験関係
　従来のカーテンウォールの水密、気密、耐風圧各試験に加えて、新たに層間変位試験装置を導入
4）材料試験関係
　サイシャインウェザーメーターの増設のほか、アルカリ骨材反応性試験用の恒温恒湿室の整備
5）本所・分室工事用材料試験関係
　コンピュータの導入（本所及び京都分室）のほか、200 tf耐圧試験機（堺分室)、鉄筋ガス圧接部超音波専用探傷器（本所）の整備

2．附帯事業

1）自主調査研究事業
　本年における調査研究のうち主要なものは、次のようなものです。
（1）インバータモータ駆動自動制御静的加力システムの開発
　　――加力＋計測システムの一元化
（2）振動台実験における制御法と測定データの解析法の検討
（3）改造風洞における境界層乱流の生成
（4）三軸試験機による淀川砂の力学性状（主に強度定数）に関する実験的研究
（5）火災を受けたコンクリートの受熱温度推定に関する研究
（6）火災時における防火戸の漏煙量測定方法に関する研究
（7）床衝撃音レベル改善量の適用範囲に関する研究
（8）開口部の熱貫流率測定方法に関する研究
　（日本建築学会熱小委員会の調査研究の分担）
（9）生コンクリートのアルカリ骨材反応性早期判定試験方法の関発に関する研究
（10）微細石粉がコンクリートの各種性能に与える影響に関する研究
（11）コンクリート中鋼材の非破壊腐食探査に関する研究
　（大阪大学鈴木研究室との共同研究）
2）受託調査研究事業
　関係行政機関、または建設関連企業等からの依頼に応じ、調査研究を行うものであり、随時必要な委員会を設置して実施します。
3）建築技術安全審査委員会事業
　本委員会事業は、建築主事の諮問に応じて、建築物の構造等の安全性の審査を行うものです。
4）工業標準化法に基づく公示検査事業
　大阪通商産業局管内の「JIS表示許可工場」について、認定検査機関として検査業務を行います。本年度は、鉄筋コンクリートぐいなど６品目について検査を実施します。
5）コンクリート工法研修事業
　大阪府下特定行政庁連絡協議会の「コンクリート工法に関する指導要綱」に基づく研修等の実施機関に指定されており、本年度も引き続き実施します。
たが、本年度も引き続き実施します。
6）情報機関誌（「GBRC」）発行事業
　当試験所の情報機関誌を年４回定期的に発行し、各関係機関・団体等に配付しています。
7）建材研究会事業
　本研究会は、(社)日本建築材料協会との共催で発足したもので、建材に関する情報の交流を行い、品質の向上と優良建材の研究開発に資することを目的としており、本年度も実施します。



組織図



建築の眼

住田昌二
大阪市立大学教授

松田泰典
兵庫県都市住宅部営繕課長

中嶋龍彦
中島龍彦建築事務所

入江恂一
オテルオークラ神戸建設ＪＶ工事事務所所長

1月号から6月号まで上記の4氏が執筆

写真は龍神村民体育館
設計 渡辺豊和建築工房

産直住宅

最近、産直住宅という供給方式が、折りにふれて聞かれるようになった。「産直」という用語は、産地直送の略で、生産品を市場を通さず、直接産地から消費者に小売りすることをいう。野菜や魚などについて、大都市の消費者が過疎地域の農協などに働きかけ、いい品を安く協同購入する消費者運動が本来の産直である。ところが、産直住宅の場合は、内地材を産出する地域の材木業者や大工組合が協同組織をつくり、主として在来工法住宅を比較的安く供給しようという生産者サイドからの取り組みであるところに特徴がある。愛知や岐阜など大きな森林地域を抱えている県で、この方式は活発なようである。なかには村挙げて取り組んでいるところもある。東京や名古屋に事務所をおいていて、そこで注文がとれると、地元で切り出した材木をプレカットし、大工ごと車に載せて運んでいく。まとまって注文がとれると、輸送費が少々嵩んでも充分商売として成り立つようだ。私は、中京圏の産直住宅のいくつかの実例を視察して回り、良質な材木をぜいたく過ぎるほど使って、一般建売住宅よりはるかに安価に供給している実態を確かめた。この方式は生産者だけの取り組みにしているかぎりどうも伸び悩みがあるようだ。例えば一戸建を望むユーザーを組織化し、両者のタイアップがなんとかできないものかと思案している。

（S.S）

六つの風土とともに その六——淡路

兵庫県の南部に位置する瀬戸内海最大の島"淡路島"。ここは国生みの島として有名である。古事記にイザナギ、イザナミの二柱の神が、天つ神より国づくりを命じられ、天の浮橋に立ち、天の沼矛で海水をかきまわして国をつくり、矛の先からしたたりおちた塩が固まって淡路島ができたという壮大なスケールの国生み伝説である。淡路は一市十町、人口約17万人で、北部は300～400ｍの山の連なる丘陵地であり、南部は、豊かな平野が広がっている。三毛作も可能という温暖な気候と、四方を海で囲まれた島という地域性もあり、京阪神に近いという位置にありながら都市化の波にもあわず、農業と水産業が主要な産業と言ってもよい、和かな田園の広がる自然豊かな地域である。ところが、昭和60年６月に東洋一の吊り橋である大鳴門橋が開通し、淡路を縦断する本四道路の整備が進むにつれ、ホテル、沿道サービス施設等の建築が、いささか無秩序になされているのではないかとの感を抱いている。

現在、明石海峡大橋の建設が進むなか、淡路全体をリゾート・ゾーンとする構想が生まれている。兵庫県は、すぐれた自然環境、伝統文化を生かしながら、海洋性リゾート基地として整備していく等の構想を持ち、現在営繕課に於いても、総合リクリエーション施設「緑町野外ＣＳＲ」が計画されている。淡路が明石海峡大橋の完成で、本州と四国を結ぶ単なる橋におわることなく、地域の風土、自然と調和させた開発を第二の"国生み"としながら発展していくことを期待したい。

（Y.M）

ゴルフ熱症候群

最近のゴルフ場の混雑振りは異常としか言いようがない。老若男女を問わず何処に行っても超満員である。さきの週休２日制の影響かと思いきが、さにあらずいつも満員なのである。これは一体どうなっているのだろうか。この事は空前のゴルフ場開発のブームの引金になっている。以前と違って昨今のゴルフ場適地の入手困難さと共に土木技術の進歩はまるでそこに山があり谷があることすら意に介さず、高いところは削り、低いところは埋めて造成される様は人間の傲慢さをまのあたりで見る思いがする。今少し資本も節度を持たないと終いには取り返しのつかない結果を招くことは明らかである。本来自然の一員である筈の人間が自然を冒瀆してはならない。それでなくともゴルフ場をつくるということは周辺の生態系を改悪し、動植物はおろか最終的には人間の生活までおびやかす行為でありどううまく造ってみたところで元の自然に勝ることがない訳であるからここら辺でブレーキを掛ける必要があろう。かく云う私もゴルフを楽しむ一人であってみればあまり大声も上げることあたわないが、少くともそうなるのであれば二回行っているのを一回で我慢するだけの覚悟はもっているつもりである。

（T.N）

職長会組織について

前回安全について書かせていただいたが、最近の安全管理でもう一つどうしても、特筆しておきたいことは、職長会を主体とした安全管理である。ゼネコン社員が現場運営管理を行っているのであるが、実は現場社員が持っている技術は、そのノウハウと組織と電話だけであって、手を動かし建物を形造っていくのはそれぞれの協力業者である。その組織が職長会であり、昨今大変活発に活動している。現場での朝礼から、朝のミーティング、新規入場者教育、工程打合わせ会、安全パトロール、一斉片付けまで全て職長会で運営している。さらに現場駐車場管理、仮設トイレ管理、焼肉大会等リクリエーションにいたるまで、職長会が関係している。過去において我々現場社員が現場管理するときに、『～してはいけない』と言う禁止的な指示をしていたが、これでは反感を持たれてなかなか聞いてくれないし実行もされなかった。しかし現在現場で協力業者をそれぞれ代表する職長達の組織で『こうしよう』と決定して自ら実行するボトムアップ方式であるから、これは間違いがないし職人もその方針に従わざるを得ない。言わば職長会が自発的に活動しつつあるのが、現在の現場運営でありこれは安全管理に非常に強い味方である。

（J.I）



特集

博覧会とまちづくり

序文

わが国の博覧会とまちづくり

足立　孝

慶応元年(1865)、ナポレオン３世が1868年開催予定のパリ万国博参加招請状をよこしたときに、外国奉行栗本安芸守がExhibitionを博覧会と訳し、また、ロンドン万博（1862）を視察した福沢諭吉が慶応２年に出版した「西洋事情」のなかで「博覧会と称して各地の産業を紹介する会」と述べたことによって、博覧会なる名称がわが国に登場した。

わが国での初めての博覧会は、明治４年開催の京都博覧会である。東京遷都による沈滞ムードを一掃するのが目的で、有力者であった三井、小野、熊谷の主催で府が協力し西本願寺大書院が会場であった。内容は日本古来の武具、古銭、古書画、古陶器などに神戸在住の清国や仏人の出品になる外国製品の展示で、従来の物産会に近いものであった。このとき、「博覧会の興趣を盛り上げる娯楽性を持つことも文化発展に寄与する」として、府参事槇村正直が附博覧を企画した。附博覧とは今でいう余興にあたり、知恩院、建仁寺で茶席、安井神社の能楽、下鴨の花火大会、全花街の協力による〝都踊り〟をはじめ〝東山名所踊り〟〝鴨川踊り〟などが催された。この成功をみて、主催者の名称は京都博覧会社、次いで同協会となり会場も変わるが、以後毎年開催され、京都の年中行事として親しまれた。昭和３年を最後として約60年の歴史を閉じたが、踊りは今も続いている。

海外の万国博に政府が公式に参加したのは明治６年（1873）のオーストリア・ウイーン万国博であるが、その機会に内務卿大久保利通が国内でも博覧会を開催することを奏請して、明治10年政府主催「第１回内国勧業博覧会」が上野公園で開催されることになった。政府の殖産興業政策ばかりでなく、西南役勃発に興奮する人心の緩和策として、また近代国家のイメージづくりにも効果ありとして企画され、以後の博覧会の原型になった。第２回は明治14年（1881）、第３回は明治23年（1890）、ともに上野公園を会場とし、第４回は明治28年（1895）桓武天皇遷都1100年を記念し京都市提供の岡崎一帯を会場として開催された。開催前に日清戦争が始まっていたが、政府は殖産興業政策を重視して強行した。このときの話題の一つに、交通機関としての市電の登場がある。七条から会場近くまで７キロであった。

第５回は東京や仙台の誘致陳情があったが、ぜひ大阪に誘致すべきであるとし、早くから市会が敷地の無料提供を決議、博覧会委員会を設けて敷地買収や道路拡張を始め、府も４ヵ年にわたる予算を組んで準備事業をし、民間有力者による博覧会協賛会も活躍した結果、明治36年（1903）茶臼山から恵美須町にわたる天王寺今宮一帯で開催に決定した。当時茶臼山附近は原野に近い淋しい地帯で、狐や狸が棲んでいた。面積は約十万坪、第４回京都の２倍余、これを第１会場とし会期も153日の最長、貿易拡大を目的として外国からも18ヵ国の参加をみ、さながら万国博の感さえあった。第２会場として堺市大浜通公園に水族館を設置した。夜間開場もしたので全館に初めてイルミネーションをつけ、美術館を本格的建築とし、閉会後は大阪市博物館として30余年利用された。また、梅田から会場まで、蒸気自動車により初めて乗合バスが運行されている。

明治期最大の博覧会であったが、跡地利用にも特色がみられる。閉会後の市会で、敷地の東半部約四万五千坪を公園とし、残る西半部を民間に売却することにしたが、翌年日露戦争が起こったために計画は棚上げになり、陸軍用地として利用された。戦争終結後、明治42年天王寺公園開園、西半部は大阪土地建物株式会社に賃貸され、明治45年には初代通天閣が完成、大正初めにかけて遊園地、映画館、劇場、噴泉浴場、飲食店、商店など、〝新世界〟と名づけられた一大興行街・娯楽街が出現し、大阪南部一帯の発展につながることとなった。

❖

大正時代になっても博覧会は引き続き開催され、第１次大戦による好景気や、諸産業の成長もあって展示品は質的にも高い水準を示すようになったが、明治時代の国家目的の色彩は薄れ、大正デモクラシーを反映するものになってくる。

大正11年(1922)、日本建築協会が箕面村の未開発地を会場として「住宅改造博覧会」を開催した。現代に適応した中流住宅を実現し、国民生活の向上に資するのが趣旨であり、洋風の導入がみられる。閉会後は分譲され、今でも良好な住環境を維持し、10数戸が当時の姿を残している。

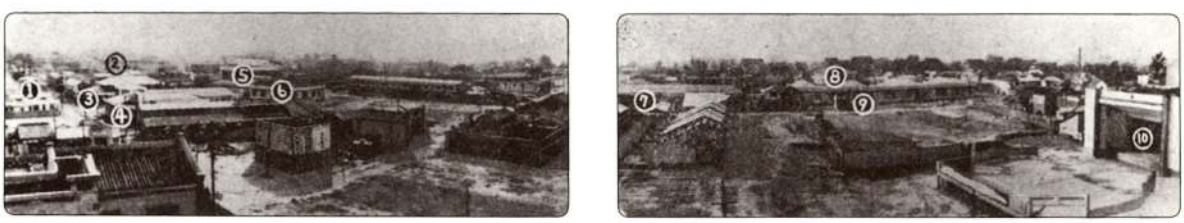
産業ばかりでなく生活にも電気の利用がふえ、電気事業の振興、知識の普及、ラジオの宣伝も兼ねて電気協会が大正15年（1926）「電気大博覧会」を大阪で開催した。大阪市では明治36年、初めて市電が花園橋・築港埋立地間に開通し、大正11年には安治川線も開通して大阪西部が新開地として浮上しつつあった。夕凪橋以西、八幡屋を中心とした朝汐方面一帯は安治川土地株式会社（大正６年設立）が経営に乗りだしており、総面積四十万六千余坪、他に共有権および使用権のある土地を有し、当時全国で最大の土地会社であった。同社は市に協力して安治川運河の開さく、区画整理、市立運動場や安治川遊園地の建設、劇場・映画館・温泉の新設、市より政府低利資金を借り入れ借家284戸を建設するなど、この方面の発展・繁栄に努めていた。この会社が会場として西田中町、田中元町一帯、安治川遊園地を中心とする約五万坪と主要建物を建設し、無償提供し、これを第１会場とした。元は埋立地とはいえ、市街地を会場とする珍しい例になった。会社は多大の犠牲を払ったが、この地区を一般に印象づけるのに大いに役立った。第２会場は天王寺公園（勧業館および公会堂）三千坪であった。閉会後、安治川興業株式会社が創立され、跡地の諸施設の経営にあたり、港新地（花街）も生まれている。

関東大地震を経て、昭和に入ると全国各地で御大典記念の博覧会が開かれたが、世界恐慌による経済不況の深刻化、昭和６年の満州事変、昭和16年の太平洋戦争勃発、戦局の激化などの状況下に国防、聖戦、決戦などを冠した博覧会が開かれるようになった。明治以来の念願であった万国博が「紀元2600年記念日本万国博」（昭和15年開催）として計画されたが、戦局緊迫のため昭和13年中止決定、〝幻の万国博〟となった。このときには会場として東京月島埋立地と横浜竜頭埋立地が予定され、会場への交通対策の一環として、築地と月島を結ぶ開閉可動の勝鬨橋が建造され、今も使われている。

❖

敗戦の虚脱状態で始まった戦後は、混乱、物資の欠乏などの国民生活が続いた。

戦後初の本格的博覧会は、昭和23年（1948）毎日新聞社主催の「復興大博覧会」である。その目標は、会場そのものを戦災跡の復興に資し、閉会後建造物はそのまま転用して役立て、もって大大阪復興の端緒を開く世直しをすることにあった。会場には復興の遅れていた天王寺公園から上本町八丁目一帯の通称夕陽丘の高台が選ばれ、市の都市計画にもとづいてすでに十万坪は整地工事と換地処分が完了していたので、そのうち四万坪の無償借用、一万坪は買収して恒久建造物の敷地とした。物資調達の困難な状況も府市の協力を得て克服し、建物も20館建設、そのうち８館を本格的建築とし、また、場内にモデル住宅を建て、閉会後譲渡する構想で、全体が復興新市街になるという、実質的で画期的な計画であった。



①記念館　②復興館（大阪天王寺郵便局）③第二衛生館（白百合文化学院）④貿易館（モデル保育所）⑤観光館（大阪市文化会館の予定）⑥外国館（家庭生活科学館）⑦京都館・印刷文化館（モデル母子寮）⑧科学館（一部がモデル母子寮）⑨農薬・水産・日立館（婦人公共職業安定所）⑩野外劇場
カッコ内は転用先。野外劇場前の広場は小公園になる予定。

復興大博覧会会場跡全景（毎日新聞社「復興大博覧會誌」より。大阪府立中之島図書館所蔵）

閉会後、府は建物のうち、科学館、京都館・印刷文化館、貿易館、農薬・水産・日立館を買収し、戦争犠牲者の母子を対象とした〝母子の街〟の建設を計画、24年度予算に計上、府会承認後改造に着手することにした。また復興館は天王寺郵便局に転用し24年業務開始、観光館は大阪市文化会館、第二衛生館は「白百合文化学院」に転用されることになった。さらに、日建工業社経営の会場内店舗付住宅86戸も順次売約成立して、市街の形成に役立ち、野外劇場も市が買収して劇場前一帯の広場を小公園にすることになった。以上のように、計画通りに復興の礎石がきづかれることになった。

昭和45年（1970）に、高度成長を背景に念願の「日本万国博」が千里丘陵三百五十万平方米で〝人類の進歩と調和〟を謳いあげ、すべての面で万国博史上最大、最高の成果を収めた。会場建設のほか、道路をはじめとする基盤整備に約八千億円の投資があり、「万博景気」に湧いた。閉会後は道路と美術館、ホール、迎賓館、日本民芸館、日本庭園、遊園地などを含んだ広い緑と水のオープンスペースが残り、その後民族学博物館や国際児童文学館などが加わり、近くに大学やバイオ関連の研究所もできて、大阪の文化の発信基地としての体裁を整えつつある。

昭和50年(1975)、「沖縄国際海洋博覧会」が本部半島で開催された。千里万博は一般博として人類活動の２部門以上の進歩を示すものであるが、沖縄博は万博だがテーマを一部にしぼる特別博で、史上初めて〝海〟を対象としたものであった。跡地は、海上にアクアポリスを持つ広い海浜公園として利用されている。（詳細は本誌別項参照）

昭和56年（1981)、「神戸ポートアイランド博覧会」が埋立地を利用し〝新しい海の文化都市の創造〟というテーマで、国内博としては類例のない大博覧会を開催。大成功を収め、以後の地方博のお手本になり、各地で博覧会を競って開催するキッカケをつくった。(詳細は本誌別項参照)

昭和60年(1985)、国際科学技術博覧会がテーマ〝人間・居住・環境と科学技術〟で筑波学園都市を会場として開かれた。これも特別博であり、各種の映像の氾濫で科学というより映像博だといわれた。これによって学園都市への道路が整備され、会場敷地は当初から尖端技術の工場団地に予定されており、すでに一部の工場が建設されている。(詳細は本誌別項参照)

平成２年（1990）には、大阪鶴見緑地で特別博の「国際花と緑の博覧会」が開催予定で、工事が進められている。基本構想のなかに都市と花と緑の調和の必要性が強調されており、会場では具体的な形での実験なり工夫がみられるだろうし、会場外でも協調態勢がとられているので、既成市街地の変貌にも期待している。今回は地下鉄と一部道路の拡幅だけだが、すでに鶴見緑地の周辺には高層アパートがいくつも建設されており、今後は花卉園芸関連企業はじめ、サービス業の立地も予想されている。会場跡地そのものについては、投資を生かして、21世紀の新しい公園づくりが検討されている。

❖

わが国での博覧会開催数は明治期110余、大正期150近く、昭和期戦前310余、戦後330近く、合計約900を数える。今年の地方博は15で多く、赤字が心配されているが、過去には27、28の年がある。

開催数は多いが、会場が一つの建物内の場合も多く、初期には寺・御所・城などで、やがて博物場・勧業館・商品陳列場・百貨店・見本市会場と大空間に移ってきた。公園もよく利用され、初期には上野公園・不忍池畔一帯が反復使用されていたが、昭和15年あたりから使われていない。都市公園としての整備が進み、使いにくくなったとも考えられる。その後も各地の公園が会場になっているが、遊園地利用も多くなっている。しかしこの種のものは閉会後復元するので、まちづくりには直接関係しないのがほとんどである。まちづくりに関係深いと考えられる埋立地は昭和５年頃からみられるものの、その数は少ない。今年の福岡や横浜にみられる埋立地利用はむしろ最近の傾向を示していると考えてよい。まちづくりに直結する例が少ないので前述の具体例に大阪がよく出てくるが、とくに大阪だけをとりあげた結果ではない。

引用文献

●寺下　勁「博覧会強記」　エキスプラン　1987
●吉田光邦編「図説万国博覧会史」　思文閣出版 1985
●「復興大博覧會誌」　毎日新聞社　1949
●「天王寺区誌」　天王寺区役所　1955
●「港区誌」　港区役所　1956

なお、資料に関しては平岡博（大阪市）氏のご協力をいただきました。

（あだち　たかし　社団法人日本建築協会副会長）

有名博覧会
—現在・過去・未来—
まちづくり

1
日本万国博覧会
2
沖縄国際海洋博覧会
3
神戸博ポートピア'81
4
国際科学技術博覧会・つくば'85

過去から現在、そして未来へ

今日の博覧会ブームに先立ち、数多くの博覧会があった。その歴史は、まさにその時代の社会の動きに呼応する象徴的イベントというべきものもある。

とりわけ戦後の復興、高度成長経済を背景に開催された日本万国博覧会は、東京オリンピックと並んでの一大イベントといえる。今まで〝博覧会〟というものをあまり意識したり、経験をもたない国民各層に大きなインパクトを与えたことは記憶に新しいことである。〝パビリオン〟、〝コンパニオン〟〝シンボルマーク〟〝おまつり広場〟…といった言葉だけでも、何かその後の社会や建築、その他の分野に新しい世界を感じさせるものだった。そして、千里ニュータウンという新しいまちづくりのあり方が、わが国でも現実のものとして着目されるようになったのもこの頃だった。〝開発〟ということが〝人類の進歩と調和〟にどう関わるのか…。大きなテーマだった。

すべての意味でこの万博は、大阪の街、関西のまちづくりを大きく変える打ち上げ花火だったといえる。

その後、開催された沖縄海洋博は、本土復帰という歴史的記念イベントとして、豊かな自然環境の中で展開された。日本という海洋に囲まれた国土の中にあって〝海〟の望ましい未来を考える絶好の機会だった。最近、新聞紙上をにぎわしているサンゴ落書き事件に象徴されるような開発と自然との問題、とりわけ経済社会の発展と豊かな自然と人間・文化との共存という二律背反的にとらえられがちな大きな問題がある。地域開発やまちづくりをすすめていく中で、かけがえのないものは何か、それをどうするのか…難しい問題である。その問題を人々にどう知らしめ、開発行為に世論としての評価を形成させていくのか…。

今日のリゾートブームの中で、資本の論理によって開発することがどこまで許されるのか、また違った形での〝調和〟が見いだせるのか…。今、再びこの海洋博のテーマが問われようとしている。

ポートピア'81は、神戸という一地方都市の博覧会だった。しかし、その規模、入場者、反響は、従来の地方博のイメージを変えるものであったようだ。「海、山へ行く」という開発手法は、従来の臨海部を埋め立て、工場やコンビナート、港湾施設だけを作るというまちづくりとは違った都市空間を生み出すことを提示した。「都市を経営する」という行政の姿勢は、地方の時代にあって積極的にまちづくりをすすめ、内外の人々へのイメージ形成を図るという点で注目される。この博覧会は、いろんな意味で、公共デベロッパーとしての自治体のしかけたイベントを超えて、その後のモデルとなったようである。

つくば科学博は、筑波研究学園都市のまちづくりを活性化し、インパクトを与えるという意味で大成功の博覧会であったといえる。既存の都市圏とは別に、人工的にすすめるまちづくりの中で、居住環境としての再点検がなされ、真に人間の住み、働き、学び、憩うまちとして、バランスのとれた発展が期待される。

これら4つの博覧会の過去から現在、そして未来へと続くまちづくりの中での意義を見つめ直すために、その現況と将来について紹介してみたい。

（田中直人委員）

日本万国博覧会―現在・過去・未来―

過去

万国博覧会は、大阪府吹田市千里を会場とし、「人類の進歩と調和」をメーンテーマに1970年３月、183日間の会期で開幕した。政府・民間が国家的行事の目標に一致協調した結果、大成功を収め、以後の博覧会の目標とされるものを残した一大イベントであった。

昭和46年７月、同博覧会の成功を記念する目的で日本万国博覧会記念協会が設立され、博覧会の跡地を「緑に包まれた文化公園」として整備し、適切な運営・管理等を行う事業がスタートした。記念公園基本計画に基づき、公園敷地の利用区分は、自然文化園地区130ha、スポーツ・レクリエーション地区91ha、管理サービス地区43haとする。

地区の配置と面積等は、明確な境界で区切られるものでなく、施設的、機能的には相互に重複し、連続するよう配置する。

自然文化園地区は、自然園地区と文化園地区の二つの区域に大別され、自然園地区については、日本庭園は現状のまま管理するほか、万国博のパビリオン跡地に、自然の雰囲気の中に四季それぞれを彩る花や、水を利用した滝、河原等を配し、野鳥、小魚等が棲息し、人々が共に遊び憩うことができるようにした。

文化園地区は、太陽の塔を中心とする広い空間「太陽の広場」と、緑の中に配置される各種の文化施設を中心にして、文化的活動が展開できるようにした。

スポーツ・レクリエーション地区は、スポーツ地区とレクリエーション地区の二つの区域に大別され、スポーツ地区については、家族づれで楽しめる各種屋外スポーツ施設を、緑の中には憩いの広場を設置した。レクリエーション地区は当面現状の遊園地を整備し利用するが、漸次、青少年・児童のための自然と親しみやすいレクリエーション施設等、時代の流れに沿った内容に変化させる。

管理サービス地区には、自然文化園地区、スポーツ・レクリエーション地区それぞれの施設を統轄する管理施設等を設置する。

以上、基本計画に基づき昭和47～54年度に第一次整備事業を行った。



▲博覧会当時

▼昭和56年現在



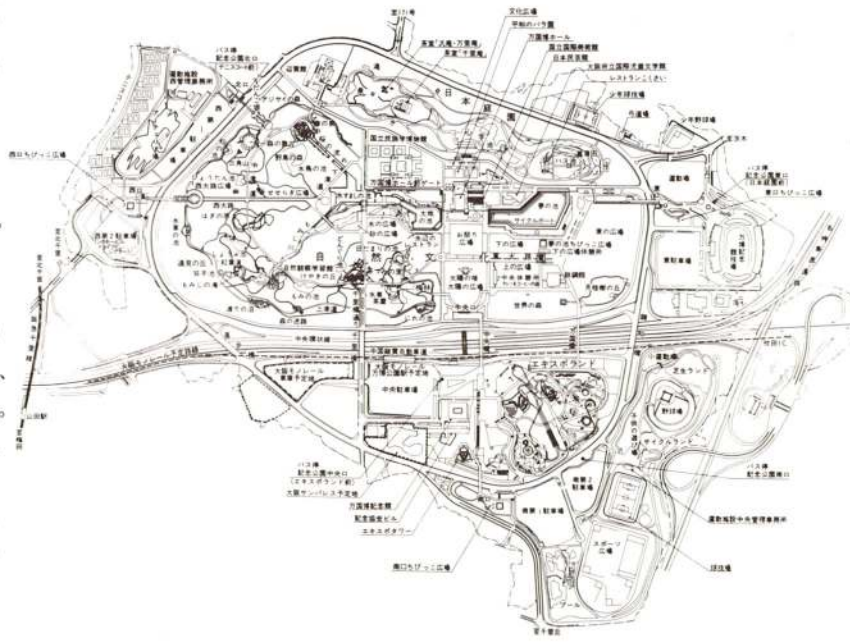
現在

第二次整備計画では、「緑に包まれた広域的機能をもつ文化公園」をめざした基本計画に基づき整備事業を行った。

国際児童文学館は、自然文化園地区の「夢の池広場」に大阪府立の施設として建設され、昭和59年５月５日に一般公開された。スポーツ施設の高度化としては、従前の陸上競技場が、大阪府の浄水場施設との複合施設として総収容人員23,000人のスタンドをもつ多目的競技場に改修され、昭和62年４月１日に一般公開された。また、関西文化センターについては、この機能を代替できる施設として、平成２年春の開業を目途に(通称：大阪サンパレス)進められている。

なお、記念公園への大量輸送機関となるモノレールについては、平成元年度の一部開通を目途に工事が進められている。

さらに、自然の観察や学習に適したフィールドとして、広さ30,000㎡に及ぶ「自然学習の森」を整備(平成元年度終了)が進められており、その一環として、昭和60年３月15日に「自然観察学習館」を開設した。



未来

今後の計画として、自然文化園地区に「産業技術史博物館」「宇宙映像館」を、管理地区に「屋内総合体育館」を計画し、既存施設の有効利用およびモノレール導入等に伴う園内動線の再編を行い、来園者の安全と利便を確保する計画を進めていくものである。

（特殊法人　日本万国博覧会記念協会総務部企画課企画係長　**吉田元雄**）

沖縄国際海洋博覧会―現在・過去・未来―

過去

沖縄国際海洋博覧会は、「海洋」をテーマとした、世界では初めての特別博であり、史上最大の規模を誇った。

この海洋博は、「海―その望ましい未来」をテーマとしたものである。われわれが住んでいる地球の3分の2は海でおおわれている。この海から、太古の昔より深く限りない恩恵を人類は受けている。ところが、急激に進む産業開発は、海の汚染に拍車をかけ、荒廃の危険が増した。そこで、人類全体の平和的繁栄のために、海と人間とのかかわり合い、その未来像を探求する目的として、また、昭和47年5月15日の沖縄の本土復帰を記念して、これまでの本土との格差を早急に是正し、自立的発展を可能とする基礎条件を整備し、沖縄がわが国経済の中で望ましい位置を占めるために、沖縄振興開発計画が策定され、沖縄県本部半島で、昭和50年7月20日～昭和51年1月18日（183日間）まで博覧会が開催され、総入場者349万人で、盛況のうちに終わる。

現在

沖縄県の北部地域の振興開発の一環として位置づけられた海洋博は、本部地域の沖縄の自然特性を生かしたリゾートゾーンを形成した。

緑化を大規模に推進し、豊かな自然環境を創出した海洋性レクリエーション基地を建設し、沖縄の観光開発の拠点とすることを明確化するとともに、健康で快適な生活が享受できる環境をつくるなど、国民が余暇を楽しむ大規模保養地とするべく、本公園は、閣議決定に基づく国営公園として、昭和51年設置された。これは、沖縄国際海洋博覧会を記念したもので、その跡地（約100ha）を国が整備するものである。

整備に先がけて、基本構想が策定され、テーマを「太陽と花と海」に決定し、そのテーマに沿った基本方針を打ち出した。

（1）沖縄国際海洋博覧会の記念事業としてふさわしい公園とする。

（2）日本だけでなく、外国の人々に利用される公園とする。

（3）沖縄にふさわしい公園とするとともに、沖縄北部開発の一環となるよう配慮する。

（4）海との調和を十分考慮する。

（5）亜熱帯性気候を考慮し、四季を通じて利用できるものとする。

当公園は大きく、以下の3つのゾーンで構成されている。①海浜公園ゾーンには、海洋博を引き継いだ施設として、水族館がある。「太陽と花と海」のテーマの〝花〟にあたる熱帯ドリームセンターの施設が、昭和61年に開園されている。②海上公園ゾーンとしては、エメラルドビーチ（人工ビーチで、海洋博から引き継いだ施設）があり、③東南アジア海洋文化ゾーンにおいては、海洋文化館、沖縄郷土村、おもろ植物園等で、77haを公園区域として一般に供用している。

本公園は、昭和51年8月に開園して以来、その利用状況を年度別に見ると、昭和52年度は85万4千人で、5年後の昭和56年度においては136万人、そして昭和56年3月には入園者累計は500万人、60年1月1,000万人、昭和63年1月1,500万人にのぼり、昭和63年においては、年間で180万を越えている。当公園は北部の観光コースにもなっており、沖縄県観光入場者250万人を越える中で、沖縄県観光施設の一環としても十分に寄与している状況にあり、北部地域振興の活性化に大きな影響をもたらしている。レクリエーション施設としても、その効果は大きなものがある。

未来

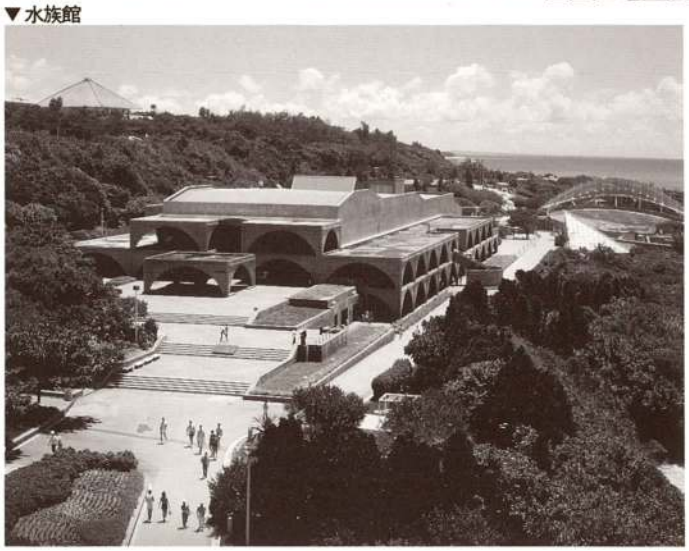
第二次沖縄振興開発計画を軸として、本公園の第二期整備計画の基本計画によって、海浜公園地区における海上公園ゾーンの海上および海中での公園施設の整備を調整している。

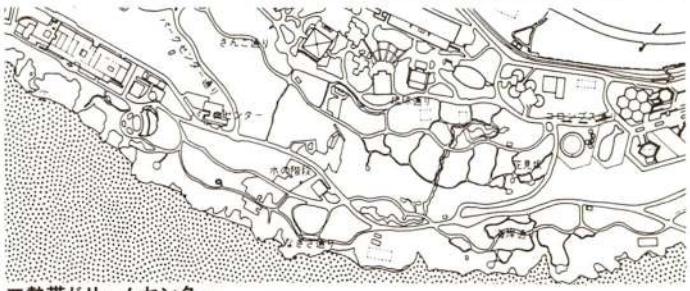
また、陸上エリアにおいては、今後の広域的なリゾート開発に対応できるよう、公園周辺、土地利用を調整し、滞在型の機能を有する施設計画を検討中である。

（国営沖縄記念公園事務所工務課長　**川武　実**）



▼水族館





▼熱帯ドリームセンター



ポートピア'81は、〝新しい「海の文化都市」の創造〟をメインテーマに、神戸港沖に計画された海上都市ポートアイランドの完成を記念して、昭和56年３月から９月まで開催された博覧会である。

この新しい都市空間であるポートアイランドは、面積約436haで、外周部はコンテナ埠頭やライナー埠頭およびその背後の港湾機能用地からなり、国際港都・神戸の拠点の一つになっている。また中央部は、都市機能用地として、国際的センスで神戸らしさに満ちた地方文化を育成する街区、インターナショナルスクエア（32ha）をはじめ、住宅および生活関連施設のコミュニティスクエア(23ha)、市街地サービス地区、公共公益施設地区、流通業務地区、加工サービス地区等があり、北、中、南と３つの公園およびそれらをつなぐポートピア大通りという緑地により、良好な都市環境の形成をめざしている。公共輸送機関としては、新交通システム〝ポートライナー〟をわが国で最初に、博覧会に先立って開通させている。

過去

博覧会は、インターナショナルスクエアを中心に、南公園およびポートピアランド等を含む一帯約72ha（有料エリア約42.3ha）で開催された。会場計画の特色として、将来のまちづくりと連動させ、公共建築物、道路、供給処理施設等において、かなりの部分で恒久施設を活用し、博覧会としての仮設を組み込む手法がとられた。まちづくりのすすむポートアイランドの姿をそのまま博覧会の会場として見せ、三宮をはじめとする神戸のまちづくりそのもののポテンシャルを、博覧会のエネルギーに転化していこうというものであった。その具体的な計画上の手法や概念は、今日、各都市で開催されている〝地方博覧会〟の、プロットタイプあるいはモデルとしての役割を担ったのではないかと思う。

現在

ポートピア'81の会場跡は、新たなまちの表情を形成しつつある。神戸は美しい港、緑豊かな六甲山を背景に、海、坂、山の変化に富んだ明るく開放的で異国情緒豊かなまちである。この神戸らしいまちの景観をまもり、そだて、つくるために、「神戸市都市景観条例」（昭和53年10月）が制定されている。ポートアイランドについては、従来の市の土地譲渡契約条件からの規制に加えて、昭和57年９月、インターナショナルスクエア東地区に地区計画制度を導入し、地区整備にかかわる方向性をより一層明確なものとした。現在、ファッションアベニュー等のデザインされた街路や広場に面して多くの建築家のデザインによる作品が建ち並び、特徴ある街並みを呈している。またコンベンション都市をめざした各種の公共施設の整備も着実にすすんでいる。

未来

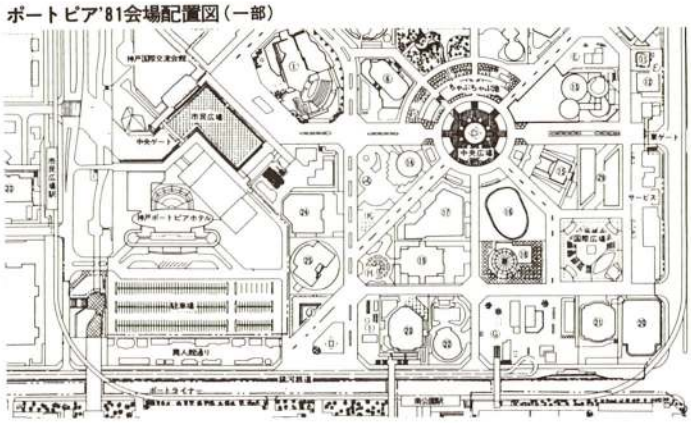
新しい「海の文化都市」は、そこに生きる多くの人々のさまざまなニーズを受けとめ、育む生活環境でなければならない。そのような意味で、ポストポートピア'81のまちづくりは、つぎの充実のステップをめざして、地道なフィードバックによる展開が求められている。一つのプロットタイプに対する当時の評価は評価として、これからの都市環境創造のパイオニアをめざして、今後とも努力しゆかねばならない。

今、東部に六甲アイランド、そしてポートアイランドII期計画が進行中で、それぞれ新しい都市機能を担うエリアとして注目される。

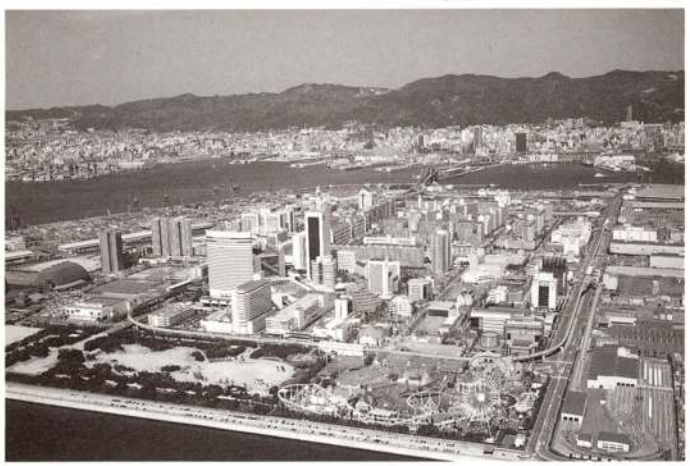
いずれにしても、この〝ポートアイランド〟という人工島の事業、そして〝ポートピア'81〟という地方博覧会の存在は、その後、各都市で同様に展開されようとしているまちづくりや博覧会について論じるとき、何らかの語り口を提供していくだろう。

（神戸市開発局計画課主査　**田中直人**）

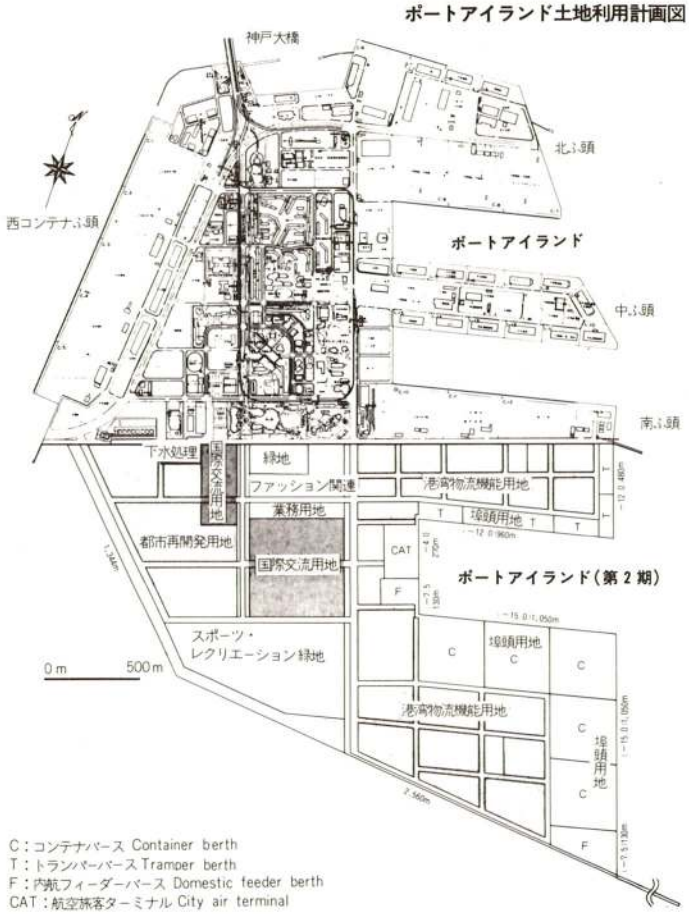
ポートピア'81会場配置図（一部）



最近のポートアイランド全景



ポートアイランド土地利用計画図



C：コンテナバース Container berth
T：トランパーバース Tramper berth
F：内航フィーダーバース Domestic feeder berth
CAT：航空旅客ターミナル City air terminal

神戸博ポートピア'81—現在・過去・未来—

「人間・居住・環境と科学技術」をテーマに、筑波研究学園都市において国際科学技術博覧会が開催されたのは、昭和60年３月から９月。その後、現在に至る４年間、また将来に向かっての筑波研究学園都市の都市づくりにとって、この博覧会が残してくれた影響は多大であった。

過去

そもそも、筑波研究学園都市は、科学技術の振興と高等教育の充実、東京の過密対策という２つの目的を持って、昭和38年にその建設が閣議了解されて始まった国策新都市である。爾来、東京都心から60km離れたこの地に、研究職を中心とした国家公務員が大量に集中して働き、住むという特異な街が形成されてきた。

昭和54年頃には、当初計画されていた都市基盤の整備や研究教育機関の移転、新設はおおむね達成された段階に至った。しかしながら、人口定着の大幅な遅れや、中心地区と周辺地区との間に生じた生活環境の格差などの課題をかかえ、総合的な都市としての魅力に欠けた街になっていた。

国際科学技術博覧会開催の主目的は、筑波研究学園都市の概成を記念するとともに、都市としてはいまだ未成熟なこの街に強いインパクトを与えて活性化することであり、また同時に、サイエンスシティ「ＴＳＵＫＵＢＡ」の名前を広く国内外にＰＲしてイメージアップを図り、国際的な科学技術の情報センターとして確立させようということであった。

現在

国際科学技術博覧会跡地は、西部工業団地として整備され、研究開発志向型の一流民間企業15社が譲受しており、最先端の活動を行うことになっている。最近は、そのほかにも民間企業のつくば進出意欲は盛んで、100社以上が進出し、産学官あるいは異業種間の研究交流も活発化しており、ノーベル賞受賞者が出るのも時間の問題であると言われている。また、世界各国からの見学者は絶え間がなく、研究に従事する外国人もしだいに増えており、国際都市としても着々と成長している。

都心部には、博覧会を契機として、専門店街を持つ大型ショッピングセンターや高級ホテル、アミューズメント施設あるいは総合的な文化施設（現在建設中）ができて、まさに人間が居住するに値する環境が整えられつつあり、都市としての充実度を増してきている。

このように、筑波研究学園都市は、博覧会を跳躍台として、新しい自立的成長の段階に入ったのである。

筑波西部工業団地建設のあゆみ

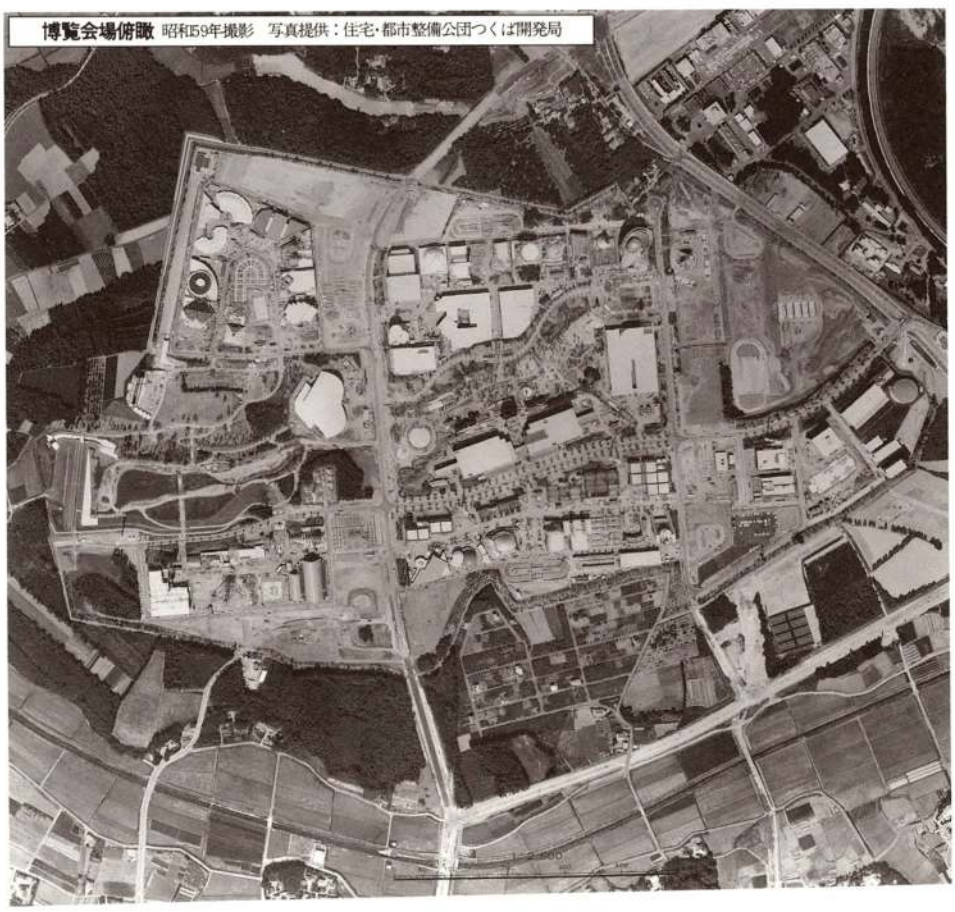
1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988
1．12 博覧会用地決定 工業団地建設決定	4．6．工業団地造成決定 科学博特別措置法	2．6．博覧会場基本計画決定 博覧会場地形地質調査	3．3．6．会場第一次マスタープラン 調節池竣工 第一次造成竣工	3．11．都市計画道路竣工 第二次マスタープラン	2．3．9．博覧会開会 工業団地第一回企業公募	4．7．パビリオン撤去・事完了 工業団地第一回企業公募	7．11．団地内一部企業操業 第二次造成完成	4．5．緑地完成 道路完成

未来

EXPO'85のテーマ「人間、居住、環境と科学技術」は、筑波西部工業団地づくりのテーマでもある。茨城県は、〝優れた創造はハーモニーある優れた環境から〟をモットーに、団地内外の人々のふれあいを育み、新しい技術、文化の創造を生む「ハーモニーパーク」づくりを狙って、この筑波西部工業団地事業をすすめてきた。

今後誕生するであろうさまざまな工業団地の環境づくりに、ここで結集された経験が生かされることを願うものである。

（国土庁大都市圏整備局筑波研究学園都市建設推進室長　**羽生洋治**）



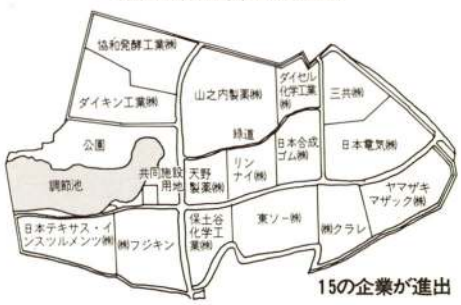
博覧会場俯瞰　昭和59年撮影　写真提供：住宅・都市整備公団つくば開発局



国連館解体風景



筑波西部工業団地内の緑道



15の企業が進出

国際科学技術博覧会・つくば'85―現在・過去・未来―

随想

博覧会、人、まち

〝博覧会〟—そこはかとなくノスタルジィを感じさせる言葉です。東京オリンピックの後をうけて、1970年の大阪の万国博覧会は、日本は言うにおよばず、世界中からさまざまな注目を浴びて開催されました。その後も沖縄海洋博やつくば科学博が開催され、また、近年になって各地の都市で博覧会が開催されています。

とくに今年は市制100周年を記念して、秋までに全国15カ所で地方博が開かれる予定で、まさに全国至るところで博覧会という状況ですが、私たちは、博覧会を単に、そのイベントの内容や成功したか失敗したかの話に終始するのではなく、博覧会が〝その機会に何を残し、何を育てたのか〟ということに思いを馳せる必要があると思います。

国際博、地方博を問わず、上記のような視点から博覧会についてのご意見、ご感想を、とりあえず設問例をあげてアンケートの形でお聞きしましたが、これにとらわれることなく自由な発想で、いろんなお話をいただきました。

*

【設問】

A．博覧会は、あなたの生活にどのような影響を与えましたか。

B．博覧会によって、あなたのまちはどのように変わりましたか。

C．あなたは、最近の地方博ブームについて、どういうご感想、ご意見をお持ちでしょうか。

D．あなたは、これからの博覧会に何を期待し、何を望まれますか。

E．博覧会について、あなた個人の思い出やエピソードがありましたらお聞かせ下さい。

*

博覧会をつくる立場にある人から一度も博覧会へ行ったことのない人まで、関西在住者を中心に40人の方々にアンケートあるいはインタビューをお願いしましたところ、29人の方からご意見やご感想、思い出を語っていただきました。ありがとうございました。

以下に、29のお話を順不同で掲載します。（編集部）

万国博のこと

吉田光邦

ずっと技術史を考えてきた者にとっては、19世紀にはじまった万国博は、もともときわめて重要な史的問題となっていた。いうまでもなくそれらは、18世紀以来の進歩の思想によって成長してきた技術文明の一大展示場であり、今日風にいえば一大国際見本市でもあったから。しかもそこでは強烈なナショナリズムが、牽引力となっている。

そこでこれらの万国博の各種の報告書を見てゆくと、多くの貴重な具体的データに出会うことができる。もっともこの種のものは、日本ではなかなかみることができず、海外の古書店のカタログで探すことが第一となる。ちかごろは海外でも万国博の研究や検討が盛んとなってきているらしく、カタログの分類に万国博の項目が、ここ数年来新しく加わったものが多い。

いつかパリの科学技術史博物館を訪れたとき、書庫に案内されて万国博の報告書や資料が、棚をぎっしりと埋めているのに一驚した。カードも別置されているほどである。だが考えてみると、パリは国内博にしろ万国博にしろ先進国である。1798年、早くもフランスは博覧会を国家事業として開催し、以後11回も開いている。1851年の世界最初のロンドン万国博は、これに刺激されて開かれた。そしてパリは徳川幕府が正式に参加した1867年を2回目として、1937年に至るまで、実に8回も万国博を開いた。

しかもパリはつねに万国博を機会として、都市の再開発を試み、新しい施設を付加してきた。これは一国の首都開発の手法として、まことに巧妙だったといわねばなるまい。78年にはギメの東洋美術の収集が展示され、やがてギメ博物館となる。ことしはエッフェル塔100年だが、これは89年のモニュメントであることは周知のこと。万国博史上最大といわれる1900年博覧会では、今も美術館として活動するグランパレ、プチパレのふたつが建てられた。また観光客が必ず訪れるトロカデロの巨大なテラスは、37年の万国博の折の建物である。それ以前はナポレオンⅠ世が建てた煉瓦造の宮殿であった。

これに対して、都市近郊の開発の前提として万国博を開くという手法も、よくとられた方向である。シカゴには世界的に有名な科学技術の博物館がある。石造の大規模のものだが、この建物は1893年の万国博に美術館として建てられた。

だがこうした都市の再開発と博覧会の有機的な対応関係というケースは、日本の場合にはほとんど見当たらない。しいていえば平安神宮を中心とする京都の岡崎地区だろうか。美術館や公会堂が集まるこの文化ゾーンは、明治28年の内国勧業博を契機として開発されたのである。

なぜ日本の博覧会は一過性の仮設的な空間として終わるのだろうか。それは博覧会が外来文化のひとつとされ、その形態やシステムのみが受容されたのによろう。日本の芸術分類は今もなお、1900年パリ博の分類にとらわれているほどだから。そして一方、内容については、伝統的な祭りや縁日のあり方を受けついだのであった。ランカイ屋といわれる仕事師が生まれた所以である。では、ことしは果たして新しい都市開発の布石としての博覧会が生まれるかどうか、地方博ブームのなかでわたしはそんなことを考えている。

（よしだ　みつくに　京都大学名誉教授）

社会の動きと博覧会'67～

あの頃、あんなことがあった…

平成元年度に市制100周年を迎える39都市とその記念博覧会

地方	都市	記念博覧会の名称	会期
東北	1．弘前		
	2．秋田		
	3．盛岡		
	4．山形	おみやげ・ザ・ワールド山形100フェスティバル	8．3～8.20
	5．米沢		
	6．仙台	第7回全国都市緑化せんだいフェア（'89グリーンフェアせんだい）	7.29～10.16
関東	7．水戸		
	8．東京		
	9．横浜	横浜博覧会（YES'89）	3.25～10.1
中部	10．新潟	'89新潟食と緑の博覧会（ナイスふーど新潟'89）	7.14～9．3
	11．甲府	甲府博覧会（こうふ博）	9.15～11.12
	12．静岡	静岡駿府博覧会（SUNPU博89）	3.18～5.21
	13．富山		
	14．高岡		
	15．金沢		
	16．福井		
	17．岐阜		
	18．名古屋	世界デザイン博覧会	7.15～11.26
近畿	19．津		
	20．京都		
	21．大阪		
	22．堺	ダッハらんど'89大阪	3.19～5.21
	23．和歌山		
	24．神戸		
	25．姫路	'89姫路シロトピア博	3.18～6．4
中国	26．岡山		
	27．鳥取	'89鳥取・世界おもちゃ博覧会	7.29～8.20
	28．松江	第21回全国菓子大博覧会（松江菓子博'89）	4.23～5.14
	29．広島	'89海と島の博覧会・ひろしま	7.8～10.29
	30．下関		
四国	31．徳島		
	32．高知		
	33．松山		
九州	34．福岡	アジア太平洋博覧会－福岡博'89（よかトピア）	3.17～9．3
	35．久留米	世界つつじまつり'89くるめ	4．8～4.30
	36．佐賀		
	37．長崎		
	38．熊本		
	39．鹿児島	サザンピア21	3.16～5.14

✱ 市制100周年記念博覧会を開催する15都市

○ その他の市制100周年都市

（番号は表に対応）

市制100周年都市MAP



参考資料
1．寺下勁編「博覧会強記」（エキスプラン）
2．朝日新聞1989年3月17日夕刊

1970
- 67 ●モントリオール万博（カナダ）
- 68 ●霞ケ関ビル
- ●メキシコオリンピック
- ●3億円事件
- 69 ●アポロ11号月面着陸
- 70 ●歩行者天国スタート
- 71 ●ドルショック
- 70 ●大阪万博（大阪）

1975
- 72 ●札幌オリンピック
- ●ミュンヘンオリンピック
- 72 ●岡山交通博（岡山）
- 73 ●オイルショック
- 73 ●日本海博（石川）
- 74 ●GNPマイナス成長
- 75 ●沖縄海洋博（沖縄）
- ●福岡大博覧会（福岡）
- 75 ●山陽新幹線全通
- 76 ●モントリオールオリンピック
- 77 ●ニューヨーク大停電
- ●王貞治756号ホームラン

1980
- 78 ●宇宙大博覧会（東京）
- 78 ●成田空港開店
- 79 ●瀬戸内2001大博覧会（岡山）
- 79 ●車の免許保有者4000万人
- 80 ●ワープロ発売
- 81 ●スペースシャトル打ち上げ
- ●モスクワオリンピック
- 81 ●ポートピア'81（兵庫）
- ●仁尾太陽博（香川）
- 82 ●北海道博（北海道）
- 82 ●500円硬貨
- 83 ●新潟博（新潟）
- 83 ●東京ディズニーランド
- ●大阪城博（大阪）
- 84 ●ロサンゼルスオリンピック
- 84 ●国際伝統工芸博（京都）

1985
- 85 ●NTTスタート
- ●新札発行
- 85 ●つくば科学技術博（茨城）
- ●KOBEグリーンエキスポ'85（兵庫）
- 86 ●伊豆大島三原山大噴火
- 87 ●'87世界古城博（滋賀）
- ●天王寺博（大阪）
- 88 ●ならシルクロード博（奈良）
- ●瀬戸大橋博（岡山・香川）
- 88 ●青函トンネル・瀬戸大橋
- 89 ●アジア太平洋博（福岡）
- ●横浜博覧会（神奈川）
- 89 ●新元号・平成
- ●ソウルオリンピック

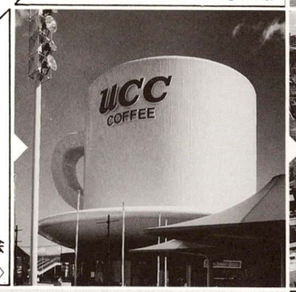
1990
- 90 ○国際花と緑の博覧会（大阪）
- 93 ○世界祝祭博（三重）
- 94 ○関西新空港記念航空博（大阪）
- ○平安遷都1200年記念京都博（京都）
- 98 ○明石海峡博（兵庫）



国際花と緑の博覧会
〈都市・花・文化〉



科学万博－つくば'85
〈人間・居住・環境と科学技術〉



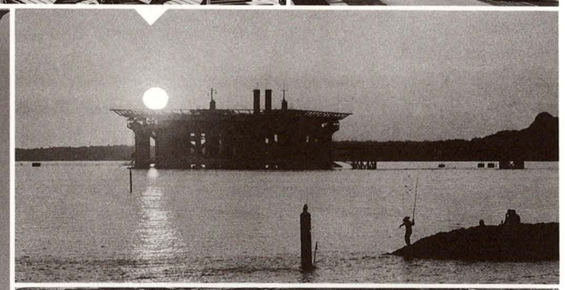


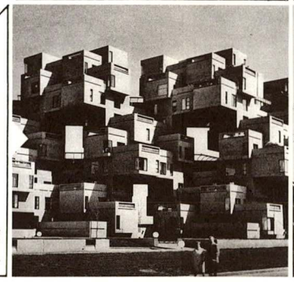
神戸ポートアイランド博覧会
〈新しい〝海の文化都市〟の創造〉

沖縄国際海洋博覧会
〈海－その望ましい未来〉



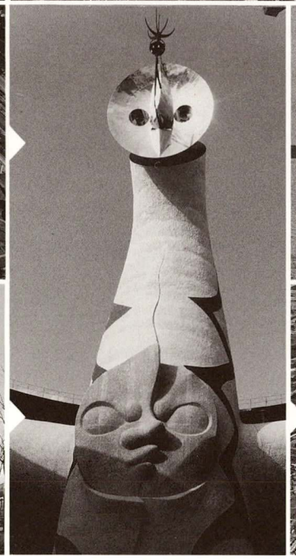
日本万国博覧会
〈人類の進歩と調和〉

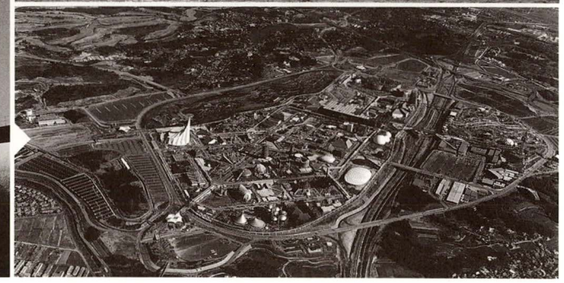






モントリオール万国博覧会
〈人間とその世界〉















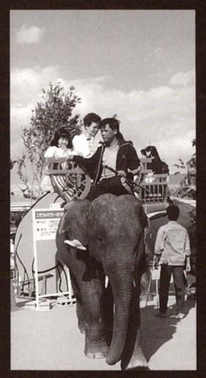


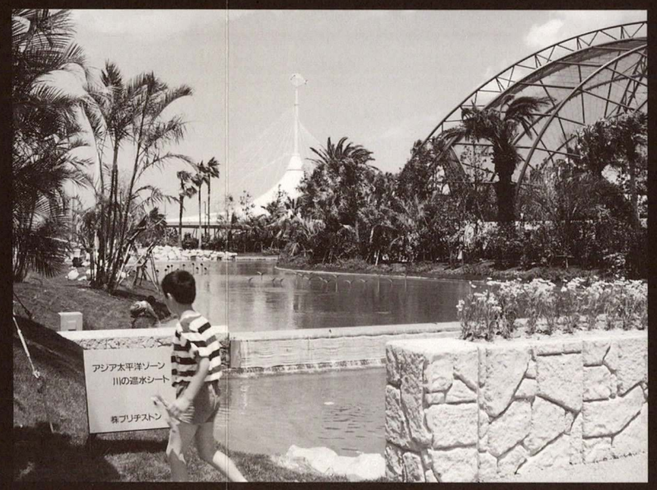




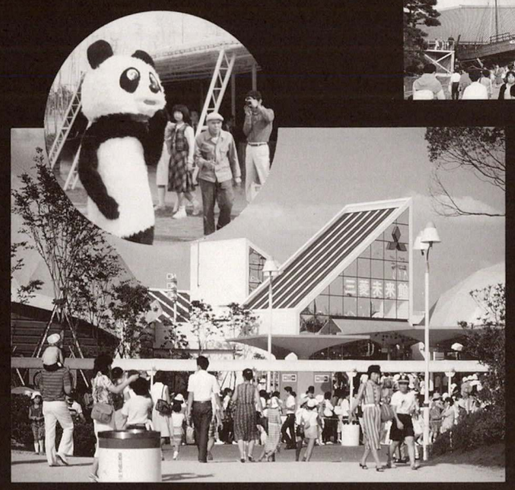












博覧会、人、その表情

博覧会と美術

今井祝雄

現代美術にたずさわっている私にとって、博覧会といえば、その歴史のなかでつぎのような事例いや〝事件〟が思い浮かぶ。

1895年（明治28年）、京都・岡崎公園で開かれた第4回内国勧業博に、黒田清輝の裸体画『朝妝』が陳列され、社会的な風紀問題となった。くだって1937年（昭和12年）、〈近代生活における芸術と技術〉をテーマに掲げたパリ万博のスペイン館で、フランコ政権への怒りを描いたピカソの大壁画『ゲルニカ』が展示され、「ショックを受けた」ボーボワールをはじめ世界の人々の関心を呼んだ。いずれも当時現役の芸術家による自発的な作品が、美術館やギャラリーでなく博覧会において社会に大きな波紋を投げかけたのである。

博覧会と美術の関わりはきわめて深い。日本語の「美術」ということばそのものも、実は明治政府が列強の万国博に初めて公式参加した1873年（明治6年）のウィーン万博の折、西欧語のArt, Kunstの翻訳語として造られたのである。その4年後の1877年(明治10年)、東京・上野公園で催された第1回内国勧業博に、本邦初の「美術館」と称したパビリオンが誕生、博覧会の要として機能したという。

美術の語を生むきっかけとなり、美術館の発祥ともなった博覧会が、かつて同時代の芸術の舞台として、その変革と発展に深く関わりながら、当時の社会の文化をリードしていた事実を忘れることはできない。

博覧会が当初、世界の窓口であり〝ハレ〟の空間でもあった時代と、遊園地や文化施設が各地に普及した今日の情報化社会とでは、博覧会の意味も異なってきてはいる。だが、近年の博覧会が今ひとつおもしろくないといわれるのはどうしてだろう。

その大きな理由に、かつての博覧会に見受けられた文化的インパクトの欠如を挙げることができるだろう。加えて、経済効果を追い過ぎる多催博の多くに見られる、「文化」の掛け声の大きさとは裏腹な、ファースト・フードのごとき内容の画一化。いうまでもなく、独自性＝独創性のない文化などあり得ないのである。

ところで、博覧会が地域や社会にもたらすものとは何か。経済効果はともかく、文化の活性化や人的交流は形や数字で計れないけれど、一過性の催しで幕が降りて残されたモノから評価することも可能だろう。

3年前、尼崎市で市制70周年を記念して、地元の産業・歴史・文化の展示と娯楽施設からなるミニ博「'86フェスティバルあまがさき」が行われたが、開幕式の日、会場横の広場でひとつのモニュメントが併せて除幕された。

尼崎の重工業を象徴する巨大な鋼管で彫刻家・榎忠がつくった型破りなこのプレイ・スカルプチャー『AMA･MAMA』は、跡形もなくなった会場跡の記念公園に唯一残るものだ。小さな博覧会が残した大きな都市彫刻。今日も鉄パイプに子どもたちの歓声が響いているにちがいない。



（いまい のりお 造形作家）

地方博の演出精神

福井　尚

博覧会はおそらくおいしいビジネスなのだろう。その証拠に、今国内いたるところで過熱気味といっていいほどの地方博ブームがある。北海道の82億円の赤字を出した「世界・食の祭典」の悪夢があったにせよ、その後、そのような話を聞かないところをみると、まずはビジネス順調ということなのだろう。関西でもオランダ博（大阪・堺市）やシロトピア博（兵庫・姫路市）などは動員目標もクリアして黒字計上ということになった。

表面的には自治体商法の成功とみられるが、その実態は世界に冠たる日本の広告代理店の成功というべきなのだろう。そうだとすれば、当の自治体には、肝心の博覧会ビジネスのソフトウェア部分は素通りして、ノウハウの蓄積とならなかったことになる。黒字計上という成功も結局は、関係するところに広く利益をふるまった後の、残りがたまたま自治体にも回ってきた、といえなくもない。

最近の地方博ブームについて、こんな嫌味をつい言いたくなるのも、そのあまりにも経済主義的発想のためだ。黒字計上の至上命令のために、入場チケットの前売りの強引（？）セールスに奔走し、精力の大半を傾けるという構図は、やはり、どこかちがうのではないか。

そうだとすれば、やがて消えて跡形もなくなる一夜のイベントの宿命のようなものを、あまりにも従順に信じ込んでいるのでないか。確かに、地方博が提供しうるアミューズメントは、おのずと種類が限定されている。パビリオンと遊園地機能。それだけで優劣を競うなら、東京ディズニーランドにはかなわないだろうという気がする。だから、と唐突にいってしまえば、地方博には全体を統括する演出家の独創的な力技が必要で、地方博のテーマと東京ディズニーランドが具現しているアミューズメントをいかに結びつけるか。地方博はもっと独創的にやればできるはずなのに、そのために人材を十分配置する努力がまだ足りないような気がする。

最近はイベント業界でも、イベントの巨大化が進み、企業からの多額の協賛金という〝リスク保険〟がなければ、興行がおぼつかない状況だが、地方博を取り巻く状況はまさにそれだ。いくつかの地方博があまりにも演出手法が似通いすぎて、単なる焼き直しと思いちがいを起こさせそうでもある。アミューズメントの質はもっと考慮されるべき課題で、博覧会にはもっとドラマ性を期待したい。

現在の地方博が市制100周年記念と銘打っている以上、また来年アンコール上演とはいかない性格のものだろう。しかし、ここで都市の活性化を云々するなら、地方博の持つ要素のいずれかでも年々継続させる努力が必要だ。そしてその継続の中から、都市の個性を発揮していけばいい。活性化は息の長い事業で、地方博という共通体験を持った市民の数の多少で、幻想を抱くのは、あまりに安易といわれかねないだろう。興行的成功を唯一の目標としてほしくない、という気持ちからすれば、地方博において、もっとアミューズメントの質を追求してほしい。そして、いわばその都市の、市民のもてなし方の哲学を表現してほしい。おそらく市民の感じる都市の個性はそんなところから顔をのぞかせるのではないかと思う。

（ふくい たかし　毎日新聞記者）

地方博におもう

沖　　始

◇主体者の事情

私はこれまで博覧会というものを事業主体者の側から見る機会が多かった。そうしたことから、博覧会を創る立場で述べてみようと思う。博覧会は良きにつけ悪しきにつけニュースになりやすい。主催者にとって、告知効果の高い新聞記事やテレビ・ラジオ放送などに取り上げられるのは、たいへん有り難いものである。反対に、事故や不手際などといったことを取り上げられるのは、有り難くない。昨年の博覧会ニュースでは、「金太郎飴」「観客の不入り」「赤字収支」などというのが多かった。

そうしたニュースはみな真実をとらえているのであるが、その源泉はあまり報じられていない。

◇金太郎飴

博覧会はもともと産業振興の目的で開催され、そのテーマはきわめて明確だったという。国際博は「人類のあらゆる功績」を対象にした第一種の博覧会と「部分的な功績」を対象にした第二種博覧会とに区別されている。それを国際的な機関がコントロールしている関係上、わが国では、国際博については専門博としての形態が比較的に保たれているものの、いわゆる地方博では「ミニ万博」の形態が多いといわれている。それは、つぎの理由によるものと考えられる。

専門博はその専門とするカテゴリーに興味をもたない人を呼べないし、こども博では平日のお客様は期待できない。そこで、日本人の知識の中にある「大阪万博」の方向であれば観客の偏向がなく安全だろうということになる。人の多さを成否の尺度とするマスコミや世間の評価を気にするあまりに、人集めが目的となって結局、博覧会ではなく「お祭り」のスタイルになってしまうのであろう。

◇収支の赤字

イベントは目的をもって開かれる。したがって「その目的が計画予算内で果たせたか」が問題なのである。予算内で目的を果たしてこそ成功といえるのであろうが、「目的は果たさなかったが黒字になった」ということよりも「目的は果たしたが赤字になった」ということの方がより評価されるべきであろう。ところが世間では「お金が儲かったら成功」という風潮がある。

しかし、今年になってからマスコミの評価のしかたに変化がみられ、好ましい方向になりはじめたことに気付く。

◇馬鹿のひとつおぼえ

このところ地方自治体の100周年事業として、全国的に博覧会が開かれている。「他に方法はないの？」という声をよく聴く。しかし、初めてという地域の行政側にとって、博覧会もしくは類似のイベントは格好の事業で、むしろ世間の批判ははなはだ迷惑であり浅慮であるとさえ思いたくもなる。

博覧会が周到に準備された事業であれば、それに投じられる資金規模の割合から考えれば効果的な施策になりうる。反対に「他に何があるの？」と聞きたくもなろう。批判する方の側は「一過性でないものを」というが、現代の（多様化社会での）人材育成の方法として、博覧会は格好の事業であるという見方もある。

◇インセンティブ

地方博というものを深く研究すれば、新しいまちづくりの要件をつぎつぎに発見できる……という仮説を信じれば博覧会の考え方も変わってくるのではあるまいか。

（おき　はじめ　株式会社沖始都市環境科学研究所所長）

地域に見合った規模で…

寺下　勅

博覧会をめぐるマスコミの報道も何かと賑やかである。

年号も「平成」、経済も順調といわれ，平和の象徴のように博覧会が開かれる。結構なことである。昨年に引き続き今年も10件以上の博覧会があるが、多催だ、乱催だ、と、かしましい。

博覧会の歴史を繙くと、昭和３年などは38件もの博覧会が全国各地で開かれている。時代は大正から昭和への時期で、今と状況が似ている。博覧会は計画から開催までに２年～３年はかかる。改元してもすぐというわけにはいかない、３年というのがその開催時期に当たるわけである。改元による天皇即位の大礼を祝うイベントとして一斉に開かれたものである。

それにしても今のように地域の活性化のためとかいうような謳い文句よりも、とにかく新しい時代になったことと天皇即位を素直に喜んでの開催である。いうなれば、開かれるべくして開かれたのである。

今日の博覧会は、昭和から平成へ時代が変わったことを喜ぶより、地方自治体主催の市制百年記念のイベントとして、また、21世紀を目前に地域おこしのてだてとしての開催であるが、当時は時代背景も違うし、情報化も進んでいないから、地域だけのおまつりで、文字通りの「地方博」であった。今のように目にカドをたてて入場者数を争うとか、成功だ、失敗だと騒ぐこともなかった。

それにひきかえ今日の博覧会は余りにも「興行化」しすぎている。入場者が目標の動員数より多かったから成功だとか、いくら儲かったとか、「数の論理」ばかりが優先されている。

博覧会は興業でないのだからもっとゆとりをもって開くべきであ

表１　1988年地方博／動員目標と実績

名　　称	会　　期	動員目標（万人）	実　績（人）
'88さいたま博覧会	3／19－5／29	200	2,508,000
瀬戸大橋博／岡山	3／20－8／31	300	2,961,957
瀬戸大橋博／四国	3／20－8／31	300	3,374,696
れいほく高速博	3／25－5／8	20	203,000
ホロンピア'88公園都市博	4／17－11／8	100	1,066,388
ならシルクロード博	4／24－10／23	660	6,818,833
世界・食の祭典	6／3－10／30	400	1,758,833
十勝海洋博覧会	7／2－9／4	50	405,000
ぎふ中部未来博	7／8－9／18	250	4,075,000
青函博／函館	7／9－9／18	150	1,204,600
青函博／青森	7／9－9／18	130	1,471,000
静岡'88国際姉妹都市博	9／31－8／14	40	277,000
食と緑の博覧会／いしかわ	9／22－10／30	50	550,057
飛騨高山　食と緑の博覧会	9／23－10／30	50	701,541
ホロンピア　食と緑の博覧会	9／23－11／6	25	364,117
食と緑の博覧会　とちぎ	9／30－11／6	60	667,027
緑・花・祭なごや	9／30－11／23	100	859,156
	合　計	2,885	28,861,181

表2　1989年3月より開催の地方博の現状（5月14日現在）

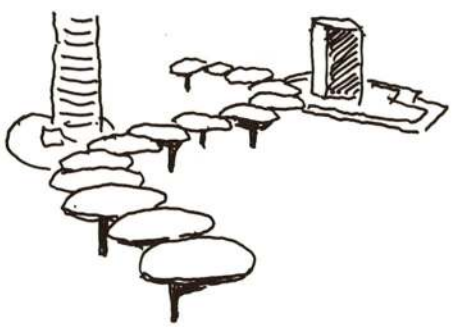
名称 会期（日数）	目標 （万人）	5／14現在 実績（人）	1日平均（人） 入場者目標	1日平均（人） 入場者数実績	
前半開催の分					
サザンピア21 3／16～5／14（60日間）	75	880,000	12,500	14,700	⊕
アジア太平洋博覧会 3／17～9／3（171日間）	700	2,126,351	41,000	36,000	⊖
すんぶ博'89 3／18～5／21（65日間）	100	943,009	15,000	16,300	⊕
姫路シロトピア博 3／18～6／4（79日間）	100	1,093,078	12,700	18,800	⊕
ダッハらんど'89大阪 3／19～5／21（64日間）	50	838,582	7,800	14,700	⊕
横浜博覧会 3／25～10／1（191日間）	1,500	2,882,899	78,500	56,500	⊖
世界つつじまつり 4／8～4／30（23日間）	40	828,000	17,400	36,000	⊕
全国菓子大博覧会／松江 4／23～5／14（22日間）	50	730,212	22,800	33,200	⊕
'89食博覧会／大阪 4／28～5／7（10日間）	40	529,200	40,000	52,900	⊕
前半・計	2,655	10,023,331	247,700	279,100	
●世界つつじまつりは「入場無料」であるが数字に算入 ●「サザンピア21」は5／14までのアバウト数字					
後半開催の分					
海と島の博覧会／ひろしま 7／8～10／29（114日間）	350		39,000		
ナイスふーど新潟'89 7／14～9／3（52日間）	100		47,600		
世界デザイン博 7／15～11／26（135日間）	600		44,400		
鳥取・世界おもちゃ博 7／29～8／20（23日間）	30		13,000		
グリーンフェアせんだい 7／29～10／16（80日間）	100		12,500		
甲府博 9／15～11／12（59日間）	50		8,500		
後半・計	1,230		156,000		
合計	3,885				

る。仮に市制百年を祝うのであれば、今年、久留米の「世界つつじまつり」が入場無料としたように、地域住民とともに百年を歩んだお礼として、もっと無料招待の博覧会があってもよい。

昨年は北海道の「食の祭典」のような大誤算もあったが、動員目標全体としてはピッタリの実績であった（**表1**）。今年は、昨年より開催件数は4件少ないが、動員目標は「横浜博」1,500万人を筆頭に、大型博3件で全体の70%もが占められている（**表2**）。

今年前半の博覧会の動きを数字でみると、それらの大規模博は苦戦を強いられ、中小規模博はすべて目標を突破し、なかには倍に近い入場者をみているところもある。この表は私が調べたもので、5月14日までの分をまとめた。

（てらした　つよし　博覧会研究家・博覧会研究協会事務局長）



地方博の赤信号「なぜ」

諸岡博熊

昭和は文明、平成は文化の時代といわれるのに、なぜ、文明が先走るのだろうか。文化競争の場・地方博へ十の疑問。

(1)　主催者の幹部クラスがほとんど男性で占められ、男性型の発想で企画、運営。女性上位型の発想では、豊かさをどのように自分の生きがい、幸福に役立てていくかといった欲求充足が中心だ。なぜ、繊細な感覚、感性、思いやり、気配りなどといった要素が欠落しているのか。

(2)　かつてのモノの増幅システムを中心とした工業化社会での平等主義は、その効果を発揮してきた。いまや、情報化社会。個性の差が情報の差を生みだす、個性化の時代といわれる。なぜ、個性がないのか。全国どこを切っても金太郎アメ。

(3)　博覧会とは、非日常の世界を現出し、大衆に娯楽を提供するもの。一体、会場のどこが非日常か。ハレとケの境界があいまいな今日、非日常を求める人々に、なぜ、白々しく映るのだろうか。

(4)　どこの博覧会でもマンネリ映像ショー。つくば万博の焼き直し。一方的コミュニケーションの押し付け。入館したい人が外にあふれ、いかにも人気館らしい雰囲気。なぜ、双方向で人々に楽しんでもらう工夫がないのか。

(5)　あいかわらず大量生産、大量消費の悪い癖が残っている。観客をマスで処理している。ひとりひとりの観客への気配りが欠落している。ひとりひとりを退屈させない、疲れさせない、楽しませるといった視点なし。集団主義が、ひとりひとりへの配慮を欠く要因となっている。なぜ、もてなしの心がないのか。

(6)　派手なパビリオン群、チャチなテント構造物。その上、色彩感覚を疑われるような美意識の欠落。なんとかならないものか。いま、われわれの生活に欠けている「美」について考慮してもらいたい。なぜ、強烈な個性のあるアートディレクターにひとつの世界をつくらせないのか。

(7)　博覧会のゲートで、入場者にプリペイドカードの使用を強制し、その側にコンパニオンがいる。相変わらずの効率主義、合理主義の考えが、ヒューマンウエアを大切にすべき博覧会の中で生きている。なぜ、観客を人間らしく取り扱えないのか。

(8)　国際性を唱えているが、海外の文物を紹介することでお茶を濁している。国際協調の視点や精神が、なぜ、内包されていないのか。

(9)　時代の先端をチョッピリ見せて人々に活力を与えるのが、博覧会。ところが、豊かで、質の高い生活を営むノウハウといった情報の提供に欠けているのは、なぜだろうか。

(10)　博覧会では、新しいライフスタイルの提案や新しいサービスシステムの開発が行われ、新しい文化が創造されていくべきである。そして、生活大国・日本から、これらの新しい文化を輸出しなければならない。発想の転換を望みたいが、なぜ、新しい文化が創られないのか。

（もろおか　ひろくま　UCCコーヒー博物館館長）



地方博よ、改造論をふっきれ

福島靖夫

知人が自らクルマを運転して九州に行ってきたという。「よかトピア（アジア太平洋博）にでも？それとも、平和台球場でダイエー・ホークスの応援？」

ときくと、「いや、隣のヨシノガリ」という返事である。邪馬台国論争をいっそう熱っぽくしている話題の遺跡とはいえ、古代史より儲け話の方が好きだとばかり思っていた男が、わざわざ関西から佐賀県までででかけたというのは、意外だった。

「儲けのネタは、ヨシノガリより、よかトピアのほうによけいころがっているんじゃないの」

と、さっそく冷やかしたら、彼はテレながら言った。「ま、それなりに、想像力をかきたててきた。汗をかきかき博覧会の会場を走り回るより、あの遺跡をどうすべきか、といったことをのんびり考えるほうが、おもろいぜ」

よかトピアがスタートしてまもなく、博覧会の入場者数に負けないほどの人が吉野ケ里遺跡周辺につめかけた、という記事を新聞で読んだ。知人のような遺跡ウォッチャーが全国から集まれば、さもありなんと思う。博覧会の関係者は、ほっといてもにぎわうヨシノガリを横目に、人を集める難しさを実感したはずである。

博覧会の成否を、入場者数で判断するのは性急だというむきもあるだろうが、さりとて人のゆかない博覧会に存在意義があるとは、思えない。引き合いに出されるのはあの札幌博だが、80億円の赤字と聞けば、博覧会そのものへの認識を大きく変える必要があるのではないか、とも思う。われわれは、1970年の大阪万国博の栄光を、いまだに忘れかねているのではあるまいか。

1970年は、衝撃的な事件がいくつも起こった年でもある。「よど号」ハイジャック事件があり、大阪の地下鉄工事現場の大爆発で多くの犠牲者がでた。そして三島由紀夫が東京の陸上自衛隊総監部に乱入した。いま振り返ると、こうした事件の後景にＥＸＰＯ'70があったという印象がある。パンパクは大阪の町を大きく変えた、と当時は感じたが、いまは、時代のエネルギーが大阪を変え、あの博覧会を開かせたとしか思えない。個人的なパンパク体験は年々、うすれてきたが、会場のいたるところにできた長い、長い「行列」は、そのエネルギーの象徴だった気がして、いま振り返っても感動的だ。アイスクリーム屋の行列はできても、あの時のような禁欲的な行列は、もう決してできないだろう。

地方博の思想は、つまるところ、あの列島改造論にたどりつく。これからの博覧会が魅力的になるには、この改造論とふっきれたところからの発想が必要だろう。だから案外、福岡や横浜以外の博覧会におもしろいものがあるかもしれない。いや、いっそ、このさい、ヨシノガリ博というのはいかがだろう。

遺跡を中心にした大公園化計画を立て、ささやかな博覧会を開くのである。博覧会にはおなじみの視覚メディアをフルにつかった古代再現パビリオンなどもおもしろそうだ。もちろん、入場料は保存のためにつかってもらいたい。もし、こんなイベントが実現したら、大阪からでも、ぜひでかけてみたいと思う。

（ふくしま　やすお　産經新聞社〈大阪〉文化部長）

地方の博覧会考

古林敏郎

博覧会の実態

地方の活性化や地域の掘り起こしが各地方自治体において叫ばれているが、日本列島の南から北の果てまで、同じようなイベントで、同じような宣伝合戦で、同じようなスポンサーのもとで、地方自治体主催型のまたは後押し型（第３セクター設立による）の博覧会が、昨今数多く催されている。

各地域の特色づくりのもとに、技術革新の成果、産業製品の展示、地域社会の歴史などを踏まえたこれらの地方博は、多くの人々の協力なくては成りたたないわけで、地域の大きなイベントであり、マスコミなどに大きなニュースとして取り上げられ関心を持たれていることは周知の通りである。

国家的な博覧会として、大阪の万国博、沖縄海洋博、つくば科学博などが記憶に新しいところであり、来年は国際花と緑の博覧会に向けて関係者が努力されている。これらの国家的なビッグイベントとしてではなく、もっと身近な生活に直結したと言えば大げさかも知れないが、さまざまな体験を経て伝統や伝承として残っている風土や様式を博覧会のテーマとして歴史博を催すとか、交通博、民俗博等々を企画すること、すなわち日常の生活のなかに育まれた事実を踏まえて、将来への夢を託することは、いつの時代においても博覧会の基本的理念であり、理想でなければならないと思う。そして、この将来の夢や希望が、子供や大人に興味を持たせアピールするものでないと、人も集まって来ない。

中国地方でも'89海と島の博覧会（広島）、第21回全国菓子大博覧会（松江市）、'89鳥取世界おもちゃ博覧会（鳥取市）が催されるが、これらはいずれも市制施行100周年とか、築城400周年とか大きな節目の記念事業としてのものである。

博覧会への期待

博覧会は一定期間のイベントであるので、第一に、人間形成の場として創造や感性豊かなものであり、第二に人づくり、産業起こしとしての起爆剤、活性剤となり地域起こしに繋がり、現実社会のなかで生きづくものでなければならないと思う。



'89海と島の博覧会・ひろしま（1989年７月８日～10月29日）―日本最古の洋式ドッグ（広島県倉橋島）で復元建造中の遣唐使船―

地方博覧会が残すもの

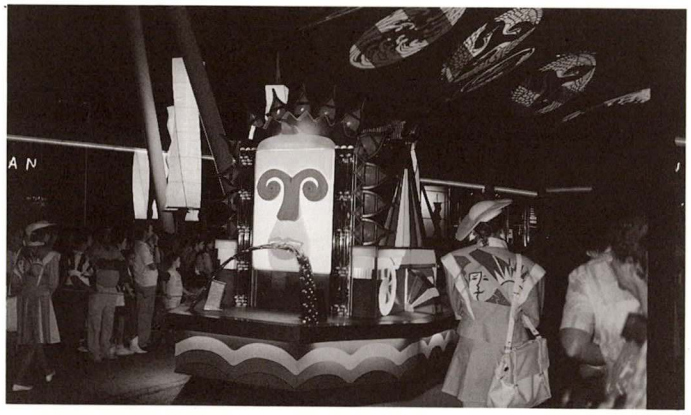
難波哲明

各地で地方博ブームが続く中、そのあり方、意義が問われ始めている。博覧会とは、手段であって開催が目的であってはならないはずだ。博覧会という業務を部分的ではあるが手掛けた立場として思うことは、基本構想段階では大変大切にされていた地域のアイデンティティが、会期が近づくにつれ開催することに意義をもたせてしまう傾向が部分的にせよ現れてくることだ。それでは、地域の活性化をねらっているはずの博覧会・イベントの最も大切な部分が見失われてしまうのではないだろうか。

地方博とは、「未来における地域のあり方を、地域住民に対してプレゼンテーションする場」と定義づけてはどうであろう。地方博における最も大切な部分とは、イベントを通じ培ったノウハウや情報を、地域の本当の目的へと導いてくれる人材の育成にある。

たとえば国際化をねらった博覧会であれば、〝地域がどう変わった状態を国際化された社会というか〟というポイントを、明確に基本構想段階で練り上げ、博覧会では地域住民に理解しやすくプレゼンテーションし、そして終了後、具現化していくのである。その博覧会の準備や推進、実施期間を通じて、関係者が交わる国内外のさまざまな人々、人脈、手法、そして膨大な情報……。このストックされた情報こそが、テーマを具体化する上で最も重要であることに関しては、何人も否定することはないであろう。

つまり、何が大切かは〝博覧会が終わった後、何を残すか〟なのである。そして、残すものは〝人材〟である。博覧会の終了後、地域に人材を残し、その人材が活動しやすいシステムを残せば、地域の考える方向性を見失うことなく、活性化につながるのではないだろうか。もちろん、記念としてのモニュメントを残すことも大変重要であるが、長期的な視点でとらえた場合、〝人材を残す〟のが最も重要であるはずだ。





1988年国際レジャー博覧会（オーストラリアクィーンズランド州ブリスベン市で開催）　1988年4月30日～10月30日（184日間）
テーマ／技術時代におけるレジャー　会場面積／約40ha　参加国／36カ国、2国際機関、14自治体、26民間企業・団体　有料入場者数／15,774,476人

そういう意味で、来年、大阪で開催が予定されている「花と緑の博覧会」は、今後の行政機関が主催する博覧会・イベントの形を変える契機と言えるのではないだろうか。地域住民の知的レベル・嗜好が多様化してしまった現在、従来通りのプレゼンテーションでは理解されにくくなるため、地域住民のコンセンサスを得やすいプレゼンテーションの手法が登場、もしくは造り出されていくはずである。

方向性としては、すでに述べたマーケット（地域住民）の多様化にともなってのセグメントが大きな要素になりそうだ。民間企業の商品戦略においても多品種少量生産が行われて久しいが、博覧会に代表される地域イベントの企画・実施においても、地域の方向性をセグメントされたターゲットに向けてプレゼンテーションするといった方向がより鮮明になっていくのではなかろうか。

ただ、いずれにしても〝人材の育成〟という大きな目的と意義を見失わないでほしいものである。

（なんば　てつあき　株式会社ジェイコム課長）

夢や創造力の結集、人と人との和、人と人とのふれあいは、いずれもコミュニケーションそのものである。

情報化社会として発達した今日、かえって、私達の周辺は東京発の一極主義より、地方発のニュースこそ新鮮なものであり、新しい時代の求めではないかと思われるけれども、人の集まる施設や物が集積される場所等、交通の拠点等から考察すれば都会中心となるのはやむを得ないことであろう。

さらに、これらのイベントができる企業となると、大企業でないと参加できないかも知れないが、地方博は、その地方にしかない出し物、その地域で産出した材料によって造られた品物・施設・造営等を、展示の大きな目玉として、イベント起こしに繋がりを求めなければならない。そして、参加者と主催者が、また設営地の住民とが連帯意識のもとに一体感を持たなければ、地域の向上にも役立たないのではないかと思われる。

このような背景のもとに博覧会を開催することは大変な事業であるが、経済観念を無視するわけにもいかず、開催すれば大成功という保証もない。開催担当者には、昼夜をわかたずパフォーマンスを求め、住民参加、企業参加のできる楽しいステージを造っていただきたい。参加者全員が声高らかに地域文化を語り、街づくりを語り、地域の連帯の絆が一層深まることによって、21世紀に向かってのロマンを持ち続ける人間性豊かな社会づくりになることを期待したい。

（こばやし　としろう　日本建築協会中国支部副支部長・広島県都市局次長）



国際都市形成のシミュラークル

滝本みつる

「ダッハらんど'89大阪」は、大阪府、大阪市、堺市、大阪21世紀協会、関西日蘭協会などが主催し、日蘭修好380周年記念事業として開催されたものである。すでに80万人余の人々が来場し（目標50万人）、きょうも堺市大仙公園の会場は、熱気の中にある。五つあるゾーンのうち「そのまんまオランダ」と名付けられるゾーンを中心に、その構想を、当特集のテーマにそって述べてみたい。

このゾーンの改札ゲートを入ると、そこはオランダそのまんまの街角が再現されている。中央の広場では、ストリートオルガンが鳴り、オランダの木靴職人が来場の女性と木靴をはいてダンスを踊っている。ロッテルダム市館の一段高いエントランスデッキの上では、港町ロッテルダムを象徴するキャプテン姿のヒゲのエッハ氏が、入場者とかわるがわる肩を組んで、写真におさまっている。これらのスキンシップは、会場を渡る風のように自然に、交流体験を生みだしている。さらに圧巻は、広場を取りまく10数軒の店舗だ。これらの店では、ライデン大学、エラスムス大学の日本学科に属する男女学生26人が売場にたって、オランダの特産品を売っている。入場者は、外国語ができなくても、買い物を介して、容易に交流体験ができる仕組みだ。オランダ学生も、日本語を修得しながら、国際交流に貢献できる構成となっている。このゾーンには、ほかに大道芸人8人など、合わせて50名近いオランダ人が常駐している。われわれは、このゾーンを「平成の出島」と呼んでいる。

さて、この「出島」こそ、われわれが21世紀の国際都市形成のシミュラークルとしてイメージしたものである。その観点は一つには、過去の国と国との関わりの歴史の深い反省点にたって、二つには、関西国際空港の開港によって醸成されるであろう国際情報化都市から発信されるイメージによっている。

国と国との関わりの歴史は、長い間、不幸にして戦争の歴史であった。戦後は、それが経済におき替わりはしたが、わが国の高度成長は、ジャパンバッシングを招来している。これらの経緯は、今こそ国際交流は国や経済の威信によるのではなく、人間と人間とのホットなスキンシップによって支えられることこそが、いかに大切であるかを教えている。「ダッハ」は、オランダ語で「やあこんにちは、じゃあまたね」という親しみを込めた挨拶ことばである。「ダッハらんど」は、このような人間同士のホットな関わりからなる国際都市の新しい原点をシミュレートしたものである。

また、関西国際空港は、わが国最初で唯一の24時間空港であり、大阪が、世界から日本への表玄関となる巨大なインパクトを秘めている。開港によって空港に降りたつ外国人は、一日数千人を下らないとされる。大阪の街に多くの外国人が行き交う日は、そう遠くはない。「ダッハらんど」はまた、このような近未来の国際都市のイメージを触発することをめざしている。

「ダッハらんど」のテーマは、「ときめく・ひと・とき国際交流新時代」とうたっている。多数の市民が「ダッハらんど」で、ときめくひとときを過ごすことによって、国際交流の新時代を予感したとすれば、それは記憶のなかで時間とともに増幅され、新しい街づくりのエネルギーへと転化していくであろうことを確信している。

（5月記）

（たきもと みつる 株式会社朝日広告社大阪支社「ダッハらんど'89大阪」企画推進室）

ムーブメントとしての博覧会

由井　求

3年前の4月、「1989年に名古屋で世界デザイン博覧会を開催する」と発表したとき、さまざまな反響が巻き起こりました。「デザイン博をやろうなんてスゴイ！誰が言い出したの？そんな智恵者が名古屋にもいたのね」という歓迎派から、「デザイン博？そんな訳のわからないものをやってどうするの？」といった懐疑派まで。なかには、「名古屋がデザイン博をやろうなんて、すごいギャグですね」という感想を漏らした正直な著名人（東京の方ですが）もおられました。

しかし私どもは、物づくりの長い伝統と実績を持つ名古屋地区こそ、「デザインは21世紀へのキイワードだ！」と宣言するにふさわしい地域だと確信し、博覧会準備の過程を通じて〝デザインと市民生活〟、〝デザインと名古屋〟が密接なものと感じとってもらえる状況を創り出そうと、努力してまいりました。

堅実で実質本位、そして慎重な不言実行タイプだった名古屋が、そのとき以来、天下に挑戦目標を公言し、見られることを意識するようになったのです。10年近く前から、36路線169キロに及ぶ「緑道整備計画」の策定や「都市景観条例」の制定など、「道路の広い街・名古屋」から「道路の美しい街、楽しく歩ける街・名古屋」への脱皮をめざす努力は、始まっていましたが、世界デザイン博覧会は、それを大きく加速し、不動のものとしました。

世界デザイン博覧会は、名古屋城、白鳥、名古屋港という中心市街地内の三つの場所を会場として設定しました。このため、会場やその周辺の整備は直ちに市街地景観の向上につながり、しかも三会場であるだけに、特定地区の整備にとどまらず、街中にその波及効果を及ぼそうとしています。また、博覧会に直接関係のない事業の遂行においても、「デザイン博のホスト・シティにふさわしいものに」という意識が、行政・市民双方に広まりつつあります。

〝デザイン博効果〟は、こうしたハード面にとどまるものではありません。〝博覧会〟というイベントの素晴らしい点は、主催者だけでなく、夥しい数の企業・団体・市民が、その主体として参加する点にあります。デザイン博においても、約1,000の企業・団体と5万名もの市民が、展示や催事あるいはボランティア活動に参加しています。これらの人々は、私ども協会職員と同様に、「デザインというヒューマニズムに支えられた創造的な都市」づくりをめざすオーガナイザーなのです。

博覧会は、単なる興業ではありません。高い志のもとに、地域文化の向上に向けて人々を結集し、そしてその成功によって人々の確信とエネルギーを拡大再生産してゆくという壮大なムーブメントだと思います。

本年7月から11月にかけて名古屋で開催する「世界デザイン博覧会」へ、ぜひお越し下さい。

（ゆい　もとむ
財団法人世界デザイン博覧会協会事務局長）

会場建設の槌音は、名古屋城をとり囲む



コンパニオンの体験から

高橋京子

〝コンパニオンの目から見た、博覧会のまちづくりに与える影響〟という難しいテーマをいただきましたが、コンパニオンの日常の仕事を通しての感想を述べることで代えさせていただきます。

コンパニオンと言えば、スポットの当たる派手なイメージがありますが、日々の仕事として、パビリオンの案内、子供、老人、身障者への対応、館内の巡回、お落とし物のお預かり、救急の手あてなどがあげられます。博覧会に来られた方々と最前線で接する仕事ですから、博覧会そのものの内容が不十分であったり、最近の博覧会ブームで画一的な内容で面白みに欠ける場合などは，コンパニオンの親切な応対で、イメージがまた変わってくるものと思っております。コンパニオンとお客様の一対一のフェイス・トゥ・フェイスの交流によって、博覧会、さらにはその地方のイメージアップにつながるものと思います。逆に、博覧会が盛況であっても、コンパニオンの案内に誠意がない場合など、博覧会のイメージの低下につながることもあります。私どもコンパニオンは、その地方の代表者であるという自覚を持って、開催期間中努力を重ねております。

地域の活性化、イメージアップにつながる博覧会は、その十分な企画と潤滑油となるコンパニオン、スタッフが機関車の両輪となって機能することが大切だと思います。

私は、岡山瀬戸大橋博1988では、「瀬戸大橋テーマ館」で仕事をいたしました。このテーマ館では、瀬戸大橋の成り立ちを、瀬戸内海の自然の美しさと人工の橋梁構造物の調和という観点から、写真、映像を通して説明、ＰＲを行いました。また、イベント広場では、地域の踊りや特産物の紹介を積極的に行い、岡山の風土、慣習、文化を広くＰＲしておりました。

地域の活性化を考えるとき、博覧会を開催中の一時的な盛り上がり(?)に終わらせるのではなく、未来につながるようにすることが必要です。それには、地域特有の文化、風習を一層育成し、全国に情報発信するしかけをつくることが重要であると思います。博覧会では、各企業が花やかに企業イメージのアップを目指して、企画、演出を行っています。その中で、地味ですが、その地域特有の文化、風習を全国に知ってもらう演出づくりを、いかに行うかが、息の長い地域の活性化を考える上で大切であると思います。

博覧会の最前線で働いた者の立場から、とりとめもなく述べてまいりましたが、最後に、来年春、大阪で開かれる国際花と緑の博覧会が成功のうちに終わり、あわせて、大阪の文化、伝統を全世界の人々に知っていただき、大阪が一層活性化されることを期待して終わらせていただきます。

（たかはし　きょうこ　神戸グリーンエキスポ1985／岡山瀬戸大橋博1988コンパニオン）



博覧会未経験者の声

熊谷　信

「博覧会」をテーマとした文章を学生の立場で書いてほしい、とムリヤリ頼まれ、スカスカの頭を絞って何とか文章らしきものをひねり出そうと努力しているのだけれども、大変困った問題があることに気がついた。このような原稿をひきうけておいて、〝お前、そりゃないよ〟と殴られそうなくらい重大なことであるが、白状してしまう。

ぼくは今まで博覧会というものに行ったことがないのだ。1969年に生まれて20年、大阪の万博は記憶のカケラもない。小学校１年生の夏、沖縄海洋博はテレビで見たような気がする。その後のポートピア'81やつくば博はさすがに覚えているが、記憶から忘れ去られてしまった小さい博覧会がいったいどれほどあっただろうか。その中の一つとして行ったことがないというのも何となくハズカシイのだが、行かなかった人間なりに博覧会について考えてみよう。

今まで博覧会に行かなかったのはどうしてなのか？と聞かれたなら、「行きたいと思わなかったからだ」と、〝テメエ、オレをバカにしてやがんのか？〟的な答えをかえしたい。ではなぜ「おっ、こりゃ行きてーなー！」と思わなかったか？　その理由は三つある。

①　テレビや新聞で見る限りだが、常に混雑している。

②　小さい頃はおもしろそうだったが、何やらすべて子供向けのオモチャ、言い方をかえればお子様ランチのような企画が多い。

③　入場料に加え、中に入れば何やかんやと売りつけ、お金をまき上げようとする人がたくさんいそうでイヤだった。

何度も言うようだけれど、ぼくは一回も行ったことがないのである。もしまるっきり違っていたら、何デタラメいってやがるこのヤロ！とバカにしてもよろしい。でも、行かない人の多くは、ぼくと同じことを考えているにちがいない。

①の理由について。先日、旅行したついでに横浜博を見に行こうと思った。こんなエライ本に文章がのるということで、やっぱり一度くらいは見ておかねば、と考えたわけである。しかし新聞を見てその考えはあっさりとけしとんでしまった。ゴールデンウィークとあって家族連れでスキマのないほど混みあう会場の写真があった。開催者側にしてみれば死ぬほどうれしいのだろうが、行った人々は「コンチクショー」と思ったことだろう。なぜ、どうしてあんなに混雑するのか？何かいい方法はないものか？イヤミのようだが、ガラガラに空いている博覧会なら一度くらい行ってもいいような気がする。

②について。博覧会とは一体何をしているのか？マスコミを賑わすのは、コンピューターのショールームのようなパビリオンでゲームに熱中するガキ共をやさしく見守る親たち、というお決まりの風景である。③の問題もからめて考えると、企業の出展も当然のことなのだろうが、「一体何を見せようってんだ、この博覧会は？」行ったことないぼくはこう思っちゃうのである。

勝手なことをいろいろ書いたが、最後に一番言いたいことがとってあるのだ。「一度でいいから、空いていて、大人も楽しめて、料金も安い！」こういう博覧会をどこかでやってくれないかなあ？

（くまがい　まこと　大阪市立大学生活科学部学生）

ポートピア'81の180日

馬　祖祺

ポートピア'81の180日間の暮らしを思い出すたびに、私の心は、常に成功の喜びと友情の思い出に満ちあふれるのです。あの時の多種多様のパビリオンや押し寄せるような人波が、今でもはっきりと、目に浮かんできます。

ポートピア'81は大成功を収めた博覧会です。日本国内の約100企業と海外から35団体が参加し、27の国内館と5つの外国館から成っていました。〝天津パビリオン〟は35の外国館の中で最も大きく、唯一の獨立した外国館でした。1590㎡の展示場で、78種類、3538点の展示品、主として天津の伝統的な輸出商品と獨特の工藝品が陳列されました。最も観客の目を集めていたのは長さ10フィート、幅20フィートの〝万里長城〟の模様を織り込んだ大型の壁掛でした。そして、〝天津パビリオン〟と天津商品を中心とした即売場、および天津から来た16人のコックが腕を振るった料理を売る天津レストランは、ポートピア'81の西會場の中心となり、さらに、天津から特別に派遣されてきた二頭のパンダ〝蓉々〟、〝寨々〟は多くの観客をひきつけました。このポートピア'81の入場者は1600万人に達しましたが、天津館の入場者は700万人、パンダ館は1000万人の観客が入場しました。中国の即売品の売上は、30億円で、ポートピア'81全体の即売品の総売上（301億円）の十分の一を占めました。天津レストランの売上も4.4億円に達し、利用客は約5万人、1日平均約3000人に達したことは、本當に喜ばしいことでした。

ポートピア'81を通じて、神戸およびポートアイランドは、国の内外で、広く知られるようになったといえますし、天津館の出展のために、ポートピア'81期間中、中日友好ブームが高まったことはいうまでもありません。ある日本の友人はこう語っておりました。ポートピア'81に来て、天津館を見学し、長城の壁掛の前で写真を撮り、天津レストランで天津の食事を味わって、パンダも見て、それから、中国のお土産を買ってかえったことは、中国に行ったのと同じです。

私達は、ポートピア'81の期間中、日本の友人達と深い友情をむすびました。天津館の展示期間中、神戸市、兵庫県、博覧会協会および各団体、各界の友人達から真心のこもったご協力をいただきました。古い友人達はつねに暮らしぶりを聞きにきました。博覧会協会事務局の中国チームの友人も行き届いた面倒を見ました。交替で天津館につとめていたコンパニオンも、一生懸命に働きました。私達は友人達とよく交歓会を行って、自炊の食堂で餃子パーティーを楽しみました。日本の友人は、また私達を自宅にまねいて一般庶民の生活を味わわせて下さったこともあります。お互い兄弟のようなつきあいといえるでしょう。1981年9月15日、ポートピア'81閉幕交歓会では、日本の友人達と思うままに歌って、踊って、成功を祝いあいました。最後に別れるときは、なかなか別れ難く、涙を流す者も少なくありませんでした。その後、私は何回か神戸市を訪れた際、一緒に仕事をした友人達が集まって、ポートピア'81同窓会を行ったこともあります。その席で、あの時の生活をふりかえると非常に懐かしく、楽しく思われました。

ここで、特筆したいことがあります。第一は當時天津館の中国の国旗掲揚の任を負った警備員のことです。毎朝、彼らは私達から国旗を厳かにうけて、きちんと隊列を組んで、国旗掲揚場に向かいます。一人は国旗をかけますが、二人は敬礼を送ります。180日間、





ポートピア'81の日々

パンダ館(上)
国際展示場(中)
左よりダイエー館、兵庫県館(下)



毎日同じ手順で、同じ作業のくりかえしでしたが、常に真剣にやっていただいたことは、いまでも思い出すたびに、感動せずにはいられません。第二は、パンダのため、竹の葉の提供を担當された神戸市北区に住んで、竹屋を経営している辻元力夫妻のことです。半年の間に1300本の竹を切って、竹の葉をとって、一枚一枚検査して、パンダ館へ送り届けました。會期中、32回に分けて、総数量2トンを提供して下さいましたが、辻元様は痩せて、体重は7kgも減りました。辻元様のような普通の日本人が、黙々と真剣に仕事に取り組む精神が、ポートピア'81が成功裡に催された基盤になっていると私は、思っております。

今日の神戸ポートアイランドでは、現代的な産業ビルがつぎからつぎへと建築され、国際会議場、ホテル等が中心地に聳え、住宅、公園、バース、倉庫等がならんでおり、そして、神戸の町と一体化しています。ポートピア'81の〝海の文化都市の創造〟というメインテーマは、すでに実現されました。これらは、私としても自分の誇りと思っております。ポートピア'81の180日間の暮らしは私にとって、一生涯、忘れようとしても忘れられない思い出となるでしょう。

今年は日本地方博のブームです。15カ所で地方博が開かれますが、去年の14カ所を上回って、地方博のピークを迎えています。一人の外国人として、日本の地方博に対し、個人の意見をのべることが許されるのでしたら、提言したいことは、単にブームに乗るために地方博が催される傾向があることです。開催するのならば、地元の特性とむすびつけて、地域獨自の個性を掘り起こすことから地方博のテーマを決めた方がいいと思います。そうすれば、地方博がしっかりした、意義のあるものとなるでしょう。これこそ、ポートピア'81が成功を収められたノウハウだといえると思います。

（Ma Zu Qi　天津国際貿易有限公司副総経理兼駐日本代表処首席代表）

奈良公園に遊ぶ

岡田恵美

八分咲きの桜の下で弁当を広げたのはついひと月前なのに、今日は葉桜がそよぎ、楓の若葉が陽射しを濾過して一面に柔らかな緑の世界を現している。足元では芝生が芽吹き、若草が萌えている。そして新緑の中で、老いた葉が季を知りそっと散ってゆく。私は晩秋の枯れ葉よりこの季節の落葉が気になる。自然は確実に時を刻んでいるのだな、雑事に追われ無造作に時間を流している私のひと月とは大違いだなどと、つらつら考えながら歩いていて、目映ゆい光で視界が急に開けたので戸惑い立ち止まった。そこだけポッカリ荒れ地で、陽に晒された土塊が白っぽい。まだ剝がされてない敷石に緑色の模様が見える。緑の風景の中で忽然と現れた空間。なにかの遺跡のようだと早合点。よく見ると、葡萄唐草をイメージしたという「シルクロード博」のシンボルマークだった。ここは春日野会場のゲート広場だったのだ。〝兵どもが夢のあと〟夢は必死で追いかけるのに、通り過ぎた夢の後始末は捗がゆかぬということなのだろう。

若草山で、おむすびを頬ばりつつ眼下を見はるかすと北に東大寺の甍が、金色の鴟尾が見える。シルクロード東の終着駅。

去年の今頃は、光背の代わりに菩提樹の花輪を背負ってられた石造三尊仏を拝し、古代メソポタミアで焼かれて以来七千年の歴史をもつ本場のパンを食べ、トルコのシシカバブを味わい、アンフォラの壺に心ときめき、伽羅や乳香をきき、古のシリアの文物に思いを馳せ、昨今の中東情勢を慮り、飲茶の店では〝食は広州に在り〟などと知ったかぶりの似非グルメになり、中国の四大発明〝火薬、印刷、造紙、羅針盤〟の前では、当時のハイテクノロジーに精緻な龍の細工が施してあるのを認め、科学と祈りは一体だったのかと少し考えてみたり。遊牧の民に心の贅沢さを学んだり。軽佻浮薄。どっぷりエスニックカラーに染まって新鮮な出会いを楽しんだのだった。

昼食を終え、若草山を下り春日大社を抜けて春日原生林へ。濃い緑、淡い緑、浅い緑に彩られた深い木立の中を歩く。緑のカプセルの中で先ほどの記憶を手繰ってみる。

シルクロードはほとんどが乾いた土地、個人でそう気安く行ける国々ではない。博覧会でほんのわずかな部分に出会っただけ。しかし、間近に見、触れ、嗅ぎ五感にインプットしたモノは確かに根づき、生活の折節に表れ、これまでの〝モノサシ〟を変えてゆくだろう。新しいカタチが少しずつ視えてきて、思考の流れが少し幅広くなるやも知れない。ターニングポイントの素とはこういうことなのかと思う。

林を抜けて、高畑から浮き御堂へ向かう道辺、浅茅ヶ原から南へのびるなだらかな斜面、飛火野は無残だった。青いビニールシートで覆われたまま。再び蘇ることは無理なのではという思いがよぎるが、杞憂だろうか……。と、ここまで巡って、今、気がついた。博覧会が終わってまだ半年経っただけではないかと。そう、半年。だけれど遥か遠い日の出来事のような気がするのはなぜだろうか。博覧会というものが所詮、実生活から半分遊離した浮遊物のようなモノだからかしらん。ともあれ静けさが戻った公園は数ヵ所の〝遺跡〟を抱えて今、萌える新緑の中に在る。

〝奈良公園つわものどもが夢のあと〟　5月5日

（おかだ　えみ　主婦）

「世の中に博覧会ほどうるさきものはなし……」

芝吹千昭

博覧会ブームのご時世、ＴＶ・新聞等マスコミの喧噪もすさまじい。家に帰れば、子供達が○○博に連れていけとブーブー・ブーブーとやかましい。ふと、昔学校で習った川柳が脳裏をかすめるのは、私だけだろうか？

〝世の中にかほどうるさきものはなし
ぶんぶ・ぶんぶと夜も寝れず〟

100周年記念行事（文事）を大義名分とし、村おこし・町おこしになれば、おらが町の発展にもなると、自治体間での綱引き戦法（武事）が論じられ、まさに**文武**を推奨するかのごとく、博覧会流行性感冒がまきちらされる。

一方、大衆は文事を求めて(?)、長時間並んだり、歩き回ったり、**文歩**を励行し、そのあげくただ疲労だけが残り、文化的習得は何もない**文無**に腹を立て、ブーブー後悔する。そのかたわらで、子供達は、今度は○○パビリオン、つぎは○○博と、うれしそうな顔でわくわくしている。二度と博覧会には行くものかと誓った親も、子供の見栄を満たすためにはと、何度も同じことを繰り返す。

かくして、大衆は聞こえの良い博覧会という名のもとに、ミーハー体験のイベントシンドロームに冒されていく。

主催者側は、感染者数を増やすためにはと、他に負けないもっと強烈なウィルスを考え出そうとする。そして、結果的には分前の多寡を成功の糧とする**分賦**に血まなことなる。その最たる例が、瀬戸大橋博ではないだろうか？　四国と本州が陸続きになるという日本有史上最大の出来事を記念する博覧会なのに、海をへだてて別々に開催し、来場者の綱引き合戦を行った。なぜ、両者お互いに手をたずさえて一つにならなかったのだろうか？　まさに**分賦・文無**である。真の陸続きは夢なのか？……そして何も残らなかった……。

広辞苑によれば、〝博覧会とは、種々の産物を蒐集展示して公衆の観覧及び購買に供し、産業・文化の振興を期するために開催される会〟とある。我国最初で最大の大阪万博は、人々にさまざまな意識と感慨を残し、さまざまな産業・文化の振興に帰したと思える本物の博覧会であったと言えるのではなかろうか？　ところが、神戸博の成功を契機に、どこを切っても金太郎あめ的間違った解釈の博覧会が、雨後のタケノコのように出現し、大衆をかりたてた。そして、後には、疲れ以外何も残りはしない。

ここらで、ほんの少しでも心に残る博覧会を企画してもよいのではないだろうか？　たとえば地球規模で騒がれている環境問題がわれわれ人類を含めて生態系にどんな影響を及ぼすのか、それに産業がどう対応するか、また、文化の振興にどう帰するのかなど、大きな課題であるが、せめて、環境の変化と人間の身体との密接な関係を考えることにより、明日の産業・文化の振興を期するためには今、何を博覧すべきかを意識しないといけない時期と思うのは、私だけであろうか？

舞文的文章で翻弄されたと思うが、今後開催される博覧会には、もう二度と、文化の表層だけを勝手にもてあそび大衆を舞らさす**文舞**のないことを祈っております。

（しばふき　ちあき　フリーハンド一級建築士事務所代表）

私にとっての原点ポートピア'81

SUVANEE INGKVAT

1963年に来日し、東京から神戸に住居を移してからもう20年になろうとしている。私にとって〝第二の故郷〟以上の意味をもつ神戸でポートピア博覧会が開催されるまでは、ごく普通のタイ人ビジネスマン家庭の主婦としての生活を送っていた。ところが、ポートピア博覧会にタイ政府として国際4号館に出展することが決定し、タイ産品の即売をやってみないかという話が急に私に持ち込まれた。商家に生まれたものの、私自身は直接、商売に関わった経験もなく、ましてや日本の方がどのような商品を好み、どのような商品を売ればタイのイメージアップにつながるのか皆目見当がつかなかったが、思い切って即売をやってみることにした。会期中の6カ月間は、日常生活の中では得ることのないような貴重な経験の連続であった。ありふれた在日外国人に、日本の社会なり日本人の特性までを集中豪雨的に勉強させてくれた。

博覧会は、その後の私の生活・行動を変えるきっかけとなったが、それが開かれる都市のイメージを変えることにもつながるように思われる。生来の出不精で、神戸市内はもちろん市外に出ることもあまりなかったが、商売に関わってからはいやおうなく旅行することも多くなり、見知らぬ人々と出会うことが多く、そのたびごとに住む都市のことが話題にのぼる。地域、性別、年齢に関係なく、ほとんどの人から神戸について〝すばらしい街ですね。一度行きたいと思っています〟というような言葉を聞くことが多い。ポートピア博覧会や、それに続くユニバーシアード神戸大会などの国際的イベントが、従来にも増して神戸の知名度を高めてくれたに違いない。

ポートピア博覧会の会場であったポートアイランドは、世界のどの都市にもないような素晴らしい所であるので、タイから知人が来神したときには必ず案内をしていたが、ポートピア博覧会の開催後に訪れる人達は、神戸の街について何らかのプラス・イメージを持って来る者が多くなった。神戸が好きな〝タイ人神戸っ子〟としてこれほどうれしいことはないし、イベントが都市のイメージを変える力にも、びっくりさせられた。

最近、機会に恵まれ、二、三の博覧会を訪れたので、私にとっての原点であるポートピア博覧会との比較で、思い至った点について記してみたい。博覧会においては、何か新しい発見、驚きを提供するのは当然と思われるが、最近の博覧会では、これに付加して、パビリオン外を散歩するだけでも楽しく、何かを感じさせてくれるような建物配置がなされ、いささかオーバーな表現かもしれないが、会場全体が一つのパビリオンと見てもよいような工夫がなされており、好ましい方向に発展しつつあるように思われる。

また、博覧会は〝祭り〟である限り、それを開くにふさわしい広い空間と、会場全体に明るい雰囲気が充満していることが必要である。今年春から開催されている横浜、福岡の博覧会がいずれも神戸と同じく海に面した場所を会場としているのも、これに何かの関係があるのかもしれない。

一番大事な点は、長期にわたって広域から入場者を集めるためには、博覧会のコンセプトをしっかりと確立し、それを忠実に反映したタイトル（博覧会の名称）を付けるべきと思われる。外部の人々にとっては、博覧会の内容まで事前に知ることはむずかしく、博覧会の名称などで中身を推測することが多いのではないだろうか。たとえば〝タイ・フェア〟と〝タイ物産展〟とでは、人々の受けとめ方も違うし、実際に会場まで足を運んでくれる人々も違っている。

ポートピア博覧会が現在の私をつくったように、今後各地で開催される博覧会でも、プラス面の効果を多方面に与え、それが新たな活力となって地域の発展に結びつくものになることを期待したい。私自身も、つぎの機会には自分の夢を実現できるようなパビリオンづくりをし、タイのイメージ・アップを図るとともに、自分の夢を日本の方々に情報発信してみたいと思っている。

聞き手／鵜飼誠一（神戸市民生局厚生部福祉計画課）

（スワニー　インカワット　S. W. Company Ltd., 社長）

つくば'85「住友館」の経験

大下禎三郎

【設問A】

従来はイベントを楽しむ側であったが、演出する側に立って考え行動することの難しさを痛切に感じた。とくに幅広い層の人々に楽しく有意義に満足して貰うための工夫がきわめて重要だと思われる。こちらの主張したいことを鮮明にデモンストレートし、相手に印象を与えることが、日常の生活においても大切だと思う。とくに若い人や女性層のかくれた期待を的確に摑むことの重要性が痛感される。

【設問B】

つくば研究学園都市は「離れ小島」「陸の孤島」「自殺の名所」といった暗いイメージも一部にあったが、万博を契機に民間企業の各種先端研究機関が競って進出するようになり、地元も第二次の研究所進出ラッシュを迎え、活気づいたように思われる。博覧会は、何よりの地域活性化の妙薬である。

【設問C】

市制100周年にあたり、地方博を開催する地方自治体が多いが、単に知事、市長の人気取りではなく、これを契機に地方活性化に有効な刺戟とならなければ意味がない。それにつけてもテーマに事欠き、「食の博覧会」などと銘打って人気取りを企むのは、全く「ダサイ　オジン」の考えであり、ことごとく失敗に終わっている。やはりイベントには〝夢があり〟〝未来への希望があり〟〝ロマンを追い求める期待〟と〝遊び心〟がなければ、今の日本の若者や女性層にはアピールしない。

【設問D】

まず、若い人の気持ちを理解しないイベントは成功しない。老人の過去の思い出や、くり事や、冥土への土産では駄目だ。

「夢のある企画」「新しい演出」「効果的媒体を駆使してのＰＲ」これらをバランスよくイベントに盛り込むことが必要ではないか。

【設問E】

すばらしい映像、音響効果。ＴＱＣにもとづいたグループ活動。最後の一日まで改善活動。私はどうしてモテないのかしら。清掃のおばさんの温かいにぎりめしetc.,。ハイテック・ハイタッチの重要さ。そして全員が一つの目標に向かって努力し、達成したとの満足感。この感激を忘れないように、いつの場合にあっても温かいヒューマンタッチと、ゆとりのあるネアカの遊び心を常に持ちたいものである。

（おおしも　ていざぶろう　東洋色素工業株式会社常務取締役・住友化学より出向）

博覧会と都市鳥瞰図

石原　正

西ドイツのヘルマン・ボルマンがニューヨーク博開催を機に、マンハッタン市街鳥瞰図を描いたのは1962年のことでした。ニューヨーク市内の売店で購入した勝見　勝さんは、いたく感激して、その後、文通を経て親しい友人にまでなったそうです。'64年ニューヨークＥＸＰＯを訪れた観光客を含め100万人以上の人々が、ボルマン絵図を購入したと伝えられています。

'70ＥＸＰＯ大阪の開催にあたって、勝見先生は公式ガイドマップの制作をボルマン氏に依頼しました。ボルマン氏は、欧州・北米でのＥＸＰＯガイドマップを一手に手掛けていましたから、当然の成りゆきでした。

エレサレムを制作中だったボルマン氏は、先生の依頼を断る代わりに日本スタッフに制作のノウハウを教えることになり、結果、日本で初めて、本格的アイソメトリックのガイドマップが誕生しました。会期中に250～450万部も売れたと言われています。

私は勝見先生麾下以外の畠から、同じく'70ＥＸＰＯのマップを作り、その後、都市鳥瞰図の制作を続けていますが、ボルマンさんのやり方に肖って、神戸ポートピア博の公式ガイドマップを引き受けた際に、神戸市街鳥瞰図を制作・販売しました。ガイドマップそのものは大成功でしたが、神戸絵図はサッパリでした。ニューヨークと神戸の都市の魅力の差だと言ってしまえば、それまでですが、国民性の差も大きいと思いました。それと作品の質の差も……

今回、花博の機会に大阪市当局も観光面に力を入れているようですが、どうなるでしょうか。

都市鳥瞰図の上がりの良さは、その都市の魅力に左右されます。案内地図として購入される以上、当然です。欧州の都市とくらべて、見劣りがする大阪市の鳥瞰図制作企画の呼び掛けに大阪市当局が興味を持たなかったのも、頷けると言うものです。

'70から博覧会と都市絵図の制作を断続的にやってきた私から見ると、博覧会の成功・不成功にひとつのパターンがあります。協会のガイドマップに対する力の入れ方の違いがカギです。

'70ＥＸＰＯ大阪は、２年も前から勝見先生が企画・段取りを始め、ポートピア博は、同じく２年前から始動しました。それとは対称的に、沖縄ＥＸＰＯは最初から、マップをブックに綴じ込み、つくばＥＸＰＯは、開催10日後に発行され、その他の地方博も、開催ギリギリか、またはマップ発行そのものが見送られています。

要するに、公式ガイドマップの必要性・ＰＲ価値を博覧会当局がどのくらい意識しているかと言うことです。もし、日本の都市に鳥瞰図がいらないと言うことなら、公式ガイドマップの必要のない博覧会も、同じく魅力のないものとはならないでしょうか？

漏れ聴くところによると、花博当局も、いまだに公式ガイドマップは、いるとかいらないとか言っている段階です。すでにギリギリの時点にきていますが、独立した記念の絵にするには、見劣りする会場なのでしょうか？

（いしはら　ただし　鳥瞰図絵師）



異文化交流

吉永睦夫

【設問Ａ】

初めて本格的な博覧会を観たのは、昭和25年の「アメリカ博」でした。まだ戦後といわれていたころで、だれしも先の見えない時代でした。そこで接したものは、ハンバーガー、ナイロンストッキング、テレビとまさにアメリカンライフの縮図でした。文化水準の高さ低さという次元をはなれて、ここに思いもしなかった異質な文化があったということを実感して、猛烈なカルチュアショックを受けました。世界にはさまざまな価値観に基づく生活文化があろということを、この博覧会は実物をもって強烈にコミュニケートしていました。〝未来の鏡を覗く〟という言葉がありますが、その後40年、私たちのライフスタイルは「アメリカ博」が予示したものと大きく隔たってはいません。博覧会の先見性を示す事例だと思っています。

【設問Ｂ】

私の住む千里地区は日本万博を契機に大きく変貌しました。交通アクセスが整備されたこと、会場跡地が記念公園として残り、ここにいくつかの文化施設が誘致されました。周辺には多くの大学が移転してきて、バイオや情報関連の研究機関も計画されています。また千里中央を中核とする商業と業務施設の集積は、この地区に北大阪の副都心を形成しつつあります。博覧会を開発完成のお披露目としたり、開発の先行投資として開催する例がありますが、日本万博は広域にわたって地域の文化性を大きく高めました。

【設問Ｃ】

博覧会を地域活性化の有力な手段として見直すようになったのは、ポートピア　'81が引き金でした。この博覧会は、90億円ほどの剰余金をだし、その経済的波及効果は１兆9000億円に及ぶとされています。博覧会開催が経済的にも文化的にも多大の波及効果をもたらすものとして、いま国をあげて多催時代、乱催時代を迎えていますが、一方、たいしたフィジビリティスタディやマーケットリサーチも行わず、安易に開催して手痛い傷を負った所もあります。

博覧会は一つの経営であり、決して一過性のイベントではありません。経営の根幹となる部分は主催者できっちりと掌握しておくべきだと思います。綿密な事業計画と財政計画のもとに、全計画を構築されるよう希望します。

【設問Ｄ】

最近の地方博は業者まかせで、まったく変わり映えしません。これからのイベントは、開催地の特性を掘り起こし、〝地域を展示する〟ことに重点を置くべきです。土地の人々の発想によって、草の根的な手法で構成されることが成功の近道です。地方博は単に入場人員を競うより、地域住民の心の中に何を残したかをこそ問題にするべきでしょう。

【設問Ｅ】

ブリスベーンの国際博に、神戸市が日本の水芸を出展しました。出演者として現地の女性を起用しましたが、これがたいへん好評でした。いつの時代でも、博覧会の原点は異文化交流であることに思いをいたして、感慨あらたなものがありました。

（よしなが　むつお　株式会社エキスプラン常任顧問）

末端にいた者の弁

かんべむさし

大学卒業後六年間、広告代理店の企画制作部に勤務。日本万国博某企業グループ館の手伝い仕事から始め、国際見本市など、イベント関係の仕事もいくつか担当した。

このとき、我われ受注者側にとって一番困るのが、発注者側企業や団体の「テンポ」ののろさだった。出展方針や予算を聞き、それを具体化した企画案を提出する。ところが、会議の連続でなかなか決定が下されない。ケツはどんどん迫ってきて、その結果、こちらが突貫作業の滑り込みをしなければならなくなる。現場の活気という意味ではあれはなかなかいいものだが、冷静に考えれば、余裕をもって仕事を進めた方が安全確実に決まっているのである。

原因は、先方に「船頭」が多過ぎて、企画案検討以前の、当事者間の意見調整に時間を食い過ぎるからである。根まわし社会であり、各人の立場や責任もからむゆえだとはわかっているが、だからこそリーダー・シップを発揮する人の存在が必要だと思うのである。

そして、もう少しプロを信頼し、まかせてもらうこともである。

一方、これは反省の気持ちとともに書くのだが、イベントやＳＰのプロは、多忙と慣れのために、ややもすると発想のルーティン化を起こしやすい。要領第一で仕事をするなら、ラフ案くらい即座にできるという気になったりする。これでは良や可は取れても、優をもらえる企画案を出せるわけがない。競合プレゼンで負けた経験を思い出せば、自分もその「傲慢さ」を出したことがあったなあと、認めざるをえないのである。

ちなみに、我われはまず基本的な企画案を作り、その具体化案の構成をＳＰ会社に発注することが多かったのだが、提出された案やパースを見れば、ルーティンでやったか気を入れてやったかはすぐにわかったものだった。後者には、必ず「驚き」がある。

「ふうむ。あの企画書から、こういうビジュアルが出てきたか。これは気がつかなかった。なるほどなあ！」

発想や思考の盲点を突かれた快感があり、その興奮がプレゼンの説明時にもあらわれるのか、一発ＯＫになったりしたのである。

ともあれ、以上は全体のなかの下位かつ末端で博覧会などのイベントにタッチした、その記憶を掘り起こしての弁だが、ただいま現在の視点で見るなら、この種の出展で観客から「優」をもらうのは、どんどん難しくなってきているかに思える。

非「日常」であってこその「祭り」のなのだが、ビデオその他の進歩普及によって、各種の非日常が日常のなかにどんどん取り込まれてきている。それは実は疑似体験なのだが、疑似体験こそが原体験なのであるという世代が増加している。しかも博覧会の開催数も多くなり、感覚的には日常の行事に近くなってきている。

社会全体にイベントに対するルーティン反応が広まっているようで、そのなかで人々を驚かせ興奮させ感動させるのは、いっそまことに素直な、素朴な、そんな何かではないかと思ったりするのである。

あるいは、誰もがぶっとぶような過激な何かが……

（作家）

万国博博物館の夢

森　隆一

ポートピア以来、切れ目なく博覧会の仕事に関わってきて、すでに10年になる。ポートピア、科学万博、えひめテクノピア、東北博、ならシルクロード博、横浜博、花と緑の博覧会と、実にいろいろな立場で、種々のプランを作ってきた。振り返ってみれば、楽しいことばかりが思い出に残るが、博覧会の開幕前の準備作業というものは、なかなか骨の折れる、体力を消耗する特殊な作業だなあという感が強い。しかし反面、中毒になるくらい面白くて楽しいのも、何年やっても変わりがない。口先では、博覧会はもうやりたくない、などと言いながら、人から持ち込まれたとき、意外と断わっていないのだ。

ポートピアのときは、南太平洋諸国11カ国の出展勧誘と、関連パビリオンの展示・施工・運営に関わった。協会の方と手分けをしてタヒチ、ナウル、西サモア、フィージーなどを訪問した。訪問先では、出展を呼びかけ、展示品についての打ち合わせ、ナショナルデーの出し物の物色、博覧会期間中来日してパビリオンのコンパニオンを務めてくれそうな人との交渉を、偏西風が吹き抜け、サンゴ礁に囲まれた海を眺めながら、一見忙しそうに、実はゆったりと行った。あのときの諸国（諸島と言った方が…）の環境は、今でも全身に染み込んでいる。アメニティを考えるときの原点になっている気がする。それから早や10年、南太平諸国にも激しく観光化の波が押し寄せ、宗主国からの独立、外国資本の流入、海・サンゴ礁の汚染と、地球上に起こる当たり前のことが日常化しつつある。一度博覧会で関わった事象は、ずっと自分自身の深い関心事となってしまう。

科学万博のプランニングでは、鉄とバイオテクノロジーの２分野に関わった。ヒッタイト帝国の鉄が、製鉄なのか、隕鉄を溶かしたものなのか解明に乗り出したり、鉄を熱すると膨張するだけでなく、ある温度では収縮する点があることを知ったり、学問だけの世界をいかに来場者に伝えるかを考え、追求するのも、博覧会の楽しさの一つである。

ならシルクロード博のプランニングでは、砂漠を研究した。砂漠の風紋のでき方、砂の移動の仕方を知るためのシミュレーション装置の開発には、随分と苦労させられた。またタクラマカン砂漠の砂30トンを運んできて、パビリオンには、すべてタクラマカン砂漠の本物の砂を使った。粒が大変細かく、パビリオンは期間中、砂塵で悩まされることになった。

取り上げていけば、際限なく話題が出てくる。各地で次からつぎに開催される博覧会も、実はそれぞれ別のテーマを持ち、それなりの研究と工夫を重ねて、計画立案されている。演出・手法に類似性はあっても、展開される内容は、全く別の分野の種々雑多なことが博覧会の会場では、開陳される。金太郎アメ的な博覧会に批判が出るが、丹念に観れば、新知識の宝庫でもあるのだ。それなのに惜しいかな、博覧会が終われば、ほとんどの展示物が壊されてしまう。博覧会の博物館ができないものかと思う。夢は、万博博物館。

（もり　りゅういち　総合ビジョンエギュゼクティブ・プロデューサー）

博覧会を機会に

水谷頴介

〈博覧会〉によって、はじめて本質的なものが生まれたというケースは、わが国の場合、なかったように思う。〈博覧会〉を機会に、かねてから期待されていたものが実現した、という話は多いだろう。千里の民族学博物館は、その好ましいケースの一つである。神戸のポートアイランド計画も、ポートピアが成功したからうまくいったというのではなく、本来のイメージと理想へ向けてのスタディとプログラムがしかるべくそなわっていたからにほかならない。しいて博覧会のおかげというならば、珈琲博物館ぐらいだろうか。

奈良のシルクロード博には、全くがっかりした。展示物も、ごく一部の特別展示を除いて、レプリカばかりで、あれぐらいの知識と教養は、〈シルクロード〉に関心がある人々ならば、書物やテレビで承知のはずである。仮設の展示館群は、奈良の町のたたずまいと全くちぐはぐで安っぽく、風景を台なしにしていた。この時期に、修学旅行に奈良を訪れた子供達の奈良の印象や思い出は、さんたんたるものだったろうし、気の毒な現象だった。かつて、和辻哲郎の「古寺巡礼」をたずさえて訪れた学徒達の心象風景とは、全く逆の体験だったに違いない。

1989年春から、博多湾のウォーターフロントで〈アジア・太平洋博覧会〉が開催されている。ブータン館など市民交流の努力で生まれたすがすがしい出品もある。この時期に重なって、たまたま佐賀県の吉野ヶ里遺跡が出現して大ブームとなった。吉野ヶ里の方が人出が多いという日々もつづいて、本物は見せ物より強し、を証明してくれた。吉野ヶ里のおかげで途上、アジア博へ立ち寄るという効果もでた。

その〈アジア・太平洋博覧会〉に共催して、私達都市計画家や建築家のチームワークで、〈シーサイドももち住宅環境展〉と名づけた実際の町並みづくりに参加する機会にめぐまれた。博覧会という仮設の場と同席しながら、この未来の舞台づくりの提示が、吉野ヶ里や鴻臚館（コウロ）の歴史の舞台の評価とは異なった意味空間として、どんな評価をうけるだろうか、期待と責任の心境が交錯する。

（みずたに　えいすけ　計画同人ＴＵＲ・水谷研究室）

福岡シーサイドももち住宅環境展の中の世界の建築家街並ゾーン―手前より、マイケル・グレイヴス館、スタンリー・タイガーマン館、美川淳而館、出江寛館



博覧会―風土に根ざした祭り―

山中　孔

博覧会は、産業の振興を期して開催され、そのため多様な文化財、天然物、生産品、科学技術の成果を展示して、一般の観覧に供する会であるとされている。産業社会においては、その成果を世に問うことは重要な意味をもっており、そのための多くの手段がとられ、この一つとして博覧会の意義は大きく、地方博、内国博、国際博等と層別されて、各地で開催されてきた。

しかし、社会のあり方は産業社会から情報社会へと大きく変わりつつあり、情報提供のための、あるいは情報入手のための手段は、大幅に変化し拡大している。このような社会の変化のなかにあって、博覧会のあり方は、現在および未来を見通して、今一度見直されねばならないのではないかと考えられる。

*

産業社会から情報社会への変換がようやく現実のものとなりつつあった1970年の大阪万博は、この意味から一つのマイルストーンをうったといえる。大阪万博は技術文明の成果を展示するのみならず、世界の人々の、そのもてる知恵や文化が、人々が集まることによりもち寄られ、その人々の交歓の場をつくることにより、テーマとした人類の進歩と調和を果たそうとした。このために、シンボリックな空間として「お祭り広場」を基幹として展開し、予想をこえる入場者を得て、その関連施設の整備も含めて、成功例として大きく評価されている。

大阪万博が「エキスポジション」から「フェスティバル」へと、その方向を大きく変換した意義は、大きいと考えられる。

*

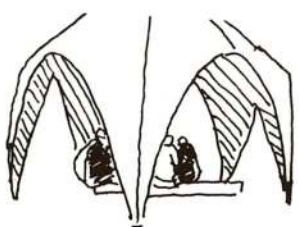
変化する社会は、物の豊かさから心の豊かさへ、ハードからソフトへ、経済性から文化性へ、効率から効果へなどのキイワードで表されるように、大きく変わりつつある。産業にあっても物的生産から知的生産が重要視され、知的生産の核にいる人間の考え方、ふるまいが、いかにあるべきかが大きい課題となりつつある。

博覧会も、物的展示から心的展示へ、知性から感性へと転換し、「エキスポジション」から「フェスティバル」へ、風土に根ざした「お祭り」として方向づけされようとしている。

ここで留意したいのは、博覧会を祭りとしてみようとするならば、祭りは、古来、神と人との交歓、すなわちともどもによろこびをとりかわすことであり、現在の人と人との交歓にとどまらず、今一歩をふみだすことが大事なことではないかと考えられる。市制100年を記念して、各地で博覧会が開催されているが、それが活性化するかどうかは、地方の風土に根ざした文化がコンセプトのなかにどう生かされ具現されるかにかかってくると思われる。

人間の祈りであったり、あるいは、恐（おそ）れ、怒（いか）り、喜び、悲しみといった祭りの原点を見直してみたいと考える。

（やまなか　とおる　株式会社竹中工務店常務取締役）



博覧会の遺産

西村壯一

今年は各地で博覧会のオンパレード。休日や出張の途次を利用して、できるだけ会場をのぞくように努めている。地域活性化への創意工夫や、来年当地で開かれる「国際花と緑の博覧会」への教訓・示唆を少しでも汲みとりたいとの思いからである。

堺市のダッハらんど、姫路シロトピア、静岡すんぷ博、横浜ＹＥＳ博――と見てまわった印象では、今のところ世評どおり小型博・手づくり博（前三者）の善戦と大型博（ＹＥＳ）の苦戦？という図式だ。

それにはいろんな理由があろうが、私は観客の価値観の変化という点に着眼してみた。すなわち、ブームをまきおこした大阪万博の時点での１人当たりＧＮＰが2,000ドルだったのが、20年後の今日では何と＠15,000ドル。高度成長と技術革新の礼賛という〝未来志向〟から、心のゆとりを追求する内省・回顧の段階を迎え、それが博覧会の評価基準に影響しているのではないかと思う。展示内容もさることながら、仁徳帝陵（堺）、姫路城、駿府城跡という歴史的サイトに会場を設定したこともレトロ・ブームにマッチしたのではなかろうか。ダッハらんどで、「有名な仁徳陵をはじめて目のあたりにした……」という満足の声を耳にしたが、これは主催者（府・市）の満足でもある。また、ダッハ、駿府ともハイテク映像より泰西名画の陳列に人気が集まっていたのも興味深い。

◇

ひるがえって、博覧会とまちづくり――跡地利用――という観点から評価すれば、歴史的サイトより、大阪万博や横浜ＹＥＳのような〝新開地〟の方が断然有利だ。

大阪万博の場合、跡地の記念公園がようやく成熟し、民族学博物館、国際児童文学館などが園内に立地して大阪の新名所となっている。万博関連事業の道路網整備によって国土軸上の結節拠点となったので、今後とも全国的、国際的機能が一層高まることだろう。さらに跡地というハードだけでなく、〝跡人〟――日本最初の万博に関与、活躍したブレーンが千里一帯で活躍を続けている意義も大きい。「京・阪・神・千（千里）」という言葉が、大阪万博の遺産の大きさを端的にあらわしている。

ちなみに横浜博の場合は、跡地利用というよりはＭＭ21《みなと未来21》用地の先行利用だから、すばらしいまちづくりにつながっていくことだろう。関西新空港の場合も、開港前に空港島と対岸の〝りんくうタウン〟の先行利用型記念博をやりたいと考えたこともあるが、突貫工事～強行開港という条件にマッチせず、残念ながら断念した。かくなるうえは、世界最初の本格海上空港そのものを目玉展示にして、〝年中博覧会〟ともいえるりんくうタウンに仕上げたいものだ。

◇

さて、来年は、いよいよ花の万博。イメージがむつかしいとの声もあるが、はじめにふれた価値観の変化からみて、アメニティ追求の人心に必ずフィットすると思う。都市公園という制約のためハードの遺産に大を望めないが、府下一円に「花ふる（full）大阪」と銘打ったアメニティ向上施策を展開中であり、心の豊かさ、まちの品格の向上という遺産に期待したい。

（にしむら　そういち　大阪府副知事）

過去と未来をつなぐ空間

黒田　清

亡くなった父がしてくれた話の中で、いまでも忘れられないのは、大阪の勧業博のことである。明治36年、大阪・天王寺公園一帯で開かれた博覧会で、正式には「第５回内国勧業博覧会」といったそうである。

当時、父はまだ12歳くらいだったが、小学校のころから、親の商売を手伝って、粉を売り歩いていた父は、入場券５銭で福引きのついたこの博覧会へ行った。

「そら、見るモンがみんな珍しゅうて、面白かったなあ。アイスクリンちゅうモンもはじめてそこで食べたんや」

父は、そんな博覧会の中で、大勢の人波に身をゆだねながら、一種の興奮を味わっていたらしい。

「よっしゃ、ワシも金もうけして、偉くなろう。偉くなって、思いきり楽しく生きよう。そんなことを思いながら、いつまでもアイスクリンをなめていたんを思いだすワ」

父がこの話を私にしてくれたのは、もう80歳になろうとしてからのことだった。そのあと、大阪の商人として、それなりに生きてきて、自分の人生を振り返ったとき、その生活のエネルギー源として、博覧会を懐かしく思い出して、話してくれたのだろう。

その血が引いているのか、私も博覧会が好きである。博覧会場へ足を踏み入れた時に覚えるあの感動は何だろう。私は、博覧会場は、小さい空間でありながら、そこが過去と未来につながっているからだと思う。

先日、横浜博会場へ行った。天気がよくて、ほどほどの賑わいだった。あまり評判がよくないとのことだったが、私は会場にいる間、ワクワクしどおしだった。とくに横浜らしい匂いのする「開港記念村」が好きで、行ったりきたりしていた。大阪の万国博のように、夜遅くまでやっていたら、もっともっと、歩き回っていたと思う。デパートの買い物などなら、10分もすればグッタリしてしまうのに。

明治の時代、少年だった父は、きっと、自動車やカメラ、タイプライターなど、それまで見たこともなかった文明の品々に、目を輝かせたに違いない。それに比べれば、いまの博覧会は、情報が日常生活の中に満ち溢れているために、人の心をつかむのが難しく、音や映像で未来を暗示するくらいしか、夢を与えられない。そんな不利な点はあるが、だからといって、博覧会に魅力を感じないような、疲れた人間にはなりたくない。

1970年のこんにちは、のメロディに乗って、大阪で万国博が開かれたときの、あの興奮。私だけじゃなく、日本人が長い間知らなかった過去と未来の魅力を教えてくれた。だからこそ、それぞれにブーブー文句を言いながら、パビリオンの前に長い行列を作り、あんなに高い食べ物にお金を出したんだろう。だけど、あのバカでかいスケールのお祭りは決して高くはなかった。あの博覧会のおかげで、大阪の街は北部にまたとない住宅地を広げることができた。

あれから20年、いま大阪は南に発展しようとしている。今度のデベロッパーは博覧会ではなく、関西国際空港だが、それを機会に、つぎには、体育博覧会であるオリンピックをぜひ開いてほしい。

（くろだ　きよし　ジャーナリスト、黒田ジャーナル代表）

EXPO 2001

宮崎興二

最近、各地で相ついで開催されている博覧会に共通する目的の一つは、未来を予測し先取りする、ところにあるようである。

といっても、未来の予測というのはなかなか大変で、とくに21世紀のこととなると、あともう10年少しのちのことなのに、何か不気味で当てにくい。EXPO'70の当時うたわれた21世紀のコンピュータ駆使の生活などというのは、すでに予想以上に高度な形で実現されてしまったし、逆に、当時封切られて評判になった「2001年宇宙の旅」という映画での事件が起きるのは、まだずっと先のことのようである。

その中にあって、たまには確実に当たりそうなこともある。ＥＸＰＯ2001が大阪近辺でいち早く開かれそうだ、というのもその一つであって、すでに数年前から大阪市内のいたるところを、「21」のシンボルマークが飾っている。

もし開かれたら、このEXPO2001がどのような騒ぎになり、いくらぐらいもうかるか、と予測するのは楽しいことであるが、筆者は、その予想は、まず当たらない、と予想している。

ようするに、いま大はやりの博覧会は、いうなれば年の瀬に円高というボーナスが出たあとの忘年会のどんちゃん騒ぎのようなものであって、もしも新世紀に入って相変わらずの何とか博が開かれるとするなら、それは正月に忘年会をやるようなものである。

1001年以後の千年を１年につづめて考えると、現代はまさに忘年会のシーズンたる12月10日から20日前後に当たる。最近、年を追って博覧会の開催が盛んになっているのは当然である。この分では、おそらく12月31日になってもまだEXPO2000とかがどこかで開かれるだろうが、もはや行く年来る年に気もそぞろな寂しい忘年会になるに違いない。

明けて2001年。だいたい新年早々にはだれも家を出て騒いだりはしない。各家庭でロボットが作った世界各国のごちそうを食べながら大型ハイビジョンテレビを見る。わざわざドームシアターへ行ってマルチスクリーンの映像を見るまでもなく各地各国の情報は臨場感あふれる姿で家庭の中へ直接入ってくる。現場を見たければ、完成したばかりの新空港や明石大橋を利用してどこへでも行けばよい。といっても、石油資源涸渇ないしはオゾン層の破壊ないしは原発事故の折から、一歩も家の外へは出られないかも知れない。が、それはそれで急増している高年齢層にとっては楽でよい。寝ころんで大空を見上げれば、かつて何とか博で模型を見たスペースコロニーの派手な実物もできつつある。

このような2001年の雰囲気の中で、それでもあえて博覧会をするなら、それは忘年会風のどんちゃん騒ぎでなく新年会風の引き締まった行事にすべきであろうか。それ以上のことは、何分にも未来のことなので予測することはむずかしい。

（みやざき　こうじ　京都大学教養部助教授・工博）



年間7000の博覧会の意味

泉　眞也

「ルック・ジャパン」という海外向けの日本紹介新聞によれば、日本では年間約7000の博覧会が開催されているという。加藤秀俊さんのお話では、自治体が関与するものだけでも約2000に達する。

市制100周年のために博覧会が大流行したかのようにいわれているが、実情はそうではない。時代が博覧会を要求しているというべきだろう。たまたま市制100周年の大型博覧会が数多く行われたために、それが目立っただけである。

博覧会の歴史は古い、と私は思う。

博覧会と博物館は、それぞれ異なった社会施設だと思われている。たしかに一方は一時的、仮設的であり、他方は恒久的、常設的だ。しかし、その根は同じものだと思う。その根は、ギリシャのムーセイオンにある。ギリシャにはムーサイ（ミューズ）の神につかえる若者たちを育てる施設としてムーセイオンがあった。そこには異国の珍しい産物、美術工芸品、植物、動物などが集められ、展示されていた。心ある若者たちが集められ、彼らは異国の珍奇な生物、産物、文物に接し、世界の広大さ、多様さを知り、その感動から、美術・学問の神ムーサイに奉仕することを決意し、学問にはげんだという。それは今日の博物館であり、美術館であり、動物園、植物園ですらあった。事実、博物館ミュージアムという名前は、このムーセイオンから生まれている。ムーセイオンは、ある意味では学校であり、現代風にいえば情報センターでもあった。

こう考えてくると、博覧会の代表的存在である万国博の始まりといわれる1851年のロンドン博大英博覧会もまた、ムーセイオンの精神を受け継いだものといえよう。

世界は情報化時代に入りつつある。しかし、それはＧ．バラクロウ教授のいうようにトランスフォーメーションであり、ある日突然、情報化時代になるのではない。

ムーセイオンはギリシャ時代に、すでに情報化時代の社会施設が、その姿をみせはじめていたと考えるべきだろう。

そして今日、さまざまな否定的意見があるにもかかわらず、世界的にみても、博覧会の数は減るどころか増える一方である。それどころか博覧会的施設の恒久化、あるいは施設の博覧会化が目立ち始めている。

ディズニー・ランドは米国の東西両海岸だけでなく、東洋にもヨーロッパにさえユーロ・ディズニーランドとして生まれようとしている。現代社会の中核の一つである商業施設をみても、ショッピング・センターは博覧会化し、フェスティブ・センターに生まれ変わりつつある。社会全体が博覧会化、フェスティブ化しつつある。その意味で、世界はイベントを求めている。

19世紀人は20世紀に万国博と近代オリンピックという二つの国際的大イベントを残してくれた。20世紀が21世紀に残すものが、核兵器と全地球規模の戦争というのでは、あまりにも淋しい。何か、新しい世界的イベントを創出できないだろうか。

時代も、世界もイベントを求めている。そのためにも、入場者数と赤字のあるなしだけで博覧会の成否が論じられる風潮だけは、何としても避けたい。

（いずみ　しんや　環境プロデューサー）

空間づくり、人づくり

米山俊直

Q．先生は、博覧会の意義についてどうお考えですか。

行政の都市計画の手法として、博覧会はたいへん有効であるとみています。つまり、空間整備とイベントの話題性によって新しい空間を売り出す契機として意味があるということです。

歴史的にみても、エッフェル塔、ニューヨーク、モントリオール、バンクーバーなど世界の有名な博覧会はすべてそういうファンクションをもっていたとみて間違いないですね。日本でも、空前絶後の人を集めたエキスポ'70は15万人の千里ニュータウンを、ポートピアは地方博ですが、埋立て地でまだ地盤沈下しているポートアイランドを売り出すために催され、大成功を収めています。

今後は新しい空間だけでなく、リノベーションにも応用できます。

Q．先生は今後の博覧会に何を期待されますか。

博覧会は成功か失敗かを計る尺度がないので、つい、観客動員数でみてしまうというよくない傾向があります。博覧会なんてものは赤字で当然なんですよ。もちろん札幌の「食の博覧会」など目標の動員に大幅に満たず、大赤字を出すということは、地方経済にとって大きな痛手ですが。

アワブクのように消える一過性の話題でなく、『後になって何が残ったか……』が、僕は一番重要だと思います。たとえば、古くは京都の内国勧業博覧会の平安神宮、大阪万国博覧会では民族学博物館をはじめとする施設群、とくに日本庭園、これは財産価値が非常に高い。そういう意味では、まず跡地利用から博覧会を計画することが重要です。

Q．最近の地方博ブームについてはどのようなご意見をおもちでしょうか。

あっちもこっちも地方博ばやりですが、地方博の成果の第一はインフラ整備ということでしょう。ローカルな景気浮上という意義もありましょう。人づくりという面もあります。言い方は悪いですが、身の丈以上のことに臨むことで、意外な人材が発掘でき、地域の人々が自信をもち人が育つという目に見えない資産は、価値が大きいですね。人材が育てば、それが地域振興に結びつくのです。

Q．しかし、最近は博覧会が多発して、テーマやプレゼンテーションの中身が空白化してきているように思うのですが。

その通りです。最近の地方博には、その地域らしいインパクトがない。金太郎アメですね。これは、各地の地方博が、企画から運営まで一部の大手広告代理店に請負われていることの弊害ではないかと思いますが……。今年は全国で市制百周年記念博がありますが、過去を検証するのではなく、これをバネにして新しいことを考えていかないことには意義がありません。

テーマ性ということに関しては、「国際花と緑の博覧会」は、みごとな選択だと思います。大阪で産業博覧会でなく緑・自然との共存というのは実に反語的で面白い。先見性のあるテーマ選択だと感心しています。

（よねやま　としなお　京都大学教授・文化人類学）

☆

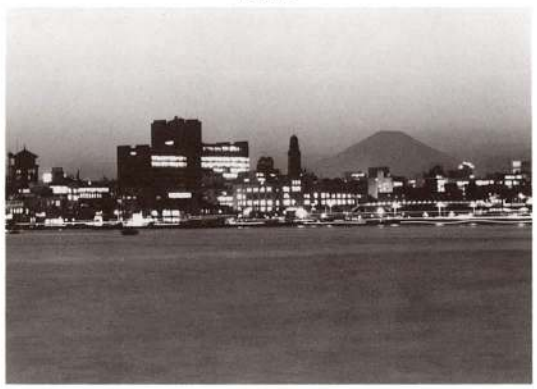
☆　　☆

都市のシーン

—博覧会とまちづくりを追って—



福岡市



横浜市



名古屋市

ルポ　田中直人

都市のシーン

福岡の場合

アジア太平洋博覧会福岡'89（よかトピア）

快晴の山陽路、新幹線ウエストひかりは一路博多へ。博多駅の一つ手前の小倉駅で車内は急ににぎやかになった。隣にすわったおばあちゃんにたずねた。「ひょっとして、博覧会ですか」「今日は大分の知り合い7人でよかトピアですわ」と大変上機嫌で、遠足に行くバスの中の小学生みたい。頼んでもいないのに財布の中にある夏休みに孫と行く分の前売券まで見せてくれる。なかなかの上人気だ。博多駅へ降りると、大きな看板。やってるなあと思いつつ早速、会場行きの直通バスへ。出来立てという感じの高速道路で、博多のウォータフロントを超えて、南ゲート前のバスターミナルへ着いた。

「こんにちは」。ゲート脇の協会本部棟の2階は、まるでまだ現場事務所の雰囲気。目当ての鶴建築課長、そして、担当の薄（すすき）氏がお出迎えだ。色白の美男子がなぜか以前よりたくましく日焼けしている。

テーマ館は、恒久施設としての博物館である。特別企画展として、〝フランス絵画の精華〟が催され、見事な作品がギッシリであった。展示では二つの金印が印象的だ。私のような急ぐ見学者には惜しいほどの多くの展示物。もう少しじっくり見るべきだろうが…。

「新しい世界のであいを求めて」というテーマにピッタリの歴史を背景に、会場には、さわやかに晴れわたった青空の下、色とりどりのパビリオンが立ち並ぶ。ポリネシアやミクロネシアの村を再現したトロピカルビレッジのやしの木、アジア館、エスニックワールドの象、フラワーパラダイスまわりの花々、そしてそれらを取り囲む川……。アジア太平洋ゾーンは、他のパビリオンゾーンとは違うオアシスゾーンだ。

その中央、であいの広場に面してそそり立つのが、福岡タワー（高さ234m、展望室123m）である。会場内の恒久施設として、博物館（テーマ館）や西部ガスミュージアムなどとともに、将来のこの地区のシンボル的存在になろう。展望室からさらに上部のメンテナンスフロアまで案内していただいた藤本営業課長の説明の通り、福岡タワーからは、福岡市内はもとより、遠く海の中道、志賀島等博多湾一帯、背後の山々を一望できる。足元の会場内が、新しく海へ向かって開かれ整備されるシーサイドももち地区の模型のように見えた。会場に隣接して、住宅環境のモデルとしての「世界の建築家街並みゾーン」も見える。商業文化施設3棟（黒川紀章館、葉祥栄館、木島安史館）、集合住宅4棟（マイケル・グレーブス館、スタンリー・タイガーマン館、美川淳而館、出江寛館）がある。

タワーとは別に、64個のゴンドラをつるす直径100mの世界一ジャンボな大観覧車からの景観もすばらしい。人工海浜から沖へ向かって伸びた海上アメニティ施設「マリゾン」。時おり吹く強い潮風の中、海のオゾンがいっぱい。ここのレストランのひと時は、新しいウォータフロントのリラックス感があった。

会場北東隅の駐車場の向こうには、「ツインドームシティ構想」のエリアがある。このシーサイドももちは、福岡の都市戦略の前線基地として、開発の構想も二転、三転。時の社会情勢や行政の取り込む姿勢の中で、大きく変貌をとげようとしている。住宅・公共施設に加え、大型の商業・業務施設が導入されようとしているのが特徴的になってきた。そして、この意味でこのアジア太平洋博は、まさに未来へ向けた都市戦略へのビッグイベントとして位置付けされよう。博覧会を支える皆さんのご苦労が報われるかどうかは、これからの動きにかかっているともいえよう。

地上に降りて、いくつかのパビリオンを見た。他の博覧会と同様、映像も立体的かつ大型になり、座席が動くなど、工夫したものが目立つ。しかし、先に開催されたつくば博のときの映像をそのまま用いているパビリオンがあったりして、地方博へ出展する企業グループの博覧会慣れ、イージゴーイングな面も感じられた。すべての人が体験するまではネタとしてもつであろうが、やはりその地域の個性的な独自性を追求し、参加型の企画のものがもっと求められるのではないだろうか。



▲福岡タワー

夕陽に映える水面のきらめきを見ながらの、グルメワールドで食事を楽しむ人々。美しいモデルの女性にカメラのシャッターを切るオジさん達。すぐに結果がわかるという宝くじに熱狂する人々…。車いすに年老いた母親をのせて押していく娘さん夫婦…。このような楽しい光景は非日常の夢であろうか。都市の魅力ある空間づくりの中でも…また再現したいシーンがいくつもあった。

翌日は、鶴課長の案内で佐賀県吉野ヶ里遺跡まで足を運んだ。1日に10万も20万もの人が押しよせたという現場では、調査が終わり、関係者で覆土工事が実施されていた。年月の重みを感じさせ、そこらあたりにとどめる溝や穴の形から日本民族の歴史を想いおこす人々のフィーバーぶりがわかるような気がした。博覧会のテーマ館にある数々の貴重な展示物、そして福岡城跡（平和台球場そば）の鴻臚館跡、少し離れた太宰府跡等とあわせて、この歴史の宝庫のエリアは、遠くアジアの国々と交流し、その時代時代にまちづくりがあったという事実を、もの言わぬ個々の遺物が有弁に語っていた。

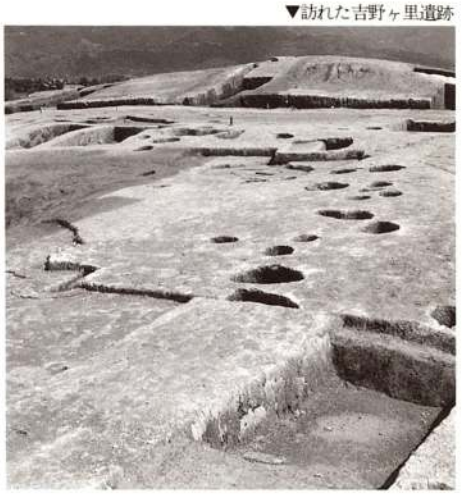


▲海にのびた「マリゾン」



▼会場内で宝くじを求める人々

▼訪れた吉野ヶ里遺跡



ＪＲ桜木町を降りると、変な広場が出迎えてくれる。「さかさま広場」という。ホームからコンコース、駅前広場までを利用したステーションパビリオンということらしい。さかさまの足や車、自転車の間をすり抜けると、目の前に階段、エスカレーターを包む建物が見える。みなとみらい（ＭＭ）21地区の歩行者ネットワークのインフラとする延長230ｍ、幅員12ｍの軽快なシェルターで、下に動く歩道があった。最初から将来のまちづくりの顔や骨格が見えてくる。博覧会協会本部はその左手にあり、〝ハタハタ〟という表現のあてはまるようなデザインの建築物で、やけに旗が目立つ。後で協会の中山課長や武宮参事から説明を受けたとき、この第一印象が、計画時にデザインコンセプトのキーワードとして〝ハタ〟を採用していることによることがわかった。港の潮風にハタめく横浜らしい建築表現で、仮設なりのテーマの展開があり、軽快で若々しいイメージをもつものと感じた。

このような基本的考え方で、場内の各施設



▲さかさま広場

はデザイングレードの高い空間をそれなりに実現しているように思えた。博覧会会場という限られたエリアであっても、まちづくりの実験の場として多くの試みがある。ポートピア'81と同様、将来の都市計画と博覧会時点での仮設を巧みに整合させようとしているのがうかがえる。最初に見た広場や歩道橋をはじめ、歩道、道路、グランモール、日本丸パーク、親水護岸、横浜美術館、マリタイム・ミュージアムなどである。共同溝や地下変電所、熱供給プラント等も先行的に整備されているとのことであった。これらの恒久施設とともに、場内を彩るパビリオンは、全部で34で、約63haの会場に華やかに配置されている。しかし協会の話では、少しパビリオン群が美術館通りあたりに集中していて、逆にゴンドラゲートまわりが空いた感じという。また場内サインとしては、定点サインが多く、もっと広いエリアで誘導案内するものが不足していて、クレームが出ているとのことであった。現実のまちづくり同様、計画した人のイメージと、実際の人間の行動や意識がずれていることはよくあることである。オープンして使ってみてわかったということも多いということで、これからピークを迎える協会、とくに施設関係の方の仕事が増えるかもしれない。

場内は、人が少なかったせいもあるが、道幅が広いという印象を受けた。夏のピークに、本設の道路幅いっぱいにひしめく人々の姿を想い浮かべて歩いた。場内はさながら乗りものの博覧会のようだ。横浜駅東口からのゴンドラリフトや船、山下公園からの船、山下臨港線のディーゼルカー、東京、千葉方面からのヘリコプター、そして場内のリニアモーターカー（約600ｍ）、ＳＫとよばれるケーブルけん引式軌道交通（通称〝動くベンチ〟）、身体の不自由な人のために初めて導入されるカプセル式の一人乗り電動三輪車、車体の前後に運転席を設けるユニークな双方向バスなどである。岡並木さんが担当されたというだけあって、なかなか盛りだくさんであった。

このようにこの博覧会では、会場計画をプロデュースされた大高正人氏、展示の泉眞也氏をはじめ、そうそうたる第一線の先生方がかかわっておられるということも特徴であろう。そのような意味で、ＭＭ21の今後にかける市当局のなみなみならぬ意気込み、そして体制づくりが感じられる。

多くのパビリオンをすべて見たわけではな

都市のシーン

横浜の場合

横浜博覧会
(YES'89)

いが、映像展示が非常に多く、「続けて見ていると少し感動が薄くなるような気がする。皆、同じように思えてきた」という、横浜に住む友人の後日の話にもうなづける面があるといえる。最近の博覧会の傾向として、いかに立体的に、ダイナミックな体験をさせるか、驚きを与えたかという手法の追求は、一定のパターンに至っているといわざるを得ない。その中にあって、横浜館の大空間の中に収められたパノラマ「ガリバーランド」は、山手の丘や未来都市ＭＭ21、緑広がる郊外など21世紀の我がまちヨコハマの生きた姿を、四季の変化や夜景の美しさを演出する手法で見せていた。いつまでもじっと見つめていた子供達に、本当の未来はどう映るのであろうか。単純であるが、〝まち〟を考えるよい機会を提供していると思った。

横浜らしいと感じたのは、「開港記念村」である。街並みとそこに行きかうパフォーマンスの人々の織りなすタイムトンネルは、文明開化の歴史へとみちびいているようだった。









▲会場内は乗りものの博覧会

美術館の前面、グランモールの夜光海ペーブは幻想的な雰囲気をかもしだし、シーサイドパークや海のパビリオンは、横浜のウォータフロントを味わうナイススポットであろう。港全体の景観形成がすすめば、さらに魅力が増すことであろう。最後に、神戸を生まれ故郷とする帆船〝日本丸〟が、マリタイム・ミュージアムの前に係留され、多くの若者の記念スナップの舞台となっているのを見て、今ここに落ち着き、やすらいでいるような感じがしてうれしかった。

東京湾一帯に今、開発の波が打ち寄せている。〝東京ベイエリア開発構想〟は、次第に現実味を帯びてきた。何年も先の人々がどのような世界に生き、何を感じるか、これらのまちづくりを仕掛けた人の哲学が評価される。

21世紀の都市空間の創造をめざして、横浜は今、新たな船出の時を迎えている。



▲マリタイム・ミュージアムの〝日本丸〟

7月15日の開幕へ向け、建設は追い込みに入っている。忙しい合間をさいていただいて、博覧会協会の萩田施設課長に、博覧会やまちづくりのことについて、おうかがいした。

1989年は「デザインイヤー」であり、名古屋において、10月には'89世界デザイン会議が開催される。〝デザイン都市名古屋〟をめざして、この博覧会は企画された。

博覧会の会場は、3カ所からなる。歴史(名古屋城会場)、未来(白鳥会場)、遊び心(名古屋港会場)をコンセプトとする三つの会場はいずれも名古屋の中心市街地に立地するとともに、堀川という水際軸、地下鉄という交通網、光ファイバーケーブルという情報軸にによって南北に結ばれている。さらに街中を博覧会場にしようというねらいがあるということだった。

最初に訪れた名古屋城会場(約19ha)では、既存の環境の中に6つのパビリオンを点在させようとしている。□の形態と緑をデザインに展開させ、歴史的環境の制約の中で苦労されていた。東西の二大天才ダ・ビンチと利休を対比する中で、歴史を通してデザインの意味を問うといったものから、名古屋らしくパチンコ館まである。本丸前のステージは、旧礎石の上に仮設の建築物を復元したもので、以前からある復元運動の契機にしようというものもあった。工事は、現在もお城の見学者の行き交う中ですすめられていたが、「工事中も博覧会です」という反面、安全対策等には頭を痛めているようだ。白鳥会場へ行く道すがら、タクシーの運転手さんは、お城を会場にとりこんだことについていろいろと苦言をはいておられた。そして最近の博覧会ブームの中で、会場を三つに分けたことも。



▲地下鉄「市役所駅」


▼パチンコ館

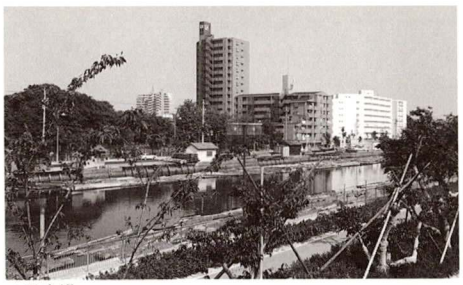
つぎに訪れた白鳥会場(約26ha)は、近世以来の貯木場で、一帯を再開発していく計画がある。ここではテーマ館と18のパビリオンが林立し、中心的会場となることが期待される。○の形態と赤をデザインに展開させ、ハイテックとハイタッチを共存させた未来指向の会場をめざしているという。テーマ館の「白鳥センチュリープラザ」は恒久施設で、地上60mの展望レストランがあり、まちを一望できる。3000人収容のホールは、イベント会場として予定されている。〝ポッカライナー〟というモノレールや135mの〝パロマタワー〟、そして白鳥会場と名古屋港会場とを結ぶ〝堀川水上バス〟も注目される。隣接する三菱未来館とトヨタグループ館が高さを競ってきたというエピソード等もあり、博覧会の気運の盛り上がりもうかがえた。細長い敷地をいかにうまく活用するかには苦労したという話の通り、テーマ館から日本庭園までは動線処理が難しい。建設中のため、パビリオン内の様子は全くわからなかったが、計画では、音や光の体験ゾーンを中心に、おもしろいものをめざしているとのことであった。開幕まであと1カ月余り、梅雨を控えた建設最終ラウンド。舗装工事もこれからという場内を見る萩田課長は、真剣ではあるが、確かな手応えを予感しているのか落ち着いていた。永きにわたる準備段階からの取り組み。もうすぐその成果が現れる。電波障害対策のため、大観覧車から変更した展望タワーが、名古屋港会場からもそびえ立って見えていた。

都市のシーン

名古屋の場合

世界デザイン博覧会

名古屋港会場(約11ha)は楽しさへの旅立ちということで、デザイン遊園地をめざし、△の形態と青をデザインに展開させようとしている。人目を引くのは、大きなクジラの形をしたパビリオン。大型スクリーンによるミュージカル・スペクタル・シアターは、完成間近を思わせる工事ぶりであった。恒久施設のポートビルからの眺望は、名古屋港をそのまま会場のエリアにする。ちょうど横浜の日本丸のように、南極観測船・ふじも係留され、港のシンボルとなっている。対岸のエリアへはデザインされたブリッジがかかっている。将来は、港の新たな魅力づくりの一つとして、水族館の建設が予定され、そこへのアプローチになるという。


▲貯木場

▼高さを競いあうパビリオン

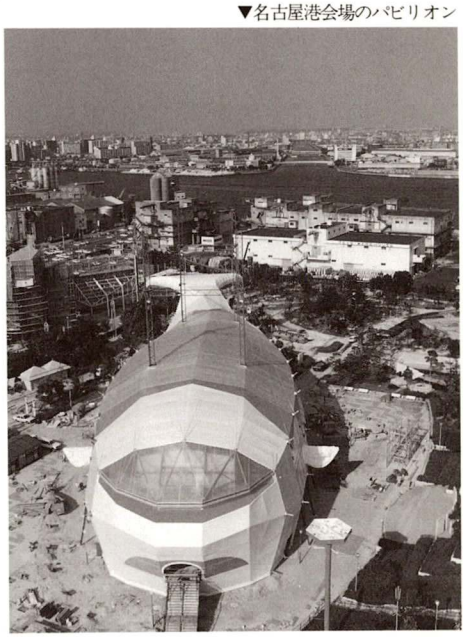


名古屋市では、この博覧会をはじめ、100周年の記念事業として、多彩な計画があるという。

名古屋市の中心部を南北につらぬく堀川は、慶長15年(1610年)、名古屋城築城と時を合わせ築城資材や城下の人々の生活物資を運ぶ輸送路として開削された。当時は延長6kmであったが、明治10年には延長16.2kmの現在の堀川になったそうである。今は汚濁しているこの川をよみがえらせ、親水公園や遊歩道、船着き場など、水辺のオアシスとして、かつての楽しさと賑わいを再現しようとしている。また、市内の若宮大通の整備、名古屋城の整備や東山展望塔(134m)の建設も計画あるいは実施され、着々とまちづくりが進められているとのことであった。

今ごろ、現場ではまだ最後の工事が進行中であろう。しかし夏空にセミの声を聞くころ、燃えるような名古屋のまちで、世界デザイン博のフィーバーがスタートするだろう。

▼名古屋港会場のパビリオン



博覧会をめぐる都市事情論——100周年記念事業の動き——

田　中　直　人

今年は明治22年に市制が施行されて100年目にあたる。1年遅れの高松市を含めると、全国で39市が100周年を迎え、記念行事やイベントに取り組んでいる。とりわけ目立つのは地方博で、今年は全国15都市で開催される。

1970年に大阪で開催された万国博以来、国際特別博、地方博が次つぎに各地で開催され、今年はまさにその一つのピークを形成する年であろう。大阪万国博は別としても、神戸ポートピア博の大成功が、今日のブームの発端になっていることは間違いない。ここで、もう少し話をひろげて、地方都市の活性化という視点から述べてみたい。

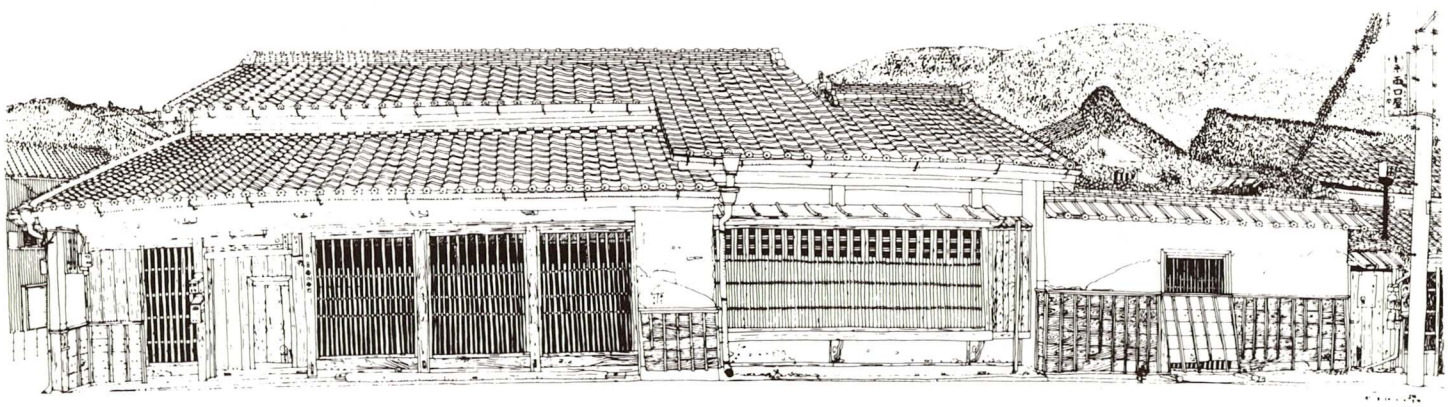
地方の時代といわれはじめてから久しい。地方の時代というほどには、地方における自主的な行政体制や盛り上がりがないのが実情であったようである。一部の先鋭的自治体の試みとは別に、通常の場合、中央から地方へ、新たな制度の創設によって伝播していくパターンのようであった。その場合には一定の補助金交付もしくは融資等の財政的バックアップや関連公共事業の推進等、地方の行政施策としては強力な力となるものが期待される。高度成長期には、過疎の地方への工場等産業の進出を促進させる目的で、いろんな制度ができた。新産業都市の指定やテクノポリス地域の指定など、その内容において、公害や環境問題に関わりそうなものから、先進的科学集約型まで、あるいは、重厚長大から軽薄短小という時代の流れを反映した動きはあったものの、パターンとしては、一定の制度的枠の中で、いくつかの地方を限定し、モデル的に指定していただいて、その制度に基づいて、まちづくりをすすめていくというものである。各自治体のまちづくりの中では、地域の実情にあわせて都市や住宅、施設の整備に数多くの制度が生み出され、まちづくりを推進していくことも、その時代その時代のニーズを反映して、行われてきた。そのうちのいくつかの制度については、地方において試行されていたものが中央（国）の制度として、一般化したものもある。これは、地方発信型といえるかもしれないが、最終的には、中央から地方への伝播パターンとなっていることが多い。

もう一つのパターンは、「国体型」ともいうべきパターンである。一定の順で、各地域ごとに制度を適用していくものである。スポーツイベントの場合には国民体育大会という形で毎年どこかの県で開催され、地域やまちづくりが、そのイベント開催を契機に推進されていくものである。

ここ数年来、各地で特産品づくり、農業体験ツアー、朝市、あるいは音楽祭や映画祭といったイベントなど、さまざまな「むらおこし」運動が起こっている。10年も前から「一村一品運動」を提唱し、全国のふるさとづくりのリーダーである大分県を筆頭に、各地で、それぞれの地域の個性を見出し、それを戦略的な柱として地域を活性化し、高齢化、過疎化を食い止めようとする動きが活発である。

いくつかその例をあげると、全国のラグビー選手の夏期合宿のメッカ長野県菅平に倣い、「西の菅平」をめざす愛媛県久方町。ここでは、町立久方美術館の建設や久方高原ふるさと旅行村の建設もある。また「ふるさとの森事業」も定着し、出資金の運用益で会員に特産品や手づくり品を送っている。また愛知県の足助町でも同様にまちづくりが進んでおり、ここでは農村歌舞伎等、地元伝統芸能を地域でまもり、育てていこうという動きもある。このほか、ふるさとの味通信販売（岡山県鏡野町）、土曜朝市（広島県西城町）、自然教室（高知県香北町）等があり、このほかの地域でも多くの動きがある。これは明らかに規模は小さくて、まだ強力ではないが、地方からの発想、発信である。

本年話題を呼んだのに、全国の市町に一律1億円ずつを配分する「ふるさと交付金」制度がある。その動機はいざしらず、各自治体の、その使途や対応策はさまざまである。あまりにも突然であり、「自ら考え実践する地域づくりを」、「地方が知恵を出し、中央が支援する」という目と、「どこまで自由か」「やはり伺いがいるのでは」という地方の声が入り乱れ、「本来の国庫補助なり、地方交付税との関係は…」と議論百出の状態が生まれた。いずれにしても、大都市は一律配分に不満のようであるが、すでに具体的な使途を発表し、そのユニークさを売りものにしている自治体もある。ここで、使途についてそのノウハウを担当し、営業するコンサルタントや商社が登場してきたとの報道を聞いたとき、この中央と地方の関係、地方独自の発想によるまちづくりとは一体何なのか…と疑りたくなってしまう。このパターンは、中央の一律的な「押し付け型」ともいえるだろう。そして前述のコンサルタントや商社の動きは、地方を舞台にしたビジネスの世界といえる。数多く開催される博覧会の中に



「晴れた日足助」（絵：からさわてるみ　発行・発売㊐マンリン書店）より

100周年38市の記念事業

100周年都市	記念イベント	記念施設
弘前	弘前シンポジウム	図書館 観光修学センター
盛岡	ジャパン・クラフト・フェスティバル・イン・モリオカ、南部子ども会議	アイスアリーナ、動物公園 先人記念館、盛岡小劇場
仙台	**第7回全国都市緑化せんだいフェア**	国際会議場 七北田公園
秋田	竿燈と久保田城下町祭(夏)、秋田大産業祭(秋)、雪の祭典・わらしっこの雪祭(冬)	御隅櫓の復元 新市立美術館
山形	**おみやげ・ザ・ワールド・山形100フェスティバル**	奥の細道記念館 山形国際産業交流プラザ
米沢	米沢織デザインコンクール	米沢城址のお堀の石垣の修復 歴史民俗博物館
水戸	千波湖祭	(仮称)水戸芸術館
横浜	**横浜博覧会**	国際平和会議場 新横浜イベントホール
新潟	**'89新潟食と緑の博覧会**	市庁舎 新潟西総合スポーツセンター
富山	国際大道芸大会	市民プラザ 市庁舎
高岡	わくわく漫画王国 富山国際青年演劇祭	万葉歴史館
金沢	フードピア金沢 ミス・インターナショナル世界大会	卯辰山工芸の森
福井	うらら祭(春)、にやかし祭(夏)ほか、福井国際フェア	カルチャーパーク整備 防災センター
甲府	**甲府博覧会**	シティホール
岐阜	'88ぎふ未来博	信長館遺構の整備 プラネタリウム館
静岡	**静岡駿府博覧会**	駿府城の一部復元
名古屋	**世界デザイン博覧会**	白鳥メモリアルパーク 東山展望自然動物園
津	470級ヨット世界選手権 国際交流フェア	リージョンプラザ
京都	京都ＩＮＧＳ	疎水資料館
大阪	国際花と緑の博覧会	科学美術館 スポーツアイランド
堺	**ダッハらんど'89大阪**	新庁舎 仁徳陵周道路整備
神戸	フェスピック神戸大会	布引公園の建設、新庁舎、しあわせの村
姫路	ケンゾー・IN・HIMEJI **'89姫路シロトピア博**	日本城郭研究センター
和歌山	第16回全日本レーザークラスヨット選手権大会、全国産地特産フェア・イン・ワカヤマ	総合福祉センター
鳥取	**'89鳥取・世界おもちゃ博覧会**	安蔵周辺山岳公園
松江	**第21回全国菓子大博覧会**	——
岡山	市民の祭典 フルーツマーケット	センチュリーパーク メルヘンスクエア
広島	**'89海と島の博覧会・ひろしま**	国際平和文化会館 広島城復元
下関	市民総参加レクリエーションスポーツ大会 レニングラードフィルハーモニー演奏会	多目的広場、海浜記念公園、青少年教育施設
徳島	藍と水と情熱の祭典	新町川水際公園 健康科学総合センター
高知	光と音と水のフェスティバル	自由民権記念館
松山	坊ちゃん文学賞の設置	松山総合公園、松山城二ノ丸跡整備、市民野外活動センター・キャンプ場
福岡	**アジア太平洋博覧会—福岡'89**	市庁舎 博物館
久留米	**世界つつじまつり'89くるめ**	青少年科学館 テクノ・リサーチ・パークビル
佐賀	'89佐賀熱気球世界選手権 18校区栄の国まつり	総合文化会館
長崎	国際斜面都市会議	国際交流会館
熊本	('90長崎旅博を前に四季のイベント)	流通情報会館 海洋水族館
鹿児島	**サザンビア21**	大型健康公園 図書情報科学センター

注）太字は、平成元年に行われる地方博

も、実はこのビジネスの世界の仕掛人が活躍しているイベントがあるかも知れない。同じような内容、企画のコピー、それがわかっていても、いや、わかる必要もないから、そのビジネスをするところに委ねる自治体がある。

昨年も数多くの地方博があった。そしてそのうちのあるものは、〝成功〟したといい、あるものは〝失敗〟したことになっている。その成否のカギは、入場者数であったり、興行としての収支であるようだ。本当に博覧会は〝水もの興行〟なのか。地域活性化やまちづくりの視点からいえば、このことは必ずしも正当な評価基準といえないだろう。より多くの人々のさまざまな関わりの中で、共有し、育てていくプロセスこそ大切ではなかろうか。もちろん最高のプロフェショナルの存在も大切である。しかしそれ以上に、それを受容する人々の存在がなければならない。できることならば、自らが参加する手づくりの味わいがあった方がよい。そういった意味でたとえ収支赤字になってもその残したもの、関わった人に残されたもので、定量的評価は下しにくいが、何かつぎのまちづくりのステップにおいて財産となるものが生まれてくれば、〝成功〟という評価が与えられてもよいと思うが、いかがなものであろうか。

今年開催される博覧会の中でも市民中心で、一切のプロ（いわゆる企業や代理店）を除いて、実施し成功を収めた例もある。日本地域経済研究所では昨年開催された博覧会について分析し、いわゆる成功の条件をいくつか提示している。——「地域住民が集まらない企画は成功しない」、「準備は入念に」、「独自のアイデアを」、「テーマ、目的をしっかり」、「博覧会の効果を地域に残せ」、「採算にあまりとらわれるな」等である。

このように地方都市の活性化という視点の流れから博覧会をみてきたが、同じく100周年の記念事業をやるにしても、〝博覧会〟という手法を採用しない自治体も多い。イベントをやるにしても比較的質素なものであったり、他の節目の年にウエイトがあり、100周年にあまり意味をもとうとしない市もある。100周年を21世紀へ向けたまちづくりや地域活性化、市民意識向上のステップとみることでは共通であるが、その具体的対応はさまざまである。

ポートピアやユニバーシアードの開催でコンベンションを軌道に乗せた神戸市は比較的静かに、福祉のまちづくりの総仕上げとして、フエスピック神戸大会の開催や、しあわせの村や新市庁舎の建設等をすすめている。しかし、これから博覧会を開催し、コンベンションをすすめようとする仙台市、横浜市、名古屋市、広島市、福岡市などは、すさまじいエネルギーを感じさせる。そしてイベントを行う政令都市を中心に、大都市では博覧会を、中小都市では既存のイベントを中心に年間展開していく傾向がうかがえる。

また、イベント以外に各種の記念施設の建設も目立っている。とりわけ図書館、美術館、新庁舎、資料館等の建設と並んで、各都市でタワーの建設ラッシュが続いている。架橋でわいた香川県坂出市に２本、福岡市、名古屋市、水戸市でも建つ。構想中のものとしては、広島市の高さ600ｍのもの、滋賀県の高さ1,000ｍのものまである。わがまちの全景をみることができ、まちからみえるタワーは、まさにまちづくりのモニュメントといえるのかもしれない。

このような施設づくりとは別に、イメージソングを作ったり、文学賞を設けたりするソフト面での事業も盛んである。

各都市の事情は、100周年という節目の中で、さまざまに異なり、地域の活性化、まちづくりという施策として、具体的手法は、それぞれの事情を反映している。しかしながらいずれにしても、〝博覧会〟は、その中にあって、やはり中心的で強力なインパクトを何らかの形で地域に与え、それによるつぎなる地域の動きも期待できそうな都市も多いようである。

最後に、博覧会開催都市へのアンケート調査結果を紹介して本稿を終わりたい。

（たなか　なおと　神戸市開発局計画課）

サザンピア21

火山と未来

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

本年4月1日、鹿児島市市制施行100周年を迎えるに当たり、これを記念するとともに、地域産業・経済の活性化、新たな市民文化の創造に資し、つぎの100年に向けて大きく飛躍するための契機とするものである。

2 鹿児島市の市政方針（まちづくりの柱）

○心のふれ合う手づくりのまち
○調和のとれた美しく住みやすいまち
○健康で安心して暮らせるあたたかみのあるまち
○豊かな心が育つ香り高い文化のまち
○活気のあふれる生き生きとしたまち

3 博覧会の概要

期　間　　平成1年3月16日～平成1年5月14日（60）日間
入場予定数　750,000人
会場面積　　場内8.1ha　場外12.9ha
パビリオン　13



■目玉施設とその特徴
●市民、県民、企業の総参加型のイベントである（市民の提供品で構成する市民100年館の設置、催事への市民、県民、市町村の参加など）。
●鹿児島らしさを打ち出した内容。
①国内唯一のロケット基地を有する鹿児島を象徴する大型H－Ⅱロケット実物大模型や宇宙館、九州初公開の無重力体験装置のスペース・ボールを設置。
②世界有数の活火山桜島を素材に、火山のダイナミックな活動を超大型映像（スクリーンサイズ：タテ17㍍、ヨコ23㍍）で紹介する映像館の設置。
●美しい錦江湾のウォーターフロントを生かした会場設営（シーサイドレストランの設置等）とイベントの開催（クルーザー体験試乗、観光潜水船の運航等）。
■終了後も残す施設、建物
H－Ⅱロケット実物大模型
■会場敷地は、もともと**工業団地予定地**だったものを借用し、終了後は**企業等に分譲**する予定。
■博覧会の主催者、構成団体
主催者　　鹿児島市
■事業費　約23億円

4 博覧会とまちづくり

●博覧会で使うものは、終了後どう活用するかを常に考えながら計画してきた。ほとんどのものは、青少年の教育に活用する。
●H－Ⅱロケットは、青少年の将来の夢を育てるシンボルタワーとして、見晴らしの良い公園に移設する。また、展示された人工衛星や、映像館のソフトなどは、未来につながる科学館の中に取り入れていく。そして「市民100年館」に市民から提供されたものでご寄贈いただけるものは、適当な市の施設での展示・保存を考えている。
●博覧会が地域に残す最大の「遺産」は、愛郷心、連帯感、明日への希望、夢など市民意識の高揚、もう一つは、博覧会開催による直接的、間接的経済効果である。
●博覧会というビッグイベントを市民総参加でやりとげることによって、市民が「自分達がやりとげた」という自信と誇りを持つ。それが、さまざまな分野に広がり、ひいては街全体の活性化につながっていく。これこそ市民の心にのこる「遺産」である。

アジア太平洋博覧会 福岡'89よかトピア

新しい世界のであいを求めて

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

九州は一つの理念のもと、「新しい世界のであいを求めて」をテーマに、国内外の優れた産業、技術、文化を紹介し、アジア太平洋の国々との結びつきを深め、また次代を担う青少年に夢と希望を与えるとともに、この博覧会を通して、九州が一体となって地域の基盤整備を進め、もって九州、福岡の活性化、国際化を図る。

2 福岡市の市政方針（まちづくりの柱）

(1)自律し、優しさを共有する市民の都市－一人ひとりが、あたたかないたわりや支えあいの心を共有する都市－
(2)自然を生かす快適な生活の都市－恵まれた自然を生かし、すべての市民が、安全で快適に生活できる都市－
(3)海と歴史を抱いた文化の都市－豊かな海と歴史を生かし、常に、多様な創造性をもち続ける都市－
(4)活力あるアジアの拠点都市－美しい、個性豊かな都市を基盤に、活力に満ちたアジアの拠点都市－

3 博覧会の概要

期　間　　平成元年3月17日～平成元年9月3日（171）日間
入場予定数　700万人
会場面積　　場内40ha　場外38ha
パビリオン　国内出展33、国外出展10



■目玉施設とその特徴
福岡タワー（高さ234m、全国2位、海浜タワーとしては全国1位）
■終了後も残す施設、建物
福岡タワー、博物館(テーマ館)、ウォーターフロントプロムナード、西部ガスミュージアム、人工海浜
■会場敷地は、もともと**埋立地**だったものを、終了後は**海浜都市**として整備される予定。
■博覧会の主催者、構成団体
主催者　　財団法人アジア太平洋博覧会協会
構成団体　福岡市、福岡県、地元経済団体
■事業費　約176億円（博覧会協会事業費）

4 博覧会とまちづくり

博覧会は主催者の負担の割に経済効果が大きく、百万人単位の観客を集めることが可能であるなどメリットが大きく、アジア太平洋博覧会でも、きわめて単純な試算ながら直接の投資額、消費額が2600億円、これにともなう生産誘発額は約1兆円に及ぶのではないかと考えており、地域経済の活性化に寄与するものと考えております。
ハード面においては、都市高速道路、街路等が整備され、博覧会を契機に、都市基盤の整備が進められています。博覧会が行われるシーサイドももちにおいては、当博覧会のシンボルである福岡タワー（234m）は博覧会終了後も観光施設、放送施設、情報関連施設として使う予定であり、同じく恒久施設として残る人工海浜、博物館とともに、市民の憩いの場として親しまれるゾーンになります。
ソフト面では、本博覧会は〝出会い〟をテーマに世界中の文化、技術を紹介しておりますが、アジア太平洋のみならず世界の人々が交流する場となるとともに、この博覧会を契機に、受け入れ体制の整備（宿泊、会議施設、広域観光ルートの設備、国際性を持つ街並みつくり等）、市民意識の醸成（国際感覚の醸成、優れたホスピタリティの形成等）が図られる中で、地域の国際化が進むと考えられます。
つぎのステップとして、来年の国体開催、平成5年のユニバーシアード夏季大会開催誘致へ向け、国際的なコンベンションシティづくりを進めて参りたいと考えております。

静岡駿府博覧会

人と歴史そしてその未来……すんぷ

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

(1)地域経済基盤づくり
(2)文化性のある都市づくり
(3)静岡市のイメージアップづくり
(4)まちづくり意識の高揚と連帯意識の醸成

2 静岡市の市政方針（まちづくりの柱）

(1)豊かな人間性を育てる文化の都市
(2)健康で心のふれあう福祉の都市
(3)安全、快適な暮らしをきずくみどりの都市
(4)活発な都市活動を支える機能的な都市
(5)英知にみち活力を生みだす産業の都市

3 博覧会の概要

期　間　　平成元年３月18日～平成元年５月21日（65）日間
入場者数　　1,070,902人（実績）
会場面積　　場内12ha　場外（駐車場）６ha
パビリオン　9
■目玉施設とその特徴
宿場町、城下町（江戸時代の雰囲気を再現したのが、好評）
■終了後も残す施設、建物

——

■会場敷地は、もともと**都市公園（駿府公園）**だったものを、終了後は**都市公園として再整備**される予定。
■博覧会の主催者、構成団体
主催者　　静岡100年委員会
構成団体　市内の各界各層（企業、団体、一般市民、行政、会長：静岡市長）
■事業費　約3,079,000,000円

4 博覧会とまちづくり

(1)市民意識の高揚
(2)博覧会に携わった市職員の意識の高揚
(3)民間と市との協力体制の強化



実施する100周年イベントに、
①1,000億円を超えると試算される経済波及効果
②イベントの展開による都市のイメージアップ
③郷土出身者の多彩な著名人のネットワーク化
④姫路城未公開ゾーンの初公開など十分に知られていない姫路の魅力度アップ
⑤100周年を成功させようとする市民の機運の盛り上げによる新しい街づくり
——などさまざまな効果を期待している。平成元年は、こうしたソフト事業の展開を通して開創されるものと考えている。

'89姫路シロトピア博

お城と祭りと夢ひろば

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

姫路市は、市制100周年を記念して「姫路百祭シロトピア」を開催する。100周年事業は、それぞれの都市がイベントの競演を通して知恵を競い合う都市間競争であるだけに、姫路の個性と魅力を壮大なパフォーマンスで全国に発信する絶好のチャンスだと考えている。テーマは、「美しい城、美しい人、美しい時」。考え方の見本は、姫路城を中心とした新しい文化ゾーンの創出を内外に強くアピールし、「城も人も時も美しいまち」を本市の都市イメージとして確立すること。開催方式は、市民の提言に沿って「イベントのリレー方式」を採用した。
この「イベントのリレー方式」は、リレーのランナーが、次々とバトンタッチをしながらゴールに向かうように「'89姫路シロトピア博」を皮切りに、高田賢三の里帰りファッションショーや坂東玉三郎による「鷺娘」などの野外公演による「ビッグイベント」、郷土の祭りを姫路城天守閣前の三の丸広場で披露する「ザ・姫路のまつり」などの「市民イベント」など、姫路の美しい四季の流れの中に新旧のイベントを次々に繰り広げ、姫路の姫路らしさや魅力を力一杯に発信したいと考えている。
姫路百祭シロトピアの幕開け「'89姫路シロトピア博」は、３月18日から６月４日までの79日間、「お城と祭りと夢ひろば」をテーマに、姫路城周辺を会場として開催された。

2 姫路市の市政方針（まちづくりの柱）

①新しい時代を開く文化・教育都市
②人と産業と活気に満ちた経済・情報都市
③明るく健やかに暮らせる福祉、健康都市
④みんなで力を合わせるコミュニティ都市
⑤水と緑を生かした潤いあるアメニティ都市
⑥都市基盤の整った安全、利便都市

3 博覧会の概要

期　間　　平成元年３月18日～平成元年６月４日（79）日間
入場予定数　100万人（実数1,582,197人）
会場面積　　37.5ha
パビリオン　6



■目玉施設とその特徴
①会場を姫路城が最も美しく見える城内北広場に建設した。しかも企業パビリオンを誘致せず、すべて市民のアイデアと知恵を集大成、運営も市民らの手で行ういわば手づくりパビリオンである。
②５つの新設パビリオンに加え、〝開かずの間〟を初公開する姫路城。歴史博物館では、兵馬俑も展示。美術館のアートカイト展など、既存の施設をパビリオンに見立てて利用。
③姫路自慢のメインストリート大手前通りや大手前公園なども会場内と一体的イメージの演出を行い、歩いて会場に着けるように工夫。
④手づくり博ということで、百祭劇場、会場内広場などのイベントに、500団体50000人がボランティアで出演するほか、市内の６大学の協力で楽しいゲーム性のあるイベントも開催。
⑤地方博では初めての外国人パフォーマンスを連日計画するなど、催事の演出に力を入れた。
■終了後も残す施設、建物　——
■会場敷地は、もともと**公園**だったものを、終了後は**公園**として整備される予定。
■博覧会の主催者、構成団体
主催者　　姫路100周年行事実行委員会
■事業費　——

ダッハらんど'89大阪

ときめく・ひと・とき国際交流新時代

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

市制100周年は、豊かで快適な市民生活の実現と、人をひきつける魅力のあるまちの形成を促進させるとともに、21世紀に予想される高度情報化、高齢化、国際化、生活多様化などのソフト化社会への移行に向けて、新しい産業文化都市への発展を指向する、まちづくりの出発点ともなる意義を有する年と言える。

100周年記念事業の展開にあたっては、市民参画などによる十分な市民の意思疎通を図ることで、施策の確立はもちろん、人と物の交流を盛んにして、円滑な市勢の伸長をも期待することができる。そのために記念事業の目標を、「市民にとって住みやすい、世界に誇れるまちづくり」とした。

記念事業のテーマは「フェニックス堺21－伝統と創造－」である。これは、堺市がこれまで歴史的な幾多の変遷を経て、なお現在に発展を続ける姿を象徴している。テーマにもとづく事業展開では「関西新空港にともなう国際化への対応」「情報化の進展にともなう高度社会文化への対応」「それらの機能基盤となる都市インフラストラクチャーの整備」に重点をおいていく。

そして、「ダッハらんど'89大阪」の基本概念では、課題を「新しい街づくりを推進します」と捉えている。

2 堺市の市政方針（まちづくりの柱）

今、堺をはじめとする南大阪地域が21世紀に向けて脚光を浴びている。その焦点となるのが、関西国際空港の建設であり、1993年には我が国初の24時間空港として開港する予定である。

海のフロントに代わって、新しく登場する空のフロント。南大阪地域は、すでに「24時間国際情報都市化」が予約されているわけで、「ダッハらんど'89大阪」の会場に堺市が選ばれたのは、こうした南大阪地域が持つ潜在的な国際性に合わせて、21世紀へ向かって期待される南大阪像が大きな裏打ちとなっている。

3 博覧会の概要

期　間　　平成元年３月19日～平成元年５月21日（64）日間
入場予定数　50万人（実入場者数939,316人）
会場面積　　場内２ha　場外25ha
パビリオン　6



■目玉施設とその特徴

エントランスに風車の花壇を配し、通路沿いの花壇や林床花壇などで、会場を花で埋めた。なかでも会期中64日間、チューリップは咲かせ続けた。また、日本とオランダの最先端技術を紹介するサイエンスファンタジーの世界で、楽しい科学の体験広場を演出した。

ダッハらんど'89大阪では、オランダから、日本について学んでいる学生のほか、大道芸人らも招いて、国際交流が実体験できた。

■終了後も残す施設、建物　レストラン



横浜博覧会

宇宙と子供たち

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

昭和61年７月～11月まで行われた市民代表による「100人委員会」の検討結果を受け、以下の４点を目的として開催することを決定。

(1)横浜市民の意識の高揚と連帯の強化を図る。
(2)国際文化都市横浜をアピールし、国際交流推進の契機とする。
(3)横浜の街づくりと文化都市環境づくりの一環とする。
(4)「よこはま21世紀プラン」実現の一つの契機とする。

2 横浜市の市政方針（まちづくりの柱）

①明るくさわやかな地域社会
②豊かで快適な都市生活
③国際性豊かな文化都市
④〝みなと横浜〟の魅力再生と創造
⑤活力にみちた都市

3 博覧会の概要

期　間　　平成元年３月25日～平成元年10月１日（191）日間
入場予定数　12,500,000人
会場面積　　場内48ha　場外69ha
パビリオン　34



■目玉施設とその特徴

(1)美術館（丹下健三氏設計）／常設展示の美術館としては日本最大
(2)エスプラナード（幅約700m）／ウォーターフロント部分を階段状の護岸にし、腰かけて海をながめることができる。
(3)横浜館（直径60m）／日本最大の木造ドーム建築
(4)祭りの噴水〈ＨＩＴ361〉／361本のノズルがコンピューター制御によりさまざまな動きをする噴水。常に人垣ができている。
(5)コスモクロック21（直径100m高さ105m）／世界一の観覧車
(6)潮入りの池／潮の干満につれ舞台があらわれたり沈んだりする池
(7)圧力式下水道／汚水の下水道については、会場面積の７割近くを圧力式下水道としている。
(8)地域冷房／会場内は大規模な共同溝が敷設されており、ほとんどのパビリオンは冷房プラントで作った冷水による冷房を行っている。
(9)グランモール公園／照明は、下から樹木を照らすライトと、地表に16,500個発光ダイオードを埋め込んだ「夜光海ベーブ」が特徴

■終了後も残す施設、建物

主要道路、共同溝、動く歩道、日本丸パーク、美術館、公園部分

■会場敷地は、もともと**主として造船所**だったものを、終了後は、**「みなとみらい21」事業用地**として整備される予定。

■博覧会の主催者、構成団体
主催者　　㈱横浜博覧会協会
構成団体　横浜市・神奈川県・横浜商工会議所・㈱横浜みなとみらい21

■事業費　約400億円

■会場敷地は、もともと**中央公園として整備中**だったものを、終了後は**整備を続ける**予定。

■博覧会の主催者、構成団体
主催者　「オランダフェスティバル'89大阪」実行委員会
構成団体　堺市、大阪府、大阪市、関西日蘭協会、大阪21世紀協会ほか

■事業費　約10億５千万円

4 博覧会とまちづくり

市民の連帯意識が生まれ、郷土への愛着心が育まれた。

世界つつじまつり'89くるめ

花と緑と人との語らい

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

久留米市は、全国38市とともに明治22年４月最初に市制を施行した都市で、100周年を迎えるに当たり、記念事業について検討を重ねてきた。そして、市民の参加協力が得られるもの、久留米市の特性が活かされるもので、他市にない特色あるイベントを開催しようということになった。約150年前久留米有馬藩士の坂本元蔵によって改良された〝くるめつつじ〟は世界的にも有名であり、市の花、県の木にもなっている。そこで、世界中のつつじを集めた世界つつじまつりを開くことに決定。昭和61年より収集を始め、世界15カ国地域および全国各地から1514品種約10万本を集めた。

2 久留米市の市政方針（まちづくりの柱）

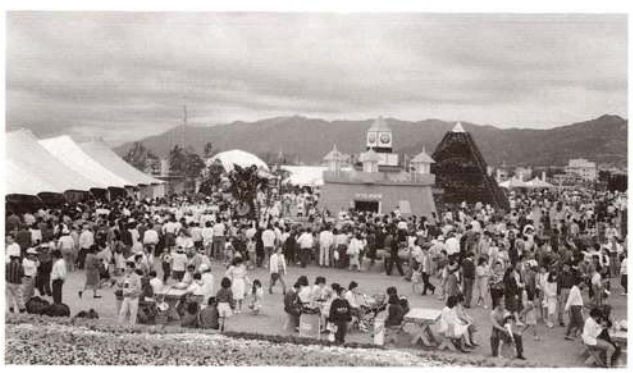
「自然と人間を大切にする水と緑の人間都市」の建設。そのために、
(1)快適で魅力ある自然、生活環境づくり
(2)心豊かな教育文化と思いやりのある福祉のまちづくり
(3)活力ある地域経済づくり
(4)21世紀への都市基盤づくり
(5)市民連帯のふるさとづくり

3 博覧会の概要

期　間　　平成元年４月８日～平成元年４月30日（23）日間
入場予定数　400,000人（実績828,000人）
会場面積　　場内10.4ha　場外８ha
パビリオン　5
■目玉施設とその特徴
世界つつじ館…世界15カ国地域および全国から収集したつつじを常時満開な状態で展示する。
■終了後も残す施設、建物
世界つつじ園…約6000㎡につつじを植栽し、世界つつじ園とする。
■会場敷地は、もともと**筑後川の河川敷（堤外民地）**だったものを、終了後は**久留米百年公園**として整備される予定。
■博覧会の主催者、構成団体
主催者　　世界つつじまつり'89くるめ実行委員会
構成団体　久留米市、福岡県など48団体
■事業費　約380,000,000円

4 博覧会とまちづくり

この祭りを一過性のものとせず、今後の都市緑化、緑産業の振興策へと連動させることにした。そして収集した1514品種のつつじは貴重な資源として活用するため、市の計画により「つつじ母樹園」（建設費約３億円）を建設し、世界のつつじの供給基地を目指している。さらに久留米百年公園と市の文化の中心施設である石橋文化センターに「世界つつじ園」を建設することとした。



第21回全国菓子大博覧会

お菓子が結ぶふれあい世界

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

松江市は、藩政以来の茶処・菓子処として有名であり、今日においても京都、金沢と並んで、日本の三大菓子処として名を連ねている。また、菓子大博覧会は明治44年から過去78年の間に20回を数える伝統と歴史ある博覧会である。このことから、本市が何か記念となる意義ある博覧会を模索する中で、ふさわしい博覧会として誘致、開催するにいたった。

2 松江市の市政方針（まちづくりの柱）

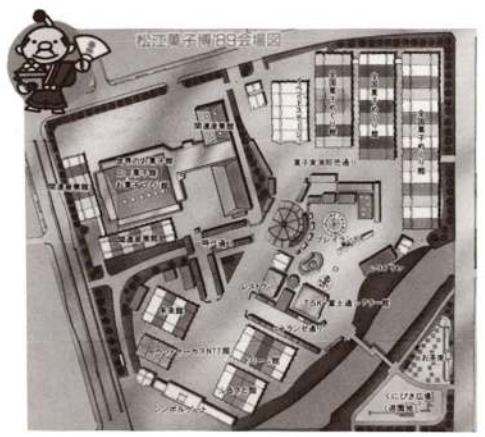
松江市がめざす都市像は、山陰における「中枢管理都市」である。また古来よりの歴史的遺産および恵まれた自然の保全と、開発との調和を図りながら、〝水と緑と文化につつまれた活力ある松江〟をめざし、以下の３つを都市づくりの目標とする。
(1)地域の発展に寄与する中枢管理都市
(2)古い歴史と自然美をうけつぐ文化・学園・観光都市
(3)産業が伸展し生活が充実する福祉都市
この基本的な目標を実現するため、つぎの５つの計画を柱とする。
①快適な生活環境の整備
②あたたかい社会福祉の充実
③風格ある教育文化の高揚
④活力ある産業の振興
⑤魅力ある都市基盤の整備

3 博覧会の概要

期　間　　平成元年４月23日～平成元年５月14日（22）日間
入場予定数　500,000人
会場面積　　場内８ha
パビリオン　20程度
■目玉施設とその特徴
菓子めぐり館…全国から５万点の菓子を展示
■終了後も残す施設、建物



■会場敷地は、もともと**市有地**だったものを、終了後は**都市公園**として整備される予定。
■博覧会の主催者、構成団体
主催者　　松江市と県菓子工業組合
■事業費　約1200,000,000円



4 博覧会とまちづくり

郷土を見つめなおし、全国に向けて、とくに観光ＰＲを通じて誉れる郷土愛を呼び起こすとともに、市民の、一体となってやりとげる連帯感を育める。

'89海と島の博覧会・ひろしま

海と島のグランドデザイン－輝く海と島と人

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

新たな瀬戸内海時代の創造に向けて、海や島の持つ文化や資源に対する理解を深めるとともに、瀬戸内海地域の将来像を展望し、地域の活性化を図ることを、この博覧会のねらいとしている。

2 広島市の市政方針（まちづくりの柱）

都市像に「国際平和文化都市」を掲げ、つぎの６つのまちづくりの基本理念を設定している。

(1)平和を基調に、世界に開かれたまちづくり
(2)自然を守り、生かすまちづくり
(3)安全で、快適なまちづくり
(4)健康で、幸せに暮らせるまちづくり
(5)豊かな人間性をはぐくむまちづくり
(6)新たな時代を開く活力あるまちづくり

3 博覧会の概要

期　間　　平成元年７月８日～平成元年10月29日（114）日間
入場予定数　350万人
会場面積　　場内24ha
パビリオン　20



■目玉施設とその特徴

会場の中央に、約６haの「海」をつくり、その周辺に独自のテーマを持った７つの「島」を配置し、その中に、それぞれのイメージにあったパビリオンや各種の遊具、モニュメントなどを設置するなど、パビリオンの魅力に加えて、会場内を歩くだけで楽しさを味わえ、会場自体が訪れた人々に満足感を与えるような環境づくりを大きな特色としている。

中心展示物は、広島市と広島県が共同で出展する自治体館に展示される遣唐使船。日本で初めて、当時の姿そのままで復元した。

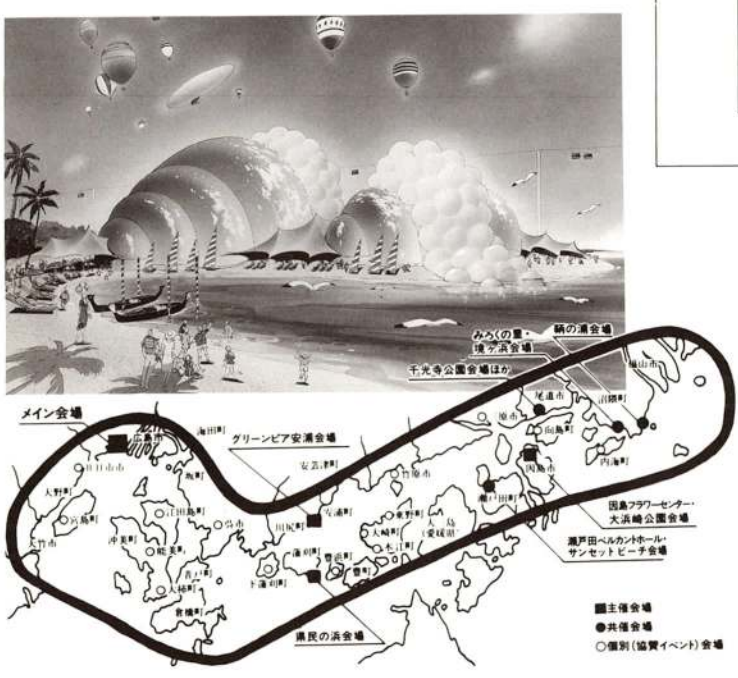
■終了後も残す施設、建物

検討中

■会場敷地は、もともと**下水処理場建設予定地**だったものを、終了後は**一部は下水処理場**として整備される予定。ほかは未定。

■博覧会の主催者、構成団体

主催者　　㈱'89海と島の博覧会協会



構成団体　広島市、広島県、広島県商工会議所連合会
■事業費　約10,000,000,000円

4 博覧会とまちづくり

瀬戸内海は、国内外に誇りうる貴重な資源であり、広島市の個性ある都市づくりを進めていく上で、かけがえのない資産である。

この博覧会は、リゾート地としての瀬戸内海の多様で豊かな可能性を世界にアピールしていこうとするものであり、本市としてはこの博覧会を契機として、

①瀬戸内海を世界のリゾート地として育てていくこと
②「メッセ・コンベンションシティひろしま」の都市イメージを国の内外に広く植えつけていくこと
③臨海部の開発事業へのはずみとすること

今後の本市の都市発展につながる効果が得られるものと考えている。

'89新潟食と緑の博覧会

食と緑、輝かしい生命の未来

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

新潟日報社主催で「食のフォーラム」のイベントが、毎年開催されていた。このイベントを充実させようと青年会議所の会員達が発起人となり、県・市へ「食と緑の博覧会」の誘致要請をした。そこで関係機関へ呼び掛けを行い、協議の結果、県と市で国に要望し、64年度に「食と緑の博覧会」の開催が新潟県に決定した。この会場が新潟市となり、たまたま市制100周年に合致したものである。

2 新潟市の市政方針（まちづくりの柱）

新潟市は、上越新幹線、関越・北陸高速自動車道など高速交通体系も整備され、さらにソ連・韓国の国外線および国内線をもつ航空路、韓国・台湾・香港との定期外国貿易航路をもつ港があり、昭和63年５月にアジア卓球大会が開催されるなど、近隣諸国との経済・文化の交流も活発化し、商工業を中心に情報文化都市・国際都市をめざし発展するよう努力している。

3 博覧会の概要

期　間　　平成１年７月14日～平成１年９月３日（52）日間
入場予定数　100万人
会場面積　　場内33ha
パビリオン　17

■目玉施設とその特徴

テーマ展示館－工夫と演出を凝らして新潟をイメージ－

■終了後も残す施設、建物

現在は、全部撤去する予定

■会場敷地は、もともと**新潟産業振興センターおよび市有地**だったものを、終了後は**検討中。**



■博覧会の主催者、構成団体

主催者　　'89新潟食と緑の博覧会協会
構成団体　新潟県・新潟市を含む10団体

■事業費　約17億円

4 博覧会とまちづくり

新潟県は日本でも有数の食糧基地であり、また新潟市は日本海側最大の都市である。高速交通体系も整備され、物資流通の拠点として、食品産業の分野においても中心的役割をはたしている。地域や産業のエネルギーを活用し、この地域の風土・文化等の特色を博覧会でＰＲすることにより、「新潟市」を県内外の人達に再認識させたい。

世界デザイン博覧会

ひと・夢・デザイン―都市が奏でるシンフォニー

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

市制100 周年を迎える名古屋市は、1989年を21世紀へ向かうエポックメーキングの年にしたいと考えている。

世界デザイン界の最大の祭典「世界デザイン会議」の1989年の開催地が名古屋に決定されたこともあって、日本がデザインを通じて国際的に提案し、貢献する舞台として「世界デザイン博覧会」を開催し、名実ともに〝デザイン都市をめざした名古屋〟をアピールしたいと考えている。

2 名古屋市の市政方針（まちづくりの柱）

「住みたくなるまち名古屋」の建設を目標に、生活、産業、文化の3つの側面から新生・名古屋をみつめて、新基本計画を策定した。

①健康都市づくり、生きがい都市づくり

③国際交流都市づくり、技術集積都市づくり

③文化を大切にする都市づくり、快適環境都市づくり

3 博覧会の概要

期　間　　平成元年7月15日～平成元年11月26日（135）日間

入場予定数　延べ1,400万人（名古屋城会場 350万・白鳥会場 700万・名古屋港会場 350万）

会場面積　　場内56ha（名古屋城会場19ha・白鳥会場26ha・名古屋港会場11ha）

パビリオン　パビリオン30、テーマ館1、ステージ3

■目玉施設とその特徴

白鳥センチュリープラザ

・4階まで吹抜けの地方自治体では最大のメインホールと、イベントホール

・地上約60mの展望レストラン



■終了後も残す施設、建物

白鳥センチュリープラザを中心に「屋外イベント広場」「親水ゾーン」「日本庭園」などを整備。

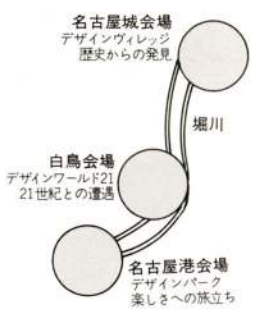
■白鳥会場敷地は、もともと**貯木場**だったものを、終了後**白鳥メモリアル・パーク**として整備される予定。

■博覧会の主催者、構成団体

主催者　　財団法人世界デザイン博覧会協会

構成団体　愛知県、名古屋市、名古屋港管理組合、名古屋商工会議所、中部経済連合会

■事業費　約250億円





名古屋港会場

4 博覧会とまちづくり

デザイン博をきっかけにして、われわれが快適な生活や環境を考え、つくりだしていく上で大切なキーワードであるデザインについての認識を新たにしていただければ、と思っている。

おみやげ・ザ・ワールド山形100フェスティバル

山形から世界へ、そして未来へ

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

市制100 周年を機に、山形市のたくさんの魅力と今までの歩みと未来、そして世界とのつながりを多くの人に楽しく理解してもらおうという目的で企画された大規模なフェスティバルである。

元来、「おみやげ」はその郷土の文化をすべて含んでいるという本質的な意味がある。この意味を捉えなおし、今までなおざりにされていた「おみやげ」という概念を再認識してみようという試みである。山形が持っている資質を生かし、市制100 周年を機に山形全体の〝おみやげ〟を発展させるステップとして、また、将来的には、〝山形ブランド〟の育成発掘の契機となるイベントを目指す。

2 山形市の市政方針（まちづくりの柱）

市政目標4本の柱

(1)市民による市民の都市

(2)魅力ある文化拠点の都市

(3)緑多い豊かな生活の都市

(4)調和のとれた活気ある産業の都市

3 博覧会の概要

期　間　　平成元年8月3日～平成元年8月20日（18）日間

入場予定数　300,000人

会場面積　　場内外21ha（駐車場含む）

パビリオン　5



■目玉施設とその特徴

とくになし

■終了後も残す施設、建物

国民体育大会（べにばな国体）にむけて建設された体育館を主会場として使用する。そのほかには、博覧会終了後も残す施設づくりはとくにない。

■会場敷地は、**平成4年開催の国民体育大会（べにばな国体）会場**となるところを利用するもので、博覧会終了後は、**水泳競技場、テニスコート等**として整備される予定。

■博覧会の主催者、構成団体

主催者　　山形市、やまがた100 周年推進協議会

■事業費　約8億円

4 博覧会とまちづくり

山形市はいま、コンベンションシティを目指し、山形の活性化を図ろうとしている。この博覧会を一つのコンベンションとしてとらえ、3年後に開催されるべにばな国体、さらには、コンベンションシティ施策の基礎づくりという面で残るもの大であると考える。



'89鳥取・世界おもちゃ博覧会

街がおもちゃ箱

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

鳥取市は、昭和18年の大震災、そして昭和27年の大火災と、再起不能とさえ思わせる大災害に遭遇したにもかかわらず、〝粘り強く、まじめ〟という市民性は、鳥取の街を不死鳥のごとく見事に立ち直らせた。市民の英知、先達の偉大な遺産である。

市制100周年を迎えるこの機会に、先達の培った貴重な遺産を礎とし、21世紀を展望した新しい鳥取市の街づくりへと繋がるような市民慶祝事業を実施することとし、そのメイン・イベントとして「'89鳥取・世界おもちゃ博覧会」を開催する。

21世紀の街づくりを担う子ども達が、おもちゃとの遊びを通して創造力と情操を培い、豊かな感性を育んでほしいと願っての類例を見ない地方博である。

2 鳥取市の市政方針（まちづくりの柱）

「活力とうるおいにみちた産業と文化のまちをめざして」

(1)健康で心のかよう福祉のまちをめざして

(2)快適な環境のまちをめざして

(3)人間性を育む教育・文化のまちをめざして

(4)活力のみなぎる産業のまちをめざして

(5)魅力のある機能的なまちをめざして

3 博覧会の概要

期　間　　平成元年７月29日～平成元年８月20日（23）日間

入場予定数　300,000人

会場面積　　場内７ha

パビリオン　７



■目玉施設とその特徴

「おもちゃ工房」―参加型博覧会の目玉として、手づくりおもちゃが体験できる。

■終了後も残す施設、建物

現在研究中

■会場敷地は、もともと**都市公園**である。終了後は**原状復旧**する。

■博覧会の主催者、構成団体

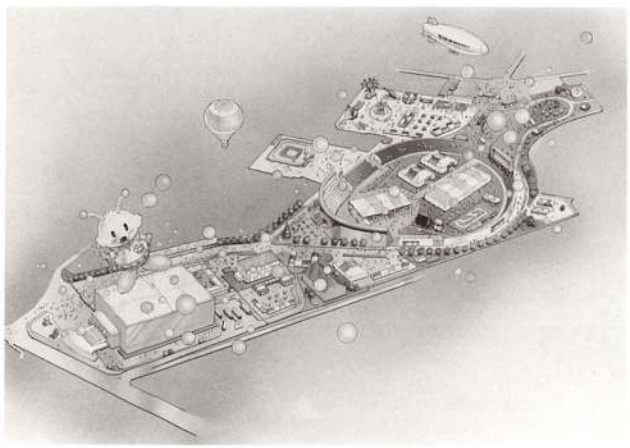
主催者　　鳥取市

構成団体　世界おもちゃ博覧会実行委員会

■事業費　約14億円

4 博覧会とまちづくり

博覧会は、次代を担う子ども達へ、大きな「心の遺産」として受け継がれよう。また、ハード部分として、博覧会後、何を残すかについては、たとえばおもちゃ博物館も含めて研究中である。



第7回全国都市緑化せんだいフェア

都市と緑の調和をもとめて―いま、杜の都の新時代―

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

経済の拡大、人口の集中等により市域が拡大し、また都心部においては高層ビルが林立するなど仙台市を取り巻く状況は大きく変貌をとげているが、その過程で周辺の豊かな自然や都市的自然を犠牲にしてきた感は否めない。未来につなぐ都市づくりには経済性や効率性の視点、物づくりの視点だけではなく、個性にあふれ緑豊かな都市空間をそなえていることが重要な条件になる。

われわれは「杜の都・仙台」という地域特性の中から、全国に向けて緑の大切さを訴えかけ、さらに21世紀にこの貴重な財産を引き継ぐ努力を積み重ねていく決意を新たにするための契機として、本市において建設省提唱の第７回全国都市緑化せんだいフェアを開催することとした。

2 仙台市の市政方針（まちづくりの柱）

21世紀初頭における仙台市の人口を百万人規模と想定し、2000年を目標年次とする基本構想は、

●まちづくりの基本的視点として

①歴史と伝統に培われた風土を大切にする

②生活圏などの拡大に合わせて広域的に対応する

③都市と自然の調和、共生を図る

④産業の均衡ある発展を図って豊かさを確保する

⑤市民本位のまちづくりを進めるため、積極的な市民参加を図る

●都市像として

①緑豊かでゆとりと潤いのある新しい杜の都

②あたたかいふれあいと健やかさをはぐくむ健康福祉都市

③東北新時代を切りひらく活力ある産業・情報都市

④学都の伝統を生かし、世界にはばたく国際学術都市

⑤豊かな創造性をはぐくむ個性と魅力ある教育・文化都市

とし、すべての市民が健康でしあわせな生活が営めるまちづくりを推進するとしている。

3 博覧会の概要

期　間　　平成元年７月29日～平成元年10月16日（80）日間

入場予定数　100万人

会場面積　　場内23.3ha　場外３ha

パビリオン　13



■目玉施設とその特徴

①80日間砂時計…砂時計の世界最大は、シリアで200年前に作られた24時間計だと言われている。２年前京都の同志社大学で24時間計、さらに３日計の製作に成功している。仙台では、東北大学の指導により、24時間計を完成。現在１週間計に向けて研究実験中である。

②宇宙植物ホール…未来の緑、農業について全地球的視点から考えることを提案する。

■終了後も残す施設、建物

①テーマ館である体育館、②植物ホール

■会場敷地は、もともと**田、畑**だったものを、終了後は**スポーツ公園**として整備される予定。

■博覧会の主催者、構成団体

主催者　　仙台市、㈶都市緑化基金

■事業費　約2,250,000,000円（公園造成費を除く）

4 博覧会とまちづくり

博覧会によって、都市緑化意識の向上があり、スポーツ公園が整備される。

甲府博覧会

夢・心・きらめく未来

1 市制100周年記念事業に「博覧会」開催を選んだ目的

①甲府市の「産業」「経済」「文化」「芸術」等100年のメモリアルと21世紀の新都市を目指して
②国際的視点から、人、文化、産業等の交流、友好の場として
③山梨県全体の産業、経済、文化、芸術の活性化を図るため
④健康的かつ教育的な視点から

2 甲府市の市政方針（まちづくりの柱）

市民も、まちも、健康を基本に、豊かな自然や培われた歴史・文化と、21世紀に向かって新たに創造される都市の活力とを調和させながら、「明日をひらく健康都市・甲府」を目指す。

3 博覧会の概要

期　間　　平成元年９月15日～平成元年11月12日（59）日間
入場予定数　50万人
会場面積　　場内5.3ha
パビリオン　9

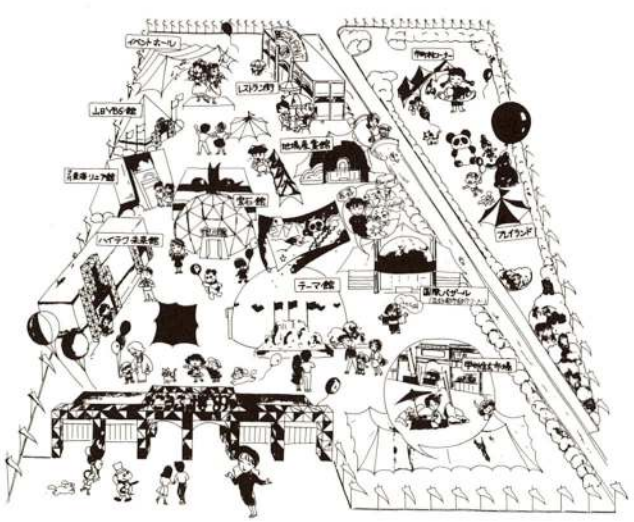


■目玉施設とその特徴
テーマ館…３Ｄ立体映像によるドリームシアター「ワンダーワールド」
宝石館…秘蔵の水晶類、プラチナの十二単、純金のベルなど宝石の数々。
ＪＲ東海リニア館ほか
■終了後も残す施設、建物

■会場敷地は、もともと**山梨県小瀬スポーツ公園、駐車場**だったものを、終了後は**さらに**整備される予定。
■協覧会の主催者、構成団体
主催者　　甲府市、甲府商工会議所
■事業費　約15億円

4 博覧会とまちづくり

地場産業の活性化等経済の発展や、市民文化、芸術の振興に良い影響を与えるものと思う。



◆博覧会スポット

1989年に地方博開催の15都市に聞く

博覧会とまちづくりアンケート

【設問】

(1)博覧会の開催によって、まちは今後、
A　活気を帯びて、まちづくりが進む。
B　あまり変わらない。
C　有名になって、観光客増が期待できる。
(2)このような博覧会は、
A　毎年でも開催したい。
B　数年に一度ぐらい開催したい。
C　必要に応じて開催したい。
D　開催したくない。
E　そのほか
(3)「どこの博覧会も同じようになってきた」という声もありますが、
A　そうは思わない。各地域の個性が十分発揮されている。
B　（同じようになってきて）そのような感じも否定できないと思う。
C　個性がなく変化に乏しいので、今後は他のイベントも研究すべきだ。
D　そのほか

【回答】

	設問(1)	設問(2)	設問(3)
鹿児島市 サザンピア21(1989.3.16～5.14)	A	C	A
福岡市 アジア太平洋博覧会福岡'89(1989.3.17～9.3)	A	C	A
静岡市 静岡駿府博覧会(1989.3.18～5.21)	A	E 開催の目処なし	A
姫路市 '89姫路シロトピア博(1989.3.18～6.4)	A	E 100周年記念事業の一環	A
堺市 ダッハらんど'89大阪(1989.3.19～5.21)	A	C	B
横浜市 横浜博覧会(1989.3.25～10.1)	A	E 博覧会とは別に、イベントの実施	A
久留米市 世界つつじまつり'89くるめ(1989.4.8～4.30)	C	C	C
松江市 第21回全国菓子大博覧会(1989.4.23～5.14)	C	C	A
広島市 '89海と島の博覧会・ひろしま(1989.7.8～10.29)	A	C	A
新潟市 '89新潟食と緑の博覧会(1989.7.14～9.3)	A	C	B
名古屋市 世界デザイン博覧会(1989.7.15～11.26)	A	C	C
山形市 おみやげ・ザ・ワールド山形100フェスティバル(1989.8.3～8.20)	A	C	B
鳥取市 '89鳥取・世界おもちゃ博覧会(1989.7.29～8.20)	A	E 100周年記念事業の一環	D おもちゃ博は具体テーマで開催
仙台市 第7回全国都市緑化せんだいフェア(1989.7.29～10.16)	A	C	A
甲府市 甲府博覧会(1989.9.15～11.12)	A	C	C

本特集編集幹事
角島健二（竹中工務店）／河端秀直（日建設計）／小浦久子（総合調査設計）／鈴木克彦（京都工芸繊維大学住環境学科）／田中直人（神戸市開発局）／平岡博（大阪市計画局）／山尾弘子（生活環境文化研究所）／吉村英祐（大阪大学建築工学科）

特集 博覧会とまちづくり

構造の頁

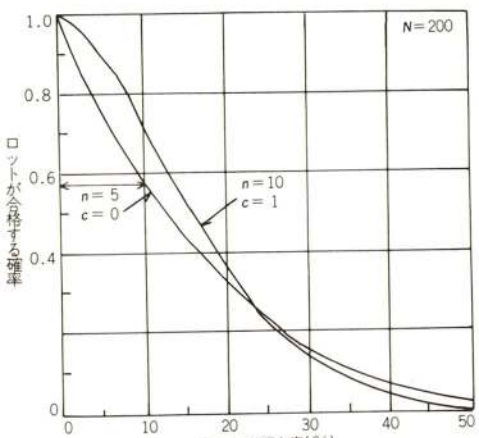
170 鉄筋のガス圧接の超音波探傷

沖本　弘

ガス圧接継手の品質管理

ガス圧接継手の健全性は材料管理、作業管理を通して達成されるものであるが、最終製品のチェックという意味では、検査は重要な要素である。

超音波による非破壊試験が導入される以前の検査は、施工された継手群（ロット）から数本切り取って、これを破壊試験する方法がとられていた。この結果をもとに、ロットの合否を判断していた。この方法は機械試験に日数を要するため、試験が形式化しがちであった。また、少数のサンプルから全体の良否を推定するという不安要素もあった（**図－1** 参照）。



ロットの大きさ：N　　試料の大きさ：n
ロットの不良率：p　　試料中の不良品数：c
ロット内の不良品数：pN　　試料中の良品数：$n-c$
ロット内の良品数：$N-pN$

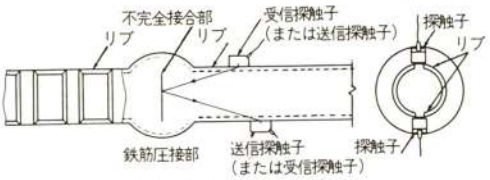
$n=5$、$c=0$ の場合、不良率10%のロットが、10回の抜き取りのうち約6回は合格する確率がある。

図－1　抜き取り破壊試験のOC曲線の例

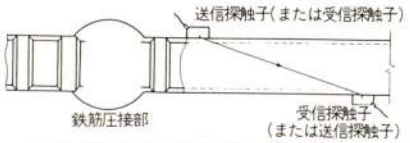
鉄筋のガス圧接超音波探傷

鉄筋ガス圧接部に生ずる欠陥は、圧接の加熱、加圧工程から、必然的に鉄筋軸に垂直な平面状となるものが多い。異径鉄筋でこれを検出するには、鉄筋リブの上から超音波を斜めに入射し、反射波が予定される箇所でこれを受信する方法を使う。

具体的には**図－2(A)**のように探傷する。これで実際に探傷している面積はおおよそ**図－3**の領域である。わずかな範囲しか探傷していないようにみえるが、強度に影響する欠陥は面状に広がっている場合が多く、この領域にかかる可能性が大である。しかし、圧接のふくらみの周辺部の欠陥は見逃す場合もある。

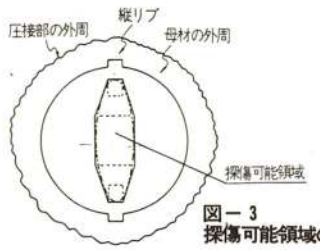


(A) 斜角2探触子K走査法



(B) 基準レベルを得るための透過走査

図－2



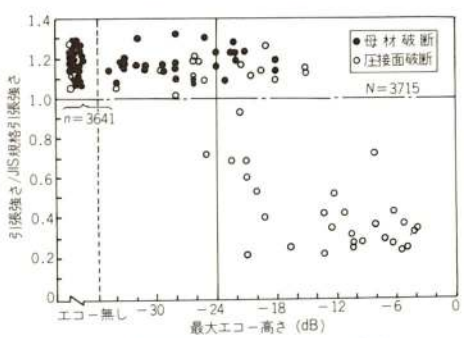
図－3
探傷可能領域の模式図

探傷感度は透過操作という**図－2(B)**に示す方法で、基準となるレベルを設定する。これは接合面が完全に接合してない状態に相当するので、どこまでの反射波を検出し合否判定するかが必要で、これを合否判定レベルといっている。

探傷器はAスコープ形の汎用探傷器を用いて、2探触子法で探傷できるが、専用の探触子を使う必要がある。ガス圧接専用の専用探傷器も開発、市販されている。

合否判定レベル

2探触子K操作法により鉄筋ガス圧接部から得られる最大の反射波は、欠陥の状態を示すものであるが、どの程度の反射波が有害かの判断材料が必要である。実際の現場で圧接された試料を超音波探傷試験したのちに、引張り試験し、この結果をプロットしたのが**図－4**である。圧接面からの反射波は透過操作によるエコーを基準としてdB表示し、引っ張り強度は鉄筋のJIS規格強度で基準化してる。○印は引っ張り試験で圧接面から破断したもの、●印は母材で破断したものである。



図－4　建築現場から切り取った圧接部の最大エコー高さと引張強度の関係

図からわかるように、圧接部から反射波のある試料でも十分強度を有するものもあるが、24dBを境にして著しく強度の低い継手を検出することができる。これを一般に合否判定レベルとしている。



(A) 鉄筋端面の加工不良



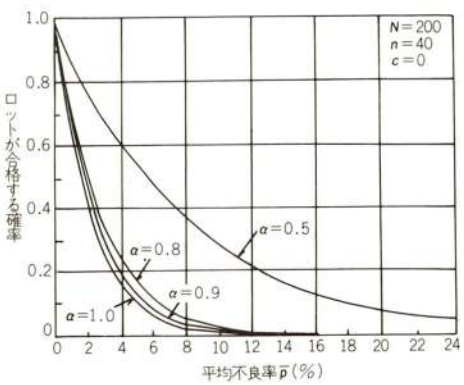
(B) 加熱がかたよった不良

図－5　超音波探傷による検出欠陥例

超音波探傷で検出された欠陥を**図－5**に示す。施工不良によるものとして、鉄筋端面の手入れが悪いと、欠陥として現れる。接合面とずれた位置を加熱しても、圧接不良となって現れる。

一般に、非破壊検査は全数検査を可能にするが、傷の存在を検出できるだけで、現実に性能に与える影響まで明確には評価できない。ともすれば、有害性にたいして、過剰に評価しがちであった。

しかし、ガス圧接継手の超音波探傷は、強度レベルにもとづく合否判定であり、少なくとも破壊試験より多くの試料を短期間に検査できることは、非破壊検査法のもつあいまいさ（見落とし）を補ってロットの品質確保を確実にする（**図－6**）。



不良率10%のロットは、ほとんど合格させない（α は超音波の欠陥検出確率）。

図－6　超音波探傷により検査数（$N=40$）とした場合のOC曲線

仕様書、規格

鉄筋ガス圧接の超音波探傷法は、昭和52年に圧接協会規格NAKS0001「鉄筋ガス圧接部の超音波探傷検査規準」として、「鉄筋ガス圧接工事標準仕様書」の中に位置づけて運用をはかってきた。このたび、昭和63年6月にJIS Z 3062「鉄筋コンクリート用異形棒鋼ガス圧接部の超音波探傷試験および判定基準」として、広く一般に公開された規格として位置づけられた。

（おきもと　ひろし　株式会社竹中工務店技術研究所主任研究員）

設備の頁

172
瞬間調光ガラス

近藤　正之

生活において、プライバシーや快適性といった要素が重要になってきたが、日本の住宅事情は恵まれたものではなく、その中でいかに快適性を求めていくかということが、要求される。この分野において開口部、とくにガラスの役割は大きなものであったが、さらに大きな機能を得られる可能性が秘められている。

瞬間調光ガラスは、それらを満たし、アミューズメントの要素をも取り込んだガラスである。

瞬間調光ガラス「ウム」とは

日本板硝子が開発した瞬間調光ガラスは、電源のＯＮ－ＯＦＦにより、瞬時にくもりガラスが透明ガラスに変化するものである。ガラスに通電される電源がＯＦＦのときにはくもりガラス状態になり、不透明でガラスの向こう側が見えない。電源をＯＮにすると通常の透明ガラスと同じになり、ガラスの向こう側が見えるようになる。さらに電圧の変化により透明－不透明の中間を無段階で選択することもできる。**（写真１、２）**



写真１　透明状態



写真２　不透明状態

瞬間調光ガラスの原理と構造

瞬間調光ガラスは、２枚のガラスの間に独特の製法による液晶を封入したシートをはさみ込んで製造した、**図１**に示したような合わせガラスである。

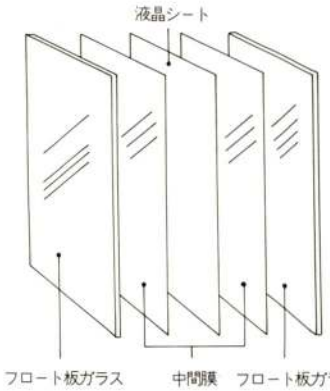


図１
調光ガラスの構造

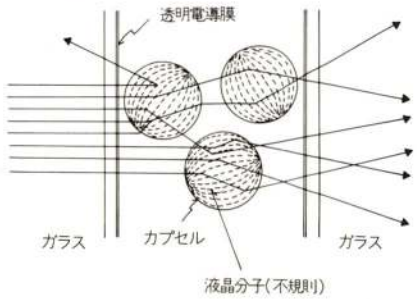


図２　通電されていない状態（不透明）

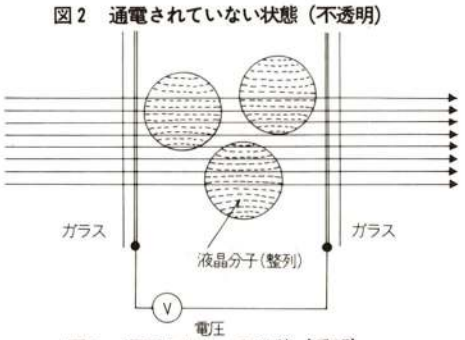


図３　通電されている状態（透明）

このシートは、ポリマーのマトリックス中に液晶のカプセルが分散されているものを、２枚のプラスチックフィルムにはさんだものである。このプラスチックフィルムには、金属酸化物の透明電導膜がコーティングされている。

図２のように、透明電導膜に通電されていない状態では、液晶分子の方向はランダムであり、入射光は液晶カプセルの表面・内部で散乱および吸収されて、光が直進できずに散乱光すなわちくもりガラス状になり、反対側の像が見えなくなる。

これに対して、瞬間調光ガラスに使用されている液晶は電界方向に整列する性質があるので、**図３**に示すように、透明電導膜に通電すると液晶層に電界が生じ、カプセル内部の液晶がガラス面に対して直角の方向に整列する。この結果、光は散乱せずに直進し、透明ガラスと同じように反対側にあるものが見えるようになる。

さらにこの液晶は、電圧を調節することによって、完全に散乱された状態と完全に透明な状態の間で無段階で自由に変化させることができる。透明電導膜に通電することをやめれば、元の散乱状態すなわちくもりガラスに戻る。

瞬間調光ガラスの特長

(1)反応速度がきわめて速く、瞬時に透視度を変化させることができる。不透明から透明へは、約1000分の１秒、また透明から不透明へは約100分の１秒のスピードで変化する。

(2)液晶シートの開発により、最大約900㎜×2400㎜という大きなガラス寸法での製作が可能になったため、この瞬間調光ガラスを従来のガラスと同じ感覚で使用することができる。

(3)消費電力が小さく、ランニングコストが経済的である。瞬間調光ガラスが必要とする電力はわずか3.5W/㎡であり、また特別な保守の必要はない。

(4)構造的には、合わせガラスなので強力な接着力をもった中間膜が２枚のガラスをしっかりと密着させており、割れにくく、万が一割れても破片が飛散することがない。

(5)電気信号に応答するため、各種センサーとの接続が可能である。

(6)偏光板を使用していないので明るく、耐久性が高い。

(7)視野角が広く、均一な拡散性をもつ。

表１に、製品仕様を示す。

表１　製品仕様

寸　法	924×2448㎜（最大）　122×122㎜（最小）
消費電力	3.5W/㎡（透明時）
応答速度	ＯＦＦ（不透明）→ＯＮ（透明）約1/1000秒 ＯＮ（透明）→ＯＦＦ（不透明）約1/100秒
可視光線 透過率	透明時　75% 不透明時　70%
電　源	ＡＣ100Ｖ　50/60Hz
品　種	各種ガラスとの組み合わせ可能

主な用途（表２）

表２　主な用途

●事務所ビルでは
①事務所の外装窓、②会議室・会議コーナー等の間仕切り、③見学コースなどのガラス窓・間仕切り
●病院では
①ナースセンターと集中治療室の間仕切り、②新生児室の窓、③診療室、④手術室
●各種イベントでは
①ステージ演出、②アイキャッチ機能
●ディスプレイなどでは
①店舗のフロントまわり、②ＶＴＲ・スライド・映画などのスクリーンとしての利用
●フィットネス・スポーツクラブなどでは
①ダンシングルーム、トレーニングルームの間仕切りなど
●住宅では
①オープンタイプキッチンの間仕切り、②開放的な浴室窓・間仕切り
●コマーシャルスペースでは
①ディスコの壁、床、天井など、②出入口のドア、③照明と組み合わせた演出

これらのほか、銀行やホテルなどさまざまな建築物への利用が考えられ、用途例もますますバリエーションに富んだものとなってきている。

あとがき

単なる素材としてとらえられてきたガラスも、今日では環境をつくり出す重要な機能商品としての立場を求められている。ガラスを使用したさまざまなアプリケーション、あるいはガラスと他の素材との複合化によるハイブリッド商品の開発を通じ、われわれは社会のニーズを実現させたい。

（こんどう　まさゆき　エヌ・エス・ジー・タリク株式会社　建築担当マネージャー）

施工材料の頁

167 電磁波シールドガラス

田中　啓介

最近，電子機器がどんどん小型化・高性能化していくのに伴い、これら機器が外部からの不要電磁波で誤動作を起こすケースが急増しつつある。

無線送信機や電波応用機器などのアンテナから電波を放射する装置も、使用目的以外の用途に対しては電磁妨害の発生源となるし、電子機器から発生する妨害波（その発生を目的としないにもかかわらず発射される不要電磁波）も大きな社会問題になっている。

そのために、必要なものについては、不要電磁波の発生源または影響の受けやすい機器をシールドルームで囲って不要電磁波を外部に出さない、また内部に入れない対策が一つの方法として行われている。しかし、部屋につきものの窓については、透視性の良いシールドガラスが実現されていなかった。「マグペーン」は、透視性とシールド特性を兼ね備えた電磁波シールドガラスである。

「マグペーン」の用途・利用法

「マグペーン」は、コンピュータや各種電子機器が出す不要電磁波による機器の誤動作を中心とした電磁波障害がとくに問題となる医療関係，コンピュータ室，電子部品・機器製造工場，放送スタジオなどのシールドルームの覗き窓用に最適の電磁波シールドガラスである。

このなかでも、医療関係の手術室、精密検査室（脳波測定・心電図測定など）や録音、放送スタジオの使用実績を中心に、高い評価を得ている。

写真1に示すのは、ラジオ福島のスタジオ・調整室の窓に施工した例である。これは、スタジオ局舎に林立する中波放送アンテナからの電磁波が、スタジオ内の録音・編集業務に悪影響を及ぼさないように、建物内の内壁を銅箔でシールドした部屋の開口部（窓、ドア）に、「マグペーン」が使われている。

また今後は、映像機器・音響機器・通信機器などの不要電磁波対策、鉄道・高速道路・高圧送電線周辺などで電磁波障害に悩まされている一般事務所、一般建築物などのシールドルーム需要拡大の予測もあり、高い透視性と採光性を持った「マグペーン」には相当の需要があるものと期待している。



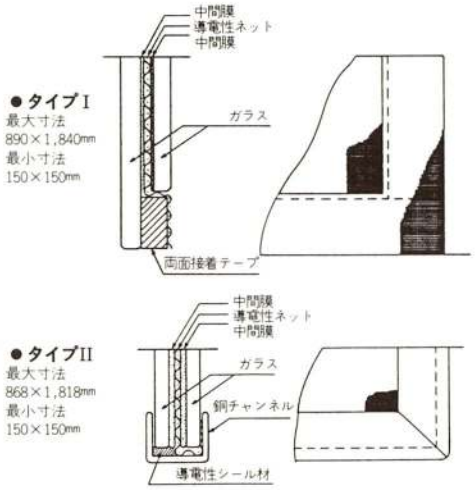
写真1　ラジオ福島での使用例

「マグペーン」の施工にあたって

「マグペーン」は、反射損失によるシールド原理を活かした電磁波シールドガラスであり、導電性金属（ニッケル）をメッキしたポリエステルネットを2枚の板ガラスの間に挟み込んだ合わせガラスで、端部の構造により2つのタイプがある。

●タイプⅠ：2枚のガラスを異寸法とし、全周に段差を設けて合わせガラスの内部から引き出した導電性ネットを、**図1**のように処理した。

●タイプⅡ：合わせガラス端部より導電性ネットをわずかに引き出し、これを導電性シーリング材でシールし、その上から銅フレームでカバーした。



●ガラス組み合わせ例
透視性重視の場合：フロート3ミリ＋フロート3ミリ
　　フロート5ミリ＋フロート5ミリ
不透視、採光性を求める場合：フロート3ミリ＋型板(かすみ)4ミリ
乙種防火戸仕様の場合：フロート5ミリ＋網入(クロス)6.8ミリ
　　フロート5ミリ＋網入(菱形)6.8ミリ

図1　マグペーンの構造

1．特徴

●ガラス単体での測定値で、電磁波の伝ぱんエネルギー（電界成分）を400MHz の高周波領域でも40dB以上減衰させる能力がある。（**図2**）

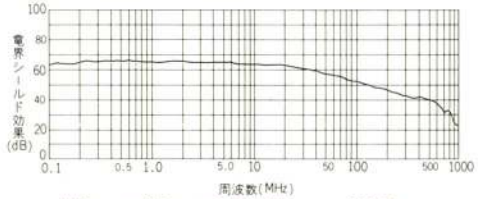


図2　マグペーンの電磁波シールド効果

●可視光線透過率が約50%（ガラスの組み合わせにより多少異なる）あり、透視性・採光性が十分に確保されている。

●優れた帯電防止性能を兼ね備えているため，ガラス表面に静電気が溜まらず空気中のゴミやホコリが付着するのを防ぐ。

●ガラス砂損時の飛散防止性、耐貫通性に優れている。

●最大寸法が890×1840(タイプⅠ）とワイドなため、ガラス開口部を大きく取った設計が可能。いろんなガラスとの組み合わせで、透視性重視の場合、不透視で採光性を求める場合、乙種防火戸仕様の場合、と目的・用途に応じた使い分けも可能。

2．施工法

「マグペーン」は、シールドルームの壁・床・天井のシールド材料と完全に一体シールドされなければ、隙間から電磁波が漏れてしまい、ガラス単体としての性能が発揮できなくなる。この完全一体シールド構造を提供し、かつ施工も簡単に行うため、ガラスの端部構造に独自の工夫を凝らした標準的施工法（**図3**）を推奨している。

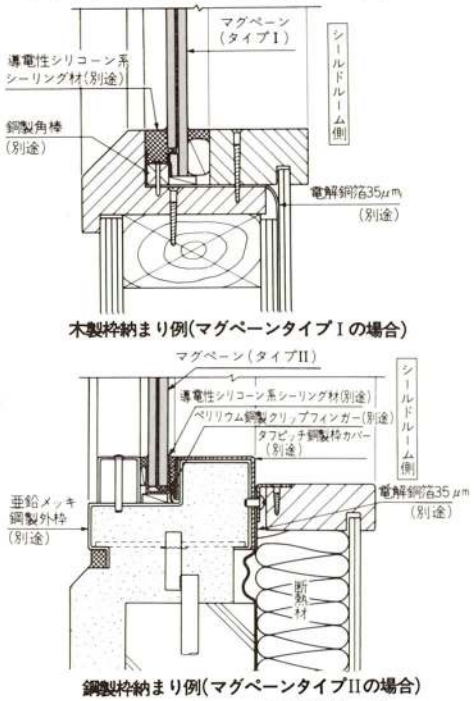


図3　マグペーンの標準的施工法

3．使用上の注意事項

●ガラスとサッシの接合部分の影響で、施工後のシールド効果は、ガラス単体での値より若干低下するのは避けられない。設計段階でこの低下分を最低数dBは見込んでおく。

●ガラス端部が結露水や雨水などの影響を受けると、シールド効果が低下することがある。また、直射日光による悪影響や近隣への電波反射障害などが考えられる場合は、外装への使用を慎重に検討する。

●端部に特徴をもった構造のガラスなので、切断はできないため、ガラス寸法を決める際には十分な注意が必要である。

●清掃は通常のガラスと同じ方法で良いが、水を大量に用いてガラス端部（サッシ周辺）に水分の影響を及ぼすことは避ける。

今後の課題

電磁波シールド分野の多様な展開が進むなかで、ガラスにもいろんな要求が出てくることは十分に予測される。たとえば、もっとハイレベルなシールド性能、もっと透視性の良いもの、もっと大寸法なものなどである。これらについても必要に応じて、適宜市場に提供していきたいと考えている。

（たなか　けいすけ
日本板硝子株式会社硝子建材開発部主席技師補）

日本建築協会

月間の動き

平成元年４月分

理　事　会

第１回定例理事会

26日　４時～５時　於本会会議室

出席者　佐野会長ほか30名

議事　(1)平成元年度新、重、留任役員報告の件
(2)役員の会務分掌並びに常任理事18名選任の件
(3)定例理事会、常任理事会開催日時決定の件
(4)前年度よりの引継事項承認の件
(5)会員現況報告、会員増強の件
(6)平成元年度事業計画並びに収支予算報告の件
(7)第35回工高生デザインコンクール実施の件
(8)第９回大阪まちなみ賞（大阪都市景観建築賞）協賛の件
(9)「新世代の韓国建築展・シンポジウム」後援の件
(10)定時評議員会、通常総会開催日の件
(11)平成元年度委員会委員委嘱の件
(12)入退会者承認の件
(13)報告事項

編　集　委　員　会

第１回計画系分科会―計画―

４日　６時～８時　於本会会議室

出席者　田中直人幹事ほか３名

議事　６月号「博覧会とまちづくり」（仮称）特集の企画

第１回計画系分科会―建築―

５日　６時半～９時半　於本会会議室

出席者　加藤幹事ほか10名

議事　８月号「建築とアート」特集案検討

第１回作品作風小委員会

５日　６時～８時　於本会会議室

出席者　塘副委員長ほか５名

議事　(1)編集副委員長の互選
(2)最近の掲載状況・予定の報告
(3)「新建築調査表」の作品の選定
(4)「Gallery」内容報告と今後の検討
(5)その他

第１回会員企画小委員会

６日　６時～８時半　於本会会議室

出席者　高田副委員長ほか９名

議事　(1)編集副委員長の互選
(2)本年度小委員会の運営ならびに「建築と社会」の掲載内容について
(3)新企画「W」シリーズの掲載予定

第１回施工材料分科会（新旧合同）

６日　６時～８時半　於本会ロビー

出席者　浅田実・大木利文両氏、松村委員ほか５名

議事　(1)「施工材料の頁」の企画
(2)10月号施工材料特集の件
(3)新年度施工材料分科会の幹事の互選
(4)分科会のスケジュール

第１回構造分科会

11日　４時～７時　於本会会議室

出席者　福山委員ほか４名

議事　(1)「構造の頁」の企画
(2)９月号「構造の省力化」特集の企画
(3)構造分科会幹事の互選と委員の交代

第１回編集委員会総会

13日　４時～７時半　於本会会議室

出席者　長谷部編集理事ほか22名

議事　(1)自己紹介
(2)編集委員長の挨拶
(3)各小委員会副委員長・各分科会幹事の互選と挨拶
(4)編集委員会の構成と編集についての説明
(5)引き継ぎ事項
(6)本年度の編集のあり方および収支目標について

第２回施工材料分科会

19日　４時～７時半　於本会会議室

出席者　志水幹事ほか４名

議事　10月号施工材料特集の企画

第１回広告企画小委員会

25日　４時～５時半　於本会会議室

出席者　長谷部委員長ほか３名

議事　(1)４月号「省力化のための材料・工法」特集広告収入報告
(2)５月号「まちづくりと法」特集広告途中経過報告
(3)６月号「地方都市と博覧会」特集報告
(4)７月号「都市環境創造と設備１」特集報告
(5)８月号「建築とアート」特集報告
(6)収支状況報告
(7)独自特集企画検討及び報告

第１回計画系分科会―インテリア・住宅―

26日　６時半～９時　於本会会議室

出席者　加藤幹事ほか３名

議事　平成２年１月号特集案検討

事　業　委　員　会

第１回若い会員の集い小委員会

４日　６時半～８時半　於ニュー・トーキョウ

出席者　宮野副委員長ほか19名

議事　(1)平成元年度小委員会担当副委員長、幹事の選出
(2)本年度の年間企画について

第１回広報小委員会

５日　６時～８時　於本会会議室

出席者　寺井・川村両幹事ほか６名

議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)教室分科会からの報告と今後の企画

第１回見学会小委員会

６日　６時～８時　於本会会議室

出席者　伊東副委員長ほか６名

議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)本年度の事業副委員長・幹事の互選
(3)４月以降の見学会の予定

第１回「音楽と建築」企画分科会

11日　６時半～８時半　於本会会議室

出席者　田畑主査ほか３名

議事　「音楽と建築」渡部貞清先生の講演会について

第１回事業委員会

13日　１時40分～３時　於本会会議室

出席者　西村委員長ほか６名

議事　各小委員会からの報告

第２回若い会員の集い「関西の祭事」研究会

17日　６時半～９時半　於本会会議室

出席者　大森幹事ほか３名

議事　(1)各々の祭事の報告
(2)今後の調査予定
(3)今後の方針、やり方

第１回若い会員の集い「個展講演会」企画分科会

28日　６時半～８時　於本会会議室

出席者　松本幹事ほか４名

議事　「北村陸夫」個展・講演会について

教　育　委　員　会

26日　６時～８時半　於ニューミュンヘン北大使館

出席者　片倉委員長ほか９名

議事　(1)平成元年度正・副委員長及び幹事の選出
(2)講演会・工高生教育両小委員会の委員編成について
(3)本年度の事業企画について

出　版　委　員　会

18日　５時～６時　於本会会議室

出席者　石田委員ほか４名

議事　(1)平成元年度正・副委員長の選出
(2)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(3)今後のテーマと執筆者選定について
(4)「プロのノウハウ」講座シリーズについて

建　材　委　員　会

12日　３時半～５時半　於本会会議室

出席者　金井委員長ほか14名

材料説明：舗装材アーバンロック／竹田三夫

議事　(1)正副委員長には金井委員長、近藤、元木両委員長留任
(2)今後の検討建材

見学会・映写会

ホテルオークラ神戸見学会

8日　1時半～4時
参加者　57名
●建築概要
所在地　神戸市中央区波止場町48
設　計　観光企画設計社
施　工　鹿島建設・大成建設・大林組・野村建設工業ＪＶ

アメリカのウォーターフロント開発ビデオ映写会

ニューヨーク、サンフランシスコ、サンアントニオ
8日　1時～3時　3時半～5時半　於本会会議室
参加者　43名

建　築　ク　ラ　ブ

第204回朝食会

11日　8時～9時半　於大阪グランドホテル
参加者　61名
演題　人間国宝・文化勲章受賞
「陶工、富本憲吉とその作品」
講師　辻本　勇氏（富本憲吉記念館館長）

4月の入会者（敬称略）

〔個人会員37名〕

井上　哲也（東畑建築事務所）	北芝　義已（東畑建築事務所）	近藤　睦（東畑建築事務所）
斎藤　茂（東畑建築事務所）	中川　千裕（東畑建築事務所）	丸一　育夫（東畑建築事務所）
有馬　敏雄（西日本旅客鉄道）	石原　強司（西日本旅客鉄道）	大崎　雅広（西日本旅客鉄道）
大西　幹郎（西日本旅客鉄道）	大橋　誉仁（西日本旅客鉄道）	鹿取　博（西日本旅客鉄道）
堂面　由範（西日本旅客鉄道）	永江　俊博（西日本旅客鉄道）	橋本　俊和（西日本旅客鉄道）
山中　和恒（西日本旅客鉄道）	和田　元成（西日本旅客鉄道）	稲見　文夫（進建築事務所）
奥田　時夫（進建築事務所）	木下　武昭（フジタ工業）	白水　秀俊（フジタ工業）
伊藤　勇（堺市役所）	石川　利行（中央復建コンサルタンツ）	石川　秀樹（井原工業）
岡本　章（アトリエCINQ）	城戸　康近（城戸武男建築事務所）	谷河　博康（遊空間デザイン研究所）
寺田　昭弘（寺田建築設計事務所）	中條　正治（大阪府建築部）	桝田　洋子（桝李舎一一級建築士事務所）
守作　勉（近畿地方建設局）	安枝　治（安枝設計）	山口　圭一（浦辺設計）
山下　孝二（鹿島建設）	横田　隆司（大阪大学工学部）	和田　勉（和田建築技術研究所）
渡部　利忠（大阪建物）		

〔准会員1名〕

有馬　譲（大阪工業大学）

INFORMATION　お知らせ

「関西の40歳の設計者会議」（仮称）発足パーティ開催
――大阪倶楽部（設計 安井武雄）で――



会場風景

このほど、大阪市中央区の大阪倶楽部（設計　安井武雄）で、京阪神の40歳前後の建築家、インテリア・デザイナー、コンサルタント、研究者、マスメディアの建築に係わる担当記者、建築雑誌の編集者など約40名が集まり、「40歳の設計者会議」（仮称）の発足を祝うパーティを開いた。

この会の発足主旨は、いままでの建築界だけでの意見交換、研究、事業でなく、建築関係者と市民、メディアとの積極的な交流をめざし、建築・都市の問題をともに考えていこうというもの。

第1回目の会合では、主旨説明の後、池上俊郎氏が、さきほど大阪で開かれた「ＫＡＧＵデザイナーズウイーク・イン・ＯＳＡＫＡ」を通してみたメディアとの接点、反響などをレポート。ついで、朝日、毎日、読売、サンケイの各新聞社の建築に関係する欄を担当する記者から、「メディアからみた建築界」と題する発言があった。そして、コンサルタントの橋本敏子氏が、建築と社会の接点をコメント、それをうけて、建築設計者サイドからみた問題提起を菅家克子氏が行った。

その後、ゲストの篠原一男氏の「東京工業大学百年記念館」ほかの作品スライド紹介と話があり、自由な意見交換が行われ、最後に、会の相談役の東孝光氏のまとめの挨拶で閉会した。

終了後、山形政昭氏の説明で大阪倶楽部の館内見学が行われた。

会議出席者はつぎのとおり。

ゲスト　篠原一男（篠原アトリエ）
相談役　東　孝光（大阪大学）
新聞社　木村　勲（朝日新聞社）
〃　福井　尚（毎日新聞社）
〃　吉井佳容子（読売新聞社）
〃　早瀬廣美（サンケイ新聞社）
雑　誌　上田雅代（新住宅社）
雑　誌　母倉政美（ひろば）
〃　大島正樹（本誌）
写　真　松村芳治
〃　島　修一（スタジオＡ・Ｔ）
インテリア　加藤　力（京都工芸繊維大学）
テクスチャー　北浦かほる（大阪市立大学）
建築史　山形政昭（大阪芸術大学）
コンサルタント　橋本敏子（生活環境文化研究所）
インテリア　増地秀夫（積水ハウス）
〃　駒田哲男（日建設計）
〃　北山喜与（スペース・プランニング）
公共建築　吉羽逸郎（大阪府）
建築設計　菅家克子（菅家建築設計室）
〃　貴志雅樹（貴志環境企画室）
〃　北村陸夫（ズーム計画工房）
〃　池上俊郎（アーバンガウス研究所）
〃　若林広幸（若林広幸建築研究所）
〃　平山明義（平山明義建築事務所）
〃　歌　一洋（歌一洋建築研究所）
〃　竹原義二（無有建築工房）
〃　中井　進（日建設計）
〃　谷口美樹子（谷口建築設計室）
〃　山中恵子（山中建築設計室）
〃　柏木浩一（竹中工務店）
〃　本多友常（竹中工務店）
〃　本間利雄（大林組）
〃　鈴置享子（自営）
建築情報　西川純一（昭和設計）
建築企画　鶴田晴子（大阪府建築士会）

同会議の事務局は、日本建築協会・大島と大阪府建築士会・鶴田が共同で行うことになった。

篠原一男講演会「モダン・ネクストへの手続」

モダニズムの終焉といわれてひさしく、またポストモダニズムも人々の話題から消えつつある今日、日本建築の伝統を出発点として、モダニズムの横断をへて、科学・技術の最新の特徴との対応をもつ2つのコンセプト、「機械」と「カオス」を両立させて、都市と建築の「モダン・ネクスト」出現への手続きを最新の作品を通して語る。

講　師　篠原一男（東京工業大学名誉教授・篠原一男アトリエ）
テーマ　「モダン・ネクストへの手続」
と　き　1989年7月6日(木)　PM6：00～PM8：00
ところ　建築会館ホール（東京都港区芝5－26－20）
定　員　350名（先着順・入場無料）
と　き　1989年7月10日(月)　PM6：00～PM8：00
ところ　テイジンホール（大阪市中央区南本町1－6－7）
定　員　300名（先着順・入場無料）
主　催　㈳日本建築学会講演・展示事業委員会、同近畿支部
協　賛　㈱ニチマン

日本建築学会賞受賞者記念講演会「作品を語る」

作　品　「東京都多摩動物公園昆虫生態園」
浅石　優＋白江龍三(日本設計事務所)＋瀬谷　渉(東京都多摩動物公園工事課)
「KIRIN PLAZA OSAKA」
高松　伸(高松伸建築設計事務所)
「小国町における一連の木造建築」
葉　祥栄(葉デザイン事務所)
と　き　1989年7月17日(月)　PM6：00～PM9：00
ところ　建築会館ホール（東京都港区芝5－26－20）
定　員　300名（先着順・入場無料）
と　き　1989年7月18日(火)　PM6：00～PM9：00
ところ　今池ガスホール（名古屋市千種区今池1－8－8）
定　員　300名（先着順・入場無料）
主　催　㈳日本建築学会講演、展示事業委員会、同東海支部
協　賛　日本板硝子㈱

大阪市ハウジング賞募集

大阪市では、市内の民間の集合住宅を対象に、設計、構造、設備、管理などの面から優れたものを表彰する制度で、自薦、他薦を募集する。ハガキに推薦する民間の集合住宅名、所在地、推薦者の連絡先を明記、1989年7月15までに下記へ送附する。

問合せ　大阪市都市整備局計画開発部指導助成課
〒530　大阪市北区中之島1－3－20
TEL 06－208－9225

モーリ・ギャラリーオープン

このほど大阪市西区四ツ橋に、関西の新進アーティストの育成、紹介を目的としたギャラリー「モーリ・ギャラリー」がオープンした。同ギャラリーでは、若手の芸術家、建築家の個展を中心に、あわせてセミナーなども開く予定である。個展も、展示費用などを主催者が負担し、予算的な面で展示会を開けない新進作家を応援していくなどが特徴。建築家のセミナーは、高松伸、渡辺豊和などがそれぞれ予定されている。

問合せ　モーリショップ・ショールーム
〒550 大阪市西区北堀江1丁目
TEL 06－534－4145　ADDまで。

新刊 全国書店で好評発売中！

（建築技術）6月増刊号
実践建築工事検査 I
調査・仮設・土・地業・鉄骨工事の検査・試験方法を、それぞれ項目をおって解説していく、品質確保のための必携マニュアル。
亀田泰弘 監修　A4判　292頁　税込定価3,100円

10年の超ロングセラー！
建築構造問題快答集 12
各分野の専門家が日常業務の中で出会う数々の疑問にQ＆A形式で明快に回答する設計者必携の実用書。
石黒徳衛 監修　A5判　368頁　税込定価4,100円

精算法へのアプローチ！
保有水平耐力入門 下
新耐震設計法のなかで義務づけられている保有水平耐力の本質をやさしくまとめた実用入門書。上巻も好評発売中！
星　睦廣 著　B6判　128頁　税込定価1,350円

株式会社 建築技術
〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷1-1-2 福西ビル
TEL.03(5371)3811　FAX.03(5371)8282

建築技術者必携の専門誌 建築技術 7月号
6月18日 全国書店一斉発売 税込定価1,240円

特集◉修繕・改修のための
劣化診断早わかり
（劣化診断のテクニックと、最善の修繕・改修を行うためのノウハウが満載されています。）
①劣化診断の進め方
②劣化診断ノート
●外壁の診断
●防水層の診断(防水塗装を含)
●カーテンウォールの診断(シール等を含)
●金物の診断
●内装の診断(天井・壁・床等)
●塗装の診断
●赤外線による診断(外壁診断)
●〃(応用診断)
●漏水の診断
●亀裂の診断
●剥離診断
●中性化診断
●鉄筋発錆診断
●アスベストの診断
●雨樋の診断

連載記事◉だれにでもわかる
鉄骨造骨組の寸法計画セミナー4
“従来の経験”に頼ってきた部材寸法の想定――実際の設計例でのアンケートをもとにその概要を紹介し、構造設計の現状を再考します。

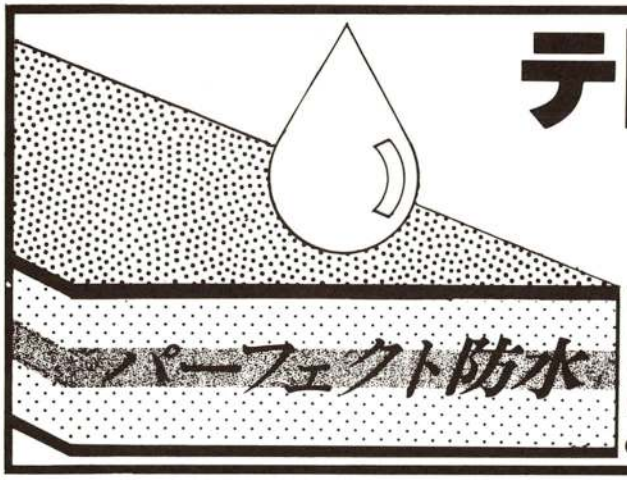
室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区三宮町3−7−6(神戸フクトクビル5階)
電話　神戸(331) 0881〜3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031〜4
倉庫　神戸市東灘区御影石町4丁目（電話811-3610)

テトカッパー防水層



防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーパータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社　東京都中央区銀座8−4−9　電話03（571）2703
大阪事務所　大阪市淀川区東三国6−1−41　電話06（391）1081-2
埼玉営業所　埼玉県楠川市東1−3−30　電話0487(74)2845-6
厚木出張所　神奈川県厚木市金田259　電話0462（21）1761
名古屋出張所　名古屋市南区若草町33　電話052（811）3660
九州出張所　佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450　電話0952（47）2945

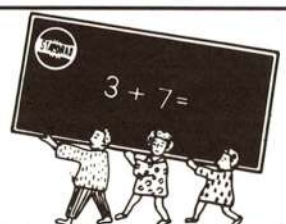
防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社

本社：〒540 大阪市中央区常盤町１−３−８ 日本生命谷町ビル ☎ (943)6571代表
東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市



Standard　Board&Slate

フタバ工業

〒547　大阪市平野区加美北3−4−5　TEL 大阪06(792)5858代

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

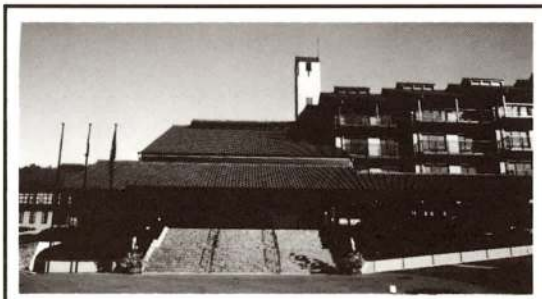
本　社　〒550 大阪市西区西本町１−13−33
電話　大阪 06(532)代0461　〒550
天理営業所　天理市丹波市新町50

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992 (26) 4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館　☎08682 (4) 1771



〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 五六一〜七四一六
ファックス 五六一〜七四五四

ナニワ瓦株式会社

あらゆる屋根工事の相談は、

空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171（大代）
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271（代）
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　連続設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851（大代）　大阪本社 ☎06－448－3603（代）
大阪支社 ☎06－448－5851（代）　名古屋支店 ☎052－211－1535（代）　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147（代）　営業所；北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒104 東京都中央区銀座2丁目2番17号　電話(03)535-5251
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・京都・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・松江・徳島・長崎・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン・スリランカ
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和
給排水衛生
搬送機設備
設計施工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661（代表）
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－211－8511（代表）

空気調和設備
給排水設備
電気設備
産業設備
水処理施設
環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
取締役大阪支店長　堀　亀久治

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話06(202)3071(代表)
本　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(502)6111(大代)
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06－313－1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131代
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話（667）3431（大代）
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靱本町3－1－27　TEL（443）8071
本　社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL（562）1351
支　店　名古屋・福岡

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03－344－7911
大阪本店　大阪市北区西天満4丁目6番18号　電話 06－363－1371
支　店　仙台市青葉区大町2丁目2番10号　電話022－261－3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052－581－8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082－247－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
営業所　札幌・横浜・京都・神戸・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・川崎・富山・福井・和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪（458）3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号（オートセンタービル1.2階）
郵便番号542　電話 大阪(06) 768－5031代表
メンテナンス部　電話 大阪（06）768－1655 1代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号（九段ビル2～4階）
郵便番号102　電話 東京(03) 262－3241代表

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352－3501(代)
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431(代)
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22－9738(代)

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL 06-313-1101
支 店 東京・名古屋・舞鶴・京都・天理
大阪南・神戸・広島・四国・九州

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所 吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 土 井 敏 裕

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電 話 (361) 3 6 7 1 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川崎・相模原・堺・滋賀

誠実と技術でお応えする

住友電設株式会社

取締役会長 代 谷 正 元
取締役社長 相 馬 一 男

本社／〒553 大阪市福島区福島7丁目22-8 ☎(06)452-1151(大代) 東京／〒105 東京都港区芝2丁目2-17 ☎(03)454-7311(大代)

営業種目 設計・施工・監理

●電力工事
発変電設備工事
架空送配電線工事
地中送配電線工事

●設備工事
ビル電気設備工事
工場電気設備工事
防爆電気設備工事
計装工事
空調工事
給排水衛生工事
特殊配管工事
消防施設設備工事

●プラント工事
●情報システム工事
光伝送システム工事
CATVシステム工事
各種アンテナ装置工事

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設 計 施 工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364)1471 TELEX 523－3287
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504)0231 TELEX 222－6724
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991)5131
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571

電気設備 ε 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574)0665 福岡出張所 TEL 福岡092(771)6168

特殊壁装材製造販売 和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)

(株)ホクシンクロス

〒583 大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL(0729)39－3610
工場 〒580 大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一 〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二 〒597 大阪府貝塚市王子501

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大阪支社

常務取締役支社長 横 田 幸 一

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話大阪 (202)0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・新宿・横浜・名古屋・九州
営業所・出張所 全国主要都市32ヶ所

営業種目

●防水工事	塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法	各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事	各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事	シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事	アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可	大阪府知事許可 (般－53)第51225号

◇日本シーリング工事業協会々員

大阪市北区末広町3－21
呈和地所扇町ビル201S
TEL 06(315)0701

㈱特殊技研

Constructioh chemistry for the future.

コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材

Master Builders Technologies

ポゾリス物産株式会社
日曹マスタービルダーズ株式会社

本 社：東京都港区六本木3－16－26 TEL03-582-8813
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル) TEL06-202-3294

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長 依 藤 孝 蔵

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号 TEL(06)351—5428(代)
FAX(06)351—5299

省エネルギー時代の断熱用シート防水材

日立バイナリーシートP

日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。

日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種
- オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
- オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
- オリエンタルメタル(ＯＰＭ)
- 鋼板製オリエンタルフネンシングル
- オリエンタルオリセラム


体育館屋根フネンシングル

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログを御請求下さい

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26　松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
大阪支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷・姫路

東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

デンカCSAファミリー製品

- **デンカCSA**（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
- **デンカタスコン**（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
- **デンカキューテックス**（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
- **デンカES**（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
- **デンカΣ1000**（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000

株式会社トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山(0775)83－2381

「建築と社会」バックナンバー総目次(号別)Vol.14 No.2～Vol.14 No.10（昭和6年2月～昭和6年10月発行）



昭和6年2月号表紙

●建築と社会(Vol.14No.2)

震火災と建築号 昭和6年2月1日発行

地震と建築……日高　胖
耐震耐火の建築……工学博士　片岡　安
伊豆地震に於ける地盤変動に就いて……理学博士　小川琢治
架講耐震論の発達……工学博士　坂　静雄
現在都市に於ける木造建築の不安
……都計委員・京都帝大講師　池田　実
宝永安政両度の大震と大阪……波江悌夫
地震国日本の建築……工学博士　武田五一
震災雑感……古宇田　実
木造建築と耐震問題片言……篠原太郎
耐震上より見たる木造建築物……落藤藤吉
地震・雷・火事・親爺……川口一二
桑港大地震被害写真集(1906年)
木造建築構造に対する横力の概念と対応方針……大野直平
ロシアの新建築……ロードリック・サイデンベルグ
梅田駅前広場の地下街構成問題
電弧鎔接法、主として交流使用の場合に就いての理論を論じて其応用に及ぶ(1)大阪工業大学教授工学博士　井口庄之助
国際新建築集、京阪神新建築集(大阪市電気局乗合自動車梅田第二車庫、神戸駅停車場、外務省東方学院京都研究所、掖済会神戸病院)
全日本新建築紹介(東京慈恵会共同医院、高輪中・高等学校、東京第一衛戍病院、名古屋ゴルフ倶楽部、台北郵便局、朝鮮生命保険、横浜松屋百貨店、三越新宿支店、東京高久洋服店、東京交詢社、東京市場ビル、長崎高等女学校、東京久留米屋総本店、所沢陸軍飛行学校飛行機車、大連連鎖商店街、東京震災記念堂、南満電気乗合自動車待合所、東京(株)福岡商店、京城三国商会アパート、福徳生命保険名古屋支店、岡山清心高等女学校)

●建築と社会(Vol.14No.3)

健康と建築号 昭和6年3月1日発行

軍人会館建築設計懸賞入選図案(1等小野武夫、2等1席吉永京蔵・黒川仁三、2等2席木村平五郎、3等1席大手市太郎・島崎豊寿3等2席小林武夫・堀武雄、3等3席前田健二郎、佳作堀越三郎、同渡辺仁、同小尾嘉郎、同黒川仁三・大久保春忠)
会報　病院産院取締規制改正の件建議(大阪府知事宛)
衛生住宅の目標…大阪市立衛生試験所　医学博士　山口静夫
建築と快感……関藤国助
建築に於ける実用と善……黒田鵬心
鉄筋混凝土造住宅に於ける一試案……伊東恒治
窓のリアリズム……城戸　久
敷地とその保険的条件……野地修左
衛生器具と扱ひ方……桜井省吾
室内の清掃とその設備……増山新平
国民保健上急務なる設備と施設……宮飼克二
建築衛生工事と其の取締規制の制定に就いて……大沢一郎
建築衛生施設とその運用に就いて
……専売局中央研究所長　北浦重之
待望せらるる大阪駅附近の新面目—附・地下街と建築物最高問題……加藤善吉
最近に於ける京阪地方の地塊運動に就いて
誌上講座　都市・建築・音響(7)……佐藤武夫・中野　勉
国際新建築集、京阪神新建築集(第一銀行五条支店、京都田代会館、大阪南海ビルディング)
全日本新建築紹介(カフェー銀座ゴンドラ、銀座三越、呉服問屋滝富商店、三菱江戸橋倉庫、東京機山閣書店、東京木村屋総本店、東京国分商店、高野山発亥震災霊稗堂、朝鮮殖産銀行沙里院支店、三越品川少年寮、長春電話局、台湾高雄神社)

●建築と社会(Vol.14No.4)小住宅号 昭和6年4月1日発行

会告　第7回建築講習会開催(5月4日～9日)
口絵　京都伏見桃山・H氏邸
小住宅の研究……葛野壮一郎
都市小額収入生活者の住宅問題を中心として……川村種三郎
自然化と単純化……黒田鵬心
京阪神地方住宅の調査概況
……第五部住宅委員会第二分科 ……酒井勇三郎
簡単な生活のために……三宅やす子
日射図表に就いて……南　信
大阪市の最小アパートメント……大阪市技師　富士岡重一
小住宅と其の建築に就いて……松本儀八
小住宅三品……中村義雄
私の小住宅試案……中山文化研究所　中村久栄
大阪市営月賦分譲小住宅に就いて……佐々木荘一
小貸住宅参考資料……岩尾保衛
モダーン九尺二間……穂沼　生
実物洋風小住宅
小住宅設備片鱗……増山新平
電気エンジン……工藤寿男
電気設備に就いて……岩崎　勇
山口市に於ける国宝建築(上)……天沼俊一
誌上講座　都市・建築・音響(8)……佐藤武夫・中野　勉
国際新建築集、京阪神新建築集(阪急山芦屋・M氏邸、大阪府立北野中学校、大阪第四師団司令部庁舎)

●建築と社会(Vol.14No.5)郷土建築号 昭和6年5月1日発行

会報　市街地建築物法令及び規則改正の件建議(内務大臣宛)
日本民家基本平面計画への一疑問
……早稲田大学助教授田辺　泰
満洲の民家……村田治郎
静岡の東本陣跡……松本儀八
濃尾平野の農家……城戸　久
祖先の郷土建築……徳政金吾
旧(大阪)府庁舎の建築……葛野壮一郎
与力屋敷を捜す……鶴丸呆二
郷土建築座談会……小林利昌、南木芳太郎、江崎政忠
鶴丸梅太郎、今井貫一郎、高橋栄治、小西一良、本間乙彦
山口市に於ける国宝建築(下)……天沼俊一
失業救済事業と建築……鳥井　信
史蹟　信貴山と生駒山……池田谷久吉
分譲住宅設計図案懸賞募集規程(1等200円)　財団法人同潤会
国際新建築集、京阪神新建築集(阪急夙川パインクスト・アパートメントハウス)

●建築と社会(Vol.14No.6)建築実務号 昭和6年6月1日発行

懸賞募集(小住宅設計図案・神戸鈴蘭台生活改善健康住宅展用、改善住宅設計図案・香里園改善住宅展用)
実費報酬請負工事に就いて……本田　登
建築費指数……石田曽次
建築の現場事務に就いて……馬場良三
米国における現場事務組織の大要……芝田知重
建築工事の計画と実施(1)……渡辺圭吾
エムパイヤ・ステート・ビルディングの建築組織
……アール・エッチ・シュレーブ
エムパイヤ・ステート・ビルディングの建築組織及方法
……ジュン・ピー・カーモデオー
周到なる用意と確信を一現場着手前の事務……由良基夫
建築施工契約制度に就いて……工学士　山下寿郎
米国における建築事務所一、二……高橋栄治
誌上講座・都市・建築・音響(9)……佐藤武夫・中野　勉
国際新建築集、京阪神新建築集(京都高等工芸学校、京都市立第一商業学校、大阪美人座倶楽部、大阪小川ビル)

●建築と社会(Vol.14No.7)新興建築号 昭和6年7月1日発行

口絵　新興建築譜(米国組育ニュース・ビル、同アービング・トラスト・コンパニー・ビル、同エムパイヤ・ステート・ビル、同マツクグローヒル・ビル、佛国巴里マガザン・パリー、同マルブウーフ街自動車商、独逸伯林郊外ベルナウ労働組合学校、和蘭ロッテルデム、独逸ハンブルグ・リュストリンゲン市役所、同伯林ボツツダム広場・コロンバス・ハウス、露西亜モスコー・共産労働者組合倶楽部、同第一共産ハウス)
新興建築に就いて……工学博士　片岡　安
現代の日本建築……工学博士　前田松韻
新興建築時感……工学博士　岸田日出刀
このアナクロニズム……八洋　生
日本に於ける新興建築 ……SO生
建築姿態の根本観念……モトノ・セイゴ
新興建築問題中の或ものに就いて……山田　守
新興建築概説……伊藤正文
商業価値の限界……村野藤吾
新興建築材料としてのアルミニウム(上)……葛野壮一郎
フリッツ・ヘーゲル氏の近作……村野　生
新興建築座談会 …石川純一郎、高橋栄治、中西六郎、本間乙彦　小川安一郎、永沢毅一、長谷部鋭吉、村野藤吾
建築工事の計画と実施(2)……渡辺圭吾
誌上講座　都市・建築・音響(10)……佐藤武夫・中野　勉
電弧鎔接仕様書準備案……関場茂樹
電弧鎔接並瓦斯切断仕様準備案……関場茂樹
国際新建築集、京阪神新建築集(京都高麗橋郵便局、大阪天七有楽座、大阪野呂克商店)
全日本新建築集(広島県農工銀行本店、横浜越前屋)
広告　広島新建築図集(本協会編・発行1929～30年版100頁50銭)

●建築と社会(Vol.14No.8)

建築と都市問題号 昭和6年8月1日発行

「建築より見たる都市の諸問題」座談会……内山新之助　片岡　安、古宇田　実、鳥井　信、小川市太郎、葛野壮一郎、津田敏雄、藤井厚二、高橋栄治、本間乙彦、村野藤吾、鷹取　陽
住宅改良と都市計画……藤田進一郎
大阪の区画統制の過去と現在
……大阪府建築監督官　玉置豊次郎
東京と大阪を比較して……黒田鵬心
都市と住地と住宅……加藤善吉
濠洲シドニー港の対岸連絡計画に就いて……宮飼克二
つひへ往くモスクワの大伽藍……徳政金吾
「新興建築」特集号を読みて……丸亀市長　大須賀　巌
七十一階の建物が卅三週間で出来上った工事の施工概況
……小山九市
新興建築材料としてのアルミニウム(中)……葛野壮一郎
建築工事の計画と実施(3)……渡辺圭吾
誌上講座　都市・建築・音響(11)……佐藤武夫・中野　勉
国際新建築集、京阪神新建築集(兵庫県産業奨励館、兵庫県立神戸高等商業学校、大阪日本生命館第一号館、神港相互館)

●建築と社会(Vol.14No.9)住宅号 昭和6年9月1日発行

懸賞図案当選者　小住宅設計(1等堀武雄、2等桜間大丈夫、佳作金子春夫、同鐘ケ江正人・後醍院重正、同田中信夫、鳴海安雄、称屋毅一、同能口弥一郎、同水野安平、同山口正雄、同湯原来、渡辺辰之助)改善住宅設計(1等長野八三二、2等1席桜間大丈夫、2等2席角田建築事務所、3等1席福富昭児、3等2席梅田善重、3等3席仁木健治、佳作小川増吉、同小林武夫、同高木貞一、同能口弥一郎、同水谷一百、同湯原来)同当選図案、同審査概評
床及棚七種……藤井厚二
住宅の間取と構成について—アレキサンダー・クライン氏の所謂「平面図の要素」に関する一考察……川喜田煉七郎
要の一点……笹川慎一
神戸地方に於ける風向きの時別変化……南　信
住宅の間取に就いて……芝谷邦子
室内装飾に就いて……梶原緋佐子
台所改善資料としての調査……鷲井清子・角　静子
組み合せ式台所……岡田孝男
台所数種……松本儀八
我が農耕的小住宅……堀田猷次郎
小住宅(案)五種……佃　十俊
住宅写真集(芦屋中山悦次郎氏邸、北畠山本隆三郎氏邸、夙川武居氏邸、夙川渡辺氏邸、香櫨園Y氏邸、天下茶屋K氏邸、打出N氏邸、)
吉祥山正伝寺(上)……工学博士　天沼俊一
誌上講座　都市・建築・音響(12)……佐藤武夫・中野　勉
広告　「最近建築懸賞図集」(本協会発行60頁定価70銭)

●建築と社会(Vol.14No.10)

小売店・百貨店号 昭和6年10月1日発行

我国百貨店建築の特異性……中村伝治
百貨店建築の外観と内部……黒田鵬心
百貨店カールシュタットの新建築……石川純一郎
ドイツの百貨店二三……藏田周忠
百貨店建築に就いて……毛利泰三
百貨店の建築……(株)大丸専務取締役　里美純吉
百貨店の平面計画について……絹川豊重
百貨店の設計……(株)十合呉服店常務取締役　木水栄太郎
商店街と商店建築……吉田享二
欧米の店小観……津田　聖
陳列窓の反映現象に就いて……プトノキイ・野地修左訳
商店と広告—主として夜間広告に就いて……星　広文
改築でモダーンとなった商店の例……宮飼克二
吉祥山正伝寺(下)……工学博士　天沼俊一
国際新建築集、京阪神新建築集(三井銀行大阪船場支店、大阪とり半支店)

おかげさまで25年。

エルミンは常に窓開口部を見続けています。









現代建築のクオリティを高める

エルミン窓

ブラインド内蔵二重硝子回転断熱窓



優良断熱建材認定品第2種59-009

現代建築に要求される窓開口部は、自然の光と風を豊かに採り入れた快適な住空間を創ることにあります。また同時に建物全体の美観にも大きな役割をもっています。しかも、省エネルギーの立場からは高い断熱性が、快適空間としての光のコントロールや防音、更にはメインテナンスに手間がかからない点など、実に様々なファクターがあります。

エルミンの窓はこれらファクターの全てに自信をもってお応えできます。空気汚染や騒音の酷い地域、酷暑や酷寒の地域でも、建物の中には快適さをお約束します。

製品はガラスやブラインドの組み込みまで全て工場生産。しかも施工も当社の責任施工ですので安心してお任せいただけます。建物のグレードアップにエルミンの窓をお役立てください。

建築のインテリジェント化に対応する

エルミンフラット

ブラインド内蔵同一平面引違い窓



日本エルミンサッシ株式会社

本　　社	〒101 東京都千代田区岩本町1-11-2	TEL.03-861-1891
大阪支店	〒550 大阪市西区京町堀1-7-9	TEL.06-441-1978
北海道営業所	〒060 札幌市中央区大通西8-2	TEL.011-222-3575
東北営業所	〒980 仙台市青葉区一番町1-14-23	TEL.022-221-1369
九州営業所	〒812 福岡市博多区博多駅東2-4-30	TEL.092-475-4820

建築と社会　第71輯6号
平成元年6月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月18日第3種郵便物認可



シャッターを街の新名所に変えませんか。

シャッタービジョンは、街に表情を与える新しいコミュニケーションスペースです。

思い通りの写真や文字で、シャッターに表情を与えるシャッタービジョン。デッドスペースだった閉店後のシャッターを、新しいコミュニケーションスペースに変えました。簡単な改装工事で、既設のシャッターにも取り付けOK。図柄の取替えも手軽にできますから、イベントの演出などにも効果的にご利用いただけます。



取り付けがさらに簡単になった、シャッタービジョン「カンバスタイプ」が誕生。建物の改装工事なしに、いますぐお店の顔ができます。

新しいコミュニケーションスペース
シャッタービジョン

東洋シヤッター株式会社
〒540 大阪市中央区常盤町1-3-8 日本生命谷町ビル　TEL.06(943)6571
〒106 東京都港区六本木6−3 第一地所麻布ビル　TEL.03(479)2911

定価九八〇円（本体九五一円送料共 消費税二九円）
正会員の購読料は会費に含めて徴収